

Title	ロシア語アクセント研究
Author(s)	神山, 孝夫
Citation	大阪外国語大学学術研究双書. 1990, 2, p. 1-287
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80048
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大阪外国語大学学術研究双書 2

ロシア語アクセント研究

神 山 孝 夫 著

1 9 9 0

大阪外国語大学学術研究双書 2

ロシア語アクセント研究

神 山 孝 夫 著

1 9 9 0

Publications of Osaka University of Foreign Studies, No. 2. 1990

An Introduction to Modern Russian Accentology

Takao Kamiyama

目 次

はじめに	1
凡例	4
序章 ロシア語のアクセント概観	5
第I章 名詞	11
1. 男性名詞	13
1. 1 AA型アクセント	13
1. 2 BB型アクセント	14
1. 2. 1 非派生名詞	15
1. 2. 1. 1 単音節語幹語	15
1. 2. 1. 2 二音節語幹語	19
1. 2. 1. 2. 1 第1音節にアクセントを持つ語	19
1. 2. 1. 2. 2 第2音節にアクセントを持つ語	19
1. 2. 1. 3 三音節語幹語	23
1. 2. 2 派生名詞	23
1. 3 AB型アクセント	28
1. 3. 1 単音節語幹語	28
1. 3. 1. 1 複数主格 -ы/-и	28
1. 3. 1. 2 複数主格 -á/-я	31
1. 3. 1. 3 複数主格 -ья	32
1. 3. 1. 4 複数主格 -и~-я	32

1. 3. 2	多音節語幹語	32
1. 3. 2. 1	二音節語幹語	32
1. 3. 2. 2	三音節語幹語	35
1. 4	AC型アクセント	36
1. 4. 1	単音節語幹語	36
1. 4. 2	二音節語幹語	37
1. 4. 3	三音節語幹語	38
1. 5	BA型アクセント	38
1. 5. 1	複数主格 -ъев	39
1. 5. 2	複数主格 -и 複数生格 -ϕ	39
1. 5. 3	複数主格 -ята 複数生格 -ят	40
1. 6	BC型アクセント	40
1. 7	ϕC型アクセント	41
2.	-а/-яに終わる女性名詞	42
2. 1	AA型アクセント	44
2. 2	BB型アクセント	46
2. 3	BA型アクセント	48
2. 4	BC型アクセント	53
2. 5	CC型アクセント	55
2. 6	CA型アクセント	56
2. 7	AC型アクセント	57
3.	-ьに終わる女性名詞	59
3. 1	AA型アクセント	60
3. 2	AC型アクセント	61
3. 3	CC型アクセント	64

4.	中性名詞	66
4. 1	AA 型アクセント	60
4. 2	BB 型アクセント	68
4. 3	BA 型アクセント	70
4. 4	AB 型アクセント	73
4. 5	BC 型アクセント	75
4. 6	AC 型アクセント	76
5.	pluralia tantum	77
5. 1	A 型アクセント	78
5. 1. 1	複数生格 -ов	78
5. 1. 2	複数生格 -ей	79
5. 1. 3	複数生格 -φ	79
5. 2	B 型アクセント	81
5. 2. 1	複数生格 -ов	81
5. 2. 2	複数生格 -ей	81
5. 2. 3	複数生格 -φ	81
5. 3	C 型アクセント	82
5. 3. 1	複数生格 -ей	82
5. 3. 2	複数生格 -φ	82
6.	その他の注意すべきアクセント	83
6. 1	第2前置格	83
6. 1. 1	男性名詞	83
6. 1. 1. 1	AA 型アクセント	83
6. 1. 1. 2	BB 型アクセント	85
6. 1. 1. 3	AB 型アクセント	85
6. 1. 1. 4	AC 型アクセント	88

6. 1. 1. 5	BA 型アクセント	88
6. 1. 1. 6	固有名詞	88
6. 1. 2	-ь に終わる女性名詞	89
6. 1. 2. 1	AA 型アクセント	89
6. 1. 2. 2	AC 型アクセント	89
6. 2	前置詞へのアクセント移動	90
6. 2. 1	男性名詞	90
6. 2. 1. 1	AA 型アクセント	90
6. 2. 1. 2	BB 型アクセント	91
6. 2. 1. 3	AB 型アクセント	92
6. 2. 1. 4	AC 型アクセント	94
6. 2. 2	-а/-я に終わる女性名詞	95
6. 2. 2. 1	BA 型アクセント	95
6. 2. 2. 2	CA 型アクセント	95
6. 2. 2. 3	CC 型アクセント	96
6. 2. 3	-ь に終わる女性名詞	97
6. 2. 3. 1	AC 型アクセント	97
6. 2. 4	中性名詞	98
6. 2. 4. 1	AB 型アクセント	98
6. 2. 4. 2	AC 型アクセント	99
6. 2. 4. 3	BC 型アクセント	99
6. 3	数詞に伴う特別な単数生格 (数格)	100
6. 3. 1	男性名詞	101
6. 3. 2	女性名詞	102

第Ⅱ章 形容詞	103
1. 概説	103
1. 1 形容詞長語尾	103
1. 2 形容詞短語尾	106
1. 3 比較級・最上級	112
2. 形容詞のアクセント	115
2. 1 AA型アクセント	115
2. 2 AB型アクセント	116
2. 3 AC型アクセント	117
2. 3. 1 AC1型安定	118
2. 3. 2 AC1型～11型	118
2. 3. 3 AC1型～AC3型	122
2. 3. 4 AC1型～AC3型～AA型	125
2. 4 BB型アクセント	126
2. 5 BC型アクセント	127
2. 5. 1 BC1型安定	127
2. 5. 2 BC1型～BC3型	127
2. 6 φB型アクセント	128

第Ⅲ章 動詞	129
1. 動詞人称形態	137
1. 1 概説	137
1. 1. 1 動詞人称形態の構成	138
1. 1. 2 子音交替	139
1. 2 動詞人称形態のアクセント	145
1. 2. 1 A型アクセント	147
1. 2. 2 B型アクセント	148
1. 2. 3 C型アクセント	150
1. 2. 3. 1 第1変化 (E変化) 動詞	150
1. 2. 3. 1. 1 不定形 -áть	150
1. 2. 3. 1. 2 不定形 -núть	158
1. 2. 3. 1. 3 不定形 -olóть/-oróть	159
1. 2. 3. 1. 4 不定形 -(h)ять	160
1. 2. 3. 1. 5 不定形 -чь	162
1. 2. 3. 2 第2変化 (I変化) 動詞	163
1. 2. 3. 2. 1 不定形 -ítъ	163
1. 2. 3. 2. 2 不定形 -áть	190
1. 2. 3. 2. 3 不定形 -éть	191
1. 2. 3. 2. 4 B型とC型のゆれを持つ動詞	191
2. 動詞過去形	196
2. 1 概説	196
2. 2 動詞過去形のアクセント	196
2. 2. 1 A型アクセント	198
2. 2. 2 B型アクセント	199
2. 2. 2. 1 不定形 -тѣ	199

2. 2. 2. 2	不定形 -чь	209
2. 2. 2. 3	不定形 -честь	217
2. 2. 3	C型アクセント	218
3.	その他の形態	238
3. 1	命令法	238
3. 2	形動詞 (分詞)	238
3. 2. 1	能動形動詞現在	239
3. 2. 2	能動形動詞過去	240
3. 2. 3	被動形動詞現在	241
3. 2. 4	被動形動詞過去	242
3. 2. 4. 1	被動形動詞過去長語尾	242
3. 2. 4. 2	被動形動詞過去短語尾	247
3. 3	副動詞	249
3. 4	СЯ 動詞	249
3. 4. 1	人称形態	249
3. 4. 2	過去形	249
3. 4. 3	能動形動詞現在	251
	参考文献	252
	索引	257

はじめに

この度、このささやかな小冊子が大阪外国語大学学術研究双書第2号として刊行の運びに至った。この類の参考書は筆者が知るところではわが国においてこれまで刊行されることはなかった。本書出版の機会を与えてくださった学術出版委員会及び関係各位に紙面を借りて深甚なる謝意を表すものである。

ロシア語の語（特に名詞、形容詞、動詞）が文法的に多くの形を持ち、従って英独仏等に比してロシア文法の中で形態論が占める位置がきわめて大きいことは周知のごとくである。それに加えて、個々の語が語形変化する際に同一パラダイムの中でしばしば強勢位置がある音節から別な音節へ移動するという現象が起こる。比較的初歩のロシア語学習者はこの形態論の豊富さとそれに伴うアクセント移動という二つの関門をくぐらねばならない。筆者の数少ない経験に照らすとその第一の関門突破はさして困難ではないようだが、第二の関門、即ちアクセントの関門を首尾良く突破できる学生はほんのひとにぎりである。これは、このアクセント移動の現象自体が煩雑で修得困難であるためというよりもむしろ、教授法の欠陥に負うところが大きく、適切な教室での指導と適切な辞書・ハンドブックが与えられれば、ロシア語学習者は必ず遠からずこの第2の関門をクリアできると確信している。ところが現実には教室での適当な指導は行われているとしたところで、適当なハンドブックどころか適当な辞書さえないのである。多くのロシア語学習者が使用しているわが国を代表する露和辞典である『岩波ロシア語辞典』と『コンサイス露和辞典』は古くなってしまったということもあり、少なからぬアクセントの語謬・不備が散見されるし、初学者の便を考えた『博友社ロシア語辞典』には頻繁に用いられる新しいバリエントが記されていない場合がある。網羅的記述を信条として一昨年ついに出版された画期的なロシア語辞典である『研究社露和辞典』にはアクセントのゆれを持つ語について色々なバリエントが記されているが、学習者にとって無秩序にこれらのバリエントをすべて記憶するのは非現実的である。できればこれらの辞書の

アクセント記載法にパターン化を求めたいが、これは現時点では欲張りな要求であろう。一見すると全くの caos にさえ感じられるロシア語のアクセントの根底にある潜在的秩序を顕在化し、学習者の便を図ってあげたい。まさにこのような意図から筆者は本書執筆を思い立ったのである。

諸々の事情により本書の編集方針は二転三転し、本書の原稿脱稿は予定よりも大幅に遅れることとなってしまった。本書の企画を思い立った当初は基礎的な五千語程を対象としてパターン化と若干の例のみを記した入門者用のハンドブックを作ろうと考え、原稿の準備を始めた。その後本学学術出版委員会並びに関係諸兄の御好意で学術研究双書の一冊として本書の出版が可能となり、学術研究双書の名に恥じぬようにできるだけ網羅的な内容にしようと作業方針を変更した。ところが不本意ながら物理的事情により結局はこれらの折衷とでも言うべき立場を取るに至り、対象語を上記『博友社ロシア語辞典』に収録されている5万語程度に改めた。本来ならば頻度辞典を基にして綿密な収録語彙の選択を行わねばならないところだが、本書執筆にはこの作業のための十分な時間的余裕がなく、使用頻度の高い語彙が厳選されて記載されている同書を便宜的頻度調査手段に用いたのである。但し同書に記載されていない若干の語を補った場合もある。

対象語を約五万語に限ったとはいえ、この規模の調査を公務の傍ら半年足らずで全くのゼロから行うことは非常に困難である。幸いなことに筆者はこれまでにある限られた品詞についてのかかなり網羅的なアクセント研究を行ってきた。参考文献に記す神山(1985a, b, 86, 87)を参照されたい。そこで形容詞短語尾、動詞過去形、被動形動詞過去短語尾等の項目については筆者自身のこれまでの調査を原則として踏襲・改訂し、名詞、動詞人称形態等についてのみ今回新たに調査を実施した。

本書の執筆、刊行に関し多くの方々に多大な御迷惑をかけてしまった。筆者は公務以外のほとんどの時間をこの作業に傾けたのだが、年頭に健康を害し作業を中断せざるを得なかったこともあって、力及ばず当初予想していた脱稿時期を1カ月余りも超過する結果となり、関係各位にいろいろと御迷惑と御心配をおかけした。本書刊行の便宜をはかって下さった学術出版委員会の諸先生、原稿提出の期限を過ぎても筆者を励まして下さった図書館の岸本晴広氏並びに石井幹一氏、語彙選択の面倒な作業を手伝って下さったロシア語学科3年生の小林真理さん、脱稿直前に厄介

な収録語彙の索引作成を手伝って下さった同じくロシア語学科3年生でコンピューターに詳しい平道人君、校正をお願いした大学院の北岡千夏さんとロシア語学科3年生の二宮功一君、事情を御理解戴き、筆者が寄稿予定の『外国語教育・研究史』の原稿を快く待って下さったロシア語学科教授山口慶四郎先生、締切直前になって原稿完成を危ぶむ筆者の公務の一部を引き受けて下さった同僚林田理恵先生他関係各位に紙面を借りて再度お詫びとお礼の言葉を申し添えたい。

一応は脱稿したものの、やはり「やっつけ仕事」という印象をぬぐい去ることはできず、筆者は本書の内容に決して満足してはいない。特に収録語彙及び訳語の選定には不満な箇所が散見される。その他にも不測の不備・語謬が恐らくあるかと思う。大方各位の御叱正をお願いする次第である。本書がハンドブックとして学習者に便宜をもたらすとともに、今後の研究をいくぶんなりとも触発できるならば、筆者としてこれに過ぎる喜びはない。

1990年3月14日

著者

凡 例

本書では以下のような表記方法、並びに記号を用いる。これらはほとんど一般的に用いられているものと同じであるが、若干慣用に反するものがある。

1. 使用文字

現代ロシア語を記す際にはもちろん現用のロシア文字を用いるが、子音交替の説明などではロシア文字の範囲では適当な表記法がない *-j-* を用いることがある。これは短い音節を成さない *i* を表し、ドイツ語読みで「ヨット」と呼ぶ。

ѣ ѓ は現代ロシア語では音価を持たないが、古代（教会）スラブ語や古代ロシア語について用いている場合はそれぞれ短い母音 *u i* である。

ѣ は古代（教会）スラブ語あるいは古代ロシア語について用いる母音である。本来の音価は [ie] だったと想像されているが、その真偽は不明である。ロシア語では *e* と同じ音になってしまった。

е њ はスラブ祖語あるいは古代（教会）スラブ語について用い、それぞれ *e o* の鼻母音を示す。

再構された形を示す際には慣用に従ってローマ字を用いる。*ѣ* に対しては *ě* と記す。

2. 記号

>	．．． に転じる／転じた
<	．．． に遡る
～	両形が許される
→	前から後ろが派生する
←	後ろから前が派生する
•	再構された形を示す
ˊ	第1アクセント
ˋ	第2アクセント
∅	ゼロ語尾／ゼロ形態素

<u>e</u>	出沒母音となる e
<u>o</u>	出沒母音となる o
-	1) 任意の音節の代用 2) 形態素の切れ目を示す
V	任意の母音
<u>V</u>	母音以外
C	任意の子音
T	任意の子音
'	先行子音の軟化 (口蓋化、イ音化)

序章 ロシア語のアクセント概観

1. 記載方針

以下に於いて明らかになるように、ロシア語のアクセントは韻律的ひとまとまりである語を作っている音節のうち、ある音節を際立たせる機能を持っているというよりも、むしろ語を構成している形態素のうちの一つの形態素を際立たせるという機能を持っており、従ってその修得・研究のためには現代ロシア語の音声学・音韻論のみならず形態論の知識が前提となる。また、特に動詞については基本的な動詞に接頭辞が付加されて複数の新たな派生動詞が構成され、特定の接尾辞を加えることによって2次的な派生動詞が作られるというきれいなシステムが観察され、派生動詞の曲用及びアクセントは原則として基本的な動詞のそれに等しくなるので、語形成の基礎的知識が必要になる。場合によっては語幹の設定をしたり、現代ロシア語の諸形態を導くために現代ロシア語の知識だけでは不十分な場合があり、通時的あるいは生成音韻論的な説明を施した箇所もある。

このようにロシア語のアクセントを論じ、把握するためには、アクセント学以外にも実に多くの分野に通じていなければならない、これら必要な知識全てをシステムティックにここで記載することには相当な困難が予想される。そこで関係諸分野の説明は省略あるいはできるだけ簡略に留め、不可欠と思われる箇所にだけ場当りのやや詳しい説明を記すことにせざるを得なかった。やや専門的と判断した他分野の事項は脚注に記した。

またバルト・スラブ語の通時アクセント論にかかわる事項は意図的に避けた。この学問ではバルト・スラブ語が本来持っていた長母音は2種類の異なる音調（伝統的には intonation と呼ばれるが、Garde のように tone と呼びかえた方がいいと思う）acute(´) と circumflex(ˆ) を持っていたとの仮定から出発し、例えば ˆ のような構造を持つ語が元々第1音節に強勢を有するとき、その強勢は第2音節に移る（いわゆる Saussure の法則）というような強勢位置移動等のルールを帰納する。この分野の研究はかの構造主義言語学の祖 F. de Saussure が Mémoire の中で存在を示唆し、彼の死後になってヒタイト語の発見によりその存在が確認された印欧祖語のある種の喉音に関係している。この分野の研究を概観することは相当な比較言語学の知識を必要とするため筆者には荷が重すぎ、割愛することにした。

2. ロシア語のアクセントの煩雑さ

アクセントとは韻律的なまとまりを成す複数の音節のうちある一つの音節を際立たせることであって、そのためにロシア語では英語等と同様にいわゆる強さアクセントを用いている。日本語のアクセントはいわゆる高さアクセントであって、おのおの音節（より正確にはモーラ）は高音域あるいは低音域に属し、boku（僕）、watasi（私）のように高音域に属す音節（モーラ）は一つとは限らない。ロシア語ではアクセントを獲得するのは当該の音節の音節核である母音だけである。逆に言えばこれがロシア語に於ける音節主音的（つまり音節核になる）子音の存在に対する否定的な根拠となる。アクセントのある母音は一つの語（より正確には韻律的語）に対し原則として一つしかない。хòзрасчёт（独立採算制）には第1音節に第2アクセントがあるが、これは正書法上1語なのであって、韻律的には2語となる。

ロシア語はいわゆる自由アクセントの言語であり、フランス語の単語は常に最終音節にアクセントを持つとか、チェコ語では第1音節、ポーランド語では語末から2番目の音節にいつもアクセントがあるといったように、一連の言語に見られるような定まった音節にアクセントが必ず来る（固定アクセント）ということはない。自由アクセントという観点からは英語やドイツ語も同様なのだが、ロシア語ではそれに加えて語が語形変化するに従いアクセントの位置を変えてしまうということが頻発する。

アクセントの移動は全く恣意的に行われているかのような印象さえ与える場合がある。例として非常に頻度の高い名詞と動詞が語形変化に伴っていかにアクセントを移動させるかを見てみる。

《сторона́》という名詞を例にとると、辞書の見出しとなっている単数主格であるこの形と同じアクセントがこの語の全ての形態に適応されるわけではなく、単数対格、複数主格、複数対格の3つの形態では第1音節にアクセントが移動し、複数生格では第2音節が強勢を獲得している。

	主格	生格	与格	対格	造格	前置格
単数:	сторона́	стороны́	стороне́	сто́рону	сторонóй	стороне́
複数:	сто́роны	сторон	сторона́м	сто́роны	сторона́ми	сторона́х

次に《поднять》という動詞について同様の観察をしてみると、この動詞は未来形（人称形態）で不規則な変化をするし、過去形では2種類のアクセントが許されていて、上記の名詞よりもより一層煩雑に思えるかもしれない。記号《～》はその前後の形態両者が許容されることを示す。

不定形		подня́ть
未来形	1 人称単数	подниму́
(人称形態)	2 人称単数	подни́мешь
	3 人称単数	подни́мет
		...
	3 人称複数	подни́мут
過去形	男性	по́днял ～ подня́л
	女性	подняла́
	中性	по́дняло ～ подня́ло
	複数	по́дняли ～ подня́ли
能動形動詞過去	(斜格略)	подня́вший
被動形動詞過去	長語尾 (斜格略)	по́днятый
	短語尾 男性	по́днят
	女性	поднята́ ～ подня́та
	中性	по́днято
	複数	по́дняты
副動詞		подня́в

何のパターン化もなしに、ロシア語全体のアクセントのシステムを知らずに、これらの個々の語のアクセントを記憶するのは非常な精神的徒勞を伴うであろう。実はロシア語のアクセント全体を司る大きなルールが背後にあって、これらの語もそのルールに従って強勢の位置を変えているのである。その大きなルールは音声学や音韻論の分野ではなく形態論の分野にある。

3. アクセントと形態論

ロシア語のアクセント法は形態論と密接に結び付いている。結果から先に述べると、ロシア語のアクセントは語を構成している部分（形態素）のどれかにあるのであって、アクセントが移動する場合にもアクセントは任意の音節から任意の音節へと移動するのではなくて、ある形態素から別な形態素へと移動するのである。初めにロシア語の語の成立を概略する。

語は意味を有する最小単位である形態素（морфема）からできている。ロシア語の語¹⁾は一般的に変化しない部分すなわち語幹（основа）と、変化する部分すなわち語尾（окончание）から成っている。語幹は当該の語の語彙的意味を担い、語尾は文法的意味を担う。語尾はこれ以上分析できないが、語幹はより小さい形態素に分かたれることもある。語幹は必ず一つの語根（корень）を含み、その語根の前後に他の形態素が接合して語幹を構成することもある。語根の後ろに付いて語幹を構成するのを助ける形態素を接尾辞（суффикс）、語根の前に付いて語幹を構成するのを助ける形態素を接頭辞（префикс あるいは приставка）と呼ぶ。例えば книга という語は книг-а книг-и книг-е книг-у...のような曲用を持つので、語幹は книг-、語尾は -а であり、なおかつその語幹はこれ以上分析できないため語根に等しい。同様に читаю という語は чита-ю чита-ешь чита-ет...чита-л чита-л-а ...のように活用するので、無変化の部分（すなわち語幹）чита- と変化する部分（すなわち語尾）-ю に分けられるが、この語幹はさらに честь (<чѣтъь), чту, чтѣшь, ...чтение 等との比較によってさらに語根 чит-²⁾ と接尾辞 -а- に分けられる。прочитаю という語は上記の читаю の前に接頭辞 про- が付き、結果的に про-чит-а-ю と分析されることになる。

複数の語根を含む語幹も存在する。пароход（汽船）という語は пар（蒸気）と ход（進むこと）という2つの語根を持ち、それらを結び付けているのは -о- とい

1) 語はさらに文の成分（члены предложения）になりうる独立語（самостоятельные слова, знаменательные слова）と文の要素にならない補助語（служебные слова）に分かたれる。

2) чит-/чет-/чт- のように母音交替が起こっている。詳細については触れない。

う形態素である。このように2つ以上の語根を結び付けて一つの語幹を構成するのを助ける形態素のことを接中辞（интерфикс）と呼ぶ。

учится という語は учусь учатся のような同じパラダイムの成員との比較によって уч-ит-ся と分析されるが、その最後の形態素 -ся はこの語の語彙的意味を決定するのを助ける役割を演じているため語幹に属す接尾辞の一種であるが、語尾 -ит のさらに後に置かれている点が特異である。そのためこの種の接尾辞のことを後接辞（постфикс）と呼んで区別している。

正書法上の語は韻律的語と一致しない場合がある。前置詞や否定辞 не は次に来る語と一っしょに読まれ（後接語 proclitic）、逆に же -то のようにその前にある語と一っしょに読まれ（前接語 enclitic）たりするので、これらの要素は韻律的にはその前後の語の一部となる。しかし現行の正書法ではこれらは分かち書きされることが多い。

このような成立ちをしている語の中で最も基本的と考えられるのは語幹の中の語根にアクセントを持つ場合である。

ところがしばしば語の一部を成す他の要素が語根からアクセントを奪い取る。

語尾：сторон-á	Cf. стóрон-у
молод-á	Cf. мóлод-о
вз-я-л-á	Cf. вз-я-л-и
на берег-ý	Cf. бéрег-у（単数与格）

接頭辞（もしくは後接語）

при-н-я-л-и	Cf. при-н-я-ть
не́ было	Cf. бы́ло
за́ город-ом	Cf. го́род-ом
ждать́ у́ мор-я погоды	Cf. мо́р-е

接尾辞

про-чит-á-ть	Cf. про-чи́т-а-н-а про-чи́т-ыва-ть
о-жид-á-ю	Cf. не-о-жи́д-а-н-н-о

後接辞

на-ча-л-ся́	Cf. на-ча́-ть-ся
при-н-я-л-ся́	Cf. при-н-я́-ть-ся

このようにロシア語のアクセントは本来語根にあったと考えられるが、韻律的ひとまとまりを構成する語根のまわりの色々な諸要素（語尾、接頭辞、接尾辞、接中辞、後接辞、前接語、後接語）が場合によって語根からアクセントを奪い取ると考えられる。例えば *принять* (*при-н-я-ть*) という語は不定形では本来の語根アクセントを保持しているが、過去形になると女性形以外では *приняли* (*при-н-я-л-и*) のように接頭辞が語根からアクセントを奪い取り、同じ過去形でも女性形では *приняла́* (*при-н-я-л-а́*) のように語尾が接頭辞よりも強い牽引力でアクセントを引き付ける。見かけの上では語が変化するに伴ってあたかもアクセントが移動しているかのように思えるが、実はその根底には上記のような語（より正確には韻律的語）の構成部分どうしのアクセント獲得競争があるわけである。

4. 仮アクセント

上記の *сторон-а́* の複数生格 *сторон* はこのような方法では説明できない。これを説明するためには仮アクセント (*условное ударение*) の概念を導入する必要がある。例えば、*стол* という語は単数主格（及びそれに等しい対格）で語幹にアクセントを持っているけれども、他の形を見ても *стола́*, *столу́*, *на столе́*, *стола́*, *столо́в*, ... のように常に語尾にアクセントがある。たまたまこの語の単数主格とそれに等しい単数対格では語尾がゼロであり、語尾にアクセントを置くにしても肝心の語尾が無いのでは語尾アクセントを実現できない。かといって無アクセント語にするわけにもいかない。そこで、このような場合に語尾アクセントと語幹アクセントの対立が中和し、語尾の無い語の語尾アクセントは結果的に語幹アクセントとして実現することになる。このような結果的にやむを得ない、不可抗力の語幹アクセントの事を仮アクセントと呼ぶ。この概念を用いると *стол* は常に語尾にアクセントを持つとみなされる。同様に前述の *сторон* は本当は語尾アクセントを持っていて *сторон-∅* の具現と考えられる。仮アクセントは男性名詞の単数主格ばかりでなく、語尾ゼロの名詞複数生格、形容詞短語尾の男性形、動詞過去形の男性形、被動形動詞過去短語尾の男性形にも用いられる重要な概念である。この概念によってアクセントのパターンが格段に簡素化される。

第I章 名 詞

ロシア語の名詞は曲用に際しそのアクセントをある音節から別な音節に変えてしまうことがあるが、そのアクセントの移動には一定のパターンがある。

名詞のアクセントのパターン表示のために次の3つの記号を用いる。この記号の基本的意味は本書で扱う全ての品詞に共通である。

- A : 語幹に固定したアクセント
- B : 語尾に固定したアクセント
- C : 語幹アクセントと語尾アクセントが交替（移動アクセント）

名詞の特徴として、単数形と複数形が異なるアクセントパターンに属することがしばしばある。従って、ある名詞のアクセントパターンを示すには上記の記号を二つ重ね、前の記号は単数形のアクセントパターンを、後の記号は複数形のアクセントパターンを示すことにする。例えばAAはその名詞が単数でも複数でも語幹に固定したアクセントを持つことを示し、BAはその名詞が単数形では常に語尾にアクセントを持つが、複数形では常に語幹にアクセントを持つことを示す。

語尾にアクセントがある場合に語尾がゼロであるならば前述の仮アクセントが語幹に落ちることになる。男性名詞では単数主格（及びそれに等しい対格）と希に語尾ゼロの複数生格に、女性名詞と中性名詞ではやはり語尾ゼロの複数生格に仮アクセントが生じる可能性がある。仮アクセントは原則として語幹の最終音節に落ちるが、希に次末音節よりももつと語頭に向かって後退することがある。

名詞の移動アクセントのパターンには以下のように単複各々に下位分類がある。

名詞単数形に出現する移動アクセントのパターンは以下の2種類である。

C 1 : 対格のみで語幹アクセント、その他の形で語尾アクセント

例：рукá руки́ рукé рúку рукóй руке́

C 2 : 造格のみで語幹アクセント、その他の形で語尾アクセント

例：любо́вь любви́ любви́ любо́вь любо́вью любви́

単数形のパラダイムで移動アクセントを持つのは女性名詞のみである。単数形で上記C 1型移動アクセントを持つのは単数主格が -a/-я に終わる女性名詞のみであり、C 2型アクセントを持つのは単数主格が -ь に終わる女性名詞である。前者のアクセントを持つ語は本書に記載した範囲では僅か23語であり、後者についてはさらに少ない5語である。両者の曲用の形式が全く異なるため、これらの両者に別個の命名を施す必要はなくなってしまう、C 1型とC 2型を一緒にして単にC型と呼んで構わないことが解る。C 2型の詳細については p.59 を参照。

名詞複数形に現れる移動アクセントのパターンも2種類である。

C 1 : 主格（及びそれに等しい対格）で語幹アクセント、その他の形で語尾アクセント

例：сто́роны сторо́н сторона́м сто́роны сторона́ми сторона́х

C 2 : 生格（及びそれに等しい対格）と造格で語尾アクセント、その他の形で語幹アクセント（2語のみ）

де́ти дете́й де́тям дете́й детьми́ де́тях

複数形のC 1型移動アクセントは名詞一般に、C 2型は男性の複数形しかない名詞 (pluralia tantum) лю́ди と де́ти 2語にのみ現れる。従って単数形の場合と同様に両者を同じ名称C型アクセントと呼んで構わない。

名詞の曲用全般についての説明は省略するが、出沒母音の表記法については一言添えておく。以下では出沒母音を生ずる単位を o e のように表す。o e の後には必ず何等かの子音(C)が後続するが、さらにその後にゼロを含む母音以外の要素(V)が続くときには o e が出現 (oCV̄>oC̄V̄, eCV̄>eC̄V̄) し、母音(V)が加わればこれらの母音は現れない (oCV>CV, eCV>CV)。従って名詞の出沒母音は語尾ゼロの形態及び語尾 -ju- を持つ形態、すなわち男性名詞の単数主格 (со́н сна)、-a/-я に終わる女性名詞と中性名詞では複数生格 (де́вушка де́вушек; окно́ о́кон)、-ь に終わる女性名詞では単数主格と造格 (ро́жь ржи ро́жью) に関与する。複数生格で語尾ゼロとなる男性名詞についても同様である。

1. 男性名詞

単複両形を持つ男性名詞は単数形で移動アクセントを持つことはない。従って存在するのは右表に示す6つのアクセント型、すなわちAA、AB、AC、BA、BB、BCのみである。単数形を欠く男性名詞2語はC型アクセントに属す。但し、複数形の移動アクセント（即ちC型）には2つの下位パターンがある。

単\複	A	B	C
A	+	+	+
B	+	+	+
C	-	-	-
∅	-	-	+

1. 1 AA型アクセント

表中、《-》とあるのは、初めの《-》が語幹を示し、後ろの《-》は語尾を示す。

	単数A	複数A
主格	い-	い-
生格	い-	い-
与格	い-	い-
対格	主/生	主/生
造格	い-	い-
前置格	い-	い-

例	単数	複数
主格	па́рк	па́рки
生格	па́рка	па́рков
与格	па́рку	па́ркам
対格	па́рк	па́рки
造格	па́рком	па́рками
前置格	па́рке	па́рках

AA型は男性名詞全体の中で約85%を占める最も有力なアクセント型である。多少とも注意を要するのは以下の2点である。

若干の語は例外的に語幹内でアクセントの移動を生じる。повод「理由；手綱」の複数形は前者の意で по́воды、後者では接尾辞 -j- と語尾 -a を持ち пово́дьяとなる。類例：ко́лос（穂）複 колóсья、обод（枠）複 обóдья、пóлоз（滑り木）複 полóзья и т. д. その他にも граждáнин（市民）複 гра́ждане、госпо́дь（主、神）単生 гóспода、перéд（前部）単生 пéреда 等がある。

BB型アクセントの項目に記載した мох лёд лоб ров рот сон はAA型アクセントとしても事実上構わない。мох には出沒母音でない完全な語根の母音を持つヴァリエントがあり、その場合の曲用は мо́ха мо́ху... であって、これは紛れもなくAA型である。出沒母音を伴う мох 並びに他の語は語尾を持つと語幹が音節を持たなくなり、語幹に常にアクセントがあるのだが斜格ではそれが不可能なため仮アクセントが語尾に落ちるとも言えよう。

1. 2 BB型アクセント

	単数B	複数B
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	主／生	主／生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例	単数	複数
主格	сто́л	сто́лы
生格	стола́	столо́в
与格	столу́	стола́м
対格	сто́л	сто́лы
造格	столо́м	столо́ми
前置格	столé	столáх

ВВ型もまた非常に多くの対象語を有する生産的アクセントパターンである。

Федянина の計算によるとこのパターンに属す男性名詞の数は1700語にも達する。しかしこれらの語をすべて記憶する必要があるというわけではない。後述するようにこのパターンにはいくつかの接尾辞を持つ派生名詞が属すので、非派生名詞は記憶せざるを得ないとしても派生名詞については記憶は容易である。

男性名詞単数主格及びそれに等しい単数対格では語尾がゼロであるため上記のように語幹に仮アクセントが置かれる。

1. 2. 1 非派生名詞

1. 2. 1. 1 単音節語幹語

аз	a の古称	
альт	アルト	
блин	パンケーキ	
бинт	包帯	
боб	豆	
болт	ボルト (ねじ)	
борщ	ボルシチ (スープの名)	
бык	雄牛	
винт	ねじ、らせん	
вождь	リーダー	
вол	去勢した牛	
враг	敵	
врач	医者	
грач	みやまがらす	
герб	紋章	
горб	こぶ	Cf. p. 85
грех	罪	
гриб	きのこ	
грош	昔の小銭	
двор	中庭	Cf. p. 91
день дня	日、昼間	

ДОЖДЬ	雨	
ДРОЗД	つぐみ (鳥の名)	
ёж	はりねずみ	
ёрш	淡水魚の名	
жрец	祭司	
жук	かぶとむし	
ЗОНТ	傘	
КИЙ	ビリヤードのキュー	
КИТ	鯨	
КЛЕЩ	だに	
КЛОК ¹⁾	小枝	
КЛОП	なんきんむし	
КЛЫК	犬歯	
КЛЮЧ	鍵	
КНУТ	むち	
КОЛ	成績の最低点、1、不可、D	
КОТ	猫	
КРОТ	もぐら	
КРЕМЛЬ	城塞	
КРЕСТ	十字架	
КРЮК ²⁾	掛け釘	Cf. p. 85

1) 複数形では接尾辞 *-j-* を介して語尾 *-a, -ev...* を取り、*-j-* の前にあった前舌母音 *ь* の影響で *к/ч* の子音交替を起こして *кλόчьа кλόчьев...* とする曲用も可能である。その場合のアクセントはもちろん *BA* 型となる。Cf. p. 39. *к/ч* は後述する第三章 1. 1. 2 (p. 139) に記す第1パラタリゼーションである。名詞の曲用では子音交替は例外的なので系統だった説明は省略する。

2) 「鉤、先の曲がった金具」の意味では上記 *клок* と同様に接尾辞 *-j-* と *к/ч* を伴って *BA* 型アクセントを持つ：複数 *крючьа крючьев...* p. 39を参照。

куст		低木	
лѐд	льда	氷	Cf. p. 85
лѐн	льна	あま (布の名)	
л <u>о</u> б	лба	額	Cf. p. 85, 91
л <u>е</u> в	льва	ライオン	
леш		うぐい (魚の名)	
линъ		魚の名	
лист	¹⁾	枚	
лунъ		鳥の名	
луч		光線	
меч		劍	
мяч		ボール	
морж		セイウチ	
мост		橋	~ АВ Cf. p. 86, 91
мо <u>х</u>	мха	苔	Cf. p. 85 ~ АА (出沒母音なし)
нож		ナイフ	
ноль		ゼロ	
нуль		ゼロ	
п <u>е</u> с	пса	犬	
плащ		レインコート	
плод		実	
плот		いかだ	Cf. p. 85
плут		詐欺師	
плюш		きづた (蔦の名)	
полк		連隊	Cf. p. 85
поп		司祭	
пост		精進、哨兵	Cf. p. 85
пруд		池	Cf. p. 85

1) 「葉」の意では *клок* と同様に В А 型となる : 複 *лістья лістьев...* Cf. p. 39.

прыш		吹出物	
пуць		道	
раб		奴隸	
р <u>о</u> в	рва	堀	Cf. p. 85
р <u>о</u> т	рта	口	Cf. p. 85, 91
рубль		ルーブル (金銭単位)	
руль		車のハンドル	
серп		鎌	
скот		家畜	
слон		象	
сноп		束	
сом		なまず	
с <u>о</u> н	сна	眠り	
ствол		幹	
стих		詩行	
стол		机	Cf. p. 91
столб		柱	
стриж		いわつばめ (鳥の名)	
стыд		恥	
суд		裁判	
сук ¹⁾		大枝	Cf. p. 85
ткач		織り手	
труд		労働	
туз		トランプのエース	
тюк		包み	
уж		アオダイショウ	
ум		知性	
хвост		しっぽ	

1) клок 等と同様に В А型も可能である : 複数 сучья сучьев... Cf. p. 39.

ХОЛМ	丘	
ХОЛСТ	麻布	
ЧИЖ	まひわ (鳥の名)	
ШЕСТ	竿	
ШМЕЛЬ	まるはなばち	
ШНУР	紐	
ШТИФТ	ピン	Cf. p. 85
ШТРИХ	細い線	
ШТЫК	銃剣	
ШУТ	道化	
ШИТ	楯	

1. 2. 1. 2 二音節語幹語

1. 2. 1. 2. 1 第1音節にアクセントを持つ語

次の3語は単数主格及びそれに等しい対格で第1音節にアクセントを持つ。これらはすべて出沒母音を持つので、語尾のある形態の語幹は一音節である。これらは単数主格で語尾ゼロになると仮アクセントを語幹の最終音節ではなくその前の音節に持つようになる。

у́гол	угла́	かど、隅	Cf. p. 85, 91
у́горь	угря́	うなぎ	
у́зел	узла́	結び目	

1. 2. 1. 2. 2 第2音節にアクセントを持つ語

出沒母音を持つ名詞では語尾のある形態（即ち単数主格と対格以外）で語幹が一音節になる。

багóр	багра́	鈎のついた竿	
балы́к		魚の塩漬け	
барсу́к		穴熊	
бирю́к		離れ	
бобѐр	бобра́	ビーバー	単数主格は бобр とも

бура́в		穴あけ機	
бурдю́к		革の袋	
вихо́р	вихра́	巻き毛	
гонча́р		陶工	
дека́брь		12月	
жени́х		花婿	
живо́т		お腹	
жура́вль		鶴	
индю́к		七面鳥	
каба́н		いのしし	
каблу́к		ヒール	
кады́к		喉ぼとけ	
калмы́к		カルムイク人	
камыш		葦	
кара́сь		鮒(ふな)	
карту́з		帽子の一種	
кирпи́ч		煉瓦	
кисе́ль		ゼリー	
кове́р	ковра́	じゅうたん	
ковы́ль		はねがや(草の名)	
кожу́х		羊の毛皮のコート	
козе́л	козла́	山羊	
кома́р		蚊	
копы́л		木でできた支え	～. В А
кора́бль		船	
коро́ль		王様	
косте́р	костра́	焚火	
косты́ль		松葉杖	
коте́л	котла́	釜	
коча́н		キャベツの玉	

кремѣнь	кремня́	火打ち石	
курдю́к		羊のお尻の脂肪	
лемѣх		鋤の先端	複主 лемеха́ ～ лѣмех (A B)
лиша́й		ほう疹	
ломо́ть	ломтя́	スライス	～ ломо́ть (A C)
лопу́х		ごぼう (木に扱われる)	
лоску́т		布の切れ端	～ B A 複数 : лоску́тья лоску́тьев
маля́р		ペンキ屋	
минда́ль		アーモンド	
моты́ль		ぼうふら	
мундштúк		吸い口	
мяте́ж		暴動	
ноя́брь		11月	
обу́х		刃物の峰	～ óбух (A A)
обшла́г		袖口の折り返し	
овѣс	овса́	からす麦	
ого́нь	огня́	火	
октя́брь		10月	
оре́л	орла́	鷲	
осѣл	осла́	ろば	
осѣтр		ちょうざめ	
оча́г		かまど	
паде́ж		格	
пасту́х		牧童	
патру́ль		パトロール隊	
пау́к		くも	
пету́х		おんどり	
пиро́г		パイ	

плетѣнь	плетня́	編み垣
посо́л	посла́	大使
псалом	псалма́	賛美歌
пузы́рь		気泡、水泡
пусты́рь		空き地
ревѣнь		だいおう (植物名)
ремѣнь	ремня́	ベルト
репѣй	репья́	ゴボウのイガ
рубѣж		境界 (線)
рука́в		袖
ручѣй	ручья́	小川
рыча́г		てこ
сапо́г		長靴、ブーツ
сентя́брь		9月
слепѣнь	слепня́	虻 (あぶ)
снеги́рь		うそ (鳥の名)
столя́р		指物師
сунду́к		ながもち
сургу́н		封ろう、シーリングワックス
суха́рь		乾パン
сюрту́к		フロックコート
творо́г		カッテージチーズ ~ твóрог (AA)
топо́р		斧
утю́г		アイロン
февра́ль		2月
фити́ль		導火線
хохо́л	хохла́	とさか
хруста́ль		クリスタルグラス
четве́рг		木曜日
чехо́л	чехла́	ケース

чубу́к		長いきせる
шатѐр	шатра́	天幕
шашлы́к		串焼きバーベキュー
шего́л	шегла́	かわらひわ（鳥の名）
язы́к		舌
январь		1月
ярлы́к		レットル
ячме́нь		大麦、ものもらい

1. 2. 1. 3 三音節語幹語

出没母音を持つ名詞では語尾のある形態（すなわち単数主格とそれに等しい対格以外）で語幹が二音節になる。

воробе́й	воробья́	雀
мураве́й	муравья́	蟻
солове́й	соловья́	ナイチンゲール
богаты́рь		勇士
монасты́рь		修道院

1. 2. 2 派生名詞

次の接尾辞を持つ派生名詞は少数の例外を除いてVV型のアクセントを持つ：

1. -áж/-яж

бага́ж（荷物） бандáж（包帯） гара́ж（ガレージ）

монта́ж（モンタージュ） эта́ж（階） 等

例外：мира́ж（しんきろう）はVV～AA

2. -áк/-як

башма́к（婦人・子供用編み上げ靴） бедня́к（貧乏人）

земля́к（同郷人） колпа́к（帽子の一種）

ко́ньяк（コニヤック） кула́к（握り拳）

моря́к (船乗り) пиджа́к (ブレザー)
 пята́к (5 コペイカコイン) рыба́к (漁師)
 рюкза́к (リュックサック) синя́к (青あざ)
 сквозня́к (すきま風) смельча́к (命知らず)
 таба́к (タバコ) чула́к (変人) червя́к (うじ虫)
 весельча́к (陽気者) сибиря́к (シベリアっ子)
 холостя́к (独身の男) 等

例外：А А бара́к (バラック) ма́ньяк (そう病患者)
 па́стерна́к (草の名、アメリカボウフウ)
 поля́к (ポーランド人) слова́к (スロバキア人) 等
 А А～В В каза́к (コサック) 等

3. -а́р/-я́р

боча́р (桶屋) гонча́р (陶工)
 маля́р (ペンキ屋) столя́р (指物師) 等

例外：外来語 бульва́р (並木道) семина́р (セミナー) 等は А А型

4. -а́рь

буква́рь (アルファベットの本) слова́рь (辞書)
 фона́рь (明り) янта́рь (琥珀) секрета́рь (秘書)
 календа́рь (カレンダー) инвента́рь (備品) 等

例外：単数主格で後ろから 2 番目の音節にアクセントを持つ語

библиотека́рь (司書) пе́карь (パン屋)
 ры́царь (騎士) то́карь (旋盤工) 等

5. -а́ч

бога́ч (金持ち) кала́ч (パンの名) ловка́ч (抜け目の無
 い人) сила́ч (力持ち) уса́ч (口髭の男) 等

例外：карага́ч (木の名) 一語のみ

6. -а́ш/-я́ш

племя́ш (甥) торго́ш (商人) шала́ш (ほったて小屋) 等

例外：гуля́ш (ハンガリー風シチュー) чуваш́ (チュバシ人)
 は А А～В В

7. -ěj (単生は -eǰá)

грабěj (強奪) платěj (支払い) чертěj (図面) 等

8. -ěц¹ (出沒母音無し)

жнец (刈る人) лжец (嘘つき) льстец (おべっか使い)
 чтец (朗読者) близнец (双子) кузнец (かじ屋)
 мертвец (死人) мудрец (賢人) подлец (悪党)
 хитрец (ずるい人) храбрец (勇敢な人) 等

9. -ěц² (出沒母音あり)

① 先行するのが母音の場合 生格 -ицá :

боец (兵) 等

アクセントが最終音節になれば A A :

китаец (中国人) кореец (朝鮮人) 等

② 先行子音が軟音を保持する場合 生格 -ицá :

жилец (下宿人) удалец (大胆な人) 等

③ 先行子音が硬化する場合 生格 -ицá :

борец (レスラー) вдовец (男やもめ) дворец (宮殿)

конец (終わり) купец (商人) отец (父親)

певец (歌手) самец (オス) творец (創造者)

тунец (まぐろ) бубенец (通例複数で 鈴)

голубец (通例複数 Cf. p. 81. ロールキャベツ)

молодец¹⁾ (健康な若者) огурец (きゅうり)

продавец (店員) жеребец (雄馬) 等

アクセントが最終音節になれば A A :

старец (御老体) танец (ダンス) японец (日本人) 等

10. -ик

старик (老人) тупик (袋小路) материк (大陸)

еретик (異端者) 等

1) молодец (勇士) は A A 型アクセントを有す。

11. -йч

кирпйч (れんが) паралйч (まひ) москвйч (モスクワっ子)
Ильйч (Илья の父称) 等

12. -нйк

дневнйк (日記) леснйк (森番) мяснйк (肉屋)
роднйк (泉) тайнйк (隠れ家) цветнйк (花壇)
шутнйк (ひょうきん者) воротнйк (襟)
выпускнйк (卒業生) озорнйк (いたずらっ子)
проводнйк (案内人) скоростнйк (仕事の速い労働者)
ученйк (生徒) 等

例外：単数主格で最終音節にアクセントを持たない語

градусник (温度計) забчник (通信教育受講生)
преступник (犯人) спутник (同行者) 等

13. -овйк/-евйк

большевйк (多数派の人) грузовйк (トラック)
дождевйк (レインコート) меньшевйк (少数派の人) 等

14. -ок¹/-эк¹ (出沒母音無し)

едок (食料配給の単位として一人) ездок (乗り手)
знаток (専門家) игрок (プレーヤー)
чеснок (にんにく) 等

15. -ок²/-эк² (出沒母音あり)

белок (卵白) висок (こめかみ) волчок (こま)
глоток (一飲み) горшок (壺) желток (卵黄)
звонок (ベル) кружок (サークル) кусок (一片)
носок (靴下) паек (生 пайка) (弁当) песок (砂)
платок (スカーフ) скачок (跳躍) цветок (花)
чулок (ストッキング) шнурок (編みひも) кипяток (熱湯)
хорек (生 хорька) (けながいたち) шенок (小犬 Cf. p. 40)
лепесток (花卉) новичок (新米) порошок (粉)
уголок (угол の指小 Cf. p. 85) язычок (舌) 等

例外：単数主格で最終音節にアクセントを持たない語

ка́мешек (石ころ) кра́ешек (端っこ) оре́шек (胡桃) 等
以下の3語に特に注意 (p. 39 参照)

глазо́к В В のぞき穴

В А (復生 глазо́к) глаз (目) の指小形

зубо́к В В 採掘機の歯

В А (復生 зу́бок) зуб (歯) の指小形

рожо́к В В ホルン

В А (復生 ро́жек) рог (つの) の指小形

16. -у́н/-ю́н

бегу́н (ランナー) болту́н (おしゃべり)

ворчу́н (口やかましい人) вру́н (嘘つき)

вью́н (どじょう) драчу́н (喧嘩っばやい人)

колду́н (魔法使い) крику́н (甲高い声の人)

лгу́н (嘘つき) лету́н (飛ぶ人) пачку́н (汚す人)

певу́н (よく歌う人) прыгу́н (ジャンパー) табу́н (群れ)

хвасту́н (ほらふき) чугу́н (銑鉄) шалу́н (いたずらっ子)

говору́н (おしゃべり) хохоту́н (笑い上戸) 等

例外1 кану́н (前日、前夜) тайфу́н (台風)

трибу́н (巨頭) 等は А А

2 単数主格で最終音節にアクセントを持たない語

клоу́н (ピエロ) ко́ршун (鳶) 等 А А

1. 3 AB型アクセント

このタイプのアクセントを持つ名詞は出母音を生じない。複数主格は通常の -ы/-и に終わるものの他に -á/-я に終わるものが多数ある。

	単数 A	複数 B
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	主/生	主/生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例	単数	複数
主格	са́д	сады́
生格	са́да	садо́в
与格	са́ду	сада́м
対格	са́д	сады́
造格	са́дом	сада́ми
前置格	са́де	сада́х

1. 3. 1 単音節語幹語

1. 3. 1. 1 複数主格 -ы/-и

баз	畜舎	
бал	舞踏会	Cf. p. 85
бас	バス (低い声)	
бой	戦い	Cf. p. 85
бор	針葉樹林	Cf. p. 85
буй	ブイ	
вал	大波、回転軸	Cf. p. 85
верх ¹	上	Cf. p. 85 「幌」は複主 -á
воз	荷車	Cf. p. 85, 92
гол	ゴール	

гроб	棺	Cf. p. 86
грунт	土地、土壤	Cf. p. 86
дар	贈物、才能	
долг	借金、義務	Cf. p. 86
дуб	櫟	Cf. p. 86
дым	煙	Cf. p. 86
жир	脂肪	Cf. p. 86
зад	背面	Cf. p. 86
зоб	虫の胃袋	Cf. p. 86
квас	クワス (飲物)	
клуб	丸い塊	「クラブ」はA A
кон	賭け金置き	Cf. p. 86
круг	円	Cf. p. 86
куб	立方体	
лад	やり方	
мёд	蜜	Cf. p. 86
мир	世界、世間	Cf. p. 86 「平和」はA A
мозг	脳	Cf. p. 86
мост	橋	~ B B Cf. p. 86
низ	下	Cf. p. 86
нос	鼻	Cf. p. 86, 93
паз	隙間	Cf. p. 86
пай	分担 (金)	Cf. p. 87
пан	地主	
пар	湯気	Cf. p. 87
пир	宴会	Cf. p. 87
плуг	鋤	
под	(かまどの) 火床	Cf. p. 87
пол	床	Cf. p. 87, 93 「自然性」はA C
пот	汗	Cf. p. 87

приз	賞	
пуд	重量単位	
пук	束	
раз	回、倍	
род	家系、一族	Cf. p. 87, 94 「文法性」はA C
рой	虫の群れ	Cf. p. 87
ряд	列	Cf. p. 87, 101
сад	庭	Cf. p. 87, 94
след	跡	Cf. p. 87, 101 単生 следá ~ слéду
слой	層	Cf. p. 87
смотр	閱兵式	Cf. p. 87
спирт	アルコール	Cf. p. 87
строй	隊列	Cf. p. 87 「体制」はA A
суп	スープ	Cf. p. 87
сыр	チーズ	Cf. p. 87
таз	洗面器	Cf. p. 87
тыл	背面	Cf. p. 87
ус	口髭	Cf. p. 94
ход	歩き	~ A C Cf. p. 87
хор	コーラス	Cf. p. 88
форт	ほう壘 (軍用語)	Cf. p. 87
чай	お茶	Cf. p. 88
чан	タンク	Cf. p. 88
час	時	Cf. p. 88, 94, 101
чин	階級	
чуб	男の前髪	
шаг	歩	Cf. p. 88, 101
шар	球	Cf. p. 101
шкаф	戸棚、タンス	Cf. p. 88
шрифт	活字	

штаб 指令部 ~ AA

1. 3. 1. 2 複数主格 -á/-я

この語尾は生産力に富み、ますます多くの男性名詞がこの語尾を持つAB型アクセントを獲得している。

бок	わき腹	Cf. p. 85, 92
борт	舷	Cf. p. 85, 92
век	世紀、生涯	
верх ²	幌 Cf. p. 85	~「上」は複主 -й
глаз	目 Cf. p. 85, 92	複 глаза́ глаз
год	年	~ AC Cf. p. 86
дом	家、建物	Cf. p. 92
корм	餌	Cf. p. 86
край	端、地方	複 край́ краёв Cf. p. 86
лес	森	Cf. p. 86, 92
лом	かなてこ	~ AC
луг	草原	Cf. p. 86, 93
мех	毛皮 Cf. p. 86	「ふいご」は複主 -й~-á
рог	つの	
снег	雪	Cf. p. 87, 94
сорт	種類	
стог	いなむら	Cf. p. 87
счёт	計算	
ток	鳥の発情場所	「流れ」はAA Cf. p. 87
ток	脱穀場	~ AC
том	巻	
тон	色調	「音調」はAA~AC
фронт	前線	
хлеб	穀物	「パン」はAA
хлев	家畜小屋	Cf. p. 87

цвет	色	Cf. p. 88
цех	作業場	～ АА Cf. p. 88 「ギルド」はАА
шёлк	絹	Cf. p. 88

1. 3. 1. 3 複数主格 -ья́

この語尾を持つ男性名詞複数形は常に語幹にアクセントを有するA型になるのが普通だが、以下の6語は例外的に複数形で常に語尾にアクセントを有するB型となる。以下の6語は人を表すという意味でも共通している。

друг	友達	複	другья́	друге́й	другья́м
князь	公、公爵	複	князья́	князе́й	князья́м
муж	夫	複	мужья́	муже́й	мужа́м

以下の2語には複数形で語尾の前に接尾辞 -ов- が入る。

кум	名付親	複	кумовья́	кумове́й	кумовья́м
сын	息子	複	сыновья́	сынове́й	сыновья́м

以下の語は例外的に軟変化でも複数生格の語尾に -ов/-ев を取る。

зять	娘の夫	複	зятья́	зятьёв	зятья́м
------	-----	---	--------	--------	---------

1. 3. 1. 4 複数主格 -и́ ～ -а́

以下の語は複数主格で -и́ と -а́ のゆれを生ずる。

мех	ふいご	複	мехи́～меха́
-----	-----	---	-------------

「毛皮」は複主 мехá

1. 3. 2 多音節語幹語

このタイプに属す名詞の複数主格は -а́/-я́ に終わる。軟変化の複数生格は語尾 -ей を取る。多くの語がこのリストに加わってきている。特に語幹が流音 л р ль рь に終わる語についてその傾向が著しい。

1. 3. 2. 1 二音節語幹語

а́дрес	住所	
бе́рег	岸	Cf. p. 85, 92

бу́ер	氷上ヨット	
бу́фер	バンパー	
вёер	扇	
вёксель	手形	～ A A
вёчер	夕方、パーティー	Cf. p. 92
вóрох	山積み	～ A A
го́лос	声	
го́род	町、市	Cf. p. 92
до́ктор	医者	
жёлоб	雨樋、溝	
же́мчуг	真珠	
же́рнов	石臼	
ка́тер	小型艇、ランチ	
китёль	詰襟の服	～ A A
кле́вер	クローバー	
ко́роб	樹皮で作った箱	
ко́рпус	建物の棟、軍隊	「胴体」の意で A A
кре́йсер	巡洋艦、クルーザー	～ A A
кре́ндель	8形クッキー	～ A C ～ A A
ку́зов	車体	～ A A
ку́пол	丸屋根、キューポラ	
ку́чер	御者	
ла́герь	キャンプ	
ма́стер	名人	
не́вод	魚をとる網	
но́мер	番号、ホテルの部屋	
о́браз	聖像、イコン	他の意味では A A
о́вод	アブ	～ A A
о́круг	管区	
о́мут	水中の深み	～ A A

орден	勲章	その他の意で A A
ордер	命令書	
остров	島	
отпуск	有給休暇	Cf. p. 86
парус	帆	
паспорт	パスポート	
пекарь	パン焼き職人	~ A A
перед	前部	Cf. p. 87 単生以下語幹 перед-
повор	コック	
погреб	穴蔵	
поезд	列車	
порох	火薬	
пояс	ベルト	Cf. p. 93
провод	電線	
пропуск	通行証	その他の意で A A
пудель	プードル	~ A A
сектор	扇形、セクター	~ A A
скутер	モーターボート	
слесарь	組立工	~ A A
соболь	クロテン	~ A C
сторож	守衛、番人	複生 сторожей
табель	一覧表	~ A A
тенор	テノール	
токарь	旋盤工	~ A A
тополь	ポプラ	
тормоз	ブレーキ	「障害」の意で A A
трактор	トラクター	~ A A
фельдшер	医療助手	
флигель	建物のウイング	
флюгер	風見鳥	~ A A

хóлод	寒さ	Cf. p. 88
хúтор	農場	
чéреп	頭蓋骨	
ша́фер	婚礼介添人	
шта́бель	煉瓦・材木の山	～ AA
штéмпель	スタンプ	発音は [штэ...]
штéпсель	プラグ	発音は [штэ...]
я́корь	錨	
я́стреб	鷹	

1. 3. 2. 2 三音節語幹語

тéтерев	黒雷鳥	
óкорок	腿肉	
пéрепел	うずら	
кóлокол	鐘	
профéссор	教授	
редáктор	編集者	～ AA
прожéктор	プロジェクター	～ AA
инспéктор	インスペクター	～ AA
дирéктор	ディレクター、長	
коррéктор	校正者	～ AA
кондúктор	車掌	
инстрúктор	インストラクター	～ AA
учíтель	教師	
господín	男性への敬称、Mr.	複 господá

1. 4 AC型アクセント

	単数	複数
主格	ˊ	ˊ
生格	ˊ	ˊ
与格	ˊ	ˊ
対格	主/生	主/生
造格	ˊ	ˊ
前置格	ˊ	ˊ

例	単数	複数
主格	гос ^ˊ ть	гос ^ˊ ти
生格	гос ^ˊ тя	гос ^ˊ тѐй
与格	гос ^ˊ тю	гос ^ˊ тям
対格	гос ^ˊ тя	гос ^ˊ тѐй
造格	гос ^ˊ тем	гос ^ˊ тями
前置格	гос ^ˊ те	гос ^ˊ тях

AC型アクセントは生産力を持たず、より生産的なAA型あるいはBB型とのゆれを持つ場合が多い。

1. 4. 1 単音節語幹語

бог	神	
волк	狼	
вор	泥棒	
год	年	~ AB Cf. p. 86, 88, 94
гость	お客	
гром	雷	
гусь	がちょう	~ BC
дол	谷	~ AA
зверь	獣	
зуб	(動物の) 歯	Cf. p. 94

「物(鋸など)の歯」の複は зúбья зúбьев...でAA型

лом	かなてこ	～ A B 「くず物」は単数のみ
лось	ヘラジカ、オオジカ	～ A A
пол	自然性	「床」の意では A B
порт	港	～ A B Cf. p. 88
слог	音節	「文体、表現力」は A A
ток	脱穀場	Cf. p. 88 ～ A B 「流れ」は A A, 「鳥の発情場所」は A B
тон	音、音調	～ A A 「色調」は A B
флот	艦隊	～ A B
ход	歩き	
чёрт	悪魔	複 чёрти чертёй чертям...

1. 4. 2 二音節語幹語

во́лос	髪の毛 Cf. p. 82, 94	通例複のみ; 複数生格 во́лос
о́бруч	輪っか、たが	
о́вош	野菜 Cf. p. 82	通例複のみ
го́лубь	鳩	
ле́бедь	白鳥	
же́лудь	どんぐり	
кре́ндель	8形クッキー	～ A B ～ A A
о́муль	バイカル湖にいる魚	
о́кунь	魚の名、カワスズキ	
ле́карь	医者	
ко́зырь	ダンディー、トランプの切札	

出沒母音を伴うもの

ве́тер -тра	風	～ A A
сте́бель -бля	茎	～ A A
ка́мень -мня	石	
па́рень -рня	青年	

кóрень	-рня	根、根菜	
úголь	-гля ¹⁾	木炭	～ А А
кóготь	-гтя	(動物の) 爪	
но́готь	-гтя	(人間の) 爪	
ло́коть	-ктя	肘	
лапо́ть	-птя	わらじ	通例複数形で

1. 4. 3 三音節語幹語

госпита́ль	野戦病院	～ А А
------------	------	-------

1. 5 В А型アクセント

この非生産的アクセント型に属するのは本書の記載範囲では下記の13語のみである。複数主格の形に -ья, -и, -ята の3種がある。сапожо́к шено́к を除く全語が生産的なВВ型アクセントとのゆれを持つ。

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	主／生	主／生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例

	単数	複数
主格	ли́ст	ли́стья
生格	листа́	ли́стѡв
与格	листу́	ли́стям
対格	ли́ст	ли́стья
造格	листо́м	ли́стьями
前置格	листе́	ли́стьях

1) 「石炭」の意ではBC～BA～AA、但しBCは既に廃れつつある。

1. 5. 1 複数主格 -ья 複数生格 -ьев

複数で接尾辞 -j- を介する変化形式である。к に終わる語では к/ч の子音交替が生じる。詳細については p.16 の註を参照。

КЛОК	ひとふさ、一片	複	кло́чья -ьев ~ В В
СУК	大きな枝	複	су́чья -ьев ~ В В
КРЮК	先の曲がった金具	複	крю́чья -ьев 「掛け釘」の意では В В
КОЛ	杭	複	ко́лья -ьев Cf. p. 88 「成績の不可」は В В
ЛИСТ	葉	複	ли́стья -ьев 「～枚」の意では В В
ПРУТ	細い枝、むち	複	пру́тья -ьев 「細い軸」の意では В В
КОПЬЯ	木でできた支え	複	копья́ -ьев ~ В В
ЛОСКУТ	布の切れ端	複	лоску́тья -ьев ~ В В

1. 5. 2 複数主格 -и

これに該当するのは以下の4語のみである。これらは全て接尾辞 -ок- を持つ指小形であり、複数生格で語尾ゼロとなってその直前に出沒母音を生ずる。単数主格と複数生格を区別しているのがアクセントだけとなっている点も共通である。p.27 を参照のこと。

сапо́ <u>к</u>	сапог (長靴) の指小形	複	сапо́жки сапо́жек
глаз <u>к</u>	глаз (目) の指小形	複生	гла́зок В В 「のぞき穴」
зуб <u>к</u>	зуб (歯) の指小形	複生	зуб <u>к</u> В В 「採掘機の歯」
ро <u>к</u>	рог (つの) の指小形	複生	ро́жек В В 「ホルン」

1. 5. 3 複数主格 -ята

цыплёнок (цыпл-ён-ок ひよこ), медвежонок (медвеж-он-ок 熊の子) のように接尾辞 -ок- を持つ子どもを表す単語は、単数形では普通その前にアクセントを持つ接尾辞 -он-/-ён- を持ち、複数形ではその両方の接尾辞を取り去って新たな接尾辞 -ят- を加えるのを常則とする。複数生格では語尾ゼロとなる。従ってアクセントは常に語幹にあり、AA型に分類されるが、下記1語に限って単数で -он-/-ён- を持たず、アクセントはBA型となる。BB型のヴァリエーションもある。Cf. p. 26.

щенóк

子犬

複 щенята щенят щенятам...

1. 6 BC型アクセント

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	主/生	主/生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例

	単数	複数
主格	ко́нь	ко́ни
生格	ко́ня	ко́ней
与格	ко́ню	ко́ням
対格	ко́ня	ко́ней
造格	ко́нём	ко́нями
前置格	ко́не	ко́нях

гвоздь

釘

груздь¹⁾

茸の名前

1)但し諺の Назвался груздем, полезай в кузов. 「キノコと名乗ったからには籠に入れ」(乗りかかった船)に出て来るAC型アクセントは古い。

конь	馬	
уго́ль угля́	石炭	～ В А ～ А А
		「木炭」は А С ～ А А
червь	うじ虫	

BC型アクセントを持つ男性名詞は上記の5語だけである。「石炭」の意味での *уго́ль* は既にBC型を離れ、より多くの対象語を有し、生産性に富むBA型あるいはAA型に移行しつつある。

1. 7 0C

複数形しかない名詞 *де́ти* (子供たち) と *лю́ди* (人々) にだけ現れるアクセント型である。造格の特殊語尾 *-ьми́* は後述の *-ь* に終わる女性名詞にはかなり広くみられる (Cf. p.64) が、男性名詞ではこれだけである。実はこれら2語が男性名詞であるとする根拠は単数形の代用として 男性名詞の *ребёнок* と *челове́к* を用いることだけであって、語尾だけに着目するとこれらを *-ь* に終わる女性名詞としても矛盾は無かろうと思われる。5. pluralia tantum (p. 77f.) を参照のこと。

	複数
主格	—
生格	—
与格	—
対格	主/生
造格	—
前置格	—

	複数	複数
主格	де́ти	лю́ди
生格	детей	людей
与格	дétям	людя́м
対格	детей	людей
造格	детьми́	людьми́
前置格	дétях	людя́х

2. -a/-я に終わる女性名詞

-a/-я に終わる女性名詞は右表に記すアクセント型を有す。これらのうち絶対的多数を占めるのはAA型（語幹固定アクセント型）とBB型（語尾固定アクセント型）であって、その他の移動アクセント型は比較的少数である。しかし移動アクセント型の中には非常に使用頻度の高い名詞も多数含まれるため、この型に属す名詞を記憶する必要がある。

単\複	A	B	C
A	+	-	+
B	+	+	+
C	+	-	+

都合により、単数形しかない名詞 (singularia tantum) は扱わず、複数形しかない名詞 (pluralia tantum) は5. に記す。

このタイプの名詞が持つ移動アクセント型 (C型) は単複1種類ずつしかない。すなわち単数では対格のみが語幹アクセントを持ち、それ以外が語尾アクセントを持つパターン、複数では主格とそれに等しい対格が語幹アクセントを持ち、それ以外が語尾アクセントを持つパターンである。-a/-я に終わる女性名詞の移動アクセントは他の曲用タイプの名詞のそれに比べて安定性に乏しく、従ってゆれを有する場合がかなり多くなり記憶するのも容易ではない。しかし移動アクセントが崩れる方向もある程度判るので参考のために記しておくことにする。

単数に於ける移動アクセント型 (C型) は語尾固定アクセント型 (B型) に転じ易い。これは単数の対格以外で用いられる語尾アクセントが対格のみに出て来る語幹アクセントを駆逐したと考えられ、至極当然であろう。以下に記すCA型アクセント、CC型アクセントを持つ -a/-я に終わる女性名詞はそれぞれBA型、BC型に転じる場合が散見される。若干の例を記す。

CA型>BA型: верста́ изба́ река́ нора́ коса́ и т.д.

CC型>BC型: шека́ борозда́ полоса́ и т.д.

複数に於ける移動アクセント型 (C型) は語幹固定アクセント型 (A型) に転じ

る傾向を持つ。これは語幹アクセントを持つ複数主格及びそれに等しい対格が、使用頻度に於いて語尾にアクセントを有す複数の他の形態を凌駕するため、前者に用いられる語幹アクセントがアナロジーによって他の形態にまで拡張されたと考えられる。BC型アクセント、AC型アクセント、CC型アクセントを持つ該当の名詞がそれぞれBA型、AA型、CA型に転じることがある。

BC型>BA型: заря́ скоба́ грядá строка́ волна́ строфа́ блока́
копна́ серьга́ лука́ тропа́ и т.д.

AC型>AA型: рысь (ACは古)¹⁾

CC型>CA型: стена́ -(CCは古)

例えば《доска́》は本来CC型アクセントを持っていたと考えられるが、上記のCC型>BC型の変化を受け、さらにBC型>BA型のサーキュレーションに乗ったため、現在ではCC型とBA型のゆれを持つことになった。その他にも《волна́》、《блока́》なども本来はCC型に属していたらしいが、同様の経緯で上記のような現状に至っている。-a/-яに終わる女性名詞のCC型アクセントが崩壊して行って、結局はBA型アクセントに接近して行くことについての通時的アクセント研究については小生自身その詳細をつまびらかにしない。²⁾

1) рысь のAC型アクセントは「(馬の) だくあし、トロット」の意味でのフレーズ на рыся́х (だくあし・速足で) にのみ保存されており、その他の形態、及び「おやおやまねこ」の意味では完全にAA型アクセント化している。

2) 本来CC型及びBB型アクセントを持っていた -a/-я に終わる女性名詞は上記の過程の結果、だんだんにBA型アクセントへと移って行くことになるらしい。このようなロシア語の通時的アクセント研究の代表的なものには以下の3点がある。

Воронцова, В.Л. 1979. *Русское литературное ударение XVIII-XX вв.* Формы словоизменения. Москва.

Зализняк, А.А. 1985. *От праславянской акцентуации к русской.* Москва.

Колесов, В.В. 1972. *История русского ударения.* Именная акцентуация в древнерусском языке. Ленинград.

2. 1 AA型アクセント

	単数	複数
主格	´--	´--
生格	´--	´--
与格	´--	´--
対格	´--	主/生
造格	´--	´--
前置格	´--	´--

例	単数	複数
主格	кни́га	кни́ги
生格	кни́ги	кни́г
与格	кни́ге	кни́гам
対格	кни́гу	кни́ги
造格	кни́гой	кни́гами
前置格	кни́ге	кни́гах

Федянина の統計によると、-a/-я に終わる女性名詞11292語のうちAA形に属するのは全体の約95%を占める10700語である。例語は下記の出没母音に関するものに留める。

原則として語幹末に子音連続を持つ語は複数生格で語尾がゼロになると語幹末の子音連続の間に出没母音 o/e が挿入される。語幹の後ろから2番目の子音が軟子音 (ь の付いた子音、恒常的軟子音 и ч ш) や本来の軟子音 ж ш であれば e が挿入され¹⁾、そうでなければ o が挿入されるのを原則とするが、歴史的発達の結果、本来の軟子音が硬化してしまった場合などもあり、例外も若干存在する。

出没母音 e:

ло́жка

спу́н

複生 ло́жек

1)ただし ж ш の後に生じる出没母音アクセントを獲得すれば o となり、それ以外の場合でも軟子音にアクセントを持つ出没母音が続く、さらに硬子音が続くれば、その出没母音はやはり o となり、ë と綴られる。

бóчка	樽	複生 бóч <u>ек</u>
тóчка	点	複生 тóч <u>ек</u>
кóшка	猫	複生 кóш <u>ек</u>
пу́шка	大砲	複生 пу́ш <u>ек</u>
копéйка	コペイカ	複生 копé <u>ек</u>
ба́шня	タワー	複生 ба́ш <u>ен</u> ¹⁾
спáльня	寢室	複生 спáл <u>ен</u> 等
出沒母音 o :		
ска́зка	おとぎ話	複生 ска́з <u>ок</u>
рю́мка	ワイングラス	複生 рю́м <u>ок</u>
тарéлка	お皿	複生 тарéл <u>ок</u>
сосíска	フランクフルトソーゼ	複生 сосíс <u>ок</u>
перча́тка	手袋	複生 перча́т <u>ок</u>
кревéтка	小海老、シュリンプ	複生 кревéт <u>ок</u>
кúкла	人形	複生 кúк <u>ол</u>
свёкла	てんさい、ビーツ	複生 свёк <u>ол</u> 等
例外の例 :		
жа́бра	魚のえら	複生 жабер
ка́пля	水滴	複生 ка́п <u>ель</u> 等
出沒母音を伴わない例 (外来語が多い) :		
бóмба	爆弾	
бúква	文字	
лю́стра	シャンデリア	
нóрма	ノルマ	
пáльма	しゅろ (植物名)	
платфóрма	プラットホーム	
пóчва	土壌	
ты́ква	かぼちゃ 等	

1) 複数生格で語尾がゼロの時、語幹末の子音 н が硬化してしまっている。башня,

2. 2 BB型アクセント

	単数	複数
主格	--´	--´
生格	--´	--´
与格	--´	--´
対格	--´	主/生
造格	--´	--´
前置格	--´	--´

例	単数	複数
主格	статья́	статья́
生格	статья́	статья́
与格	статья́	статья́
対格	статья́	статья́
造格	статья́	статья́
前置格	статья́	статья́

軟変化の名詞では複数生格に語尾-ей があるが、硬変化に属す名詞の場合、複数生格の語尾はゼロとなるから語尾アクセントは不可能となり、語幹に仮アクセントが置かれる。原則として仮アクセントは語幹の最終音節に置かれる。

このアクセント型に属す名詞の数は Федянина によれば410語とAA形について2番目に多いが、それらの多くが東方諸民族の言語からの外来語であったり、教会スラブ語からの借用語であったりして、その使用頻度はかなり小さい。教育的見地からするとこのタイプの名詞では単数主格のアクセントが保持されることになり、網羅的に記載する必要もないので、例は少数に留める。

спальня の他にも чита́льня (閲覧室 AA 複生 чита́лен)、кури́льня (アヘン窟 AA 複生 кури́лен)、са́жень (約2.13m AC 複生 сажене́й ~ са́жен 3. 2参照) などがある。ロシア語にはこれら以外にも時に子音の硬化が見受けられ、興味深い研究テーマとなっている。

госпожа́	女性に対する敬称 (Ms., Mrs., Miss)
сатана́	サタン 男性名詞
стопа́	足のくるぶしから先 「～の山、東」はBA
тамада́	宴会の幹事
уха́	魚のスープ

複数生格で出沒母音を伴う語の例：

бадьа́	桶	複生 баде́й
кишка́	腸	複生 кишóк
кочерга́	火かき棒	複生 кочерéг
статья́	記事、論文	複生 статéй

単複を通じての固定アクセント型であるAA型とBB型のうちAA型はとても安定しており、他のアクセント型に転じることはまず無いが、それに反してBB型はかなり不安定で他のアクセント型（普通BA型）に移りやすい。

графá	欄	～BA
скамья́	ベンチ	～BA 複生 скаме́й
судьба́	運命	→BA (BBは古) 複生 сúdeб
глубина́	深み	→BA (BBは古) 複 глубины́
высота́	高度	→BA (BBは古) 複 высóты

後者3語の詳細については下記BA型の項目を参照のこと。上記 стопа́ もBA型化しつつあるとみなして差し支え無からう。

2.3 BA型アクセント

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	—́	主/生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例	単数	複数
主格	жена́	жёны
生格	жены́	жён
与格	жене́	жёнам
対格	жену́	жён
造格	жено́й	жёнами
前置格	жене́	жёнах

-a/-я に終わる女性名詞についてのBA型アクセントはかなり生産的である。元々CC型アクセントを持っていた-a/-я に終わる女性名詞が、単数ではB型に、複数ではA型に移行して行き、結果的にBA型アクセントを持つようになる事情については既に概略した。全く非生産的と言ってよいCC型アクセントは衰退の一途を辿り、より生産的アクセントタイプへと移行して行く。-a/-я に終わる女性名詞に関してAA型あるいはBB型アクセントを用いると単数生格と複数主格（及びそれに等しい複数対格）がアクセントを含めて全く同一になってしまい、両者の弁別が困難になることもあって、些か不都合であるが、BA型アクセントを持ちいればそのような不都合も解消する。この点からするとCC型アクセントが崩壊する際にAB型に転じる可能性もありそうなものだが、実際-a/-я に終わる女性名詞にはAB型アクセントは存在しない。単数に於けるC型アクセントとB型アクセントとは対格の強勢位置のみで異なるので、単数のC型が崩れる際にB型に転じるのも合点がゆく。一方複数に於けるC型アクセントは主格とそれに等しい対格でのみ語幹に、それ以外で語尾に強勢を持つため、常に語幹にアクセントを有するA型アクセント

とは大きく異なるが、C型が崩れる際には、最も使用頻度の高い主格の語幹アクセントを保持し、なおかつ単数生格と複数主格との弁別を可能にするA型アクセントがその後がまととして選択されるのも無理からぬことである。

以下のような女性名詞がBA型アクセントを有す：

арба́	荷馬車	
беда́	災い	
блоха́	蚤	～BC
вдова́	未亡人	
верста́	約1 km Cf. p. 95	複 ве́рсты ве́рст 元CC
вина́	罪	
война́	戦争	
волна́	波	～BC
глава́	章、頭 (かしら)	
гроза́	雷	
длина́	長さ	
доха́	両面毛皮のコート	
дрофа́	のがん (鳥の名)	
дуга́	アーク	
дыра́	割れ目	
жена́	妻、女	複 же́ны же́н...
звезда́	星、恒星	複 зве́зды зве́зд...
змея́	へび	
зола́	灰	
игра́	遊び	
изба́	百姓小屋	～CA
икра́	ふくらはぎ	「魚の卵」の意ではB∅
коза́	山羊	
колбаса́	サラミソーセージ	
коса́	おさげ、大鎌	～CA
крупа́	ひきわり	

лесá	釣り糸	~ A A 複 лесы лес...
лисá	きつね	
лозá	蔦	
лука́	湾曲部	~ B C
луна́	月	
нора́	巣穴	~ C A
нужда́	必要	
ольха́	はんのき (植物名)	
орда́	汗国	
осá	すずめばち	
пастила́	フルーツケーキ	
пила́	鋸 (のこぎり)	
плита́	レンジ	
пола́	すそ	
пчела́	蜂	複 пчёлы пчёл...
река́	川	~ C A
скала́	岩	
скорлупá	(卵などの) 殻	
скула́	頬骨	
слугá	下僕	
слюдá	雲母	
смола́	タール	
сноха́	息子の妻	
сова́	ふくろう	
софа́	ソファ	
соха́	(工具の) すき	
среда́	環境	「水曜日」は C C ~ C A
стопа́	~の山、東	"foot"の意では B B
страда́	農繁期	
странá	国	

стрекоза́	とんぼ	
стрела́	矢	
строка́	行	～BC
строфа́	スタンザ、詩の節	～BC
струна́	弦	
струя́	流れ	
толпа́	大群	
травá	草	
тропа́	小道	～BC
труба́	パイプ	
узда́	くつわ	
шкала́	ダイヤル	

次の1語に関しては語幹の a が複数の諸形態で o に交替する：

заря́	朝焼け	複 зóри зóрь 元CC ¹⁾
		「合図」はCA

以下の語は複数生格で出沒母音を生ずる：

игла́	針	複 и́глы и́г(о)л...
кирка́	つるはし	複 ки́рки киро́к...
блесна́	ルアー (魚釣りの)	複 блéсны блéсен блéснам
весна́	春	複 вéсны вéсен вéснам
ветла́	白柳	複 вéтлы вéтел вéтлам
десна́	歯茎	複 дéсны дéсен дéснам
метла́	ほうき	複 мéтлы мéтел мéтлам
овца́	羊	複 óвцы овéц óвцам

1)故佐々木秀夫教授、Булаховский 等によるとロシア本来の形は単数主格が зоря であって、複数の諸形態には本来の語幹の母音 o が保たれてはいるものの、単数の形ではアクセントが語尾にあったためアーカニエ (アクセントの無い o を a と同様に発音する方言) によって、зоря́ が [заря́] と発音され、ついには зоря́ と綴られるようになったようである。

свинья́	豚	複 сви́ньи сви́ней сви́ньям
семья́	家族	複 се́мьи семе́й се́мьям
сестра́	姉、妹	複 се́стры сесте́р се́страм
сосна́	松	複 со́сны со́сен со́снам
судьба́	運命	複 су́дьбы су́деб су́дьям
судья́	判事	複 су́дьи суде́й су́дьям
тюрьма́	牢屋	複 тю́рьмы тюрем тю́рьмам

以下のような接尾辞を持つ派生名詞（例）も V A 型アクセントを持つ：

-ина́

быстрина́	早瀬
ветчина́	ハム
вышина́	高さ
глубина́	深み
седина́	白髪
старшина́	長老

-ба́

стрельба́	射撃
-----------	----

-ота́

высота́	高度
длино́та	物理的長さ
долго́та	時間的長さ、経度
кислота́	酸
красота́	美、美人
мерзлота́	凍結
пустота́	空っぽなこと
сирота́	みなしご
тошнота́	吐き気
частота́	頻度
широта́	広さ

2. 4 BC型アクセント

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	—́	主/生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例

	単数	複数
主格	волна́	во́лны
生格	волны́	волн
与格	волне́	волна́м
対格	волну́	во́лны
造格	волно́й	волна́ми
前置格	волне́	волна́х

BC型アクセントはCC型あるいはBB型がBA型に転じる過程の途中で生じる過渡的アクセント型と考えられている。

以下のような語がこのタイプに属す：

блоха́	蚤	～BA
борозда́	(畑の)うね	～CC
вожжа́	手綱	複生 вожже́й
волна́	波	～BA
голова́	指導者	「頭」はCC
грядá	うね、列	～BA
губá	唇	
железа́	腺	複 желе́за желе́з желе́зам
межа́	境	
ноздря́	鼻の穴	
полосá	帯状の物、縞	～CC

просты́ня	シーツ	複 прѳстыни прѳстынь -ям
пя́та	かかと	
свечá	蠟燭	
скирдá	いなむら	
скоба́	取っ手、かすがい	～В А
сковорода́	フライパン	複 скѳвороды сковорѳд -ам
слезá	涙	複主 слѳзы
слобо́да	昔の自由農民の村	
соплá	鼻水	
строка́	行	～В А
строфа́	スタンザ、詩の節	～В А
шека́	頬	複主 щеки ～С С
шепа́	木片	

以下の語は複数生格に於いて出沒母音を生ずる：

копна́	干し草の山	複生 копѳн ～В А
серьга́	イヤリング	複生 серѳг ～В А

2. 5 CC型アクセント

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	—́	主／生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例

	単数	複数
主格	рука́	ру́ки
生格	руки́	рук
与格	руке́	рука́м
対格	ру́ку	ру́ки
造格	руко́й	рука́ми
前置格	руке́	рука́х

このタイプのアクセント型は全く非生産的であり、新しくロシア語に取り入れられた名詞がこのアクセント型を獲得することなど全く考えられない。以下に記すこのアクセント型の成員はどれも古くからの基礎的な語彙を成すと言ってよく、その使用頻度も高い。本来このアクセント型に属していた名詞は相当数に上ったものと想像されるが、残念ながらCC型は非常に不安定で、より簡略化されたアクセント型へと移って行く。既に述べたように単数のC型はB型に、複数のC型はA型に転じる傾向を持っていて、結局はBA型アクセント化すると考えられる。その途中の段階でBC型、あるいはCA型が過渡的変異体として生ずるのである。

гора́	山	Cf. p. 96
доска́	板	～BA 復生 досо́к
нога́	足	Cf. p. 96
пора́	時期	Cf. p. 96
рука́	手	Cf. p. 97
среда́	水曜日	「環境」はBA

щека́

頬

Cf. p. 97, 102

～ BC 単対 щеку́ 復 щеки щёк щекам

語幹が2音節以上の語でCC型アクセントを持つのは以下の6語のみである。これらは語幹が母音重挿構造である点でも共通している。単数対格、複数主格（及びそれに等しい複数対格）では語幹の中でも第1音節にアクセントが移動する。

борода́

顎髭

борозда́

(畑の) うね

～ BC

борона́

まぐわ、ハロー

полоса́

帯状の物、縞

～ BC

голова́

頭 Cf. p. 96

「指導者」は BC

сторона́

方向

Cf. p. 97, 102

2. 6 CA型アクセント

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	—́	主/生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例

	単数	複数
主格	вода́	во́ды
生格	воды́	вод
与格	воде́	во́дам
対格	во́ду	во́ды
造格	водо́й	во́дами
前置格	воде́	во́дах

CC型アクセントの項目で述べたように、このアクセント型はCC型がBA型へと転じる途中の過渡的の変異体と考えられる。現在CA型アクセントを持つのは以下

の語である：

водá	水		Cf. p. 95
душá	魂		Cf. p. 95
земля́	大地、地球	複生 земля́	Cf. p. 95
зима́	冬		Cf. p. 95
изба́	昔の百姓小屋	～BA	
косá	お下げ	～BA	Cf. p. 95
река́	川	～BA	Cf. p. 95
спина́	背中		Cf. p. 95
стена́	壁	～CC	
цена́	値段		

2. 7 AC型アクセント

	単数	複数
主格	´-	´-
生格	´-	´-
与格	´-	´-
対格	´-	主/生
造格	´-	´-
前置格	´-	´-

例

	単数	複数
主格	до́ля	до́ли
生格	до́ли	доле́й
与格	до́ле	доля́м
対格	до́лю	до́ли
造格	до́лей	доля́ми
前置格	до́ле	доля́х

CC型アクセントの項目で述べたように、このアクセント型はCC型がBA型へと転じる途中の過渡的変異体と考えられる。単数主格が-a/-яに終わる女性名詞で

AC型に属するのは以下の2語のみである。

дерёвня

田舎

復生 деревёнь

доля

割り当て

деревня は複数生格で語尾がゼロとなり、語幹末の子音連続の間に出没母音 *e* を生ずる。Аванесов(1983)によると、деревня の複数与格の形として деревням も載せられており、そこには「好ましくない」(не рекомендуется)の文体表示が付与されている。すなわちこの語はAA型アクセントに転じつつあると考えられる。

3. -ь に終わる女性名詞

-ь に終わる女性名詞は、2. に記した -a/-я に終わる女性名詞とは異なる曲用を持ち、その属すアクセント型も大きく異なるので、別個に扱うことにする。

-ь に終わる女性名詞は右表のようなアクセント型を持つ。

単\複	A	B	C
A	+	-	+
B	-	-	-
C	-	-	+

この曲用をする名詞の単数形に適應される移動アクセント（C型）のパターンは前記の-a/-я に終わる女性名詞に見られるそれと大きく異なる。-a/-я に終わる女性名詞の単数形に於ける移動アクセント型（C型）は下記のように対格でのみ語幹アクセントが実現し、その他の形態では語尾アクセントが適應されるというものであった。以下慣用に従って主格・生格・与格・対格・造格・前置格の順に記す。

-- -- -- -- -- --
 рука́ руки́ руке́ ру́ку рукойо́й руке́

一方 -ь に終わる女性名詞では単数に於ける移動アクセントは以下の例語のようになる：

глушь глуши́ глуши́ глушь глу́шью глуши́

このパターンに於いて生格・与格・前置格の形態では語尾に、造格では語幹にアクセントがあることは明白であるが、主格と対格では語幹にアクセントがあるとも言えるし、実はアクセントは語尾にあって、語尾が音節を成さないため、語幹アクセントと語尾アクセントの対立が中和して、仮アクセントが語幹に落ちるとも考えられる。どちらの解釈を行っても事実の説明に支障はないのだが、後者の解釈、すなわち造格にのみ語幹アクセントが適應されて、そのほかの形態は語尾アクセントを持つとする説明がかなり一般的である。筆者自身は両解釈のどちらがよいのか判別できないので一般的解釈に従うことにする。

これによって -ь に終わる女性名詞の単数に於ける移動アクセントのパターンは

下記のように表示されることになる。

ˊ ˊ ˊ ˊ ˊ ˊ
 глушь глуши́ глуши́ глушь глúшью глуши́
 (<глуш∅)¹⁾ (<глуш∅)

複数に於ける移動アクセントは他の曲用と共通で、主格及びそれに等しい対格で語幹に、それ以外の形態で語尾にアクセントを持つ型である。

3. 1 AA型アクセント

	単数	複数
主格	ˊ	ˊ
生格	ˊ	ˊ
与格	ˊ	ˊ
対格	ˊ	主/生
造格	ˊ	ˊ
前置格	ˊ	ˊ

例

	単数	複数
主格	ладóнь	ладóни
生格	ладóни	ладóней
与格	ладóни	ладóням
対格	ладóнь	ладóни
造格	ладóнью	ладóнями
前置格	ладóни	ладóнях

-ь に終わる女性名詞についても単複にわたって語幹に固定したアクセントを有するAA型が支配的であって、Федянина の調査によるとこのタイプの女性名詞全語(3180語)のうち98%近い3100語がこのアクセント型に属す。加えてこのアクセントタイプに属す -ь に終わる女性名詞は出沒母音を持つこともない。従って例語を記す必要もなからう。特別なアクセントについては p. 89 以降を参照。

1) ж ч ш щ の後に書かれた ь は単なる性のマーカ―で、発音には関与しない。

3. 2 AC型アクセント

	単数	複数
主格	い	い
生格	い	い
与格	い	い
対格	い	主/生
造格	い	い
前置格	い	い

例

	単数	複数
主格	ночь	но́чи
生格	но́чи	ночѐй
与格	но́чи	ноча́м
対格	ночь	но́чи
造格	но́чью	ноча́ми
前置格	но́чи	ноча́х

このパターンには以下の語が属す。使用頻度の比較的低い語はより生産的なAA型に転じる傾向を持つ。CC型とのゆれを持つ語も散見され、不可思議だがどうもこれらは比較的稳定しているAC型から風前の灯火のような存在のCC型に転じる傾向を持っているようである。

- | | | |
|-----------|-----------|----------------------|
| бровь | 眉毛 | Cf. p. 89 |
| ведомость | リスト | |
| весть | 知らせ | Cf. p. 97 |
| ветвь | 枝 | |
| вещь | 物、事 | |
| власть | 権力 | |
| во́лость | 領地 | |
| горсть | 物を受け取る手の形 | |
| гроздь | (ぶどうなどの)房 | ~AA (複 гроздьа -ьев) |
| грудь | 胸 | →CC Cf. p. 89 |

дверь	ドア	Cf. p. 89
дóлжность	役職、ポスト	
дробь	分数、散弾	
жердь	長い竿	
зыбь	さざなみ	
клеть	物置	Cf. p. 89
кость	骨	Cf. p. 89
крéпость	要塞	
кровь	血	Cf. p. 89
лопáсть	シャベルの先端	～A A
лóшадь	馬	
масть	トランプのカードの種類 (すなわちハート、スペード、クラブ、ダイヤ)	
мéлочь	小銭	
мышь	ねずみ	
нóвость	ニュース	
ночь	夜	Cf. p. 89, 97
óбласть	地方、州	
ось	軸	Cf. p. 89 ～C C
печь	ストーブ	Cf. p. 89 ～C C
плеть	むち	
плóскость	平面	「月並みな表現」はA A
плóщадь	広場	
пóвесть	中編小説	
пóдать	年貢	～A A
пóлость	腔、膝がけ	
пристань	栈橋	～A A
пропáсть	断崖	
пядь	長さの単位、指尺	～A A
речь	ことば、演説	

роль	役割	
са́жень	長さの単位、2.13m	複 са́жени са́жен~саженéй (~сажéнь A A)
сельдь	(魚の)にしん	
сеть	網	Cf. p. 89
скáткрть	テーブルクロス	
скорбь	悲哀	
скóрость	スピード	
сласть	お菓子	
смерть	死	Cf. p. 97
снасть	用具一式	
соль	塩	
стéпень	程度	
степь	ステップ、草原	Cf. p. 89 ~CC
стéрлядь	ちょうざめ	
страсть	情熱	
ступéнь	段階、クラス	「階段の段」の意ではA A
тень	影	Cf. p. 89
треть	三分の一	
трость	ステッキ	
цепь	鎖	Cf. p. 89
часть	部分	
чéтверть	四分の一	
шерсть	ウール	
щёлочь	アルカリ	
щель	割れ目	Cf. p. 89

次の2語のみ斜格で語幹が交替する：

дочь	娘	単主・対以外の語幹 дочер-
мать	母親	単主・対以外の語幹 матер-

出沒母音を持つのは下記の1語のみである：

цѣрковь 教会¹⁾

上記の語のうち複数造格で -я́ми に加えて特別な語尾 -ми́ を持つものが5語だけある。すなわち дверь дочь ко́сть ло́шадь плеть であるが、これらのうち -я́ми と -ьми́ が併用されるのは дверь дочь ло́шадь のみで、ко́сть と плеть についてはアナロジーによって一般的な -я́ми が支配的になっており、лечь ко́стьми́ (屍をさらす)、бить плетью́ми́ (鞭打つ) のようなイディオムにのみ古い -ми́ が保存されている。複数形しかない名詞の лю́ди де́ти にも複数造格で -ьми́ が現れるが、これらは使用頻度の差であろうか -я́ми に終わる異形態を持たない。

3. 3 CC型アクセント

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	—́	主/生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例	単数	複数
主格	грудь	гру́ди
生格	грудí	грудéй
与格	грудí	грудя́м
対格	грудь	гру́ди
造格	гру́дью	грудя́ми
前置格	грудí	грудя́х

1) 単数主格・対格・造格以外の語幹は церкв' - であるが、複数与格・造格・前置格では語幹末の子音が硬化するバリエントもある：церкв́ям～церкв́ам и т.д.

3の冒頭に記したようにこのアクセント型の単数では造格のみに語幹アクセントがあり、それ以外の形態には語尾アクセントが用いられていて主格と対格が語幹に持っているアクセントは仮アクセントであるというのが一般的見解である。

真の意味でCC型アクセントを持つのは以下の3語である。これらはAC型から徐々にCC型化してきている。Ушаковではこれらは何れもAC型とされており、Аванесов, Ожегов(1960)では後者2語は相変わらずAC型とされているが、грудьについてはAC型とCC型が併記され、Аванесов(1983)では後者2語はAC型～AA型、грудьをCC型として、AC型は古いとみなされている。

грудь	胸	←AC
ось	軸	～AC
степь	ステップ	～AC

以下の4語は単数形でC型アクセントを持ち、複数形は用いられにくい。従ってこれらは事実上C∅型アクセントを持っているとも言いうる。ложь, любовь, рожьは単数主格・対格・造格以外で出沒母音oを失う。

глушь	僻地	单造 гл <u>у</u> шью
л <u>о</u> жь	嘘	单造 л <u>о</u> жью
лю <u>б</u> о <u>в</u> ь ¹⁾	愛	单造 лю <u>б</u> о <u>в</u> ью
ро <u>ж</u> ь	ライ麦	单造 ро <u>ж</u> ью

下記の1語は上記4語と同様の変化をするが、複数形が多用される点が異なっている。複数形では出沒母音oが失われるため語幹が音節を成さなくなって、仮アクセントの適応により、複数形のアクセント型はA、B、Cの何れとも呼ぶことができるが、ここではパターン数の削減のためCC型アクセントを持つとみなしておく。

во <u>ш</u> ь	しらみ	单造 во <u>ш</u> ью
---------------	-----	-------------------

1)固有名詞としての Любовьは出沒母音を伴わず、アクセントはAA型となる。

4. 中性名詞

現代ロシア語の中性名詞は右表に記すアクセント型を有す。

複数形しかない名詞については後にまとめて記すことにする。

中性名詞の移動アクセント型は単数形には存在せず、複数形に限られる。複数形に現れる移動アクセントのパターンは男性名詞・女性名詞にも見られるそれと同様で、複数主格とそれに等しい対

単\複	A	B	C
A	+	+	+
B	+	+	+
C	-	-	-

格で語幹にアクセントを持ち、複数のそれ以外の形態で語尾にアクセントを有する型である。しかしながら中性名詞で移動アクセントを持つ語はAC型に2語、BC型に3語と極端に少なく、その存在は風前の灯火と言ってよい。

中性名詞でより注目すべきなのは、単数形と複数形のコントラストを生ぜしめるAB型とBA型アクセントである。中性名詞については、ごく少数の例外を除き、単数生格と複数主格（及びそれに等しい対格）の segmental なレベルでの音形が一致しており、単複を通じての固定アクセント型であるAA型、あるいはBB型を持つ語については両者の音形は suprasegmental なレベルに於いても同一となるので、両者の区別にはコンテクストを考慮しなければならなくなる。このような不都合を解消するのが単複のどちらか一方で語幹固定アクセント（A型）を用い、残り語尾固定アクセント（B型）を用いるAB型及びBA型アクセントであって、これらを用いることによって単数生格・複数主格（対格）両者の弁別が為されることになる。

中性名詞には曲用型の観点から、単数主格が -o/-e に終わるものと、-мя に終わるものを区別できるが、アクセントの観点からは両者を区別する必要もない。

4. 1 AA型アクセント

	単数	複数
主格	˘˘	˘˘
生格	˘˘	˘˘
与格	˘˘	˘˘
対格	˘˘	主/生
造格	˘˘	˘˘
前置格	˘˘	˘˘

例

	単数	複数
主格	п ^а в ^и л ^о	п ^а в ^и л ^а
生格	п ^а в ^и л ^а	п ^а в ^и л
与格	п ^а в ^и л ^у	п ^а в ^и л ^а м
対格	п ^а в ^и л ^о	п ^а в ^и л ^а
造格	п ^а в ^и л ^о м	п ^а в ^и л ^а ми
前置格	п ^а в ^и л ^е	п ^а в ^и л ^а х

他のタイプの名詞についてと同様に中性名詞についてもAA型は最も生産的アクセントタイプである。Федянинаの計算だと中性名詞全語5138語のうちAA型アクセントを持つのは4900語であって、そのシェアは実に95%強を占める。その他ほぼ無限に作られる -ие に終わる動作名詞などの派生名詞もほとんど例外なくこのアクセント型に属す。AA型アクセントを有する中性名詞の曲用及びアクセント上の特異性について注意すべきことは以下の2点のみである。

ほとんどの中性名詞は複数生格で語尾がゼロとなるため、語幹末に子音結合を持つ語については語幹末の子音結合の間に出没母音 o あるいは e を生ずることがある。他の場合と同様に、語幹末の子音結合の後ろから2番目の子音が軟子音、もしくは本来の軟子音であれば、出没母音には e が選択され、硬子音であれば o が選択されるのを一般則とするが、歴史的発達の結果元来の軟子音が硬化してしまった場合などもあり、例外も存在する。若干の例のみを記す：

блю ^д ц ^е	ソーサー	複生 блю ^д ц ^а
кр ^э сл ^о	安楽椅子	複生 кр ^э сл ^а

полотѐнце	タオル	複生 полотѐн <u>ц</u>
сúдно	おまる	複生 сúд <u>н</u> 「船」はA B

以下の3語については例外的に語幹の中でアクセントの移動がある。語幹の内部でアクセントの移動のある名詞は男性・女性・中性を通じて筆者の知る限り以下の3語のみである。

дѐрево	木	複 дерѐв <u>ь</u> я дерѐв <u>ь</u> ев...
знáмя	旗	複 знамѐн <u>а</u> знамѐн...
		A B参照
óзеро	湖	複 озѐр <u>а</u> озѐр озѐр <u>ам</u> ...

原則としてA A型アクセントを有する中性名詞 úтро は前置詞との結合等に於いて、以下のような語尾アクセントを持つ：до утрá, от утрá, с утрá, к утрú, по утрáм; восемь часов утрá и т.д.

4. 2 B B型アクセント

	単数	複数
主格	--´	--´
生格	--´	--´
与格	--´	--´
対格	--´	主/生
造格	--´	--´
前置格	--´	--´

例	単数	複数
主格	очкó	очки́
生格	очкá	очкóв
与格	очкú	очкáм
対格	очкó	очки́
造格	очкóм	очкáми
前置格	очкѐ	очкáх

Федянина の統計だと130語がこのアクセント型を有すことになっており、従ってBB型はAA型に次いで多くの対象語を有するアクセント型ということになるが、実際にはその中で非派生名詞は上記のパラダイムに記した1語のみであって、その他は接尾辞を持つ派生名詞である。尚且つそれらの派生名詞の中でも使用頻度の高いのは接尾辞 -ство を持つものぐらいで、BB型アクセントに属すその他の接尾辞を持った中性名詞が基本語の中に見いだされることは希である。複数生格で語尾がゼロとなる語については同形態に於いて仮アクセントが語幹に落ちることになる。

非派生語：

очкó (ゲームの) 得点 複 очки очкóв очкám
(<óко AC)

派生語 (例)：

-ствó

большинствó 多数派
волшебствó 魔法
колдовствó 魔法
мастерствó 技術、奥義
рождествó クリスマス
торжествó 祝典、祭典

-ьё

питьё 飲物 複まれ

-кó

ушкó (針の) めど 複 ушкí ушкóв
(<úхо AC) 「耳」の指小形はAA~BA

-цó

деревцó 木 ~деревце AB
(<дéрево AA) 複生 деревéц

4.3 BAアクセント

	単数	複数
主格	—́	—́
生格	—́	—́
与格	—́	—́
対格	—́	主/生
造格	—́	—́
前置格	—́	—́

例

	単数	複数
主格	лицо́	лица́
生格	лица́	лиц
与格	лицу́	лицам
対格	лицо́	лица́
造格	лицо́м	лицами
前置格	лице́	лицах

初めに語幹が1音節でこの型のアクセントを持つものをあげておく。語幹内の e はアクセントを受けるとほとんどの場合 ë に転じる。特殊な変化を行うもの、出沒母音を生ずるもの、語幹が2音節以上のものについては後述する。

бельмо́	白内症	複生 бельм
вино́	ワイン	
гнездо́	巣	複 гнезда
жерло́	穴、噴火口	複 жёрла～俗語 жёрла
клеймо́	烙印	
лицо́	顔	
перо́	羽	
руно́	羊毛	
сверло́	ドリル	複 свёрла
село́	周辺の中心たる村	複 сёла
чело́	額	複 чёла

яйцо́	卵	複生 яи <u>ц</u> 1)
яро́	くびき	

以下の4語は複数でいわば男性タイプの変化を行う：

дно́	底	複 до́нья до́ньев
жнивье́	刈り取った後の畑	複 жни́вья жни́ьев
звено́	輪	複 зве́нья зве́ньев
крыло́	翼	複 кры́лья кры́льев

以下の語は複数生格で出沒母音 e を生ずる：

бедро́	太股	複 бе́дра бе́дер бе́драм
бревно́	丸太	複 бре́вна бре́вен бре́внам
ведро́	バケツ	複 ве́дра ве́дер ве́драм
весло́	(ボートの) オール	複 ве́сла ве́сел ве́слам
гумно́	穀物小屋	複生 гу́мен～гу́мен
ду́пло	空洞	複生 ду́пел
зерно́	穀物、粒	複 зе́рна зе́рен зе́рнам
кольцо́	輪、指輪	複生 коле́ц
письмо́	手紙	複生 пи́сем
пятно́	斑点	複生 пя́тен
ребро́	肋骨	複 ре́бра ре́бер ре́брам
ружье́	鉄砲	複生 ру́жей
седло́	鞍、サドル	複 се́дла се́дел се́длам
сопло́	ノズル	複生 со́п(е)л
ушко́	耳	～ушко́ А А
	(<у́хо А С)	複 у́шки у́шек у́шкам

1) яйцо の複数生格 яиц では音節を成さない я が音節を形成する и に交替し、且つアクセントが語幹末音節に移っていると解釈できる。複数生格でアクセントが語幹の最終音節に移動するパターンは男性・女性には頻繁にみられるが、中性名詞では希である。後述する гумно́ は複数生格で語幹の最終音節にアクセントを移動する形と他の形態のアクセントを保持する形とのゆれ (т.е. гу́мен～гу́мен) を持つ。

「針のめど」はBB

числ ^о	数	複生 чисел
ядр ^о	核	複生 ядер

以下の語は複数生格で出沒母音 o を生ずる：

волоkn ^о	纖維	複 волókна -лókн -лókнам
окн ^о	窓	複生 óкн
стекл ^о	ガラス	複 стéкла стéкол стéклам
сукн ^о	羅紗 (ラシャ)	複生 сýкн

以下の語は複数生格が特殊である：

копьё	槍 (やり)	複 кóпья кóпий кóпьям
-------	--------	----------------------

語幹が2音節以上でこのタイプのアクセントを持つのは以下のものだけである：

веретен ^о	紡錘	複 веретёна -тён -тёнам
долот ^о	のみ (工具)	複主 долóта
меньшинств ^о	少数派	複主 меньшинства
решет ^о	ふるい	複主 решёта

出沒母音を持つもの：

полотн ^о	麻布、キャンバス	複 полóтна -лóтен -лóтнам
ремесл ^о	マニユファクチャー	複 ремёсла -мёсел -мёслам

4. 4 AB型アクセント

	単数	複数
主格	´-	-´
生格	´-	-´
与格	´-	-´
対格	´-	主/生
造格	´-	-´
前置格	´-	-´

例

	単数	複数
主格	сло́во	слова́
生格	слова́	слов
与格	сло́ву	слова́м
対格	сло́во	слова́
造格	сло́вом	слова́ми
前置格	сло́ве	слова́х

以下の中性名詞がAB型アクセントを持つ。特殊な場合については後述する。

во́йско	軍隊	普通複数形で
де́ло	こと	
зе́ркало	鏡	
кру́жево	(編物の) レース	普通複数形で
ме́сто	場所	
мо́ре	海	Cf. p. 98
мы́ло	石鹸	複数形は種類について
о́блако	雲	
по́ле	野原	Cf. p. 98
пра́во	権利	
сло́во	言葉、語	Cf. p. 99
ста́до	群れ	
те́ло	体	

以下の3語には複数生格で語幹末の子音結合の間に出没母音が生ずる。дере́вцеの複数生格には男性型の語尾を持つ異形態 дере́вцо́в も存在する。

дере́вце	木 (<дере́во)	～ дере́вцо́ В В 複生 дере́вцец
ма́сло	油、バター	複生 ма́сл
се́рдце	心、心臓 Cf. p. 98	複生 се́рдцец

次の1語については複数形で語幹が交替する：

су́дно	船	複 суда́ судо́в суда́м 「おまる」は A A
--------	---	-------------------------------------

以下の2語は古い es 語幹名詞で、複数形で語幹末に接尾辞 -ес- を挿入する：

не́бо	空 Cf. p. 98	複 небеса́ небес небеса́м
чу́до	奇跡	複 чудеса́ чудес чудеса́м ¹⁾

下記の9語は単数主格が -мя に終わる特殊且つ非生産的中性名詞であり、その語形変化は原則として右図の例のようになる。下に記した9語の他に -мя に終わる中性名詞には зна́мя (旗) があるが、これは複数形でアクセントを語幹の第2音節に持ち、従って A A 型アクセントに属す。上記 A A 型アクセントの項目を参照の事。

стре́мя, се́мя の2語は右図と異なり、複数生格の形がそれぞれ стре́мян, се́мян となる点が特殊である。

вы́мя は複数形を持たず、бре́мя, пла́мя, те́мя の複数形も希にしか用いられない。従ってこれら4語は A∅ 型アクセントを持つといっても構わないと思う。

	単数	複数
主格	и́мя	име́на
生格	и́мени	имён
与格	и́мени	име́нам
対格	и́мя	име́на
造格	и́менем	име́нами
前置格	и́мени	име́нах

1)かつては単数の主格と対格以外の全ての形態に於いて同接尾辞が用いられ、これら2語以外にも ди́во, де́ло, ко́ло, о́ко, те́ло, у́хо 等がこれらと同じように語形

бре́мя	重荷	複数形まれ
вре́мя	時、時間	
вы́мя	(動物の) 乳房	複数形なし
и́мя	名	
пла́мя	炎	複数形まれ
пле́мя	種族	
се́мя	種	複 семенá семя́н семенáм
стре́мя	鏡 (あぶみ)	複 стремена́ -мя́н -мена́м
те́мя	頭頂部	複数形まれ

4. 5 BC型アクセント

	単数	複数
主格	--´	´--
生格	--´	--´
与格	--´	--´
対格	--´	主/生
造格	--´	--´
前置格	--´	--´

例

	単数	複数
主格	плечó	плéчи
生格	плеча́	плеч
与格	плечу́	плеча́м
対格	плечó	плéчи
造格	плечóм	плеча́ми
前置格	плече́	плеча́х

変化していた。その名残は колёсный, телёсный のような形容詞形や、新たに語幹を統一して作られた колесó 等に見られる。ちなみに не́бо, чу́до の形容詞形も同接尾辞を含み、それぞれ небёсный, чудёсный となる。

現代ロシア語の中性名詞でBC型アクセントを持つのは以下の3語のみである。

крыльцо の複数生格では出沒母音が生じる。

крыльцо́	昇降口	複生	крылѐц
плечо́	肩	Cf. p. 99	複 плѐчи плеч плечáм
тавро́	焼印	複生	тавр

4. 6 AC

	単数	複数
主格	í--	í--
生格	í--	--í
与格	í--	--í
対格	í--	主/生
造格	í--	--í
前置格	í--	--í

例	単数	複数
主格	úxo	úши
生格	úxa	ушѐй
与格	úxu	ушáм
対格	úxo	úши
造格	úxom	ушáми
前置格	úxe	ушáх

AC型アクセントを持つ中性名詞は以下の2語のみである。¹⁾

óko	目	複	óчи
úxo	耳	Cf. p. 98	複 úши

1) 両者とも複数の諸形態に於いて第1パラタリゼーションと呼ばれる子音交替（巻頭参照）を伴う。これらの2語及び上記BC型アクセントに属す плечо́ の複数主格には例外的に語尾 и が用いられるが、これは古代ロシア語にあった双数形（2つを表すときに使われた文法的形式）の名残である。

5. pluralia tantum

複数形しかない名詞を pluralia tantum と呼ぶ。主格で語幹にアクセントがあればパラダイムの成員全部が語幹に固定したアクセント（A型）を持ち、主格で語尾にアクセントを持つ語は斜格でも語尾に固定したアクセント（B型）を持つのを原則とするが、5. 3に記す名詞は移動アクセント（C型）を持ち、主格とそれに等しい対格では語幹アクセントを、その他の形態では語尾アクセントを持つ。このような名詞のアクセントのルールを作るには、実際はC型アクセントの成員を示すだけでよいのだが、教育的見地からA型アクセントあるいはB型アクセントを持つ代表的な語をも記載しておく。

ロシア語の名詞複数形には性の対立がない。しかし語尾に着目すると、主格では男性または女性名詞に一般的な -ы/-и と中性名詞に一般的な -а/-я の2種類があり、生格の語尾には男性を想起させる -ов（希に -ев も）、女性あるいは中性を連想させる -∅ があり、潜在的には両者の区別があるとも考えられる。語幹が軟子音に終わる pluralia tantum の生格はこれまでに記した一般の名詞の場合と同様に原則として -ей となる。複数生格で語尾 -∅ が選択される場合、語幹末の子音結合の間に出没母音が生ずる可能性があることについても前述の一般の名詞についてと同様である。

pluralia tantum の定義については若干問題があるが、ここでは以下の2種類を除外することにした：

- 1) 対応する単数形が存在するが、普通はペアで用いられたりして複数形が常用される語

носо́к (靴下 男 ВВ) чуло́к (ストッキング 男 ВВ) перча́тка (手袋 男 АА 複生 перча́ток) рукови́ца (革のミトン 女 АА) ва́режка (ミトン 女 АА 複生 ва́режек) боти́нок (くるぶしまでの靴 男 АА 複生 боти́нок) ту́фля (単靴 女 АА 複生 ту́фель) та́почка (スリッパ 女 АА 複生 та́почек) сапоги́ (ブーツ 男 ВВ) ба́шмак (婦人・子供用編み上げ靴 男 ВВ) кроссо́вка (スニーカー 女 АА 複生 кроссо́вок) мозг (頭脳 男 АВ) во́лос (髪 男 АС 複生 волос) 等

- 2) 形態的に対応する単数形は存在しないが、他の語の単数形を代用に用いる

こと（補充法）によって単数形が補われている語

люди（人々 男 ØC） дети（子供たち 男 ØC）

1)についてはそれぞれ該当の箇所を、2)については1. 7（p.41）を参照のこと。

5. 1 A型アクセント

5. 1. 1 複数生格 -ов

анна́лы	年代記	
всхо́ды	新芽	
выбо́ры	選挙	
деба́ты	討論、ディベート	
доспе́хи	かっちゅう	
за́морозки	霜	
ка́дры	職業軍人	
консе́рвы	缶詰	
коре́нья	根菜	
кривото́лки	曲解	
кура́нты	時計台の時計	
лохмо́тья	ぼろ	復生 лохмо́тьев
обои́	壁紙	復生 обо́ев
обье́дки	食べ残し	
оста́нки	遺体	
очи́стки	くず	
перегово́ры	交渉	
пересу́ды	ゴシップ	
плоскогу́бцы	平ペンチ	復生 плоскогу́бцев
побо́и	殴打	復生 побо́ев
подмо́стки	檀	
пожи́тки	家財道具	
по́иски	探求	

прóводы	送別(会)
прóиски	陰謀
развóды	模様
рóды	出産
сóты	蜂の巣
счёты	そろばん
тóлки	噂
финáнсы	財政
хло́пья	小片、シリアル(コーンフレークの類)
хо́ры	2階席

5. 1. 2 複数生格 -ей

бúдни	平日	
гра́бли	まぐわ	復生 гра́блей ~ гра́бель
грязи	泥水	
де́бри	密林	
джунгли	ジャングル	
дрóвни	荷ぞり	
качели	ブランコ	
ко́пи	坑道	

5. 1. 3 複数生格 -Ø

брюки	ズボン	
бúсы	ネックレス	
ви́лы	熊手	
ворóта	門	
гра́бли	まぐわ	復生 гра́бель ~ гра́блей
девча́та	女の子たち	
дети́шки	子供 (< де́ти)	復生 дети́шек
жму́рки	鬼ごっこ	復生 жму́рок

каникулы	(学校の) 休暇	
козлы	御者台	復生 коз <u>ел</u>
колготки	タイツ、パンスト	復生 колг <u>о</u> ток
колики	腹痛	
мириады	無数	
недра	地下	
ножницы	はさみ	
ножны	(刀の) さや	復生 но <u>ж</u> ен ← В
носилки	担架	復生 нос <u>ил</u> ок
опилки	おがくず	復生 оп <u>ил</u> ок
перила	手すり	
пики	スペード	
прения	討議	復生 пр <u>е</u> ний
пяльцы	刺繍用のわく	復生 п <u>я</u> лец
ребята	若者たち	
ребятишки	子供たち	復生 реб <u>ят</u> ишек
румяна	頬紅	
санки	そり	復生 са <u>н</u> ок
сливки	クリーム	復生 сли <u>в</u> ок
сумерки	たそがれ	復生 су <u>ме</u> рек
сутки	一昼夜	復生 су <u>т</u> ок
трефы	クラブ、三つ葉	
хлопоты	心配、奔走	復生 хлоп <u>о</u> т
чернила	インク	
шахматы	チェス	
шашки	チェッカー	復生 ша <u>ш</u> ек

5. 2 B型アクセント

5. 2. 1 複数生格 -ов

бегá	競馬
весы́	はかり
городки́	棒投げ遊び
духи́	香水
кандалы́	手かせ、足かせ
квасцы́	みょうばん
лесá	足場
мостки́	踏み板
нелáды	もめごと
ноготки́	きんせんか
очки́	眼鏡
тиски́	圧搾機
трусы́	パンツ
часы́	時計
штаны́	ズボン
шипы́	ペンチ

5. 2. 2 複数生格 -ей

клеши́	やっこ	～ клеши́ С
щи́	野菜スープ	

5. 2. 3 複数生格 -∅

голубцы́	ロールキャベツ	復生 голуб <u>е</u> ц
дрова́	薪	
ножны́	(刀の) さや	復生 нож <u>о</u> н → ножны́ А
письмена́	古代の文字	復生 пись <u>м</u> ён
уста́	口	

p. 25 に記した голубѐц (複主 голубцы́) も普通 pluralia tantum に扱われるので再録しておいた。

5. 3 C型アクセント

5. 3. 1 複数生格 -ей

下記の語のうち óвоши には単数形 óвош も存在する。p. 37 を参照。

дрóжки	イースト菌	
клéщи	やっそこ	～ клещи́ B
кúдри	巻き毛	
мóщи	遺骸	
óвоши	野菜	
пóмочи	サスペンダー	
са́ни	そり	
се́ни	玄関の間	
слю́ни	よだれ	
чёрви	トランプのハート	～ червы́ A

本来ならば p. 41 に記した дѐти と лю́ди もここに属することになるが、そのアクセント型は前述のように一般的なC型とは異なる。

5. 3. 2 複数生格 -∅

下記の語のうち волосы には単数形 волос が存在する。p. 37 を参照。

бу́бны	トランプのダイヤ	複生 бубѐн ～A
во́лосы	髪	複生 волóс
де́ньги	お金	複生 де́нег
по́хороны	葬式	

6. その他の注意すべきアクセント

6. 1 第2前置格

一連の名詞は前置詞 в/на に後続するとき、一般の前置格とは異なる形態を持つことがある。例えば ад (地獄) という名詞は前置詞 в の後で前置格に立つとき、адú という形態を取り、通常の前置格の語尾 -е を持たないが、その他の前置詞の後では通常の語尾が用いられ、об áде のようになる。この特殊な前置格を第2前置格 (あるいは所格、位格) と呼ぶことにする。

第2前置格は男性名詞と、単数主格が -ь に終わる女性名詞のみに見られ、その語尾は男性名詞では -ú または -ю であり、-ь に終わる女性名詞では -й である。第2前置格は常に語尾にアクセントを持っている。対象となる名詞はAA型、BB型、AB型、AC型、BC型アクセントを持つ男性名詞と、AA, AC型アクセントを持つ -ь に終わる女性名詞だけである。

このような第2前置格の形はほとんど生産力を持たず、正則的な前置格にとって代わられる傾向があるため、通常の前置格と第2前置格とのゆれを持つ語がかなりの数に上る。このようなゆれを持つ場合、及びイディオマティックなフレーズや紛らわしい場合の意味については一番右側の欄に記しておく。

6. 1. 1 男性名詞

6. 1. 1. 1 AA型アクセント

ад	地獄	в адú	
аэропорт	空港	в аэропорту́	
бред	うわごと	в бреду́	熱にうなされて
быт	生活様式	в быту́	
вѐтер	風	на ветру́	風を受けて
вид	視界、外観	быть на виду́	注目の的だ
		в виду́	念頭に
		иметь в виду́	考慮する

		Ср. в виде	～の形で
ВОЛЬТ	(馬術の) 急回転	на вольту́	
газ	ガス	на газу́	～ газе ガスレンジで
гной	膿	в гною́	
жар	熱	в жару́ на жару́	体温が高い等 火の上に等
клей	糊	в/на клею́	～ кле́е
лёт	飛行	на лету́	飛行中に
мел	チヨーク	в/на мелу́	
мол	防波堤	на молу́	
мыс	岬	на мысу́	～ мысе
пах	太股の付け根	в/на паху́	
плац	練兵場	на плацу́	
плен	捕虜	в плену́	
повод	手綱	в/на поводу́ у кого на поводу́	尻に敷かれて
пух	羽毛、ダウン	в/на пуху́ одеяло на пуху́	羽布団
пыл	憤激	в пылу́	
рай	天国	в раю́	
рант	靴の底と甲をつなぐ細い革	в/на ранту́	
свет	光	на свету́	明るい所で ～に照らして
сок	ジュース	в/на соку́	
тиф	チフス	в тифу́	～ тифе
торг	売買	на торгу́	
хмель	ホップ (植物)	во хмелю́	酔って
чад	燃焼によるガス	в чаду́	もうろうと

6. 1. 1. 2 B B型アクセント

горб	こぶ	в/на горбу́	
крюк	掛け釘	на крюку́	～ крюке
лёд	氷	во/на льду́	
лоб	額	во/на лбу́	
мох	苔	во/на мху́	～ мхе ～ мохе А А
плот	いかだ	на плоту́	
полк	連隊	в полку́	
пост	精進	в посту́	
	監視所、ポスト	на посту́	
пруд	池	в/на пруду́	
ров	さん濠	во рву́	
рот	口	во рту́	
сук	大枝	в/на суку́	
угол	すみ	в углу́	
	かど	на углу́	
уголок	<угол	в/на уголку́	～ уголке
штифт	ピン	на штифту́	

6. 1. 1. 3 A B型アクセント

бал	ダンスパーティー	на балу́	
бе́рег	岸	на берегу́	
бой	戦闘	в бою́	
бок	わき腹	в/на боку́	
бор	針葉樹林	в бору́	
борт	(船の) 舷	на борту́	船上に
вал	大波、回転軸	на валу́	
верх	上、幌	в/на верху́	
воз	荷車	на возу́	
глаз	目	в/на глазу́	

год	年 ～А С	в году	
гроб	棺	в/на гробу́	～ гробе́
грунт	土地、土壤	в/на грунту́	～ гру́нте
долг	借金、義務	в долгу́	
дуб	櫨の木	в/на дубу́	～ дубе́
дым	煙	в дыму́	～ ды́ме
жир	脂肪	в/на жиру́	～ жи́ре
зад	背面	в/на заду́	
зоб	虫の胃袋	в/на зобу́	～ зобе́
кон	賭け金置き	на кону́	
корм	餌	на корму́	～ ко́рме
край	端	на краю́	
	地方	в краю́	
		Ср. Хабаровском кра́е	(行政單位)
круг	円	в кругу́	(範圍、仲間)
		на кругу́	(丸い所)
		Ср. в/на кругу́е	(その他)
лес	森	в лесу́	
луг	草原	на лугу́	
ме́д	蜂蜜	в/на ме́ду	～ ме́де
мех	毛皮	в/на меху́	～ ме́хе
мир	世界	в миру́	(俗世間)
		на миру́	(村落共同体)
		Ср. в ми́ре	(その他)
мозг	脳	в мозгу́	
мост	橋	на мосту́	
низ	下	в низу́	
нос	鼻	в/на носу́	
о́тпуск	有給休暇	в о́тпуску́	～ о́тпуске
паз	隙間	в/на пазу́	

пай	分担 (金)	в паю́	～ пае́
пар	湯気	в/на парú	
перёд	前部	на передú	
пир	宴会	в/на пирú	～ пире́
под	(かまどの) 火床	в/на подú	
пол	床	в/на полú	
пот	汗	в потú	汗だくで
		Ср. в поте́ лица	額に汗して
род	家系、一族	на родú написана	運命付けられている
рой	虫の群れ	в рою́	～ роё́
ряд	列	в рядú	
		Ср. в ря́де чего	(一連)
		нарядú с кем-чем	～と同様に
сад	庭	в садú	
след	跡	в/на следú	
слой	層	в слою́	～ слоё́
смотр	閱兵式	на смотрú	～ смóтре
снег	雪	в/на снегу́	～ сне́ге
спирт	アルコール	в/на спиртú	～ спírте
стог	いなむら	в/на стогú	～ стóге
строй	隊列	в строю́	
суп	スープ	в супú	～ сýпе
сыр	チーズ	в сырú	～ сы́ре
таз	洗面器	в тазú	～ та́зе
ток	鳥の発情場所	на току́	
тыл	背面	в тылу́	
форт	ほう壘 (軍用語)	в/на фортú	
хлев	家畜小屋	в/на хлевú	～ хлéве
ход	歩み	в (большом) ходú	はやっている
		на ходú	歩きながら

		Ср. в хóде чего	～の過程で
холод	寒さ	на холодú	хóлоде
хор	コーラス	в хорú	～ хóре
цвет	色、花	в цветú	花盛り
		Ср. в цвёте чего	～の盛りだ
цех	作業場	в цехú	～ цéхе
чай	お茶	в чаю	～ чае
чан	タンク	в чанú	～ чáne
час	時	в часú	
		Ср. в чáсе	1時間の中に
шаг	歩	в шагú	～ шагe
		на каждом шагú	どこにでも
шёлк	絹	в шелкú	絹の服を着て
		в долгú, как в шелкú	借金で首が回らない
		на шелкú	絹の裏地の付いた
		Ср. в шёлке	
шкаф	戸棚、タンス	в/на шкафú	

6. 1. 1. 4 AC型アクセント

год	年	～АВ	в годú
порт	港	～АВ	в портú
ток	脱穀場	～АВ	на токú

6. 1. 1. 5 BA型アクセント

кол	杭		на колú
-----	---	--	---------

6. 1. 1. 6 固有名詞

上記の普通名詞以外に次のような地名を表す固有名詞も第2前置格を持つ。

Дон	ドン川		на Донú
Клин	クリン(モスクワ州の町)		в Клину
Крым	クリミア		в Крымú

6. 1. 2 -ь に終わる女性名詞

6. 1. 2. 1 AA型アクセント

глубь	深み、深さ	в глуби́
грязь	泥、汚れ	в грязи́
даль	遠く	в дали́
мель	浅瀬	на мели́
пыль	ほこり	в пыли́
связь	つながり	в связи́
тишь	静けさ	в тиши́

6. 1. 2. 2 AC型アクセント

бровь	眉毛	на брови́	
грудь	胸	в/на груди́	
дверь	ドア	в двери́	～ двéри
клеть	物置	в клетѝ́	～ клéти
кость	骨	в кости́	～ кóсти
кровь	血	в/на крови́	
ночь	夜	в ночи́	
ось	軸	в/на осѝ́	
печь	ストーブ	в/на печи́	
сеть	網	в сети́	～ сéти
степь	ステップ、草原	в степѝ́	
тень	影	в/на тени́	
цепь	鎖	в/на цепи́	
щель	割れ目	в щели́	

6. 2 前置詞へのアクセント移動

本来ロシア語の前置詞（他の品詞から派生した *благодаря* типа 等を除く）はアクセントを持つことはないと考えてよいが、若干の前置詞と名詞との語結合に於いて、前置詞が元々アクセントを持っていたと考えられる名詞からアクセントを奪い取ることがある。このような語結合は半ばイディオム化しており、新しくできた語結合がこのタイプのアクセントの適応を受けることはないと言える。前置詞へのアクセント移動を生ずるフレーズと同現象を生じないフレーズとのゆれが存在する場合も多く、両者のうちで後者がだんだんに勢力を延ばして行くと想像される。

前置詞のアクセント移動を規則化することは非常に困難であるが、このようなアクセント移動を引き起こす前置詞は必ず1音節からなる前置詞であって、それに後続する名詞は1音節語幹語（及び若干の2音節語幹語）であるとだけは言える。

若干の動詞過去形についてもこの現象とパラレルな現象が観察される。過去形に於いてC型アクセントを持つ動詞は過去形の男性・中性・複数の形態に於いてアクセントを接頭辞に移動することがある。詳細については該当の箇所を参照のこと。

6. 2. 1 男性名詞

6. 2. 1. 1 AA型アクセント

вѐтер	風	пустить по ветру	～ по вѐтру
		浪費する	
		бросать слова на ветер	～ на вѐтер
		無駄口を叩く	
вид	視界、外観	потерять из виду	～ из вѐда
		見失う	
вóрот	襟	(схватить) кого за ворот	～ за вóрот
		襟首を（ひつつかむ）	
пóлдень	昼の12時	за полдень	～ за пóлдень
		昼過ぎに、午後に	
свет	光	до свету (古)	～ до свѐту
		夜明け前に	

	世界	сжить со́ свету	～ со свѣту/свѣта
			死に至らせる
смех	笑い	поднять кого на́ смех	～ на смѣх
			笑いものにする
		на́ смех	～ на смѣх
			冗談のように
		кúрам на́ смех	ちゃんちゃらおかしい
		со́ смеху	～ со смѣха
			おかしくて

6. 2. 1. 2 ВВ型アクセント

двор	中庭	по́ двору	～ по двору́
			中庭を通過して
лоб	額	(щёлкнуть) по́ лбу	～ по лбу́
			おでこを (指で弾く)
		что в лóб, что по́ лбу	
			五十歩百歩
			(в лоб も по́ лбу も同様だ)
мост	橋	на́ мост (古)	～ на мóст 橋 (の上) へ
		по́ мосту	～ по мосту́ ～ по мóсту
			橋 (の上) を通過して
		пóд мост ～ под мóст	橋の下へ
рот	口	изо́ рту	～ изо рта́ 口の中から
стол	テーブル	по́ столу (ударить)	～ по столу́
			机を (叩く)
угол	かど、すみ	за́ угол (зайти)	
			かどの向こうへ (行く)
			(かどを曲がる)
		на́ угол (выйти)	
			かどに (出る・やって来る)

6. 2. 1. 3 AB型アクセント

бéрег	岸	на́ берег (выйти)	～ на бéрег 岸に (出る・やって来る)
бок	わき腹	по́ боку на́ бок (лечь)	ほったらかしだ わき腹を下にして (寝る)
		по́д боком ～ под бо́ком	すぐ近くに
		бо́к о́ бок	隣あって
бо́рт	(船の) 舷	за́ бо́рт (упасть)	～ за бо́рт 舷外・海中へ (落ちる)
		на́ бо́рт (взять)	～ на бо́рт 船に (のせる)
		бо́рт о́ бо́рт	(船が) 並んで
вечер	夕方	по́д вечер (古)	～ под véчер 夜近く、夕方に
воз	荷車	на́ воз (положить)	～ на во́з 荷車に (積む)
глаз	目	с гла́зу на́ глаз	～ на гла́з 一対一で
город	町、市	за́ город	郊外へ
		Ср. за го́род	町の向こう側へ
		за́ городом	郊外で
		Ср. за го́родом	町の向こう側で
дом	家、建物	и́з дому	～ из до́му ～ из до́ма 自宅から
		до́ дому	～ до до́му 自宅まで
		на́ дом	自宅へ (домой)
лес	森	по́ лесу	～ по ле́су 森を通って
		и́з лесу	～ из ле́су ～ из ле́са

луг	草原	пó лугу	森 (の中) から ～ по лúгу 草原を ^通 つて
мир	世界、世間	пó миру ходить	乞食をする
		пó миру пустить	破産させる
нос	鼻	пó носу (бить)	～ по нóсу 鼻を (叩く)、懲らしめる
		получить пó носу	鼻に一発食らう、ひどい目に会う
		из носу (течёт)	～ из нóсу ～ из нóса 鼻から (鼻水が出る)
		хоть кровь из носу	鼻血が 出ようとも、何か 何でも
		нос óб нос	並んで
		за нос (схватить)	～ за нóс 鼻を (ひつつかむ)
		водить кого за нос	だます
		даже на нос не налезает.	鼻にさへサイズが 合わない、小さすぎる
		пóд нос (говорить, петь)	小さい声で (話す、歌う)
		пóд носом	すぐ近くに
пол	床	до полу (висеть)	～ до пóлу ～ до пóла 床まで (垂れ下がる)
		пó полу	床を ^通 つて
		на пол (упасть)	床に (落ちる)
		об пол (ударить)	～ об пóл 床を (蹴る・ぶつ)
пояс	ベルト	заткнуть кого за пояс	

～を凌駕する

Ср. заткнуть что за пояс

～をベルトに挟み込む

род	家系、一族	от роду	当年とって
сад	庭園	по саду (古)	～ по саду 庭を通過して
снег	雪	по снегу	～ по снегу 雪 (の積もった道) を通過して
ус	口髭	намотать на ус	～ на ус 肝に命じる
час	時	час от часу	刻々と (hour by hour)
		час от часу не легче.	ますます困難になる 一難去ってまた一難

6. 2. 1. 4 AC型アクセント

во́лос	髪 <small>の</small> 毛	на́ волос	ほんの少し
		ни на́ волос	全然 (ない)
го́д	年	на́ год	一年間の予定で
		за́ год	一年間で
		бе́з году́ неделя	つい最近
		и́з году́ в го́д	～ из го́да в го́д 来る年も来る年も (year after year)
		го́д от году́	～ го́д от году́/го́да 年毎に (year by year)
зу́б	歯	о́ко за о́ко, зу́б за зу́б	目には目を、歯には歯を
		зу́б на́ зуб не попадает	寒くて歯の根が合わない

6. 2. 2 -a/-я に終わる女性名詞

6. 2. 2. 1 BA型アクセント

верста́ 約1km за́ версту (古) ~ за версту́
1 露里離れて、遠くに

6. 2. 2. 2 CA型アクセント

вода́ 水 на́ воду 水面に (向けて)
по́ воду 水をくみに
по́д воду (спуститься) ~ под во́ду
水に潜る

душа́ 魂 брать кого за́ душу
心を捕らえる、感動させる

брать что на́ душу
~の責任を取る

как бог на́ душу положит.

いい加減に

лечь (свинцом) на́ душу ~ на ду́шу

心に重くのしかかる

Ср. на ду́шу населения 住民一人当り

земля́ 大地、地球 на́ землю (古) ~ на зёмлю

陸、地球、地面に向かって

зима́ 冬 на́ зиму 一冬の予定で

за́ зиму 一冬で

коса́ お下げ、大鎌 за́ косу/косы (дёргать)

お下げを引っ張る

река́ 川 на́ реку 川 (の表面の) 方に

за́ реку 川の向こう側に

спина́ 背中 на́ спину (лечь)

仰向けに横になる

за́ спину 背中の後ろへ

6. 2. 2. 3 CC型アクセント

голова́ 頭

на́ голову (надеть) ~ на го́лову

頭に (かぶる)

за́ голову схватиться

頭を抱える (悩む)

как снег на́ голову

突然、晴天のへきれき

на́ голову выше

頭一つ上、一枚上手

гора́ 山

на́ гору (подняться) ~ на го́ру

山 (の上) に登る

за́ гору ~ за го́ру 山の向こうへ

по́д гору (спуститься)

山を (下る)

нога́ 足

на́ ногу/ноги (надеть)

足に (はく)

на́ ноги (встать)

足で (立つ)

за́ ногу/ноги (схватить)

足を (捕まえる)

нога́ за́ ногу (сидеть)

足を組んで (座る)

но́гу на́ ногу положить

足を組む

с но́ги на́ ногу (переступить)

足から足へ体重を移動する

по́д ноги (смотреть)

足元を (見る)

пора́ 時期

до сих пор (古) ~ до сих по́р

これまで

рука́	手	на́ руку/руки (взять)	手に (取る)
		на́ руку кому	得だ
		за́ руку/руки (взять)	手を (取る)
		под́ руку/руки (держатъ)	腕を (支える)
		рука́ об́ руку	手に手を取って 一緒に、仲良く
сторона́	方向	на́ сторону (отдать)	よそへ (回す)
щека́	頬	за́ щеку (ушипнуть)	ほっぺを (つねる)

6. 2. 3 -ь に終わる女性名詞

6. 2. 3. 1 AC型アクセント

вестъ	知らせ	бе́з вести пропасть	行方不明になる
ночь	夜	до́ ночи ~ до но́чи	夜中まで
		с утра́ до́ ночи	朝から夜中まで
		за́ ночь	夜中じゅうかかって
		на́ ночь	夜寝る前に
смерть	死	не на жизнь, а на́ смерть ~ на сме́рть	
		не на живот, а на́ смерть ~ на сме́рть	命を賭けて
		до́ смерть	死ぬまで;死ぬほど、とても
		при́ смерти	いまわのきわで

6. 2. 4 中性名詞

6. 2. 4. 1 AB型アクセント

мóре 海

пó морю (плыть) ~ по мóрю

海を通過して (航行する)

за́ море (уплыть) ~ за мóре

海の向こうへ (行ってしまう)

за́ морем (находиться) ~ за мóрем

海の向こうに (ある)

за́ морем телу́шка—полу́шка, да рубль
перевóзу.海の向こうで牛が1/4コペイカが、
運び賃が1ルーブル (ちよつと安いからといっ
て遠くまで買いに行くのは馬鹿だ)

на́ море ~ на мóре

海の方へ; 海面上に

ждать у́ моря погоды ~ у мóря

海路の日和を待つ

(手をこまねいてあてにならないことを待っている)

не́бо 空

пó небу (лететь) ~ по не́бу

空を通過して (飛ぶ)

на́ небо (смотреть) ~ на не́бо

空の方を (見る)

на́ небе (находиться) ~ на не́бе

空に (ある)

по́ле 野原

пó полю (идти) ~ по по́лю

野原を通過して (行く)

на́ поле (идти) ~ на по́ле

野原の方に (行く)

на́ поле (находиться) ~ на по́ле

野原に (ある)

се́рдце 心臓、心

на́ сердце (古) ~ на се́рдце

			心で、心中
		лечь (свинцом) на́ сердце ~ на се́рдце	心に重くのしかかる
		положа́ ру́ку на́ сердце	胸に手を当てて、正直に
		берет за́ сердце	心をつらえる、感動させる
		по́ сердцу ~ по се́рдцу	気に入っている
		Ср. операция на се́рдце	心臓の手術
сло́во	言葉、語	верить на́ слово	すぐ信じる、鵜呑みにする
		ловить кого на́ слово ~ на сло́во	言葉尻をつらえる
		сло́во за́ слово	順々に、少しずつ
6. 2. 4. 2	AC型アクセント		
у́хо	耳	на́ ухо (шептать)	耳に(ささやく)
		на́ уши (надеть)	耳にかぶせる
		тугой на́ ухо	耳が遠い
		медведь [слон] кому на́ ухо наступил.	耳に熊・象がいる、音痴だ
		за́ ухо/уши (дёргать)	耳を(ひっぱる)
		по́ уху (ударить)	耳を(ぶつ)、びんを食らす
		по́ уши влюбиться	耳まで惚れる、首っ丈になる
6. 2. 4. 3	BC型アクセント		
плечо́	肩	за́ плечи ~ за плéчи	肩の向こうに、肩を搦んで
		на́ плечи ~ на плéчи	肩の上に

6. 3 数詞に伴う特別な単数生格（数格）

主格及びそれに等しい対格に於いて、数詞 2, 3, 4, полтора́, оба の後には名詞の単数生格が続くはずだが、時にこれらの数詞の後で通常単数生格とは異なるアクセントを持つ形が用いられることがある。例えば час の単数生格は около ча́са, половина ча́са に見られるように ча́са であるが、これらの数詞と共に用いられるとアクセントの位置を変えて、два часа́, три часа́, четыре часа́, полтора часа́ のように часа́ となってしまう。このような数詞に伴う特別な単数生格（数格と呼ばれることもある）を持つ名詞は以下に記すように非常に少数ではあるが、その中には使用頻度の相当高い名詞が含まれており、注意を要するので、別個に記載するほうがよいと判断した。

このような異常な形が今のロシア語にあることは、かつてロシア語が単数・複数の他に持っていた 2 つを表す双数の消滅に関係している。古代ロシア語に於いて数詞 1, 2, 3, 4 は形容詞であり、次に来る名詞と性数格を一致させていた。例えば主格（及びそれに等しい対格）の場合について言うと、1 には単数主格、2（及び оба）には双数主格、3 と 4 には複数主格が続いた。5 以上の数詞は名詞と考えられ、これらの数詞が如何なる格に立とうとも後続する名詞は常に複数生格であった。すなわち「（複数の）～の 5 つ」のように表現したわけである。このシステムは整然としていて、今日のロシア語の数詞に見られるような不統一性は無かったのであるが、13 世紀ぐらいからロシア語に於いて双数が乱れ始め、17 世紀には双数が消滅してしまうことからロシア語の数詞＋名詞の語結合に於いて大混乱が起きる。1＋単数主格は今日まで残ったが、2 の次に用いられていた双数の形がもはや無くなってしまった。男性名詞では双数主格の語尾は -a であったため、アクセントの違いがある場合を除けば双数主格は単数生格に等しかった。そこで男性名詞については 2 の次に来る形が単数生格であると解釈され、単数生格と異なる双数主格 -а を持っていた女性及び中性名詞についてもだんだんに「2＋単数生格」が定着していった。その後類推によって 3, 4 についても単数生格が用いられるようになり、現在の「（1 つの）～の 2 つ、3 つ、4 つ」とでも言うべき奇妙な現状に至ったのである。ところがこの変化の途中で少数の語結合はこのような推移を全うせず、元々の段階、あるいは中途の段階を保持してしまった。男性名詞については元々

の双数主格が、女性名詞については変化の途中で「3, 4 + 複数主格」からのアナロジーで出てきた「2, 3, 4 + 複数主格」が残っている。これこそが現代ロシア語の数格の正体である。

6. 3. 1 男性名詞

現代ロシア語に於いて、数詞に伴う異常な単数生格を持つ男性名詞は以下の5語のみである。これらの男性名詞は全てA B型アクセントを持っているという点で共通している。例には該当する数詞の代わりに *два* のみを記しておく。

ряд	列	<i>два ряда́</i> ср. в течение <i>ряда́</i> месяцев
след	跡	<i>два следá</i> (以下を参照)
час	時	<i>два часа́</i> Ср. около <i>часа́</i>
шаг	歩	<i>два шага́</i> Ср. с первого <i>шага́</i>
шар	球	<i>два шарá</i> Ср. поверхность <i>шара́</i> (以下を参照)

шар 以外の4語はここに記す数格のみならず、上記の第2前置格やここでは述べない第2生格(男性名詞で -y/-ю に終わる例外的単数生格)をもあわせ持つ。

след はA B型アクセントを持つとは言っても、そのパラダイムの中で通常の単数生格が欠落していると考えられる。この名詞の単数与格・造格がそれぞれ *сле́ду* *сле́дом* となることから、この名詞は単数で語幹に固定したA型アクセントを持つとみなされ、通常の単数生格には **сле́да* が期待されるが、実際にはこの形は存在せず、単数生格の形には第2生格の *сле́ду* と数格の *следá* しかない。従ってやむを得ず *сле́ду* 及び *следá* を通常の単数生格の代わりに用いている。例えば代表的例をあげると *без следá* (あとかたもなく) というフレーズでは数格が単数生格の代用に用いられており、*«еду еду—сле́ду нету»* (行けども行けども跡もなし。それはいったいなんぞや。という古いなぞなぞ。ちなみにその答えは *лодка* 「船」) では第2生格が通常の単数生格の代わりになっている。

шар の数格 *шарá* は他の4語の同形態に比べて安定性に乏しいと考えられ、通常

の単数生格 *ша́ра* にとって代わられてしまう場合が散見される。先ずは数学での「球面」という意味ではこの特別な単数生格は用いられない。次に、該当する数詞とこの名詞との間に形容詞が入ると数格ではなく通常の単数生格が用いられ、例えば *два воздушных ша́ра* のようになる。なお「ビリヤードの玉」の意では BB 型アクセントに属す。

かつては *раз шка́ф* もこのような数格を持っていたようであるが、現在では数詞 2, 3, 4 等の後でも通常の単数生格が用いられている。

6. 3. 2 女性名詞

現代ロシア語に於いて、数詞に伴う特別な単数生格を持つ女性名詞は以下の 2 語のみである。両者とも CC 型アクセントに属し、以下に記すようなフレーズに於いて、複数主格（あるいは対格）と同形の単数生格を有する。これらの形は数格とみなされないことも多い。

<i>сторона́</i>	方向	<i>по обе сто́роны чего</i> ～の両側に (<i>по обе стороны́</i> とも)
		<i>идти на все четыре сто́роны</i> どこへでも好きなところへ行く、うせる (<i>на все четыре стороны́</i> とも)
<i>щека́</i>	頬	<i>есть/уплетать/уписывать за обе ще́ки</i> (両方の頬を膨らまして) がつつ食べる (<i>за обе щеки́</i> とも)

かつては *рука*, *нога* も上記 2 語と同様の数格を有し、*обе ру́ки*, *обе но́ги* 等と発音されたが、現在では両者の数格は消滅し、通常の単数生格を持つ *обе ру́ки*, *обе но́ги* が支配的になっている。

第Ⅱ章 形容詞

1. 概説

現代ロシア語の形容詞は意味の上から性質形容詞と関係形容詞に分かたれ、その前者（原級）のほとんどが長語尾及び短語尾の2系列の形を持つ。いわゆる物主形容詞は扱わない。形容詞比較級及び最上級については語形成も含めて1. 3で概略する。形容詞長語尾は全ての性数格に従っての変化形を有し(ただし複数では性の区別を失う)、名詞付加的或は定語的 (*красивая девушка*) にも、述語的 (*Девушка красивая.*) にも用いられうるが、現代ロシア語の形容詞短語尾は格を持たず(主格のみ)専ら述語的 (*Девушка красива.*) に用いられる。述語として用いられる長語尾と短語尾の差異については触れない。形容詞のアクセントは長語尾と短語尾とを別々に考えておく方が遥かに簡単になる。形容詞全体のアクセント型を記す際には長語尾のアクセント型の記号と短語尾のアクセント型の記号とを並べて記す。

1. 1 形容詞長語尾

事物の性質を表す性質形容詞は原則として長語尾と短語尾の両形を持つが、事物との関係を示し、当該事物を表す名詞などから派生した関係形容詞は長語尾のみを持つ。ロシア語に非常に多い *-ский* *-ской* 型の形容詞はことごとく関係形容詞である。

以下の短語尾の説明の際により詳しく述べることとなろうが、ロシア語の形容詞は本来の形が現代ロシア語の短語尾に当たる形であって、長語尾はこの短語尾に当たる形の後ろに3人称の人称代名詞を付けてあたかも定冠詞が付いているかのよう限定性を表したものであった。現代ロシア語では本来の形容詞の部分と代名詞の部分が融合し、或は改変を加えられている。このように形容詞長語尾は本来の形容

詞から考えれば2次的な派生した形であるが、現代ロシア語では短語尾よりむしろ長語尾の方が基本的な形と解釈され、辞書でも見出し語としての代表の形を長語尾男性単数主格に定めている。もちろん長語尾本来の限定的な意味は今のロシア語では失われている。

形容詞長語尾は語形変化するに従ってアクセントの位置を変えることはない。形容詞長語尾のアクセント型は語幹固定アクセント型（すなわちA型）と語尾固定アクセント型（B型）との二つだけである。Федянинаの統計によるとA型に属す形容詞は14150語、B型に属す形容詞は960語であって両者のうち支配的なのはもちろん全体の94%近くを占めるA型である。

A型：語幹固定アクセント

念のために変化表を記しておく。単数の男性形と中性形は共通の変化形が多いので中性形を下表のように男性形の隣に記した。男性単数対格と複数対格は当該の形容詞が修飾する名詞の性質（活動体か不活動体か）によって決まるので慣用に従って下表のような表記にしておいた。軟変化の表は省略する。

	男性	中性	女性	複数
主格	красный	красное	красная	красные
生格	красного		красной	красных
与格	красному		красной	красным
対格	=主/生	красное	красную	=主/生
造格	красным		красной	красными
前置格	красном		красной	красных

語幹に固定アクセントを有するA型にも *но́в-ый*, *ста́р-ый*, *же́н-ск-ий*, *студе́н-чesk-ий* のように語根にアクセントを持つタイプの他、*с-част-ли́в-ый*, *бел-ова́т-ый*, *крас-и́в-ый* のように語根に後続する接尾辞にアクセントを持つタイプ、*при-горо́д-н-ый* のように接頭辞にアクセントを持つタイプなどがある。詳細については省略する。

B型：語尾固定アクセント

B型アクセントを持つ形容詞長語尾のパラダイムを記しておく。長語尾で語尾に固定アクセントを持つ形容詞は常に硬変化である。男性単数主格とそれに等しい対格の語尾の形が *-ый* ではなくて *-ой* となる。¹⁾

	男性	中性	女性	複数
主格	<i>смешно́й</i>	<i>смешно́е</i>	<i>смешна́я</i>	<i>смешны́е</i>
生格	<i>смешно́го</i>		<i>смешно́й</i>	<i>смешны́х</i>
与格	<i>смешно́му</i>		<i>смешно́й</i>	<i>смешны́м</i>
対格	=主/生	<i>смешно́е</i>	<i>смешну́ю</i>	=主/生
造格	<i>смешны́м</i>		<i>смешно́й</i>	<i>смешны́ми</i>
前置格	<i>смешно́м</i>		<i>смешно́й</i>	<i>смешны́х</i>

1) 本来のロシア語の形容詞硬変化長語尾男性単数主格の語尾はアクセントの有無にかかわらず *-ой* であった。例えば古くからある形容詞 *новый* を例にとると、スラブ祖語でのそれに当たる形容詞の短語尾男性単数は **novъ* であり、長語尾の形は代名詞 **jь (>*и)* を加えて **novъjь* となるが、実際には *j* の前で *ь* の質が変

удáльный:удалóй (剛胆な), лю́тый:люто́й (凶暴な), рúдный:рудóй (赤毛の), хмельный:хмельно́й (酔った) のように長語尾に於いてA型とB型とのゆれを持つ形容詞が少しある。

1. 2 形容詞短語尾

現代ロシア語の形容詞短語尾は格による語形変化を持たず、専ら主格のみで述語的に用いられる。形容詞長語尾と短語尾とを比較すると、それらの使用頻度では長語尾が優っていることは明かであり、両者のうち意味的に無標なのは長語尾となっているが、形態的には短語尾のほうが無標項であることもまた明かである。ところがロシア語の辿った歴史を遡ってみると形容詞の本質的な基本形は短語尾のほうであって、上記のように長語尾は限定性を表すために作られた派生形であった。現代ロシア語では格を持つのは長語尾だけといっても構わないが、実は短語尾もかつては格を持ち、名詞と全く同じように変化していたのである。長語尾形容詞がだんだんに広く用いられるようになって、短語尾の使用頻度が減少し、現在のような主従逆転とでも言うべき状況に至った。しかしながら諺や古くからのイディオムの中に形容詞短語尾の本来の語形変化が今日まで残っている場合が散見される。若干の例を記しておく：

わってしまったと考えられている。故木村彰一先生に倣ってこの位置での ъ 及び ъ を「はりつめた」(英語 tense, ロシア語 напряженный) イェルと呼ぶことにし、各々 ъ ъ と表記する。ъ ъ は各々 ы(y) и(i) との対立を失い、*новъжь は古代スラブ語では новъи とも новыи とも書かれることになる。さて、故佐々木秀夫先生によるとロシア語の北部方言では14世紀からアクセントに関わりなく形容詞長語尾男性単数主格の語尾が *-ъжь から発達した -ои (すなわち -ой) になる。このロシア語本来の語尾はアクセントを持つときには保存されたが、アクセントが無いときには古代スラブ語を模した復古調の文語である教会スラブ語の表記法 -ый が採用されて今日に至っている。但しアクセントを持たないときの語尾 -ый は -ой と書かれたときと同様に [əj] であったが、今では spelling pronunciation が発達して、綴り通りに [ɨj] と発音されるようになってしまった。

Ешь в полсы́та, пей в полпья́на, проживёшь век до полна́.

(腹は八分目に、酒は程々に、そうすれば長生きできる。)

Отку́да сыр-бор загорéлся?

(どうして湿った松林が燃え出したのか。いったいどうしてこんなことになったのか。)

от ма́ла до вели́ка (老いも若きも)

шатáться по бéлу свéту (さすらう)¹⁾

среди́ [среди́] бéла дня (白昼、まっぴるまに)

на босú но́гу (裸足で)²⁾

по добру́, по здоро́ву (順調である)

мал ма́ла ме́ньше (小さな子がいっぱい)

мил челове́к (おい、おまえ)

長語尾しかない形容詞があるように、短語尾しかない形容詞も若干ある：горáзд (上手だ)、люб (好きだ)、рад, рад-радёшенек, рад-радёхонек (うれしい) и т.д. 形態的には対応する長語尾があっても、意味・用法上長語尾と短語尾が一致しないものもある。このような形容詞短語尾にも長語尾が欠落しているとみなす：какóв (どんな); каковóй (廃語 =какой), такóв (そのような); таковóй (廃語 =такой) и т.д. 「～過ぎる」の意味を持つ形容詞短語尾にも意味上対応する長語尾の形が欠けている：вели́к (「大きすぎる」の意で), дли́нен (「長すぎる」の意で), ко́роток³⁾ (「短すぎる」の意で), ма́л (「小さすぎる」の意で), те́сен (窮屈だ) の意で), у́зек (「狭すぎる」の意で), ширóк (「広すぎる」の意で) и т.д. これらのアクセント型については後述する。

古い詩で用いられることのあった例えば Пушкин の печáльны тучи (悲しげな黒雲)、ро́щи молчали́вы (黙せる茂み) のような用法はリズムと脚韻の要求に応じて形容詞長語尾の語尾を一部取り去ったもので、短語尾ではないとみなされる。

1) 今では長語尾を用いて шатáться по бéлому свéту も可能。

2) 今では на бóсу но́гу が支配的になりつつあるようである。

3) корóток は廃れつつあるのでここでは新しい形を記す。

語幹が2つ以上の子音連続に終わる形容詞は短語尾男性単数形でそれらの子音の間に母音 *o* または *e* が挿入されることがある。このような母音を出没母音 (бер-лые гласные) と呼ぶ。¹⁾ *o* と *e* のどちらが選択されるかは、その先行の子音が硬子音か軟子音かによって決定されるが、特に軟子音が硬化してしまった場合や類推によって出没母音が挿入されたような例も多く、現代ロシア語の資料からだけではその正確な生起の条件付けと *o* と *e* との選択の基準を示すことは困難である。他の品詞についてと同様に出没母音を *o* *e* と記す。

しかしここで扱ういわば基礎的な形容詞については次のような規則を立てることができ、その例外も比較的少数である：

1. 接尾辞 *-н-* を持つ形容詞は短語尾男性形でその前に *e* を挿入する ²⁾

例) голо́дный-голо́ден, известный-известен, сло́жный-сло́жен

чۇ́дный-чۇ́ден~чудён, чёрный-чёрен, умный-умен 他多数

例外) смешной-смешон, полный-полон ³⁾

1) 出没母音は本来短い母音 (редуцированные) であった *ь* 及び *ь* が弱い位置では脱落し、強い位置では完全な母音 (гласные полного образования) である *o* と *e* に各々転じたことに起因する。詳細についてはここでは触れない。

2) 現代ロシア語の形容詞を作る接尾辞 *-н-* は本来 *-ьн-* であって、それに先行する子音は軟子音であったが現代ではその先行子音のうち *л* 以外は短語尾男性形以外で硬化してしまった：дово́льный-дово́лен и т.д. もちろん常に軟子音である *й ч ш* はこの位置でも硬化することはない。

3) *ж ш ц* は現代ロシア語では常に硬子音であるが、本来は軟子音であった。従って смешной の短語尾男性形は смешен が期待される。ところがアクセントが第2音節に落ちたため、「軟子音+é+硬子音」が「軟子音+ó+硬子音」となった変化を受けて смешон となった。ここでは *ë* ではなく *o* と書かれている。полон はその古代ロシア語の形が пыльнъ であって、本来ならば短語尾男性形は *полн となるはずであったが、その末尾の子音 *н* が接尾辞であるかのように解釈され、現在の形ができた。

2. 接尾辞 -к- を持つ形容詞は短語尾男性形でその前に о を挿入する¹⁾

例) лóвкий-лóвок, нíзкий-нíзок, жéсткий-жéсток, глáдкий-глáдок,
зóркий-зóрок, мёрзкий-мёрзок, б́ли�кий-б́лизок 他多数

ただし -к- の前に й ь があれば、これらを除いて е を挿入

бóйкий-бóек, гóрький-гóрек, кле́йкий-кле́ек, сто́йкий-сто́ек

例外) тя́жкий-тя́жек²⁾

3. その他の形容詞には出沒母音を挿入しない³⁾

例) пёстрый-пёстр, мёртвый-мёртв, крúглый-крúгл, чíстый-чíст,
вётхий-вётх, трéзвый-трéзв, тúсклый-тúскл, бýстрый-бýстр 等

例外) долгий-долог, тёплый-тёпел, свётлый-свётел, кíслый-кíсел,
взрóслый-взрóс(e)л, хíтрый-хíтёр, шустрый-шустёр, óстрый-
óстр または остёр, злой-зл

1) 現代ロシア語の形容詞を作る接尾辞 -к- は本来 -ьк- であった。ただし軟子音の後では ь は ь となる。

2) 前ページの註3に記したように ж は本来軟子音であるから тяжькь > тяжек となるのは本当は規則どおりである。

3) ここに挙げた語のほとんどは語幹末の子音連続の間に本来 ь ь を持たない。従って現代ロシア語の短語尾男性形でも出沒母音を持たないのが正則である。例外とした語には類推によって出沒母音が生じた。остр-остёр взросл-взросел ではゆれがあり、この過程がまだ進行中と考えられる。ただし ветх と светел はそれぞれ ветьхь, свётьль に遡るから両者とも出沒母音を持つはずであるが、現代では類推によって前者の出沒母音は廃されている。злой-зол は зьль に遡り、出沒母音は規則通りである。кислый-кисел は кысьль に遡るから、現代語の短語尾男性の е は出沒母音ではないが、も と е の差が失われて出沒母音と考えられるようになった結果である。このように類推が働く場合が一様ではないのでロシア語の出沒母音は厄介なのである。

形容詞短語尾は長語尾と異なり、移動アクセント型を持つ。即ち形容詞短語尾のアクセント型は基本的に以下の3つに分けられる。短語尾については男性単数、女性単数、中性単数、複数の順序で記す。

A型：語幹固定アクセント

вечн вечна вечно вечны

Федянина の統計によると、短語尾を持つ形容詞11146語のうちの約96%以上を占める10750語が短語尾に於いてA型アクセントを持つ。短語尾に於いてA型アクセントを持つ形容詞は長語尾に於いても必ずA型アクセントを持つ（以下ではAA型と略称される）。当然ながらこのアクセント型は非常に生産的であり、新しく作られる形容詞のほとんど全てがこのアクセント型を持つようになる。

B型：語尾固定アクセント

горяч горяча́ горячо́ горячи́

男性形では語尾がゼロであるため、仮アクセントが語幹に置かれる。горяч を例にとると *горяч-∅ > горяч と説明され、この語が常に語尾にアクセントを持っていることが判る。Федянина の統計によると短語尾に於いてB型アクセントを持つ語は60語あることになっているが、その中にはもはや短語尾に於いてB型アクセントが用いられない語や -ённый に終わる被動形動詞過去起源の形容詞までが含まれており、実質的にこのアクセント型の成員はずっと少なくなる。筆者が以前に行った調査によると短語尾に於いてB型アクセントに安定している語は僅か19語であり、その他にゆれを持つ語まで含めてもその数は46語のみであった。形容詞短語尾全体の中ではB型アクセントの占める割合は1%にさえ遠く及ばない。従って短語尾に於けるB型アクセントは全くと言っていいほど生産力を持たない。短語尾に於いてB型アクセントを持つ形容詞の長語尾はA型アクセントを持つ（即ちAB型）ことも、B型アクセントを持つ（即ちBB型）こともある。

C型：移動アクセント

形容詞短語尾に於ける移動アクセントには以下の3つの下位分類を設ける必要がある。¹⁾

C1型：女性形で語尾に、その他で語幹にアクセントを持つ

сыт сыта́ сыто́ сыты́

C2型：女性形と中性形で語尾に、その他で語幹にアクセントを持つ

свеж свежа́ свежо́ свежи́

C3型：女性形と複数形で語尾に、その他で語幹にアクセントを持つ

ясен ясна́ ясно́ ясны́

上記3つの移動アクセント型のうち基本的かつ最も優位を占めるのはC1型で、このタイプのアクセント型は形容詞短語尾のみならず動詞の過去形にも受動分詞（被動形動詞）過去短語尾にも用いられる。但し後述するように、動詞過去形及び受動分詞（被動形動詞）過去短語尾ではこれが唯一の移動アクセント型であり、従ってそこではこのタイプのアクセント型を単にC型と呼ぶことになる。нервный, модный のような外来語までこのタイプに属するので、C1型はある程度の生産力をも持つと言えるが、その安定性は悪く、筆者の調査によると短語尾に於いてC1型アクセントを持つ形容詞314語のうち、C1型に安定していたのは僅か40語であって、118語がA形に転じる傾向を持ち、133語が後述するC3型化しつつあって、残りの23語がA型化とC3型化の両方の傾向を持っている。但し以下ではそれらのうち頻度の高いものだけを選んで記載してある。

C2型はほとんど対象語を持たない。C2型は上記のB型とC1型が混交した結果生じる過渡的存在のアクセントタイプであって、ここでは正確な分類のために記しておいたが、記憶する必要は今のところない。

C3型は比較的最近になって勢力を増してきた新しいアクセントタイプで、生産力に富む。短語尾がC1型に属す形容詞の約半数がC3化したか、あるいはC3化しつつあり、しばらくたてば形容詞短語尾の移動アクセントタイプ中

1)ここで用いる記号C1, C2, C3は各々 Федянина のC, C₂, C₁に、神山(1985b)のc, b', c'に相当する。

でC1型に代わってC3型が優勢になるかも知れない。

短語尾がC型に属している形容詞は長語尾に於いてA型あるいはB型アクセントを持つ。

1. 3 比較級、最上級

ロシア語の形容詞の比較級と最上級の構成法は一律ではない。これらの形態のアクセントを語るにはこれらの構成法を概略する必要がある。

形容詞比較級は以下の4つの方法の何れかを用いて構成される。

1) 形容詞原級の前に小詞 *более* (逆は *мéнее*) を加える方法

原則として全ての性質形容詞から作られうるが使用頻度はあまり高くない。アクセントはもちろん原級のそれに等しい。

2) 語幹に接尾辞 *-ее* (または *-ей*) を加える方法

ほとんどの性質形容詞から作られ、使用頻度は高い。アクセントは短語尾女性に等しい。すなわち短語尾のアクセント型がB型あるいはC型であればアクセントは接尾辞 *-ее* *-ей* に移る。

краси́вый ; *краси́ва* (A型) ; *краси́вее*
свѐтлый ; *свѐтла́* (B型) ; *свѐтлее*
шумный ; *шумна́* (C型) ; *шумнее*

3) 語幹に接尾辞 *-е* を加える方法

少数の使用頻度の高い性質形容詞からのみ作られうる比較級である。語幹末の子音が以下のように交替する。語幹末に接尾辞 *-(о)к* (*-ок*) を持つ形容詞ではこの接尾辞が脱落することも多い。これらの子音交替は実は表記には現れない接尾辞 *-j-* によって引き起こされている。子音交替の詳細については後述する第三章動詞の1. 1. 2を参照のこと。

г/ж:	<i>стро́г-ий</i> ; <i>стро́ж-е</i>	<i>дорог-о́й</i> ; <i>доро́ж-е</i>
к/ч:	<i>мя́г-к-ий</i> ; <i>мя́г-ч-е</i>	<i>лёг-к-ий</i> ; <i>лёг-ч-е</i>
х/ш:	<i>ти́х-ий</i> ; <i>ти́ш-е</i>	<i>сух-о́й</i> ; <i>су́ш-е</i>
д/ж:	<i>твёрд-ый</i> ; <i>твёрж-е</i>	<i>ре́д-к-ий</i> ; <i>ре́ж-е</i>
т/ч:	<i>бога́т-ый</i> ; <i>бога́ч-е</i>	<i>коро́т-к-ий</i> ; <i>коро́ч-е</i>
з/ж:	<i>близ-к-ий</i> ; <i>блѝж-е</i>	<i>ни́з-к-ий</i> ; <i>ни́ж-е</i>

с/ш: выс-о́к-ий; вы́ше

ст/ш: чи́ст-ый ; чи́ш-е то́лст-ый ; то́лш-е

в/вл: дешёв-ый ; дешёвл-е

以下の語は -e 型の比較級の構成に際し接尾辞 -н- を失う。

позд-н-ый; позж-е (позд-н-ее もある)

形容詞の比較級を構成する際にはこれ以外の子音交替は生じないようである。子音交替を伴わずにこの型の比較級を構成する形容詞は шир-о́к-ий (比較級 шир-е) のみである。この方法で作られた形容詞比較級は必ず語根にアクセントを持つ。

4) 語幹に接尾辞 -ше を加える方法

この接尾辞によって比較級を構成する形容詞は非常に少数である。原級を構成するために用いられた接尾辞 -(о)к 等は -ше の前では用いられない。尚 -ше の前には原則として軟子音がくるが、р は硬化してしまう。このタイプの比較級も必ず語根にアクセントを持つ。別な語根を用いる補充法によるものも含めて代表的な例を示す：

до́лгий	до́льше	до́лее
то́нкий	то́ньше	
большо́й	бо́льше	бо́лее
ра́нный	ра́ньше	ра́нее
далёкий	да́льше	да́лее
ста́рый	ста́рше	
ма́ленький	ме́ньше	ме́нее
хоро́ший	лу́чше	

-ше と -ее の二つの比較級を持つものについては前者が一般的であり、後者は文語的であったり、用法が異なったりする。上記 ста́рый と ста́рше は原級と比較級のペアではなくなっている。

形容詞最上級は以下の2つの方法で作られる。

1) 定代名詞 самый あるいは副詞 наиболее を原級の前に付け加える方法

全ての性質形容詞から作られる。アクセントはもちろん原級のそれに同じ

である。

2) 語幹に接尾辞 -ейш-/-айш- を付け加える方法

一般的には接尾辞 -ейш- が用いられるが、語幹が г к х で終わる場合はそれぞれ ж ч ш に交替し、最上級の接尾辞には -айш- を用いる。原級が短語尾でB型あるいはC型アクセントを持てば、最上級では -ейш-/-айш- がアクセントを獲得する。すなわち短語尾女性形が語尾にアクセントを持てば -ее に終わる比較級も最上級も接尾辞にアクセントを移動させると考えてよい。原級の短語尾がA型アクセントを持てば比較級も最上級も語幹アクセントを保持する。若干の例を記す：

бѣдн-ый	бѣдн-а́	бѣдн-ѐе	бѣдн-ѐйш-ий
вкусн-ый	вкусн-а́	вкусн-ѐе	вкусн-ѐйш-ий
красив-ый	красив-а	красив-ее	красив-ейш-ий
крупн-ый	крупн-а́	крупн-ѐе	крупн-ѐйш-ий
тяжел-ый	тяжел-а́	тяжел-ѐе	тяжел-ѐйш-ий
выс-ок-ий	выс-ок-а́	(выш-е)	выс-оч-айш-ий
жарк-ий	жарк-а́	(жарч-е)	жарч-айш-ий
легк-ий	легк-а́	(легч-е)	легч-айш-ий
строг-ий	строг-а́	(строж-е)	строж-айш-ий
тих-ий	тих-а́	(тиш-е)	тиш-айш-ий
ред-к-ий	ред-к-а́	(реж-е)	ред-ч-айш-ий
тон-к-ий	тон-к-а́	(тонь-ше)	тон-ч-айш-ий

ごく希に最上級でも接尾辞 -(о)к を失うものがある。

близ-к-ий	близ-к-а́	(ближ-е)	ближ-айш-ий
низ-к-ий	низ-к-а́	(ниж-е)	ниж-айш-ий

以上のようにアクセントが変わる可能性のある -ее/-ей に終わる比較級と接尾辞-ейш-/-айш- を持つ単一最上級のアクセントは短語尾のアクセントから導かれることになり、個々に記載する必要はなくなる。

2. 形容詞のアクセント型

以上より個々の形容詞のアクセント型は上記の2つの記号を重ねることによって表示されることになる。例えば *хоро́ший* という形容詞は長語尾で常に語幹にアクセントを持つのでA型、短語尾では *хоро́ш*, *хороша́*, *хорошо́*, *хороши́* というように常に語尾にアクセントを持つ（もちろん男性形では語尾がゼロであるため仮アクセントが語幹にある）のでB型となり、これを合わせてAB型というように表記する。併記された記号のうち前者が長語尾のアクセント型を示し、後者が短語尾のアクセント型を表す。長語尾にA、Bの2種類のアクセント型が、短語尾にはA、B、C1、C2、C3の5つのアクセント型があるので、合計すると10種のアクセント型があるはずだが、実際にはBA型とBC2型は存在しない。

形容詞のアクセント型はこれだけだが、個々の形容詞の（特に短語尾の）アクセント型を記憶するのは容易ではない。それに加えて、個々の形容詞の属すアクセント型にはかなりのゆれが認められ、記憶は一層困難になる。既存の露和辞典のみに頼ると、記述の不備や語謬が散見される場合もあるので危険である。できれば正音法辞典 *Аванесов* (1983) 等を参照するのが賢明であろう。

2.1 AA型アクセント

長語尾でも短語尾でも常にアクセントが語幹に落ちるパターンである。形容詞全体の94パーセントがこの型に属す。教育的見地からするとこの型に属す形容詞を一語一語記憶する必要はない。

本来AA型アクセントを持っていた語が他の型に転じることはまずないといつてよいが、その逆、即ち他のアクセント型をもつ形容詞が最も生産的なAA型に移行することはしばしば起こる。例えば *мудрёный* (難しい) はもとAB型であったが、現代ロシア語では完全にAA型化した。¹⁾ 上述のようにAC型アクセントも持つ形

1)しかし前述のように *-ee* に終わる比較級原則としては短語尾女性形のアクセント位置を保持するので、古いAB型アクセントは *Утро вечера мудренее*。(夜よりも朝の方が頭が冴えているものだ) という諺に保存されていると考えられる。

容詞の約4割がAA型に転じる傾向を持つ。下に記した語のうち特に *властный* (高圧的)、*гулкий* (響きわたる)、*юный* (若い) は既にほぼ完全にAA型化していると言ってよい。BC型アクセントを持つ形容詞 *босой* (裸足の) にも俗語ではAA型アクセントを持つ異形態 *босый* が存在する。¹⁾

2. 2 AB型アクセント

長語尾では常に語幹にアクセントを持つが、短語尾では常にアクセントが語尾にあるアクセントパターンである。短語尾男性形では語尾がゼロになるため、仮アクセントが語幹に落ちる。語幹末に子音連続を持つ形容詞は短語尾男性形で出母音 *o e* を生ずることもある。慣用に従い、形容詞の代表の形として長語尾男性単数主格の形を用いるが、出母音を伴う場合には代表の形の次に短語尾男性形を記しておく。

AB型に安定している形容詞は以下の7語のみである。この他に *-енный* に終わる被動形動詞過去起源の形容詞がかなりあるが省略する。

<i>горячий</i>		熱い	
<i>здоровый</i>		たくましい	「健康な」はAA型
<i>острый</i>	<i>остёр</i>	機知に富む	「鋭い」はAC1型
<i>равный</i>	<i>равен</i>	等しい	
<i>тяжёлый</i>		重い	
<i>хороший</i>		良い	
<i>широкий</i>		広すぎる	「広い」はAB~AC1

1) BC型に属す *рябой* の短語尾もA型となることがあり、民話に次のようなフレーズがある：

Жили-были дед да баба, *— — — —*

(昔々あるところにおじいさんとおばあさんがありました)

была у них курочка ряба. *— — — —*

(斑の鶏を飼っていました)

第1行は弱強格 (хорей)、第2行は弱強弱格 (амфибрахий) である。

かつてA B型とA C型のゆれを持っていたが、今ではA B型アクセントが優勢となっている形容詞を記す。これらは右の欄に記すホモニムとの弁別をするためA B型アクセント化したと考えられる。

длѝнный	длѝнен	長すぎる	「長い」はA C 1～A C 3
корóткий	кóроток	短すぎる	「短い」はA C 1
мѣртвый		生気の無い	「死んだ」はA C 1
óбщий		抽象的	「一般的」はA C 1
пóлный	пóлон	満ちた	「太った」はA C 1～A C 3
свѣтлый	свѣтел	明るい	
тѣмный	тѣмен	暗い	
тѣплый	тѣпел	暖かい	
тѣсный	тѣсен	窮屈すぎる	「窮屈な」はA C 1～A C 3
úзкий	úзок	狭すぎる	「狭い」はA C 1
чѣрный	чѣрен	黒い	

以下の形容詞はA B型アクセントを持つが、A C 1型の使用も可能である。

бѣлый		白い
высóкий		高い
глубóкий		深い
далѣкий		遠い
úмный	умѣн	聡明な
хитрый	хитѣр	ずるい
ширóкий		広い

A B型に属すがA C 2型も許容されている形容詞は以下の2語である。

лѣгкий	лѣгок	軽い、簡単な
свѣжий		新鮮な

2. 3 A C型アクセント

形容詞のアクセント型ではA C 1型はA A型について生産性を持つアクセント型である。しかし安定しているものは少数で、A A型、あるいはA C 3型と競合関係にある場合がほとんどである。

2. 3. 1 AC1型安定

長語尾で語幹、短語尾女性形で語尾、それ以外の短語尾で語幹にあるアクセントすなわちAC1型に属す形容詞は筆者の調査だと全部で258語に上り、AA型に続く2番目の多くの対象語を有するアクセント型ではあるが、AC1型アクセントに安定しているのは少数で、本書の記載範囲では高々下記の20語のみである。

дешёвый	дешев	値段が安い	
лы́сый		禿の	
лю́тый		凶暴な	~люто́й BC1
ни́щий		乞食の	
о́бщий		一般的	「抽象的」はAB
о́стрый	остёр остр	鋭い	「機知に富む」はAB
по́длый		卑劣な	
по́стный	по́стен	植物性の	
се́рый		灰色の	副詞は се́ро~ серо́
си́ний		青い	
ско́рый		速い	
спо́рый		すばやい	
сты́дный	сты́ден	恥ずかしい	
сы́тный	сы́тен	お腹の一杯になる	
сы́тый		満腹の	
то́шный	то́шен	吐き気を起こさせる	
то́щий		痩せこけた	
ту́хлый		腐臭のする	
це́лый		全部の、完全な	
шиб́кий	шиб́ок	迅速な	

2. 3. 2 AC1型~AA型

AC1型アクセントを持つ形容詞全語のうち約半数を占める141語がAA型アクセントに転じる傾向を持っている。ただしそれらのうち23語は次項2. 3. 3

で述べるAC3型化の傾向を合わせ持つため、これらの23語は別に2. 3. 4に記した。残り118語のうちここに列挙するのは以下の89語である。

алый		赤い	
бу́йный	бу́ен	血の気の多い	
бу́рный	бу́рен	嵐の	
бу́рый		褐色の	
ва́лкий	ва́лок	不安定な	
вели́кий		偉大な	
ве́рткий	ве́рток	すばしっこい	
ве́тхий		古ぼけた	
взро́слый	взро́сел взро́сл	大人の	短語尾まれ、現今では主にAA
ви́дный	ви́ден	立派な	「見える」はAC1~AC3
вла́стный	вла́стен	高圧的	
вя́зкий	вя́зок	粘る	
га́дкий	га́док	不快な	
гла́дкий	гла́док	滑らかな	
гне́вный	гне́вен	怒りの	
гро́мкий	гро́мок	(声の) 大きい	
гу́лкий	гу́лок	響きわたる	
ди́вный	ди́вен	驚くべき、すばらしい	
до́хлый		くたばった	
дро́бный	дро́бен	細分された	
дря́блый		萎びた	
жесто́кий		残酷な	
жу́ткий	жу́ток	不気味な	
зо́ркий	зо́рок	めざとい	
зре́лый		熟した	
зы́бкий	зы́бок	不安定な、頼りない	
кле́йкий	кле́ек	ねばつく	

кóвкий	кóв <u>о</u> к	(金属について) 鍛えやすい
кóлкий	кóл <u>о</u> к	刺のある
краткий	крат <u>о</u> к	短い
крóткий	крóт <u>о</u> к	おとなしい
ладный	лад <u>е</u> н	かっこいい、よろしい
липкий	лип <u>о</u> к	ねばつく
ломкий	лом <u>о</u> к	もろい
людный	люд <u>е</u> н	人の多い
маркий	мар <u>о</u> к	よごれやすい
мерзкий	мерз <u>о</u> к	忌まわしい
мирный	мир <u>е</u> н	平和の
мóдный	мóд <u>е</u> н	流行の
мылкий	мыл <u>о</u> к	泡立ちのよい
наглый		厚かましい
нервный	нерв <u>е</u> н	神経質な
носский	нос <u>о</u> к	丈夫な
плавкий	плав <u>о</u> к	溶けやすい
плавный	плав <u>е</u> н	流れるような
плóский	плóс <u>о</u> к	平らな
пóтный	пóт <u>е</u> н	汗ばんだ
пошлый		俗悪な
пúхлый		ふっくらした
пылкий	пыл <u>о</u> к	燃えるような
пыльный	пыл <u>е</u> н	ほこりっぽい
рыжий		赤毛の
рыхлый		もろい、杜撰な
сдóбный	сдóб <u>е</u> н	(パンについて) 甘い味の付いている
сívый		あし毛の
сízый		灰青色の
сиплый		ハスキーな

скла́дный	скла́ден	均整の取れた
ско́льзкий	ско́льзок	滑りやすい
сла́вный	сла́вен	誉れ高い、すばらしい
сла́дкий	сла́док	甘い
смúтный	смúтен	おぼろげな
ста́тный	ста́тен	かっこいい
сто́йкий	сто́ек	頑強な
стра́нный	стра́нен	変な
стра́стный	стра́стен	情熱的な
схо́дный	схо́ден	手ごろな、お買得の 「類似の」はAA
те́рпкий	те́рпок	渋い
то́мный	то́мен	ものうげな
то́пкий	то́пок	ぬかるみの
тря́ский	тря́сок	がたつく
хва́ткий	хва́ток	握力の強い、呑込みの速い
хво́рый		病気の
хи́лый		ひ弱な
хле́сткий	хле́сток	辛らつな
хму́рый		不機嫌な
ходкий	хо́док	スピードの速い、よく売れる
хри́пный		しゃがれ声の
хру́пкий	хру́пок	もろい
це́льный	це́лен	きのままの、一貫した
це́нный	це́нен	貴重な
це́пкий	це́пок	握力の強い、不屈の
ча́стый		密な、頻繁な
че́ткий	че́ток	明瞭な
чи́нный	чи́нен	礼儀正しい
ша́ткий	ша́ток	ぐらついている
шу́пный		ひ弱な

юный		若い
юрский	юрок	すばしっこい

2.3.3 AC1型～AC3型

AC1型アクセントを持つ形容詞のうちAC3型とのゆれを持つ語はその約半数の129語である。そのうち23語がAC3型化とAA型化の両傾向を持つ。ここに記すのは残り106語のうち105語である。AC1型からAA型に転じる傾向を持つ形容詞の使用頻度がやや低いのに反して、AC1型からAC3型に転じる傾向を持つ形容詞は相当使用頻度が高い点が注目に価する。

бедный	беден	貧しい、乏しい	
блédный	блédен	青白い	
блízкий	блízок	近い	
бóдрый		元気いっぱい	
бóйкий	бóек	活発な	
ва́жный	ва́жен	重要な	
ве́рный	ве́рен	正確な	
весёлый	вёсел	うららかな	
ви́дный	ви́ден	見える	「立派な」はAC1～AA
вкúсный	вкúсен	おいしい	
во́льный	во́лен	自由な	
вре́дный	вре́ден	有毒な	
глúпый		馬鹿な	
голо́дный	голо́ден	空腹の	
го́лый		裸の	
го́рдый		誇り高い	
го́рький	го́рек	苦い	
гре́шный	гре́шен	罪深い	「ごめんなさい」は0B
гру́бый		粗野な	
гру́зный	гру́зен	かさばる	
гру́стный	гру́стен	悲しい	

грязный	грязен	きたない	
дерзкий	дерзок	厚かましい、大胆な	
дикий		野蛮な	
длинный	длинен	長い	「長すぎる」はA B
добрый		善良な	
долгий	долго	時間的に長い	
дружный	дружен	仲のよい	
душный	душен	蒸し暑い	
дюжий		たくましい	
жадный	жаден	食欲な	
жаркий	жарок	暑い	
жёлтый		黄色い	
жирный	жирен	油っぽい	
зелёный	зелен	緑の	
кислый	кисел	酸っぽい	
короткий	короток	短い	「短すぎる」はA B
красный	красен	赤い	但し говорить краснó
крепкий	крепок	堅い	
круглый		丸い	
крупный	крупен	大きな	
ловкий	ловок	巧みな、器用な	
мелкий	мелок	細かい	
мёртвый		死んだ	
милый		愛しい	
мокрый		濡れた	
мошный	мошен	強力な	
мрачный	мрачен	闇の	
мудрый		賢い	
мутный	мутен	濁った	
мягкий	мягок	柔らかい	

не́жный	не́жен	優しい、優美な	
ни́зкий	ни́зок	低い	
но́вый		新しい	
ну́дный	ну́ден	退屈な	
ну́жный	ну́жен	必要な	
пе́стрый		まだらの	
плóтный	плóтен	密な	
по́лный	по́лон	太った	「満ちた」は A B
пра́вый		正しい	
про́чный	про́чен	頑丈な	
пы́шный	пы́шен	ふかふかした	
пья́ный		酔った	
рэзвый		腕白な	
рэзкий	рэзок	激しい	
ро́бкий	ро́бок	小心な	
ро́вный	ро́вен	平らな、一様な	但し не ровён час
си́льный	силён	強い	
	си́лен		
скве́рный	скве́рен	醜悪な	
скро́мный	скро́мен	謙遜な	
ску́дный	ску́ден	不十分な	
ску́чный	ску́чен	退屈な	
сла́бый		弱い	
сло́жный	сло́жен	複雑な	
слы́шный	слы́шен	聞こえる	
сме́лый		大胆な	
сми́рный	сми́рен	大人しい	
смуѓлый		浅黒い	
соле́ный		塩辛い	短尾 со́лон солонá со́лоно
со́чный	со́чен	水気の多い	

спелый		熟した
старый		古い、歳をとった
страшный	страшен	恐ろしい
строгий		厳しい
стройный	строен	スタイルのよい
твёрдый		硬い
тесный	тесен	窮屈な
тихий		静かな
толстый		太い、太った
тонкий	тонок	細い
точный	точен	正確な
трудный	труден	困難な
тучный	тучен	肥沃な
тяжёлый	тяжек	重い、骨の折れる
удалый		命知らずの ~удалой ВС1~BC3
узкий	узок	狭い
холодный	холоден	寒い、冷たい
чёрствый		ひからびた
честный	честен	正直な
чистый		清潔な
чуждый		無関係の
шумный	шумен	うるさい
шустрый	шустёр	すばしこい
щёдрый		気前のいい
ясный	ясен	明るい、明白な

2. 3. 4 AC1型~AC3型~AA型

AC1型からAC3型に転じる傾向とAA型に転じる傾向の両方を持つ形容詞は筆者が調査した限りでは以下に記す23語のみである。

быстрый 速い

вла́жный	вла́жен	湿った
ги́бкий	ги́бок	柔軟な
гну́сный	гну́сен	忌まわしい
го́дный	го́ден	適する、役立つ
гро́зный	гро́зен	恐るべき
э́дкий	э́док	刺激のある、辛辣な
жа́лкий	жа́лок	哀れな
же́сткий	же́сток	堅い
жи́дкий	жи́док	液状の、希薄な
звóнкий	звóнок	響く
звúчный	звúчен	響きのよい
зна́тный	зна́тен	高貴な、著名な、すばらしい
ме́ткий	ме́ток	狙いの正確な
пре́сный	пре́сен	塩分を含まない、気の抜けた
пры́ткий	пры́ток	敏捷な
ре́дкий	ре́док	希な
скло́нный	скло́нен	適性を持つ、傾向のある
тре́звый		しらふの
ту́склый		くすんだ
хра́брый		勇敢な
чу́ткий	чу́ток	敏感な
я́ркий	я́рок	鮮明な

2. 4 В В型アクセント

В В型アクセントに安定しているのは以下の5語である。ただし злой の短語尾は зол зла зло зли と単音節語となるので А А型アクセントを持つといっても構わない。形容詞の В В型アクセントは減少の一途を辿っており、2. 5に記した語のうち доро́гой, дря́ннóй, ду́рнóй, простóй, пря́мо́й, уда́ло́й はかつて В В型アクセントを持っていたが、今では В С型に転じている。

больно́й	бо́лен	病んでいる	副詞・述語としては бо́льно
злой	зо́л	悪い	
смешно́й	смешо́н	おかしい	
хмельно́й	хмелён	酔っぱらった	
	хмеле́н		
чудно́й	чу́ден	奇妙な	чу́дный 「絶妙な」は AC1
	чуде́н		

2.5 BC型アクセント

2.5.1 BC1型安定

AC1型に安定している形容詞が比較的少数だったのと同様にBC1型アクセントに安定しているのも筆者の調査では僅か14語であった。それらのうち使用頻度の高い12語を記す。

благóй		善の
босо́й		裸足の
дорого́й	до́рог	貴重な
живо́й		生きている、生き生きしている
младóй		若い
наго́й		裸の
немо́й		おしの
развито́й	ра́звит	発達した
свято́й		神聖な
сыро́й		湿った
холосто́й	хо́лост	(男について) 独身の
хромо́й		びつこの

2.5.2 BC1～BC3

AC1型アクセントを持つ形容詞がAC3型に転じる傾向を持つ現象と平行にBC1型もBC3型に転じる傾向を持つ。対象語23語全部を記す。

глухо́й	つんぼの
гнило́й	腐った

густо́й		濃い、うっそうたる	
дря́ннoй	дря́ннeн	ろくでもない	
ду́рнoй	ду́рeн	悪い	
	ду́рeн		
косо́й		斜めの	
криво́й		曲がった	
круто́й		険しい	
лихо́й		大胆な；意地の悪い	
молодо́й	моло́д	若い	
плохо́й		悪い	
просто́й		単純な	
прямо́й		まっすぐな	
пусто́й		空っぽの	
рябо́й		斑の	
седо́й		白髪の	
скупо́й		けちな	
слепо́й		盲の	
сухо́й		乾いた	
туго́й		ぴんと張った	
тупо́й		鈍い	
удало́й		大胆な	～уда́лый АС1～АС3
худо́й		悪い、瘦せた	

2. 6 ØV型アクセント

長語尾の形がなく、短語尾だけV型アクセントを持つ形容詞を記す。

во́ле _н	вольна́	～する自由がある	во́льн _{ый} は АС1～АС3
гре́ше _н	грешна́	すみません	гре́шн _{ый} は АС1～АС3
мал	мала́	маленький (小さい) の短語尾代用	
		但し от мала́ до вели́ка (老いも若きも)	
вели́к	велика́	большо́й (大きい) の短語尾代用	

第Ⅲ章 動 詞

ロシア語の動詞は人称形態（不完了体現在形あるいは完了体未来形）、命令形、過去形、4種類の分詞（形動詞）、副動詞等の形態を持ち、動詞のアクセントを整理する際には、原則としてこれらの諸形態を別個に記述するのが得策である。動詞の諸形態のアクセントの中で特に注意を要するのは、1) 人称形態、2) 過去形、の二つであって、この両者のアクセント型を知ることによってその他の形態のアクセント修得が格段に簡素化される。従ってここでは基礎となるその両者のアクセントを整理・記述した後で、それを基に動詞のその他の形態のアクセントを概観するという形式を取った。アクセント型を記す際に用いる記号は他の品詞に於いて用いたのと同じA、B、Cの3つのアルファベットであり、それらの記号の意味するところは根本的に他の品詞についてと同様である。ある動詞全体のアクセント型を記す場合及び巻末の索引では、《читать АА》のように人称形態のアクセント型を示すアルファベットと、過去形のアクセント型を示すアルファベットを並記する。

動詞のアクセントを効果的に修得するためには、初めに動詞諸形態の形態的構造を知らねばならない。動詞の形態は他の独立語と同様に必ず語幹と語尾（ゼロを含む）を持ち、語幹は必ず一つの語根を持つ。語根の前に付いて語根と共に語幹を構成する要素を接頭辞、語根の後ろに付いて語根と共に語幹を構成する要素を接尾辞と呼ぶ。-ся, -теのように語尾のさらに後ろに付く要素も接尾辞の一種であるが、特に後接辞と呼ぶこともある。動詞の人称形態と過去形に現れる後接辞は -ся -сьのみであり、前者は子音で終わる語尾の後に、後者は母音で終わる語尾の後に用いられる。アクセントは動詞の諸形態を形作る何れかの形態素の上に落ちる。

動詞の派生についても言及しておく必要がある。接頭辞を持たない動詞（本源動詞 *исходный глагол* と呼ばれる）は原則として不完了体であり、このような基本的な本源動詞に接頭辞を付けると完了体動詞が派生するが、これらの新しく作られた完了体動詞は本源動詞の基本的意味を保持し、その活用語尾やアクセントは原則として変わらない。例えば *читать* は接頭辞を持たない不完了体の本源動詞であって、これに色々な接頭辞を付けることによって、「読む」という根本的意味は保持しながらも、少しずつ意味の異なる完了体動詞が派生する。*за-читать* となると「読み始める」とか「人の前で声を出して読む」の意味となり、*пере-читать* だと「読み返す」、*про-читать* だと「読み通す」等の多数の完了体動詞が派生する。最後に出した *прочитать* は普通 *читать* に対応する完了体とみなされる。これらの接頭辞によって新しく作られた完了体動詞からさらに不完了体を作るためには語根の後に付いて語幹を構成するのを助ける接尾辞を取り替える。*читать* を形態素に分析すると *чит-а-ть* となり、語根の *чит-* に接尾辞 *-а-* が付いて語幹を構成しているが、例えば接頭辞付与によってできた完了体 *про-чит-а-ть* に対応する不完了体は接尾辞を *-ыва-* に取り替えて *про-чит-ыва-ть*（繰り返し読み通す）となる。同様に他の接頭辞を付けた完了体動詞からも対応の不完了体が派生するのを原則とするが、時に不完了体が派生されない場合もある。上記の *зачитать* を例にとると、「人の前で声を出して読む」の意味では対応の不完了体 *зачитывать* が形成されるが、「読み始める」の意味では不完了体は派生できなくなる。この過程を以下のように図示しておく。

不完了体		完了体		不完了体
<i>читать</i>	→	<i>прочитать</i>	→	<i>прочитывать</i>
(<i>чит-а-ть</i>)		(<i>про-чит-а-ть</i>)		(<i>про-чит-ыва-ть</i>)
	→	<i>перечитать</i>	→	<i>перечитывать</i>
		(<i>пере-чит-а-ть</i>)		(<i>пере-чит-ыва-ть</i>)
	→	<i>зачитать</i> ¹	→	<i>зачитывать</i>
		(<i>за-чит-а-ть</i>)		(<i>за-чит-ыва-ть</i>)
	→	<i>зачитать</i> ²		

順序が逆になるが、さきに2次的な不完了体を構成する接尾辞について概観し、その後で主な接頭辞とその意味について述べることにする。

2次的な不完了体を構成する主な接尾辞には以下のものがある：

-ыва-/-ива-

この接尾辞にはアクセントを獲得する力が全くなく、アクセントは必ずこの接尾辞の前の音節（多くの場合は語根）に移る。

-ива- は軟子音の後、及び正書法で **ы** との結合が許されない子音の後で用いられる。**-ива-** の前で語根末の子音は以下のように交替する。これらの子音交替の詳細については下記1. 1. 2を参照。

т/ч, д/ж, с/ш, з/ж; ст/щ, зд/зж; п/пл, б/бл, м/мл, ф/фл, в/вл

語根の母音は o/a の母音交替を生ずることが多い。

例：просить (頼む) → спросить → спрашивать (尋ねる)

ходить (歩く) → проходить → прохаживать (ある時間歩き回る)

колоть (刺す) → проколоть → прокалывать (穴を開ける)

-а-/-я-

これらの接尾辞は常にアクセントを有する。対応の完了体動詞は接尾辞 **-и-** を持つことが非常に多い。語根末の子音は上記の場合と同様に交替することが多いが、若干の例に於いては教会スラブ語系の子音交替 **д/жд, т/щ** を生じることもある。詳細については1. 1. 2を参照のこと。語根の母音は交替することも多い。しかし現代語ではその母音交替のかたわれがなくなってしまった場合が多々ある。

例：брать (取る) → собрать → собирать (集める)

будить (起こす) → возбудить → возбуждать (感情を引き起こす)

звать (呼ぶ) → называть → называть (名付ける)

第1の例、第3の例ではそれぞれ **ь/и, ь/ы** の母音交替が起こっていたが、現代ではかつての短い母音 **ь, ь** がなくなってしまったのでゼロと **и, ы** との交替となっている。

-ва-

上述の **-а-** に母音が先行するとき母音連続を避けるため間に **в** を挿入したものであって、同様の現象が日本語の「小雨」(ko-s-ame < ko-ame)

等にも見られる。

例：зреть（熟す） → созрёть → созрева́ть（成熟する）

мочь（できる） → помо́чь → помога́ть（助ける）

後者の例では語根が мог- であって、これに不定形のマーカー -ть が後続すると、ロシア語では語根末の子音 г と ть が一緒になって чь となると考えてよい。

後述の 1. 2. 2 に記したように дать знать стать に接頭辞を付けた完了体から逆成される不完了体 -дава́ть -знава́ть -става́ть の人称形態は -даю́ -даёт -дают; -знаю́ -знаёт -знают; -стаю́ -стаёт -стают となる。これは人称形態で V 型アクセントを持つ特徴の 1 つである。

以下に主な接頭辞とその基本的意味を記す。

в-/во-

内部への運動

войти（歩いて入る）、вбить（打ち込む）、вли́ть（注入する）

вз-/вс-/взо-

1. 上への運動

взойти（登る）、взлететь（飛立つ）、вски́нуть（投上げる）

2. 激しい動作

взорвать（爆発させる）、вскипеть（煮立つ）

воз-/вос-

1. 上記 вз- と同義、多く抽象的意味で用いられる

возложить（課す）、возлю́бить（熱愛する）

2. 再度の動作

восстанови́ть（復興する）、возро́дить（復活させる）

вы-（完了体動詞では必ずアクセントを持つ）

1. 外部への運動

вы́ехать из города（町から出る）

2. 結果の達成

вы́служить пен́сию（勤め上げて年金をもらう）

до-

ある点までの到達・達成

дойти́ до реки́ (川まで行く)、дожить́ до ста (百まで生きる)

за-

1. 行為の開始

запла́кать (泣き出す)、замолча́ть (黙る)

2. 向こう側への運動

зае́хать за го́ру (山の向こうへ行く)

3. 付随する運動 (運動の動詞から作る)

зайти́ в магази́н по пу́ти домо́й (帰る途中で店による)

из-/ис-/изо-

1. 全部に及ぶ動作

израсхо́довать де́ньги (金を使い果たす)

2. 極度の動作

изму́чить (散々苦しめる)、иззя́бнуть (すっかり凍える)

на-

1. 表面に向かう運動

налетéть на стол (走って柱にぶつかる)

2. 十分に

натопи́ть ко́мнату (部屋を十分に暖める)

над-/надо-

上部への付加的動作

надстро́ить дом (家の2階を立て増す)

недо-

不十分な動作 (не と до の合成)

недоспа́ть (眠り足りない)、недое́сть (食い足りない)

низ-/низо-/нис-

下への運動 (より一般的には с-)

низойти́ (降りる 普通は спуститься́, сойти́ を用いる)

о-/об-/обо- (原義は円運動)

1. 周囲の動作

огороди́ть сад (庭を垣根で囲む)、обойти́ круг一周する)

2. 迂回動作

обойти́ пень (切株をよけて行く)

3. 全部にわたる動作

обойти́ знако́мых (知人を歴訪する)

обез-/обезо-/обес-

「～をなくす」(о と без の合成)

обезжи́рить (余計な脂肪 (жир) を取り去る)

обеспе́чить (心配 (пека) をなくさせる 保証する)

от-/ото-

1. 分離する動作

отлетéть от аэропóрта (飛行場を離陸する)

2. 動作の中断・完了

отзанима́ться (勉強を終える)、отцвести́ (咲終わる)

пере-

1. 横断運動

переéхать (через) у́лицу (通りを渡る)

2. 動作のやり直し

перезвони́ть кому́ (もう一度電話をかける)

3. 過度の動作

переоцени́ть (過大評価する)、перее́сть (食べ過ぎる)

4. 多数に及ぶ動作

перечита́ть все кни́ги (本を全部読む)

по-

1. 運動の開始 (運動の動詞の定方向動詞のみから派生する)

пойти́ (歩いて出発する)、поéхать (乗り物で出発する)

2. 短時間・軽度の動作「ちょっと、少し」

полежа́ть (ちょっと横になる)、поговори́ть (お喋りする)

под-/подо-

1. 下部へ・下部からの動作

подчеркн^уть (アンダーラインを引く、強調する)

2. 接近する運動

Поезд подх^одит. (電車が今やって来た)

пре-

上記 пере- と同義だが教会スラブ語起源のため頻度は低い

преобразов^ать (改造する)、преувелич^ить (誇張する)

пред-/предо-

前もってする動作・行為

предв^идеть (予見する)、предсказ^ать (予言する)

при-

1. 到着する動作

прилет^еть в Москв^у (飛行機でモスクワにやって来る)

2. ごく軽度の動作

приоткр^ыть окн^о (窓をほんのちよつと開ける)

про-

1. 貫通・通過する運動・動作

проб^ить скал^у (岩に穴を開ける)、про^ехать сквоз^ь тунн^ель
(トンネルを通る)、Прост^уда прош^ла. (風邪が直った)

2. 長い時間にわたる一続きの動作

прораб^отат^ь пятьдесят лет (50年間働き通す)

3. 一定の距離の通過

пр^ойт^и д^есять километ^оров (10キロ歩き通す)

раз-/разо-/рас-

1. 一点から多方向に向かう運動・動作

разойт^ись по дом^ам (各々帰路につく)

2. 一点に集中した状態の解除

разд^ать (分配する)、разб^ить (砕く)、разв^яз^ать (縛った物をほどく)、разор^вать (粉々に破る)

3. 動作の失効、逆の動作

разлю́бить (嫌いになる)、разморозíть (解凍する)

с-/со-

1. 下への運動

съехать с горы (下山する)、стечь (流れ落ちる)

2. 表面からの離脱

смахну́ть пы́ль (ほこりを払う)、сорва́ть (むしり取る)

3. 一点への集中

собра́ться (集まる)、сшить (縫い合わせる)

4. 一回の往復運動 (運動の動詞の不定方向動詞から作る)

сходи́ть на ста́нцию (駅に行つて来る)

у-

1. 遠方への運動

уехать в Пари́ж (パリに去る)、уйти́ из до́ма (家出する)

2. 十分に (満足するまで・最後まで) 行われる行為

уговори́ть (説得する)、убере́чь (守り通す)

1. 動詞人称形態

1. 1 概説

ロシア語の動詞には人称形態が原則として一組しかない。¹⁾ すなわち不完了体の動詞には現在時制の人称形態のみが、完了体の動詞については未来形²⁾の人称形態のみが存在し、助動詞を用いずに当該の動詞自身の変化(活用)によって作られる単一人称形態はこれ以外には無い。一方不完了体動詞の現在形と完了体動詞の未来形の活用語尾は全く同一であり、一連の本源動詞と呼ばれる不完了体動詞に接頭辞を付ければ完了体動詞が派生するが、両者はアクセントを異にしながらも同一の活用語尾を持つ。活用語尾のみならずアクセントについても完了体未来形と不完了体現在形を分かち特徴は皆無である。従って、動詞の語形変化あるいはアクセントを論じる際に両体を区別する必要は全く無く、完了体未来形と不完了体現在形に共通する命名を施し、両者を一括して扱う方がエコノミーの原則に照らしてより好ましい。両者の共通な呼称として考えられる案がいくつかあろうが、筆者は本書に於いて形態的にそのものすばりの「人称形態」を採用する。他に有力な案としてはその時制の意味から否定的に付けた名称である「非過去形」等が考えられる。

1) 筆者の知る限りロシア語の動詞で異形態を除いて2種類の人称形態を持つ動詞は *быть* の一語のみである。*быть* は通例不完了体動詞として記述されるが、現在形の *есть/∅* (及び希用の3人称複数形 *суть*) 以外に例外的に未来形 *бúду, бúдешь, …* を持つ。ちなみに例えば *«Он бúдет врачóм.»* は完了体の *стать* を用いた *«Он стáнет врачóм.»* と事実上同義であり、*быть* の未来形は完了体に等しいと考えられる。従って *быть* は完了体と不完了体の両方に属することになる。

2) 完了体動詞の人称形態を「現在形」と称する主義を持つロシア語学者も散見される。この立場に立つと完了体の「現在形」が「未来」の意味を持つことになって、名称としては不都合であると考えている。筆者はより明示的な「未来形」を好む。

1. 1. 1 動詞人称形態の構成

動詞人称形態の形態的構成について概略しておく。動詞人称形態は他の独立語と同様に必ず語幹と人称語尾を持ち、語幹は必ず一つの語根を持つ。語根の前に付いて語根と共に語幹を構成する要素を接頭辞、語根の後ろに付いて語根と共に語幹を構成する要素を接尾辞と呼ぶ。語尾のさらに後ろに付く要素も接尾辞の一種であるが、特に後接辞と呼ばれることもある。語尾以外の説明は冒頭に記したので省略する。

語尾には周知のように基本的に以下の2系列があり、一般に前者を第1変化、後者を第2変化と呼ぶが、ここでは筆者の好みから前者をE変化、後者をI変化と呼ぶこともある。第1変化の語尾は接尾辞を持つ語幹の後にも、持たない語幹の後にも用いられるが、第2変化の語尾は原則として接尾辞を持たない語幹の後で用いられる。記す順序は慣用に従って、1人称単数、2人称単数、3人称単数、1人称複数、2人称複数、3人称複数である。以下では紙面節約のため〈1)〉は第1変化を、〈2)〉は第2変化をそれぞれ示すものとする。

- 1) -ю, -ешь, -ет, -ем, -ете, -ют
 -у, -ешь, -ет, -ем, -ете, -ут
 чит-á-ю, чит-á-ешь, чит-á-ет, чит-á-ем, чит-á-ете, чит-á-ют
 жив-ý, жив-ёшь, жив-ёт, жив-ём, жив-ёте, жив-ут
- 2) -ю, -ишь, -ит, -им, -ите, -ят
 -у, -ишь, -ит, -им, -ите, -ат
 говор-ю, говор-ишь, говор-ит, говор-им, говор-ите, говор-ят
 леж-у, леж-ишь, леж-ит, леж-им, леж-ите, леж-ат

本来はこれらの語尾もさらに接尾辞(幹母音 темаとも) -e-, -и- 等と元々の語尾に分析されうるが、現在ではこれらの接尾辞を含めて語尾と呼ぶことが一般的で、かつ1人称単数と3人称複数でのこのような接尾辞の分析が困難なため、詳細は省略する。

хотеть とそれに接頭辞を付けた派生語は、単数に於いて第1変化の語尾を持ち、複数に於いて第2変化の語尾を持つ。

現代ロシア語に於いて、上記以外の人称語尾を持つのは *дать* (与える) と *есть* (食べる)¹⁾ およびそれに接頭辞を付けた派生語だけである。

1. 1. 2 子音交替

語幹が子音で終わる動詞の人称形態を作る場合に、語幹末の子音と語尾との接合点で(本来の)ロシア語として許されない音連続を形成することがある。このような場合に語幹末の子音が、その位置で許される類似した他の子音に置き換えられることになる。これが子音の交替である。動詞でこのような子音交替を起こすのは、人称形態の他には被動形動詞過去(受動分詞)のみである。以下に動詞の人称形態で生ずる子音交替を概観する。以下で人称形態を記す場合には紙面節約のため原則として1人称単数、3人称単数、3人称複数のみとする。

通例、子音交替は2種類に分類される。その第1は位置的交替と呼ばれ、ある子音の後ろにどのような音(典型的なのは母音)があるかによって、その子音が硬子音になったり、軟子音になったりすること、言い替えれば位置環境による硬子音と

1) これらはいわゆる無幹母音動詞(нетематический глагол)の現代ロシア語に於ける唯一の残存物である。両者は単数の諸形態に於いて語幹(ここでは語根に等しい)と元々の語尾とを結び付ける母音を持たず、従って語幹末の子音と、子音から始まる元々の語尾との接合点で子音連続が形成され、古くは一定の子音連続が許されなかったことから、その子音連続を成す第1の子音(すなわち語幹末の子音)が脱落したり、別な子音に置き換えられたりした。その結果、両者の語幹 **дд-* と **ед-* の末尾の子音 *д* は1人称単数の語尾 *м(+短い母音)* の前では脱落し、2人称単数の語尾 *си* の前でも脱落し、3人称単数の語尾 *т(+短い母音)* の前では異化して *с* に置き換えられた。その後2人称単数の語尾にはアナロジーによって *ши* が採用され、その後で末尾の母音が弱化・消滅して *ш* (正書法上 *шь*) となった。これによってようやく現代ロシア語の両動詞の人称形態の単数形である *дам, дашь, даст; ем, ешь, ест* を得るが、現代ではその複数形に於いて幹母音 *и* を用いるようになり、今日の *дадим, дадите; едим, едите* に至っている。3人称複数では両者の語尾が異なり、*дадут; едят* となっている。

軟子音との交替である。例えば *стать* という動詞の人称形態 *стан-у стан-ет стан-ут* を見てみると、語尾が硬母音で始まっている場合（すなわち 1 人称単数と 3 人称複数）の語幹は *стан-* であるが、その他の形態では語尾が軟母音 *e* から始まっているので、語幹末の子音が軟化して、語幹は *стан'-* となる。位置的交替は原則として規則的に行われるので本書では扱わないことにする。

子音交替の第 2 の場合は歴史的交替とも呼ばれており、その名が示すとおりその起源は古く、ある子音が置かれた環境（最も典型的なのは後続する母音の性質）によって硬子音と軟子音のような極小さな差異を生ずるのではなく、全く異なる子音と交替してしまう場合を言う。例えば *лечь* という不定形を持つ動詞の人称形態は、*ляг-у ляж-ет ляг-ут* であって、語尾が後舌母音で始まっている場合（すなわち 1 人称単数と 3 人称複数）の語幹は *ляг-* であり、語幹末の軟口蓋音 *г* が保存されるが、それ以外の形態では語尾が前舌母音 *e* で始まっており、古くは軟口蓋音に前舌母音が後続することが不可能であったため、語幹末の子音が全く変わってしまって、その語幹は *ляж-* に交替している。不定形が *видеть* である動詞の人称形態は *виж-у вид-ит вид-ят* であって、1 人称単数形でのみ語幹末の子音 *д* が *ж* に交替するが、この交替を現代ロシア語に現れる音環境のみで規定するのは不可能である。この交替はこの動詞については 1 人称単数でのみ用いられ、表記上現れない接尾辞 *-j-* によって引き起こされ、*д* に *-j-* が後続すると *ж* になると解釈される。ここではこのような歴史的交替を単に子音交替と呼ぶ。

このような子音交替は第 1 変化の語尾を持つ場合には全部の人称形態に於いて生じ、第 2 変化の語尾を持つ場合には 1 人称単数形のみにおいて生ずるのを原則とするが、若干の第 1 変化動詞では 1 人称単数と 3 人称複数に於いてこのような子音交替を行わないことがある。これに該当する動詞は語幹末に子音 *г* あるいは *к* を持っている *беж-ать* (語幹 *бег-*) : *бег-у́ бег-и́т бег-у́т*, *моч-ь* (語幹 *мог-*) : *мог-у́ мо́ж-ет мо́г-ут*, *печ-ь* (語幹 *пек-*) : *пек-у́ печ-е́т пек-у́т* などであり、その不定形は *-чь* に終わることが多い。¹⁾

1) 語幹末の *г* あるいは *к* が不定形のマーカである *-ть* と一緒になると *-чь* になると考えてよい。次ページの註に記すように *беж-ать* の不定形は補充法による。

1. 軟口蓋音

軟口蓋子音 г к х は前舌母音や、表記上出てこない接尾辞 $-\text{j-}$ ¹⁾ の前でそれぞれ (硬) 口蓋²⁾ 摩擦音あるいは破擦音 ж ч ш に交替する。この子音交替は第1パラタリゼーションと呼ばれる。

$\text{к} > \text{ч}$ ³⁾

1) пла́к-а-ть	пла́ч-у	пла́ч-ет	пла́ч-ут
печь (*пек-ть)	пек-у́	печ-ёт	пек-у́т

$\text{г} > \text{ж}$

1) двíг-а-ть	двíж-у	двíж-ет	двíж-ут ⁴⁾
мочь (*мог-ть)	мог-у́	мож-ет	мог-ут

2) беж-а́-ть	бег-у́	беж-и́т	бег-у́т ⁵⁾
--------------	--------	---------	-----------------------

$\text{х} > \text{ш}$

1) мах-а́ть	маш-у́	маш-ет	маш-ут
-------------	--------	--------	--------

1) 例えば以下に示す двиг-а-ть の人称形態は двиг-j-у двиг-j-ет двиг-j-ут のようにこの接尾辞を用いて人称形態を構成し、 гj が ж となることからここに示したパラダイムを得る。一方、例えば мочь は人称形態を構成する際にこの接尾辞を介さず、語根の後に直接に人称語尾を付加するので、前舌母音 e から始まる語尾の前でのみ第1パラタリゼーションを起こす。

2) 口蓋の奥の骨のない部分を軟口蓋と呼ぶのに対して、骨のある部分を硬い口蓋という意味で硬口蓋と呼ぶ立場の研究者と、単に口蓋と呼ぶ研究者がいる。

3) この例外がロシア語にたった1語ある。それは ткать (語幹 тк-) であって、その人称形態は тк-у тк-ёшь тк-ёт тк-ём тк-ёте тк-ут となり、後続母音の性質にかかわらず語幹末の軟口蓋音 к が保持される。

4) 新しい形として、不定形、過去形などで用いられる接尾辞 $-\text{а-}$ を用いた人称形態 двíг-а-ю двíг-а-ет двíг-а-ют もある。

5) 本来この動詞の不定形と人称形態は全く別個な動詞に属していた。現在では、古代ロシア語にあった動詞 бѣчи ($\langle *b\acute{e}g-ti$ 、語幹 бѣг- 、現代ロシア語に残っていたと仮定すると $*бечь$ が期待される) の人称形態と、同じ語根から作られた беж-ать (\langle 古代ロシア語 $\text{бѣжѣти} \langle *b\acute{e}g-\acute{e}-ti$) のそれ以外の形を補充法 (suppletion,

2. 歯茎音

歯茎音 $c \text{ } \varepsilon \text{ } т \text{ } д$ は表記には現れない接尾辞 $-j-$ の前でそれぞれ以下のような音あるいは音連続に交替する。以下の子音交替は第1変化をする動詞では全人称形態に、第2変化をする動詞では1人称単数のみに現れる。

歯茎閉鎖音 $т \text{ } д$ はそれぞれ $ч \text{ } ж$ に交替する場合と、 $ш \text{ } жд$ に交替する場合とがあるが、これらのうち前者がロシア語本来の子音交替であり、後者は、古代教会スラブ語を模した擬古文であって、かつてロシアに於いて文語の役割を果たした教会スラブ語からの借用である。従って、両者のうち前者の例はかなり多いのに反して、後者の出現頻度は比較的低い。

$c > ш$

1) пис-á-ть	пиш-ý	пиш-ет	пиш-ут
2) прос-й-ть	прош-ý	прós-ит	прós-ят

$\varepsilon > ж$

1) рéз-а-ть	рéж-у	рéж-ет	рéж-ут
2) воз-й-ть	вож-ý	вóз-ит	вóз-ят

$т > ч$

1) прýт-а-ть	прýч-у	прýч-ет	прýч-ут
2) от-вéт-и-ть	от-вéч-у	от-вéт-ит	от-вéт-ят

$т > ш$

1) трепет-á-ть	трепеш-ý	трепéш-ет	трепéш-ут
----------------	----------	-----------	-----------

$д > ж$

1) глод-á-ть	глож-ý	глож-ет	глож-ут
2) буд-й-ть	буж-ý	бúд-ит	бúд-ят

$д > жд$

1) страд-á-ть	стражд-у	стражд-ет	стражд-ут (古) ¹⁾
---------------	----------	-----------	-----------------------------

супплетивизм) によって結び付けて新たなパラダイムを構成している。

1) この子音交替を伴う活用は既に古くなっており、不定形その他で用いられる接尾辞 $-а-$ を用いて作られる新しい人称形態 $страд-á-ю \text{ } страд-á-ет \text{ } страд-á-ют$ が一般的になっている。

3. 唇音

唇音 п б ф в м に表記には現れない接尾辞 -j- が後続すると、両者の間に л が挿入される。一般的にはこれを上記の唇音と пл бл фл вл мл との子音交替をみなすことが多いのでここでもそれに従っておく。

これらの子音交替は第1変化では全ての人称形態に、第2変化では1人称単数のみに現れる。語幹末に ф в を持つ動詞で第1変化を行う動詞はないようであるが、これは accidental gap であろう。特に前者はロシア語の音韻組織に取り入れられてから日の浅い音で、ほとんど外来語にしか出てこないから、勢いここでも対象になる語が少ない。

п > пл

- | | | | |
|-------------|---------|----------|----------|
| 1) кáп-а-ть | кáп-л-ю | кáп-л-ет | кáп-л-ют |
| 2) топ-й-ть | топ-л-ю | топ-ит | топ-ят |

б > бл

- | | | | |
|---------------|-----------|------------|------------|
| 1) колеб-á-ть | колеб-л-ю | колеб-л-ет | колеб-л-ют |
| 2) люб-й-ть | люб-л-ю | люб-ит | люб-ят |

в > вл

- | | | | |
|-------------|---------|--------|--------|
| 2) лов-й-ть | лов-л-ю | лов-ит | лов-ят |
|-------------|---------|--------|--------|

ф > фл

- | | | | |
|--------------|----------|---------|---------|
| 2) граф-й-ть | граф-л-ю | граф-йт | граф-ят |
|--------------|----------|---------|---------|

м > мл

- | | | | |
|------------------|--------------|-------------|-------------|
| 1) дрем-á-ть | дрем-л-ю | дрём-л-ет | дрём-л-ют |
| 2) стрем-й-ть-ся | стрем-л-ю-сь | стрем-йт-ся | стрем-ят-ся |

4. 重子音

接尾辞 -j- の前で語幹末の子音連続 ст ск は ш に、зд зг は ж (但しその発音は ж の長音 [жж]) に交替する。

これらは上記の音交替の変種と考えることも可能である。接尾辞 -j- が ст に後続すれば、上記2の変化を受けて、ст-j>сч となり、сч が結局は ш に転じるとみなしてよからう。同様に ск-j>сч>ш、зд-j>эж、зг-j>эж と説明されることになる。

ст > ш

1) хлест-á-ть хлещ-ú хлещ-ет хлещ-ут

2) груст-й-ть груш-ú груст-ит груст-ят

ск > ш

1) иск-á-ть ищ-ú ищ-ет ищ-ут

зд > зж 発音は [жж]

2) éзд-и-ть éзж-у éзд-ит éзд-ят

зг > зж 発音は [жж]

1) бры́зг-а-ть бры́зж-у бры́зж-ет бры́зж-ут ¹⁾

ここではわが国で一般的な音声学の用語に従い、子音分類の調音位置として上記のように口腔の不可動の部分、即ち上顎にある部分を用いて、歯茎音、(硬)口蓋音、軟口蓋音等と称したが、ソ連の音声学者はそれに反して下顎にある舌を用いてそれぞれ前舌音、中舌音、後舌(奥舌)音と称することがある。筆者が後者の呼称を採用しなかったのは筆者の個人的好みに加えて以下の3つの理由による。

第1にわが国の音声学では子音の分類について上顎の名称を用い、母音の分類について舌の位置を用いるのが一般的になっており、この慣用を破ることはロシア語学以外に携わる人々に奇異に感ぜられる懸念があること。

第2に母音よりも厳密に調音位置を定義する必要がある子音の分類に可動な舌を用いるよりも不可動な上顎を用いる方が詳細な研究には便利であること。

第3に後者の方法では子音分類に舌を用いて前舌・中舌・後舌と称しておきながら、上記1の子音交替に関してだけ前者の方法に基づいた名称である(硬)口蓋化 (palatalization, палатализация) を採用して、純粹に前者の方法に従った前舌化あるいは中舌化とは呼ばれていないというアンバランスを呈していること。

上記のような理由でここに記した呼称を採用するに至った。

1) 接尾辞 -а- 用いて бры́згаю бры́згает бры́згают と変化する場合もある。

1. 2 動詞人称形態のアクセント型

動詞の人称形態のアクセント型には以下の3種類しかない。記号の意味は他の品詞についてと同様である。動詞過去形と被動形動詞過去（受動過去分詞）では接頭辞にアクセントを置くことも可能であるが、動詞人称形態では語幹アクセントは必ず語根あるいはその後ろの接尾辞に落ちる。動詞過去形では後接辞にさえアクセントを置くことがあるが人称形態ではそのようなアクセントは用いられない。

A型：語幹固定アクセント

常に語幹にアクセントを有す

éd-у éд-ешь éд-ет éд-ем éд-ете éд-ут
 ГОТÓВЛ-ю ГОТÓВ-ишь ГОТÓВ-ит ГОТÓВ-им ГОТÓВ-ите ГОТÓВ-ят

B型：語尾固定アクセント

常に語尾にアクセントを有す

ид-ú ид-ёшь ид-ёт ид-ём ид-ёте ид-út
 леч-ú лет-ишь лет-ит лет-им лет-ите лет-ят

C型：移動アクセント

語幹アクセントと語尾アクセントが交替する

пиш-ú пиш-ешь пиш-ет пиш-ем пиш-ете пиш-ут
 кур-ю кúр-ишь кúр-ит кúр-им кúр-ите кúр-ят

動詞の人称形態に於ける移動アクセントは上記のパターン、即ち1人称単数で語尾に、それ以外の形で語幹にアクセントを有する場合しかない。

ロシア語の全ての動詞の人称形態は上記A型、B型、C型のいずれかのアクセント型を持つ。この例外を成すのは хотеть 及びその接頭辞による派生動詞のみである。хотеть は単数形で хоч-ú хоч-ешь хоч-ет と第1変化の語尾を持ち、т/чの子音交替を行い、アクセントはC型である。一方、複数形では хот-им хот-ите хот-ят と第2変化を行い、子音交替もせず、アクセントはB型である。このような例外的変化を有する1語のためにアクセント型を設定するのは些か愚かしいが、その人称形態のアクセント型はいわばC/V型とでもいうことになる。

特殊な人称変化をする дать と есть はアクセント型という点ではB型に属すと

みなすことができる。これらは複数形で *дад-ím дад-íte дад-út; ед-ím ед-íte ед-ят* と語尾に固定したアクセントを持つことは明白だが、単数形 *да-м да-шь да-т; е-м е-шь е-т* と単音節であるため、単数でも語尾に固定したアクセントがあって、語尾が音節を成さないため語幹に仮アクセントがあるとみなしてよからう。歴史的経緯については上記の動詞人称形態の構成の中の語尾についての項目とその註を参照のこと。

これまでの基礎概念の整理によって、*дать есть хотеть* を除く一般の動詞の人称形態は1) 語幹、2) 語尾の型、3) 子音交替、4) アクセント型、の4つの要因によって完全に定義されることになる。索引及び変化形を記す必要がある場合にはこれら4つの要因を列挙して以下の例のように略記することにする。但し第4の要因の后者は後述する過去形のアクセントを示す。2. 過去形を参照のこと。

例1: *пис/ать 1 ш С А*

人称形態の語幹が不定形の一部である場合には上記のように不定形にスラッシュを挿入する。これによってその前が人称形態の語幹に等しいことが解る。例1は人称形態の語幹が *пис-* であり、第1変化の語尾を持ち、語幹末の子音 *с* が人称変化の際には *ш* に交替し(第1変化であるから全人称形態について)、人称形態のアクセント型はC型であって、周知のように過去形の語幹は不定形からそのマーカー *-ть* を除いたものに等しいから、過去形は語幹が *писа́-* であって、そのアクセント型はA型であることを示し、結果的に *пишú пишешь..., писал писалá*...のように人称形態と過去形全部を記すのと等価になる。

例2: *бра́ть (人称語幹 бер-) 1 В С*

人称形態の語幹が不定形の一部に等しくない場合は括弧の中に該当する語幹を示しておく。これによって例1の場合と同様に、例2は *беру́ берёшь..., брал бра́ла бра́ло бра́ли* と等価となる。

例3: *вести́ (語幹 вед-) 1 В В*

これは不定形を作る際に不定形の印 *-ть, -ти* と語幹末の子音とが融合してしまう例である。この表示から人称形態と過去形を導くことができるが、不定形と過去形では子音の異化と脱落が生じている。不定形のマーカー *-ть, -ти* の前で語幹末の *д* が異化して *с* となり、過去形を構成する際に語幹末の子音 *д* が過去形の印 *л* の前で脱落する。その詳細は過去形の項目に記してある。従って、この表示から

веду́ ведёшь..., вёл вела... が導かれる。

例4 : жéчь (語幹 жéг-) 1 ж В В

語幹の母音が出没母音である場合である。このような出没母音には上記のように2重の下線を引いておく。語幹の後ろに母音が続く場合にこの出没母音はなくなってしまい、その人称形態 жгу жжéшь... が導かれる。過去形では男性形のみで過去形の印である л が脱落し жéг жгла... となるが、その詳細については過去形の項目を参照のこと。

1. 2. 1 A型アクセント

人称形態全てにわたってアクセントが語幹にあるアクセント型である。予想されるようにこの型が絶対的多数を占め、生産力も旺盛で、新しい動詞や、外来語から作られた動詞などは例外なくこのアクセント型に属するようになると言える。教育的見地からは不定形のアクセントが人称形態に於いても保持されると言えるので、注意すべき必要性のほとんどないアクセント型である。

動詞の人称形態を構成する形態素のうち、アクセントを獲得する可能性があるのは原則として語根、接尾辞、語尾の何れかであって、接頭辞にアクセントを持つ人称形態は例外的である。語幹の中の接頭辞に例外的にアクセントを持つ語は接頭辞 вы- を持つ完了体動詞と、ドイツ語の aussehen から翻訳借用したと考えられている不完了体の выглядеть (～のように見える) のみである。若干の例を挙げる。

常に語根にアクセントを有する A 型

éd-у éd-ет éd-ут 不定形 éхать

常に接尾辞にアクセントを有する A 型

чит-á-ю чит-á-ет чит-á-ют 不定形 чит-á-ть

рис-ý-ю рис-ý-ет рис-ý-ют 不定形 рис-ова́-ть

最後の例のように接尾辞 -ова-/-у- を持つ動詞については 1. 2. 2 参照。

常に語幹にアクセントがあるという意味で他の品詞との統一を図って A 型という共通の呼称を採用したが、語形成からみると常に語根にあるアクセントと常に接尾辞にあるアクセントを区別すべきだという議論もある。現にそのような立場を取ると受けるメリットも多いようだが、残念ながら本稿では執筆の時間的制約のためそのような立場に基づいた網羅的研究は断念せざるを得なかった。

1. 2. 2 B型アクセント

ид-ти́: ид-у́ ид-ёт ид-у́т のように人称形態全てにわたってアクセントが語尾にあるアクセント型である。この型にも非常に多くの対象語があり、紙面の制約のためそれら全部をここで記載するのは不可能であるが、以下の4つの簡便な識別法を示すことができる:

1) 不定形でアクセントが最終音節にあり、第2変化を行う動詞

このような動詞は人称形態に於いて原則としてB型アクセントを持つ。その例外はC型アクセントとなる場合で、以下のC型アクセントの項目に網羅してある。尚、この例外は後述するように増加の傾向にある。

2) 過去形でB型もしくはC型アクセントを持つ動詞

i. 過去形B型

過去形でB型アクセントを持つ動詞は стричь -стичь を例外として不定形が -ти -чь -честь に終わる動詞全語 (2. 2. 2 参照) であるが、これらは人称形態でもB型アクセントを持つ。стричь (語幹 стриг- 1 ж) は過去形ではA型であるが、人称形態ではB型に属す。-стичь =-сти́гн/уть (語幹 -стигн- 1) は過去形でも人称形態でもA型アクセントを持つ。

ii. 過去形C型

過去形でC型アクセントを持つ動詞は以下の28の本源動詞及びその接頭辞による派生語のみである。2. 2. 3 参照。

братъ, бытъ, вить, вратъ, гнать, гнить, дать, драть, ждатель, жить, жрать, звать, клясть, лгать, лить, мереть, переть, пить, плыть, прясть, рвать, родить, слыть, спать, ткать, -чать, -(н)ять.

これら過去形に於いてC型アクセントを持つ動詞の人称形態は原則としてB型アクセントを持つが、гнать と -(н)ять の一部は例外となる。

гнать の人称形態の語幹は гон- であり、第2変化を行い、C型アクセントを持つ。詳細は後述の1. 2. 3. 2を参照のこと。

-ять の接頭辞派生語のうち人称形態でB型アクセントを持つのは、母音で終わる接頭辞 (但し при- を除く) を持つものと взять だけであって、その他の派生語は人称形態ではC型となる。詳細は1. 2. 3. 1に記してあるので参照されたい。

3) 不定形が -авать に終わる動詞

давать узнавать のように不定形が -а-вать に終わる語は -а-ю -а-ёт -а-ют と変化し、B型アクセントを持つ。

これに該当する動詞は不定形が -давать, -знавать, -ставать のいずれかに終わり、それぞれ -дать, -знать, -стать から対応の不完了体を構成する。後者のうち、接頭辞を持たない дать の不完了体として давать が用いられるが、同じく完了体の статься の不完了体として ставать が用いられることは希で、通例 становиться が対応の不完了体になる。一方 знать 自身は不完了体であるため、接頭辞のない単独の *знавать という語は用いられず、знать に接頭辞を付けて派生した完了体に対応する不完了体を構成するときだけに -знавать が現れる。

同じく -авать に終わる語に плавать (泳ぐ、航行する) があるが、これは語幹を плава- とし第1変化を行う。

4) 不定形が -овать/-евать に終わる若干の動詞

不定形・過去形に於いて用いられる接尾辞 -ова-/-ева- は人称形態では -у-/-ю- に交替する。接尾辞 -ова-/-у- または -ева-/-ю- を持つ動詞は рис-ова́-ть, рис-у́-ю рис-у́-ет ; танц-ева́-ть, танц-у́-ю танц-у́-ет のように人称形態に於いて同接尾辞にアクセントを有するA型アクセントを持つのを正則とするが、以下に記す7語の不完了体動詞とその接頭辞による派生語だけは例外的に人称形態でB型アクセントを持つ。

ж-ева́-ть	ж-у́-ю	ж-у́-ёт	ж-у́-ют	噛む
бл-ева́-ть	бл-ю́-ю	бл-ю́-ёт	бл-ю́-ют	へどを吐く
кл-ева́-ть	кл-ю́-ю	кл-ю́-ёт	кл-ю́-ют	ついばむ
пл-ева́-ть	пл-ю́-ю	пл-ю́-ёт	пл-ю́-ют	唾を吐く
к-ова́-ть	к-у́-ю	к-у́-ёт	к-у́-ют	(金属を) 鍛える
сн-ова́-ть	сн-у́-ю	сн-у́-ёт	сн-у́-ют	せし行き交う; 縦糸を作る ¹⁾
с-ова́-ть	с-у́-ю	с-у́-ёт	с-у́-ют	突っ込む

1) 接頭辞を付けた派生語のうち обоснова́ть (裏付ける) はB型からA型に移行しつつある。сновать の派生語とは意識されなくなっているのであろう。

1. 2. 3 C型アクセント

人称形態に於いてC型アクセントを持つのは以下の動詞である。第1変化をする動詞では不定形が -áть に、第2変化をする動詞では -íть に終わるものがほとんどであって、その他は生産力を持たない。

1. 2. 3. 1 第1変化 (E変化) 動詞

1. 2. 3. 1. 1 不定形 -áть

以下の4語の動詞は不定形は -a-ть に終わるが、чит-a-ть чит-a-ю のように接尾辞 -a- を人称形態には用いず、代わりに表記上現れない接尾辞 -j- を用いて人称形態を構成する。-j- によって生じる子音交替については上記1. 1. 2を参照のこと。これらの動詞は人称形態に於いてC型アクセントを持つ。

1. блист/áть ш 不完 輝く

блист- を語幹として блещу блещет блещут のように変化するはずだが、блистаю блистаёт のように блиста́- を語幹としてA型アクセントを持つ人称形態も並存する。同義語 блестя́ть (2ш В блещу блестя́т блестя́т) と紛らわしい場合が多い。

2. бормот/áть ч 不完 つぶやく

пробормотáть 完 ← бормотáть 不完 つぶやく

3. вяз/áть ж 不完 束ねる

завязáть	完 →	завязывать	不完	結ぶ
навязáть	完 →	навязывать	不完	結び付ける
обвязáть	完 →	обвязывать	不完	縛る
ввязáть	完 →	ввязывать	不完	編み込む
надвязáть	完 →	надвязывать	不完	編み足す
подвязáть	完 →	подвязывать	不完	結わえ付ける
перевязáть	完 →	перевязывать	不完	包帯を巻く
развязáть	完 →	развязывать	不完	ほどく
привязáть	完 →	привязывать	不完	結び付ける
повязáть	完 →	повязывать	不完	巻いて結ぶ

- связа́ть 完 → связыва́ть 不完 結び合わせる
 отвяза́ть 完 → отвязыва́ть 不完 ほどいて外す
 увяза́ть 完 → увязыва́ть 不完 梱包する
4. глод/а́ть ж 不完 かじる、苦しめる
 обглода́ть 完 → обгла́дывать 不完 回りをかじる
5. гогот/а́ть ч 不完 (がちょうが) 鳴く；笑う
6. грохот/а́ть ч 轟く
 загрохота́ть 完 轟き始める
7. дрем/а́ть мл 不完 居眠りする
 задрема́ть 完 居眠りし始める
8. иск/а́ть ш 不完 捜す
 прииска́ть 完 → прии́скивать 不完 捜して見つける
 硬子音で終わる接頭辞の後で初頭の母音 и が ы となる。
 обыска́ть 完 → обы́скивать 不完 捜査する
 подыска́ть 完 → поды́скивать 不完 適当な物を見つけたる
 разыска́ть 完 → разы́скивать 不完 手をつくして捜す
 взыска́ть 完 → व्यы́скивать 不完 徴収する
 изыска́ть 完 → изы́скивать 不完 苦勞して調達する
 сыска́ть 完 → сы́скивать 不完 (成句で) 捜し出す
 отыска́ть 完 → оты́скивать 不完 捜し出す
9. каз/а́ть ж 不完 見せる
 заказа́ть 完 → зака́зывать 不完 注文する
 наказа́ть 完 → нака́зывать 不完 処罰する
 приказа́ть 完 → прика́зывать 不完 命令する
 оказа́ть 完 → ока́зывать 不完 及ぼす
 доказа́ть 完 → дока́зывать 不完 証明する
 показа́ть 完 → пока́зывать 不完 見せる
 сказа́ть 完 говори́ть 不完 話す
 предска́зать 完 → предска́зывать 不完 予言する
 подсказа́ть 完 → подска́зывать 不完 示唆する

пересказа́ть	完	→	пересказа́ывать	不完	復唱する
досказа́ть	完	→	досказа́ывать	不完	話し終わる
рассказа́ть	完	→	рассказа́ывать	不完	物語る
отказа́ть	完	→	отказа́ывать	不完	断わる
указа́ть	完	→	указа́ывать	不完	示す

10. квохт/а́ть ч 不完 (鶏が) コッコッと鳴く

клохт/а́ть ч

11. клевет/а́ть ш 不完 中傷する

наклевета́ть 完 ← клевета́ть 不完 中傷する

оклевета́ть 完 言いがかりをつける

12. клепа́ть пл 不完 びょうで留める；中傷する

前者の意では клепа́- を語幹とする第1変化も可能である。その場合にはアクセントはA型となる。

заклепа́ть 完 → закле́пывать 不完 釘の頭をつぶす

наклепа́ть 完 → накле́пывать 不完 ある量びょうで留める

приклепа́ть 完 → прикле́пывать 不完 打ち付ける

склепа́ть 完 → скле́пывать 不完 びょうで留め合わせる

13. клокот/а́ть ч 不完 ぶくぶく音を立てる、沸き立つ

14. лепет/а́ть ч 不完 舌足らずに喋る

15. лиз/а́ть ж 不完 なめる

зализа́ть 完 → зализы́вать 不完 傷をなめる

облиза́ть 完 → облизы́вать 不完 なめまわす

подлиза́ть 完 → подлизы́вать 不完 なめつくす

слиза́ть 完 → слизы́вать 不完 なめ取る

16. лопот/а́ть ч 不完 早口で話す

17. мах/а́ть ш 不完 振る

この動詞には語幹を маха́- として第1変化を行うヴァリエントもある。その場合には人称形態はA型アクセントを持つ。

замаха́ть 完 振り始める

расмаха́ть 完 → расма́хивать 不完 振り回す

помахáть 完 ちよつと振る
отмахáть 完 → отмахивать 不完 疲れるまで振る

18. мет/áть ч 不完 投げる

разметáть 完 → разметывать 不完 方々へまき散らす
сметáть 完 → сметывать 不完 投げ集める

「かがり縫いする」の意ではA型アクセントを持ち、метá- を語幹とする第1変化をする。

заметáть 完 → заметывать 不完 仮縫いする
наметáть 完 → намётывать 不完 粗縫いする
обметáть 完 → обмётывать 不完 縁を縫う
приметáть 完 → примётывать 不完 粗縫いで縫いつける

19. низ/áть ж 不完 糸に通す

нанизáть 完 ← низáть 不完 糸に通す
→ нанизывать
пронизáть 完 → пронизывать 不完 突き通す
унизáть 完 → унизывать 不完 ちりばめる

20. обяз/áть ж 完 義務を負わせる (不完 обязывать)

元々は上記 вязáть の派生語 об-вязáть に由来する。бв が б に転じる例は他にも若干ある。例えば область < об-власть и т.д.

21. пах/áть ш 不完 耕す

запахáть 完 → запахивать 不完 すきこむ
перепахáть 完 → перепахивать 不完 耕し直す
пропахáть 完 → пропахивать 不完 すき起こす
распахáть 完 → распахивать 不完 開墾する
вспахáть 完 ← пахáть 不完 耕す
→ вспахивать

22. пис/áть ш 不完 書く

записáть 完 → записывать 不完 記録する
написáть 完 ← писать 不完 書く
вписáть 完 → вписывать 不完 記入する

надписа́ть	完	→	надпи́сывать	不完	上に書く
предписа́ть	完	→	предпи́сывать	不完	命令する
подписа́ть	完	→	подпи́сывать	不完	署名する
переписа́ть	完	→	перепи́сывать	不完	書き直す
приписа́ть	完	→	припи́сывать	不完	加筆する
описа́ть	完	→	опи́сывать	不完	記述する
дописа́ть	完	→	допи́сывать	不完	書き終わる
прописа́ть	完	→	пропи́сывать	不完	処方する
списа́ть	完	→	спи́сывать	不完	書き写す
расписа́ть	完	→	распи́сывать	不完	方々に書き込む
исписа́ть	完	→	испи́сывать	不完	書き尽くす
отписа́ть	完	→	отпи́сывать	不完	手紙で知らせる
уписа́ть	完	→	упи́сывать	不完	うまく書き込む

例外的な変化をするものに完了体・不完了体の両方に用いられる文語的な живописа́ть (いきいきと描く、-писую -писует -писуют) がある。

23. плеск/а́ть ш 水音を立てる

плеска́- を語幹として第1変化を行うヴァリエントも存在する。その場合のアクセントはA型となる。しかし最後に記した合成語 рукоплеска́ть とその接頭辞の付いた動詞にはそのようなヴァリエントはない。

наплеска́ть	完	→	наплёскавать	不完	はねかけてまく
расплеска́ть	完	→	расплёскавать	不完	まき散らす
рукоплеска́ть	不完	→	зарукоплеска́ть	完	拍手する

24. пляс/а́ть ш 不完 踊る

запляса́ть	完				踊り始める
спляса́ть	完	←	пляса́ть	不完	踊る

25. полоск/а́ть ш 不完 すすぐ

полоска́- を語幹として第1変化を行うこともある。その際にはA型アクセントが用いられる。

ополоска́ть	完	→	ополаскивать	不完	洗う
прополоска́ть	完	→	прополаскивать	不完	ゆすぐ

26. ропт/áть ш 不完 ぶつぶつ不平を言う
 27. свист/áть ш 不完 口笛を吹く

同義の свист/éть 2ш В А (свишú свистít свистя́т)と混交する場合が非常に多い。

насвистáть 完 → насвистывáть 不完 口笛で奏でる
 освистáть 完 → освистывáть 不完 口笛でやじる

28. скак/áть ч 不完 飛び跳ねる

後述の同源語 скочítь 2 С Аを参照のこと。

наскака́ть 完 → наска́кивать 不完 車がぶつかる
 обскака́ть 完 → обска́кивать 不完 馬でかけめぐる
 подскака́ть 完 → подска́кивать 不完 馬で接近する
 прискака́ть 完 → приска́кивать 不完 馬で飛んでくる
 доскака́ть 完 → доска́кивать 不完 馬で～まで来る
 поскака́ть 完 跳ね始める
 проскака́ть 完 → проска́кивать 不完 跳んで・馬で駆け抜ける
 ускака́ть 完 → уска́кивать 不完 馬で行ってしまう

29. скрежет/áть ш 不完 きしる音を立てる

заскрежетáть 完 同上の音を立て始める

30. стлать (人称語幹 стел-) 不完 広げる、敷く

стелю́ стéлет стéлют と変化するため不定形語幹と人称形態語幹を一致させる стел/ítь とのゆれが生じている。

застла́ть 完 → застила́ть 不完 覆い隠す
 настла́ть 完 → настила́ть 不完 表面に敷く
 перестла́ть 完 → перестила́ть 不完 敷き直す
 подостла́ть 完 → подстила́ть 不完 下に敷く
 подстелить
 разостла́ть 完 → расстила́ть 不完 敷き広げる
 расстелить
 постла́ть 完 ← стла́ть 不完 敷く、広げる
 → постила́ть

- устлать 完 → устилать 不完 敷き詰める
31. стрекот/ать ч 不完 連続音を立てる
32. тес/ать ш 不完 割る
- затесать 完 → затёсывать 不完 削って尖らす
- обтесать 完 → обтёсывать 不完 かなで削る
- отесать 完
33. топт/ать ч 不完 踏みつける
- затоптать 完 → затáптывать 不完 踏みならす
- натоптать 完 → натáптывать 不完 足跡で汚す
- втоптать 完 → втáптывать 不完 踏んで突っ込む
- притоптать 完 → притáптывать 不完 踏みにじる
- потоптать 完 ← топтать 不完 踏みつける
- протоптать 完 → протáптывать 不完 道を踏み固める
- растоптать 完 → растáптывать 不完 踏みつけて広げる
- истоптать 完 → истáптывать 不完 踏みつぶす
- оттоптать 完 → оттáптывать 不完 踏みつけて痛める
- утоптать 完 → утáптывать 不完 踏み固める
34. треп/ать пл 不完 かき乱す
- затрепать 完 → затрёпывать 不完 使い古す
- обтрепать 完 → обтрёпывать 不完 着古す
- потрепать 完 ← трепать 不完 かき乱す
- растрепать 完 → растрёпывать 不完 髪の毛をかきむしる
- истрепать 完 → истрёпывать 不完 ぼろぼろにする
- оттрепать 完 → оттрёпывать 不完 ひびいて折檻する
35. трепет/ать ш 不完 ふるえる
- затрепетать 完 ふるえ始める
36. хлопот/ать ч 不完 あくせく働く、奔走する
- похлопотать 完 ちよつと奔走する
37. хлест/ать ш 不完 鞭打つ

接頭辞の無い場合及び接頭辞 от- を持つときには異形態 хлыст/ать

も用いられる。

- | | | | | | | |
|-----|--|----|---|--------------|----|------------|
| | нахлестáть | 完 | → | нахлестывáть | 不完 | 散々鞭打つ |
| | отхлестáть | 完 | → | отхлестывáть | 不完 | 打ちのめす |
| 38. | хохот/áть | ч | | 不完 | | 大笑いする |
| | захохотáть | 完 | | | | 大笑いし始める |
| | похохотáть | 完 | | | | ちょっと大笑いする |
| 39. | чес/áть | ш | | 不完 | | 引っかく |
| | зачесáть | 完 | → | зачёсывáть | 不完 | 髪をなでつける |
| | перечесáть | 完 | → | перечёсывáть | 不完 | すきなおす |
| | причесáть | 完 | → | причёсывáть | 不完 | 髪をとかす |
| | почесáть | 完 | ← | чесáть | 不完 | 引っかく |
| | прочесáть | 完 | → | прочёсывáть | 不完 | 引っかき回す |
| | расчесáть | 完 | → | расчёсывáть | 不完 | 引っかいて痛める |
| 40. | шепт/áть | ч | | 不完 | | ささやく |
| | нашептáть | 完 | → | нашёпывáть | 不完 | 散々耳打ちする |
| | прошептáть | 完 | ← | шептáть | 不完 | ささやく |
| 41. | шебет/áть | ч | | 不完 | | (小鳥が) さえずる |
| 42. | шекот/áть | ч | | 不完 | | くすぐる |
| | зашекотáть | 完 | | | | くすぐっていじめる |
| | пошекотáть | 完 | ← | шекотáть | 不完 | くすぐる |
| 43. | шеп/áть | пл | | 不完 | | 木を割る |
| | шепá- を語幹として第1変化を行うこともある。その際にはA型アクセントが用いられる。 | | | | | |
| 44. | шип/áть | пл | | 不完 | | つねる |
| | шипá- を語幹として第1変化を行うこともある。その際にはA型アクセントが用いられる。 | | | | | |
| | нашипáть | 完 | → | нашипывáть | 不完 | たくさん引き抜く |
| | обшипáть | 完 | → | обшипывáть | 不完 | むしり取る |
| | ошипáть | 完 | → | ошипывáть | 不完 | むしり取る |
| | отшипáть | 完 | → | отшипывáть | 不完 | ちぎり取る |

1. 2. 3. 1. 2 不定形 -нуть

上記接尾辞にアクセントを有する -нуть 型の動詞は人称形態に於いてB型アクセントを持つのを原則とするが、以下の5語だけはC型アクセントを持つ。

1. мин/уть 完 (時が) 過ぎ去る

不定形を мінуть、語幹を мін- とし、A型アクセントを持つヴァリエーションも存在する。接頭派生語 премінуть (必ず～する) ではそのようなA型アクセントのみが用いられる。

2. обман/уть 完 だます (不完 обманывать)

3. помян/уть 完 (故人を) 思い出す (不完 поминать)

вспомн^ьуть 完 → вспомин^ать 不完 思い出す

упомн^ьуть 完 → упомин^ать 不完 言及する

前者の完了体は語根の母音をなくして接尾辞 -и- を付けた вспо^мнить が一般的であり、вспомн^ьуть は希である。

4. тон/уть 不完 沈む

затон^ьуть 完 船が沈没する

потон^ьуть 完 ← тон^ьуть 不完 沈む

утон^ьуть 完

5. тян/уть 不完 引っ張る

затян^ьуть 完 → заты^агивать 不完 引き締める

натян^ьуть 完 → наты^агивать 不完 糸を張る

обтян^ьуть 完 → обты^агивать 不完 ぴったりと張る

втян^ьуть 完 → вты^агивать 不完 引き入れる

подтян^ьуть 完 → подты^агивать 不完 引き寄せる

притян^ьуть 完 → приты^агивать 不完 引いて着かせる

дотян^ьуть 完 → доты^агивать 不完 ～まで引く

потян^ьуть 完 引き始める

протян^ьуть 完 → проты^агивать 不完 伸ばす

стын^ьуть 完 → сты^агивать 不完 結び合わせる

растян^ьуть 完 → расты^агивать 不完 引いて伸ばす

оттян^ьуть 完 → отты^агивать 不完 引いてどける

1. 2. 3. 1. 3 不定形 -олóть/-орóть

不定形が -олóть/-орóть に終わる動詞は人称形態で例外なくC型アクセントを持つ。これらの動詞の本来の語幹は ол ор に終わっており、これに不定形のマーカ -ть を付けたとき母音重挿 (2. 2. 2. 2 参照) によって語根の母音を繰り返して現在の不定形の形ができた。

1. бор/óть 不完 打ち勝つ

поборóть	完 ←	борóть	不完	打ち勝つ
переборóть	完 →	перебары́вать	不完	総なめにする
борóться	不完			戦う

2. кол/óть 不完 刺す

заколóть	完 →	закáльвать	不完	刺し殺す
наколóть	完 →	накáльвать	不完	刺して痛める
вколóть	完 →	вкáльвать	不完	突き刺す
надколóть	完 →	надкáльвать	不完	上から少し割る
подколóть	完 →	подкáльвать	不完	下からピンで留める
переколóть	完 →	перекáльвать	不完	たくさん割る
приколóть	完 →	прикáльвать	不完	ピンで付ける
проколóть	完 →	прокáльвать	不完	穴を開ける
сколóть	完 →	скáльвать	不完	割って剥す
расколóть	完 →	раскáльвать	不完	打ち割る
отколóть	完 →	откáльвать	不完	切り取る
исколóть	完 →	искáльвать	不完	刺し傷だらけにする
уколóть	完 →	укáльвать	不完	傷つける

3. мол/óть 不完 粉にひく

намолóть	完 →	намáльвать	不完	たくさん製粉する
перемолóть	完 →	перемáльвать	不完	全部ひく
размолóть	完 →	размáльвать	不完	製粉する
смолóть	完 ←	молóть	不完	(穀物・肉を) ひく
		→ смáльвать		

4. пол/óть 不完 草取りをする

прополóть 完 ← полóть 不完 草取りをする
→ пропáльвать

5. пор/óть 不完 縫目をほどく

запорóть 完 → запáрывать 不完 打ち殺す

напорóть 完 ← порóть¹ 不完 たわごとを言う

спорóть 完 → спáрывать 不完 ほどいて取る

распорóть 完 ← порóть² 不完 縫目をほどく

→ распáрывать

вспорóть 完 → вспáрывать 不完 切り開く

отпорóть 完 → отпáрывать 不完 ほどいて離す

1. 2. 3. 1. 4 不定形 -(н)ять

-(н)ять (語幹 -им-)¹⁾ (取る)

現代ロシア語にはもはや存在していない本源動詞 ять の派生語の中で人
称形態に於いてC型アクセントを持つのは以下のものである：

①不定形と人称形態で加音 н を持つ動詞

-н-ять : -н-имú -н-íмет -н-íмут

子音に終わる接頭辞を持つ ять の派生語はこの型に属す。

обнять 完 → обнимáть 不完 抱く

отнять 完 → отнимáть 不完 奪い取る

поднять 完 → поднимáть 不完 持ち上げる

приподнять 完 → приподнимáть 不完 少し持ち上げる

разнять 完 → разнимáть 不完 分ける

снять 完 → снимáть 不完 取り外す

заснять 完 → заснимáть 不完 写真を取る

переснять 完 → переснимáть 不完 写真を取り直す

1)ここに属するのは взять と、不定形が -нять に終わるものだけである。本来の語根は *-ьм- である。これらの語形の形成については2. 2. 3参照。

例外を成すのは人称形態を用いない以下の1語のみである。

внѣть 完 → внимать 不完 傾聴する

②不定形では加音 н を持つが、人称形態では加音を持たない動詞

-н-ять : -имѹ -ѣмет -ѣмут

これに該当するのは принять とその派生語だけである。接頭辞 при- の末尾の母音 и が語根の -им- と融合してしまい、結果的にその活用は примѹ примѣт примут となる。

принять 完 → принимать 不完 受け入れる

воспринять 完 → воспринимать 不完 把握する

предпринять 完 → предпринимать 不完 着手する

③加音 н を持たない動詞

-ѣять : -ѣмѹ -ѣмет -ѣмут

硬子音に終わる接頭辞に後続するため、不定形で ѣ が挿入され、人称形態では語根の -им- が -ѣм- となる。その他の -ѣять に終わる動詞 (об- под- от-) は人称形態を持たない。

изѣять 完 → изымать 不完 廃止する

人称形態に於いてC型アクセントを持たない -ять の派生語について概観しておく。

母音に終わる接頭辞を持つ動詞は、不定形を構成するために加音 н を挿入するが、人称形態に於いて加音 н を用いず、アクセントはB型となる。この例外となるのは上記②に記した принять 及びその派生語だけである。語根 -им- の母音 и は母音で終わる接頭辞の後で弱化して ѣ となる。

-н-ять : -ѣмѹ -ѣмет -ѣмут

донять 完 → донимать 不完 苦しめる

занять 完 → занимать 不完 占める

нанять 完 → нанимать 不完 雇う

перенять 完 → перенимать 不完 模倣する

поня́ть	完 →	понима́ть	不完	理解する
проня́ть	完 →	пронима́ть	不完	染み込む
уны́ть	完 →	унима́ть	不完	静める

以下の1語については人称形態の語根が音節を成さず、-ьм- となる。これによって接頭辞の出没母音が誘発される。

взя́ть	完	(бра́ть	不完)	取る
人称形態： <u>во</u> зьму́ <u>во</u> зьме́т <u>во</u> зьму́т				

1. 2. 3. 1. 5 不定形 -чь

不定形が -чь に終わる動詞で人称形態に於いてC型アクセントを持つのは以下に記すように мочь とそれに接頭辞を付けてできた派生動詞に限られる。後述のようにこれらは過去形に於いてもC型アクセントを持つ。

мочь	(語幹 мог-)	ж	不完	できる
за ^н емо́чь	完 →	за ^н емога́ть	不完	病気になる
из ^н емо́чь	完 →	из ^н емога́ть	不完	力尽きる
пере ^н емо́чь	完 →	пере ^н емога́ть	不完	感情を抑える
помо́чь	完 →	помога́ть	不完	助ける
прево ^з мо́чь	完 →	прево ^з мога́ть	不完	克服する
смо́чь	完 →		不完	できる

развалить	完 →	разваливать	不完	崩す
взвалить	完 →	взваливать	不完	載せる
привалить	完 →	приваливать	不完	立てかける
повалить	完 →	валить	不完	倒す
провалить	完 →	проваливать	不完	崩壊させる
свалить	完 ←	валить	不完	倒す
		→	сваливать	
отвалить	完 →	отваливать	不完	転がしてどける

「押し寄せる」の意味ではB型アクセントとなる。但しこの意味での始まりを表す по- はB型アクセントとC型アクセントのゆれを持っている。

6. вар/ить 不完 煮る

заварить	完 →	заваривать	不完	お湯をかける
наварить	完 →	наваривать	不完	煮てたくさん作る
обварить	完 →	обваривать	不完	お湯を注ぐ
переварить	完 →	переваривать	不完	煮すぎる
разварить	完 →	разваривать	不完	煮込む
приварить	完 →	приваривать	不完	部品を溶接する
доварить	完 →	доваривать	不完	煮終わる
проварить	完 →	проваривать	不完	十分煮込む
сварить	完 ←	варить	不完	煮て作る
		→	сваривать	不完 溶接する
отварить	完 →	отваривать	不完	ゆでる、煮る

これらはかつて人称形態に於いてB型アクセントを持っていた。現代ロシア語ではB型アクセントは次の1語にのみ保存されている。この動詞も本来は上記派生語の一つだが、語義が相当異なるため、上記派生語と別に扱われ、不完了体の構成方法も異なっている。

предварить	完 →	предварять	不完	先んずる
------------	-----	------------	----	------

7. вод/ить ж 不完 導く

運動の動詞であるから不定方向動詞に接頭辞が付いて不完了体が、定方向動詞に接頭辞が付いて完了体が派生するのが原則とする。

вводить	不完 :	ввести	完	導き入れる
взводить	不完 :	взвести	完	助け上げる
возводить	不完 :	возвести	完	建造する
воспроизводить	不完 :	воспроизвести	完	再生産する
доводить	不完 :	довести	完	～まで導く
заводить ¹	不完 :	завести	完	立ち寄らせる
изводить	不完 :	извести	完	苦しめる
наводить	不完 :	навести	完	～に向ける
низводить	不完 :	низвести	完	引き下ろす
обводить	不完 :	обвести	完	案内して一巡する
отводить	不完 :	отвести	完	送って行く
переводить	不完 :	перевести	完	渡らせる、翻訳する
подводить	不完 :	подвести	完	近くに連れて来る
приводить	不完 :	привести	完	連れて来る
проводить ¹	不完 :	провести	完	案内して通る
производить	不完 :	произвести	完	引き起こす
разводить	不完 :	развести	完	多方向に導く
сводить ¹	不完 :	свести	完	助け下ろす
уводить	不完 :	увести	完	連れ去る

以下の語では不定方向動詞に接頭辞を付けると完了体が派生する。

заводить ²	完	водить	し始める
поводить	完		しばらく導く
проводить ²	完 →	провождать	不完 送って行く
сводить ²	完		連れて行って来る

以下の -водить は人称形態に於いてB型アクセントを持つ。

препроводить	完 →	препровождать	不完 送付する
сопроводить	完 →	сопровождать	不完 同行する
руководить	不完		指導する

8. воз/ить ж 不完 乗り物で運ぶ

運動の動詞であるから不定方向動詞に接頭辞が付いて不完了体が、定方

向動詞に接頭辞が付いて完了体が派生するのを原則とする。

ввози́ть	不完:	ввезти́	完	運び入れる
завози́ть	不完:	завезти́	完	ついでに届ける
навози́ть	不完:	навезти́	完	運ぶ途中でぶつける
отвози́ть	不完:	отвезти́	完	運び届ける
перевози́ть	不完:	перевезти́	完	向こう側へ運ぶ
подвози́ть	不完:	подвезти́	完	近くまで運ぶ
привози́ть	不完:	привезти́	完	運んでくる
провози́ть	不完:	провезти́	完	運び通る
развози́ть	不完:	развезти́	完	配達する
свози́ть	不完:	свезти́	完	運び下ろす
увози́ть	不完:	увезти́	完	運び去る

以下の語では接頭辞を付けると完了体が派生する。

повози́ть	完	ちよつと вози́ть する
свози́ть	完	運んで往復する

9. волоч/и́ть 不完 引きずる

通例同源語で同意の волóчь (語幹 волок- 1 к/ч ВВ) が用いられることが多い。

10. ворот/и́ть ч 不完 呼び戻す、向きをかえる

развороти́ть	完 →	развора́чивать	不完	ばらばらに崩す
свороти́ть	完 →	свора́чивать	不完	転がして移動する
отвороти́ть	完 →	отвора́чивать	不完	転がしてどける

同源語の верну́ть (<верт-нуть) と混交する場合が多い。接頭辞 об- が付与されると бв が б となる。後述の обороти́ть を参照。

11. гас/и́ть ш 不完 (明りを) 消す

загаси́ть	完 ←	гаси́ть	不完	消す
погаси́ть	完 ←			

(→ погаша́ть 不完) 返済する、消印を押す

12. губ/и́ть бл 不完 滅ぼす

загуби́ть	完 ←	губи́ть	不完	滅ぼす
-----------	-----	---------	----	-----

погубить 完 ←

13. дав/ить 完 不完 圧する

「圧する」の原意から色々な意味が生まれる。подавить は原意と離れてしまい、不完了体の構成方法も他と異なる。

задавить 完 ←	давить 不完	ひき殺す
	→ задавливать 不完	同上
надавить 完 →	надавливать 不完	軽く押す
вдавить 完 →	вдавливать 不完	押し込む
раздавить 完 ←	давить 不完	押しつぶす
	→ раздавливать 不完	同上
придавить 完 →	придавливать 不完	挟んで押し付ける
подавить 完 →	подавлять 不完	鎮圧する
продавить 完 →	продавливать 不完	押し穴を開ける
сдавить 完 →	сдавливает 不完	締め付ける
отдавить 完 →	отдавливать 不完	踏みつける
удавить 完 ←	давить 不完	締め殺す
	→ удавливать 不完	同上

14. дар/ить 不完 贈呈する

задарить 完 →	задаривать 不完	たくさん贈る
раздарить 完 →	раздаривать 不完	贈物を分配する
подарить 完 ←	дарить 不完	プレゼントする

これらはかつてB型アクセントを持っていたようである。

以下の1語は雅語であって、古いB型アクセントを保存している。

одарить 完 → одаривать 不完 恵む

15. дел/ить 不完 分ける

обделить 完 →	обделять 不完	配り忘れる
отделить 完 →	отделять 不完	切り放す
переделить 完 →	переделять 不完	再分配する
поделить 完 ←	делить 不完	分ける
разделить 完 ←		

→ разделять 不完 分配する

以下の語はV型アクセントを持っている。

наделить 完 → наделять 不完 贈与する

оделить 完 → оделять 不完 ばらまく

определить 完 → определять 不完 定義する

подразделить 完 → подразделять 不完 細分する

предопределить 完 → предопределять 不完 運命付ける

распределить 完 → распределять 不完 配分する

уделить 完 → уделять 不完 分け与える

16. дразнить 不完 じらす

передразнить 完 → передразнивать 不完 真似をしてからかう

раздразнить 完 → раздразнивать 不完 からかって怒らせる

17. душить 不完 絞め殺す；香水をかける

задушить 完 ← душить 不完 絞め殺す

удушить 完 ←

→ удушать 不完 同上

придушить 完 首を絞める（口語）

надушить 完 ← душить 不完 香水をかける

18. женить 不完 結婚させる

普通は -ся 動詞で「結婚する」の意味で用いる。

19. катить ч 不完 転がす

закатить 完 → закатывать 不完 転がし込む

накатить 完 → накатывать 不完 たくさん転がし運ぶ

вкатить 完 → вкатывать 不完 転がして入れる

подкатить 完 → подкатывать 不完 下へ転がす

перекатить 完 → перекатывать 不完 転がし移す

прикатить 完 → прикатывать 不完 転がし寄せる

покатить 完 転がし始める

прокатить 完 → прокатывать 不完 転がして行く

скатить 完 → скатывать 不完 転がし落とす

раскатить	完 →	раскатывать	不完	方々へ転がす
откатить	完 →	откатывать	不完	転がしてどける
укатить	完 →	укатывать	不完	遠くへ転がす

20. клон/ить 不完 下に曲げる

наклонить	完 →	наклонять	不完	傾ける
приклонить	完 →	приклонять	不完	～の方に曲げる
склонить	完 →	склонять	不完	下げる
отклонить	完 →	отклонять	不完	そらす

これらはかつてB型アクセントを持っていたようである。

以下の1語は古いB型アクセントを保存している。

преклонить	完 →	преклонять	不完	(こうべを)垂れる
------------	-----	------------	----	-----------

21. колот/ить ч 不完 強く打つ

заколотить	完 →	заколачивать	不完	打ち込む
наколотить	完 →	наколачивать	不完	たがをはめる
приколотить	完 →	приколачивать	不完	釘付けにする
поколотить	完 ←	колотить	不完	強く打つ
сколотить	完 →	сколачивать	不完	叩いて付ける
расколотить	完 →	расколачивать	不完	叩いて伸ばす
исколотить	完 →	исколачивать	不完	半殺しにする
отколотить	完 →	отколачивать	不完	たたいて外す

22. коп/ить пл 不完 蓄える

накопить	完 →	накапливать	不完	ある量貯める
		накаплять		
скопить	完 →	скапливать	不完	貯める
		скаплять		

скопить にB型アクセントを用いると「去勢する」の意になる。

23. корм/ить мл 不完 食べさせる

закормить	完 →	закормливать	不完	餌をやりすぎる
накормить	完 ←	кормить	不完	食べさせる
обкормить	完 →	обкормливать	不完	食わせすぎる

подкормить	完	→	подкармливать	不完	栄養をつける
перекормить	完	→	перекормливать	不完	食べ過ぎをさせる
прикормить	完	→	прикармливать	不完	間食させる
раскормить	完	→	раскармливать	不完	餌をやって太らせる
вскармливать	完	→	вскармливать	不完	養育する
откормить	完	→	откармливать	不完	(家畜を) 飼う

24. кос/ить ш 不完 刈る

подкосить	完	→	подкашивать	不完	鎌で刈り取る
перекосить ¹	完	→	перекашивать	不完	刈り尽くす
скосить	完	←	косить	不完	刈る
		→	скашивать	不完	

「斜めにする」の意及び以下の派生語ではB型アクセントとなる。

перекосить ²	完	→	перекашивать	不完	歪める
-------------------------	---	---	--------------	----	-----

25. крест/ить ш 不完 十字を切る；洗礼を施す

перекрестить	完	←	крестить	不完	十字を切る
окрестить	完	←	крестить	不完	洗礼を施す

以下の1語は人称形態でB型アクセントを持っていたが、現在ではC型アクセントの使用も認められている。

скрестить	完	→	скрешивать	不完	交差させる
-----------	---	---	------------	----	-------

26. крош/ить 不完 細かくする

накрошить	完			不完	たくさんきざむ
покрошить	完			不完	少しきざむ
раскрошить	完	→	раскрашивать	不完	ちぎってばらまく

27. крут/ить ч 不完 回す

закрутить	完	→	закручивать	不完	回す、縛る
накрутить	完	→	накручивать	不完	巻き付ける
подкрутить	完	→	подкручивать	不完	ネジを締め足す
перекрутить	完	→	перекручивать	不完	締めすぎる
прикрутить	完	→	прикручивать	不完	縛り付ける
скрутить	完	→	скручивать	不完	(縄を) なう

раскрутíть	完 →	раскру́чивать	不完	巻いた物を外す
открутíть	完 →	откру́чивать	不完	ほぐす
28. куп/ítъ	пл 完	買う		
купítъ	完 →	покупáть	不完	買う
закупítъ	完 →	закупáть	不完	(卸で) 買い付ける
накупítъ	完 →	накупáть	不完	たくさん買う
подкупítъ	完 →	подкупáть	不完	買収する
перекупítъ	完 →	перекупáть	不完	買いすぎる
прикупítъ	完 →	прикупáть	不完	買い足す
окупítъ	完 →	окупáть	不完	償う
скупítъ	完 →	скупáть	不完	買い占める
раскупítъ	完 →	раскупáть	不完	買い尽くす
искупítъ	完 →	искупáть	不完	罪を償う

29. кур/ítъ 不完 たばこを吸う

-ся が付くと「煙草が燃える」の意ではC型だが、「煙る」の意ではB型とC型のゆれを持つ。

закурítъ	完 →	закур́ивать	不完	たばこを吸い始める
накурítъ	完 →	накур́ивать	不完	煙で一杯にする
обкурítъ	完 →	обкур́ивать	不完	パイプを使い込む
прикурítъ	完 →	прикур́ивать	不完	火を借りる
окурítъ	完 →	окур́ивать	不完	いぶす
покурítъ	完 →	покур́ивать	不完	ちよつとたばこを吸う
раскурítъ	完 →	раскур́ивать	不完	たばこに火を付ける

30. -кус/ítъ ш 不完 (かじる)

закусítъ	完 →	закус́ывать	不完	少し食べる
надкусítъ	完 →	надкус́ывать	不完	上を少しかみ取る
перекусítъ	完 →	перекус́ывать	不完	かみ切る
прикусítъ	完 →	прикус́ывать	不完	くわえる
прокусítъ	完 →	прокус́ывать	不完	かみ破る
раскусítъ	完 →	раскус́ывать	不完	かみ砕く

откусить 完 → откусывать 不完 噛み取る
 уку́сить 完 噛みつく

同源語の куса́ть と混交する場合もある。

以下の2語は原則としてB型アクセントを持つが、вку́сить にはC型アクセントの適応も認められている。不完了体を構成する際、上記の語のように接尾辞 -ыва- ではなく -я- (正書法上 -а-) を用いている点にも注意を要する。

вку́сить 完 → вкуша́ть 不完 味わう、体験する
 иску́сить 完 → искуша́ть 不完 誘惑する

31. кут/и́ть ч 不完 豪遊する

проку́тить 完 → проку́чивать 不完 豪遊して散財する

32. лен/и́ть/ся 不完 さぼる

обле́ниться 完 → обле́ниваться 不完 怠け癖がつく
 разле́ниться 完 → разле́ниваться 不完 怠け者になる (口語)
 изле́ниться 完 → изле́ниваться 不完 怠け者になる (口語)
 поле́ниться 完 おこたる

33. леп/и́ть пл 不完 はる、(粘土などで) 形作る

залепи́ть 完 → залепля́ть 不完 ぬりつぶす
 налепи́ть 完 ← лепи́ть 不完 はり付ける
 → налепля́ть 不完 同上
 облепи́ть 完 → облепля́ть 不完 一面にはる
 прилепи́ть 完 → прилепля́ть 不完 のりづけする
 слепи́ть 完 → слепля́ть 不完 はり合わせる
 отлепи́ть 完 → отлепля́ть 不完 はがす

сле́пить にB型アクセントを用いると「盲にさせる」の意となる。

34. леч/и́ть 不完 治療する

залечи́ть 完 → залечи́вать 不完 傷をなおす
 подлечи́ть 完 → подлечи́вать 不完 少し治療する
 излечи́ть 完 → излечи́вать 不完 全快させる
 полечи́ть 完 暫く治療する

35. лов/ить вл 不完 捕まえる

ловить 自身の対応の完了体には、-ять の語根 -им- から作られた поймать (<по-им-а-ть) が用いられている。1. 2. 3. 1. 4 参照。

переловить 完 → перелавливать 不完 たくさん捕まえる

изловить 完 → излавливать 不完 捕まえる (口語)

уловить 完 → улавливать 不完 捉える、知覚する

36. -лож/ить 不完 (置く)

不完了体を構成する際に、-ложить の本来の語根である -лог- から母音交替と接尾辞 -а- を伴って -лагать を作る場合と、положить の不完了体 класть の語根 клад- に接尾辞 -ыва- を加えて -кладывать を作る場合とがあるが、後者が原則的に「置く」という原義を保持するのに反して前者は専ら転義で用いられる。

ложиться にはV型アクセントが用いられる。

заложить 完 →	закладывать 不完	後ろに置く
наложить ¹ 完 →	налагать 不完	(税を) 課する
наложить ² 完 →	накладывать 不完	上に置く
обложить ¹ 完 →	облагать 不完	課税する
обложить ² 完 →	обкладывать 不完	囲む、縁どる
вложить 完 →	вкладывать 不完	入れる
предложить 完 →	предлагать 不完	提案する
подложить 完 →	подкладывать 不完	下に置く、敷く
переложить ¹ 完 →	перелагать 不完	転嫁する
переложить ² 完 →	перекладывать 不完	移動させる
разложить ¹ 完 →	разлагать 不完	分解する
разложить ² 完 →	разкладывать 不完	並べる
изложить 完 →	излагать 不完	述べる
низложить 完 →	низлагать 不完	(王を) 廃止する
возложить 完 →	возлагать 不完	供える
приложить ¹ 完 →	прилагать 不完	添える
приложить ² 完 →	прикладывать 不完	あてる

доложить	完 →	докладывать	不完	報告する
положить	完 :	класть	不完	(横にして)置く
	Ср.	полагать	不完	思う
предположить	完 →	предполагать	不完	仮定する
противоположить	完 →	противопологать	不完	対比させる
расположить	完 →	располагать	不完	配置する、所有する
предрасположить	完 →	предрасполагать	不完	予め傾向を与える
проложить	完 →	прокладывать	不完	敷設する
сложить ¹	完 →	слагать	不完	構成する
сложить ²	完 →	складывать	不完	積む
отложить ¹	完 →	отлагать	不完	延期する
отложить ²	完 →	откладывать	不完	脇に置く
уложить	完 →	укладывать	不完	ねかせる

37. лом/ить мл 不完 強く折曲げる

заломить	完 →	заламывать	不完	後ろへ折曲げる
обломить	完 →	обламывать	不完	回りを折る
надломить	完 →	надламывать	不完	ひびをいれる
переломить	完 →	переламывать	不完	二つに折る
преломить	完 →	преломлять	不完	光を屈折させる
разломить	完 →	разламывать	不完	折ってこわす
проломить	完 →	проламывать	不完	圧して穴を開ける
сломить	完 →	сламывать	不完	折って倒す
отломить	完 →	отламывать	不完	もぎ取る

接尾辞を替えた同源語 ломá/ть (1 A A) も参照のこと。

38. луп/ить пл 不完 皮をむく等

облупить	完 ←	лупить	不完	果実の皮をむく
слупить	完 ←	лупить	不完	巻き上げる
отлупить	完 ←	лупить	不完	ぶんなぐる

39. люб/ить бл 不完 好む

влюбить	完 →	влюблять	不完	惚れ込ませる
---------	-----	----------	----	--------

разлю́бить	完 →	разлю́блять	不完	愛想がつきる
невзлю́бить	完			嫌いになる
полю́бить	完			好きになる

40. ман/и́ть 不完 手招きする

замани́ть	完 →	замани́вать	不完	おびき寄せる
перемани́ть	完 →	перемани́вать	不完	招致・誘致する
примани́ть	完 →	примани́вать	不完	手招きして来させる
помани́ть	完 ←	мани́ть	不完	手招きする
смани́ть	完 →	смани́вать	不完	餌でおびき集める

かつてはV型アクセントを持っていたが、現在では完全にC型アクセントに移行している。

41. -мен/и́ть (変える)

接尾辞を替えた同源語 менять は接頭辞がない時にも用いられ、以下の動詞の不完了体として用いられることも多々ある。時に -менять は完了体を構成し、-мени́ть と紛らわしい場合が生じる。

замени́ть	完 →	заменя́ть	不完	代理する、代用する
обмени́ть	完 →	обмени́вать	不完	人の物と間違える
Ср. обменя́ть	完 →	обмени́вать	不完	交換する
подмени́ть	完 →	подменя́ть	不完	すりかえる
		→ подмени́вать	不完	同上
перемени́ть	完 →	переменя́ть	不完	取り替える
измени́ть	完 →	изменя́ть	不完	変化させる、変える
примени́ть	完 →	применя́ть	不完	適用する
смени́ть	完 →	сменя́ть	不完	取り替える、更迭する
отмени́ть	完 →	отменя́ть	不完	廃止する

上記の -мени́ть の人称形態もかつてはV型アクセントを持っていたと考えられ、古いV型アクセントが以下の2語に保存されている。

вмени́ть	完 →	вменя́ть	不完	帰する
ви́доизмени́ть	完 →	ви́доизменя́ть	不完	変容させる

42. мес/и́ть III 不完 こねる

замесить 完 → замешивать 不完 こねて作る
 намесить 完 たくさんこねて作る
 размесить 完 → размешивать 不完 こねて混ぜる

43. мол/ить 不完 懇願する

умолить 完 → умолять 不完 拝み倒す

44. молот/ить ч 不完 叩く、脱穀する

намоло́тить 完 たくさん脱穀する

обмоло́тить 完 → обмола́чивать 不完 脱穀する

45. моч/ить 不完 濡らす

замочить 完 → замачивать 不完 水につける

намочить 完 → намачивать 不完 たくさん浸して作る

обмочить 完 → обмачивать 不完 一面に濡らす

подмочить 完 → подмачивать 不完 少し濡らす

размочить 完 → размачивать 不完 浸して軟らかくする

промочить 完 → промачивать 不完 すっかり濡らす

смочить 完 → смачивать 不完 湿らせる

отмочить 完 → отмачивать 不完 濡らして剥す

46. нос/ить ш 不完 身につけて運ぶ

вносить 不完: внести 完 持ち込む

возносить 不完: вознести 完 出世させる

доносить 不完: донести 完 ~まで持って行く

зanosить 不完: занести 完 ついでに届ける

наносить 不完: нанести 完 ぶつける

обносить 不完: обнести 完 持って回る、囲む

относить 不完: отнести 完 離れたところを持って行って置いてくる

переносить 不完: перенести 完 運び移す、耐える、延期する

подносить 不完: поднести 完 近くに持って来る

превозносить 不完: превознести 完 ほめちぎる

преподносить 不完: преподнести 完 贈呈する

приносить 不完: принести 完 持って来る

привно́сить	不完 :	привне́сти	完	添加する
проно́сить	不完 :	проне́сти	完	持って通る
произно́сить	不完 :	произне́сти	完	発音する
разно́сить	不完 :	разне́сти	完	配布する
сно́сить	不完 :	сне́сти	完	持って下りる
уно́сить	不完 :	уне́сти	完	持ち去る

47. оборо́т/и́ть ч 不完 向ける、ひっくり返す (不完 оборо́чивать)

本来は上記 воро́тить の派生語であって、об-воро́тить に由来する。воро́тить と同源の верну́ть に同じ接頭辞を付けても同様に бв が 6 となり、оберну́ть (向ける、包むなど) ができるが、不完了体には同じ形 оборо́чивать を用いる。воро́тить を参照のこと。

48. очу́т/и́ть/ся ч 不完 気が付くと～にいる

49. пи́л/и́ть 不完 鋸で引く、がみがみ小言を言う

напи́л/и́ть	完 →	напи́ливать	不完	たくさん鋸で切る
подпи́л/и́ть	完 →	подпи́ливать	不完	下を鋸で切る
перепи́л/и́ть	完 →	перепи́ливать	不完	鋸で切断する
спи́л/и́ть	完 →	спи́ливать	不完	鋸で切る
распи́л/и́ть	完 →	распи́ливать	不完	鋸でいくつかに切る
отпи́л/и́ть	完 →	отпи́ливать	不完	鋸で切り取る

50. плат/и́ть ч 不完 支払う

заплати́ть	完 ←	плати́ть	不完	支払う
переплати́ть	完 →	перепла́чивать	不完	余計に払う
приплати́ть	完 →	припла́чивать	不完	割増し料金を払う
оплати́ть	完 →	опла́чивать	不完	報酬を払う
доплати́ть	完 →	допла́чивать	不完	払い足す
отплати́ть	完 →	отпла́чивать	不完	報いる
уплати́ть	完 →	упла́чивать	不完	支払う

51. полу́ч/и́ть 完 受け取る

полу́чи́ть	完 →	полу́чать	不完	受け取る
заполу́чи́ть	完 →	заполу́чать	不完	獲得する (俗語)

получить も本来は лучить に接頭辞を付けて作られた完了体動詞であるが、その他の -лучить に終わる動詞 (за- из- от- с- у-) はB型アクセントを持つ。

52. поруч/ить 完 依頼する

これ自身も本来は *ручить (<рука 手) の派生語である。

поручить 完 → поручать 不完 依頼する

перепоручить 完 → перепоручать 不完 また別の人に依頼する

その他の -ручить (в- за- при- об-) はB型アクセントを持つ。

53. проглот/ить ч 完 飲み込む

これ自身も本来は *глотить の派生語である。この動詞は今のロシア語にはないが、接尾辞を替えた глотать は存在しており、しばしば проглотить の不完了体とみなされる。

проглотить 完 → проглатывать 不完 飲み込む

以下の1語はB型とC型のゆれを持つ。1. 2. 3. 2. 4参照。

поглот/ить ш 完 → поглощать 不完 吸収する

54. прос/ить ш 不完 頼む

запросить 完 → запрашивать 不完 照会する

опросить 完 → опрашивать 不完 多くの人に質問する

допросить 完 → допрашивать 不完 尋問する

попросить 完 ← просить 不完 頼む

спросить 完 → спрашивать 不完 質問する

переспросить 完 → переспрашивать 不完 聞き返す

55. пуст/ить ш 完 放す、解放する

語根は本来 пуск- (пуск「始動」参照) であって、これは不完了体に於いて接尾辞 -а- の前では保存されたが、完了体の接尾辞 -и- の前で ск が ст に交替してしまった。この変化は現代ロシア語には余り現れず、第2パラタリゼーションの一種と考えられている。

пустить 完 → пускать 不完 放す、解放する

запустить 完 → запускать 不完 投げつける

напустить 完 → напускать 不完 たくさん入れる

впустить	完 →	впускать	不完	中に入れる
подпустить	完 →	подпускать	不完	近づける
припустить	完 →	припускать	不完	交尾させる
опустить	完 →	опускать	不完	落とす
допустить	完 →	допускать	不完	許す
пропустить	完 →	пропускать	不完	通す
спустить	完 →	спускать	不完	下ろす
распустить	完 →	распускать	不完	多くの人を解放する
испустить	完 →	испускать	不完	音・光を発する
приспустить	完 →	приспускать	不完	少し下ろす
отпустить	完 →	отпускать	不完	自由にする
упустить	完 →	упускать	不完	うっかり放す

56. руб/ить бл 不完 叩き切る

зарубить	完 →	зарубать	不完	刻み目を付ける
нарубить	完			たくさん切る
обрубить	完 →	обрубать	不完	端を切り取る
врубить	完 →	врубать	不完	切ってはめ込む

57. ряд/ить ж 不完 着飾らせる

以下の派生語は現在ではC型アクセントを持つようになった。

зарядить	完 →	заряжать	不完	弾をこめる
перезарядить	完 →	перезаряжать	不完	弾をこめ直す
нарядить	完 →	наряжать	不完	着飾らせる
принарядить	完 →	принаряжать	不完	おめかしさせる
разрядить	完 →	разряжать	不完	盛装させる
разрядить	完 →	разряжать	不完	弾を抜き取る

「雇う」の意味ではかつてB型アクセントを持っていたが、今ではC型アクセントも認められている。その他の -рядить はB型アクセントを持っている。例えば зарядить (同じことを繰り返す) はB型アクセントを保っている。-ся 動詞についても同様で、「仮装する」の意味ではC型、「雇用条件を決める」に意味ではB型とC型とのゆれを持つ。

58. сад/ить ж 不完 植える (=сажать)

засадить	完 →	заса́живать	不完	植え付ける
насадить ¹	完 →	наса́живать	不完	取り付ける
обсадить	完 →	обса́живать	不完	植えめぐらす
всадить	完 →	вса́живать	不完	差し込む
надсадить	完 →	надса́живать	不完	無理して痛める
подсадить	完 →	подса́живать	不完	助け乗せる、植え足す
пересадить	完 →	переса́живать	不完	植えかえる
осадить	完 →	оса́живать	不完	引き戻す
посадить	完 ←	садить	不完	植える
		сажа́ть	不完	同上

以下の3語は人称形態に於いてB型アクセントを持つ。対応の不完了体の構成法も異なる点に注意。

садиться	不完 :	сесть	完	座る
насадить ²	完 →	насажда́ть	不完	考えを植え付ける
досадить	完 →	досажда́ть	不完	いらいらさせる

59. свет/ить ч 不完 輝く

засветить	完 →	засве́чивать	不完	火を灯す
посветить	完 ←	светить	不完	輝く、照らす
просветить ¹	完 →	просве́чивать	不完	X線で検査する

以下の2語は教会スラブ語の子音交替 т/щ を行い、アクセントはB型となる。不完了体の構成方法も異なる。

осветить	完 →	освеща́ть	不完	解明する
просветить ²	完 →	просвеща́ть	不完	啓蒙する

60. серд/ить ж 不完 怒らせる

сердить	不完 →	рассерди́ть	完	怒らせる
---------	------	-------------	---	------

61. -скоч/ить 不完 (跳ねる)

同源語の скак/ать (1 ч СА) と混交するが多い。

вскочить	完 →	вска́кивать	不完	飛び上がる、飛び乗る
заскочить	完 →	заска́кивать	不完	飛び込む

наско́чить	完 →	наска́кивать	不完	飛びつく、ぶつかる
подско́чить	完 →	подска́кивать	不完	はせ寄る
переско́чить	完 →	переска́кивать	不完	飛び越える
проско́чить	完 →	проска́кивать	不完	疾走して通り過ぎる
соско́чить	完 →	соска́кивать	不完	飛び降りる
отско́чить	完 →	отска́кивать	不完	飛び退く、跳ね返る

62. служ/ить 不完 仕える、勤務する

заслужи́ть	完 →	заслу́живать	不完	価する
обслужи́ть	完 →	обслу́живать	不完	奉仕する
послужи́ть	完 ←	служи́ть	不完	仕える
прослужи́ть	完 →	прослу́живать	不完	勤め通す
сослужи́ть	完 →	сослу́живать	不完	尽力する
отслужи́ть	完 →	отслу́живать	不完	勤め上げる
услужи́ть	完 →	услу́живать	不完	役に立つ

63. ссуд/ить ж 不完 (金を)貸す (不完 ссужа́ть)

64. -станов/ить вл

-ся 動詞も同様にC型アクセントを持つ。постанови́ть の不完了体の構成方法が他と異なっている。

останови́ть	完 →	остана́вливать	不完	止める
приостанови́ть	完 →	приостана́вливать	不完	一時停止する
постанови́ть	完 →	постановля́ть	不完	決定する
восстанови́ть	完 →	восстана́вливать	不完	復興させる
установи́ть	完 →	устана́вливать	不完	定める

65. сторон/ить/ся 不完 よける、避ける

сторони́ться	不完 →	посторони́ться	不完	同上
--------------	------	----------------	----	----

66. -стрел/ить (銃で撃つ)

застре́лить	完 →	застре́ливать	不完	射撃する
простре́лить	完 →	простре́ливать	不完	撃ち抜く

単独では接尾辞を替えた стреля́ть を用いる。

67. студ/ить ж 不完 冷やす

застудить	完 →	застуживать	不完	冷やして痛める
простудить	完 →	простуживать	不完	風邪をひかせる
		простужать	不完	同上

68. ступ/ить пл 不完 歩む

наступить	完 →	наступать	不完	時が来る
обступить	完 →	обступать	不完	取り巻く
вступить	完 →	вступать	不完	入る
подступить	完 →	подступать	不完	接近する
переступить	完 →	переступать	不完	またぐ
преступить	完 →	преступать	不完	法を犯す
приступить	完 →	приступать	不完	着手する
поступить	完 →	поступать	不完	振舞う、入る
проступить	完 →	проступать	不完	にじみでる
отступить	完 →	отступать	不完	後退する
уступить	完 →	уступать	不完	譲歩する

69. суд/ить ж 不完 判断する

不完了体を構成する際に行われる子音交替は通例本源動詞の人称形態に現れる子音交替に一致するが、以下の動詞では例外的に人称形態では д/ж が、派生の際には д/жд と異なる子音交替が生じている。

засудить	完 →	засуждать	不完	有罪を宣告する (俗)
обсудить	完 →	обсуждать	不完	審議する
присудить	完 →	присуждать	不完	判決する
осудить	完 →	осуждать	不完	非難する
посудить	完			判断する、考える

70. суш/ить 不完 乾かす

засушить	完 →	засушивать	不完	乾燥させる
насушить	完 →	насушивать	不完	たくさん乾かす
обсушить	完 →	обсушивать	不完	くまなく乾かす
подсушить	完 →	подсушивать	不完	ちょっと乾かす
пересушить	完 →	пересушивать	不完	たくさん乾かす

осушить	完 →	осушать	不完	干拓する
просушить	完 →	просушивать	不完	充分乾燥させる
иссушить	完 →	иссушивать	不完	ひからびさせる
		иссушать	不完	同上

71. таш/ить 不完 引きずる

затащить	完 →	затаскивать	不完	引っ張り込む
натасщить	完 →	натаскивать	不完	布団にくるまる
втащить	完 →	втаскивать	不完	引きずり込む
подтащить	完 →	подтаскивать	不完	引っ張って寄せる
перетасщить	完 →	перетаскивать	不完	引っ張って移す
притащить	完 →	притаскивать	不完	引っ張って来る
дотащить	完 →	дотаскивать	不完	～まで引きずる
протасщить	完 →	протаскивать	不完	引きずって行く
стащить	完 →	стаскивать	不完	引きずって集める
растасщить	完 →	растаскивать	不完	引き離す
оттащить	完 →	оттаскивать	不完	引っ張ってどける
утащить	完 →	утаскивать	不完	遠くへ引きずっていく

72. твор/ить 不完 創造する；行う

творить の派生語のうち下記の4語だけは人称形態に於いてC型アクセントを持つ。творить 自身及びその他の派生語はB型となる。растворить は「溶かす」の意味ではB型アクセントを用いる。

притворить	完 →	притворять	不完	そっと閉める
отворить	完 →	отворять	不完	開ける
приотворить	完 →	приотворять	不完	少し開ける
растворить	完 →	растворять	不完	開ける

73. топ/ить пл 不完 (燃料を) 燃やす、沈める

затопить	完 →	затапливать	不完	火をつける
		затоплять		
натопить	完 →	натапливать	不完	よく暖める
подтопить	完 →	подтапливать	不完	暖房をちょっとたく

перетопить	完	→	перетапливать	不完	暖めすぎる
отопить	完	→	отапливать	不完	暖房する
потопить	完	←	топить	不完	燃料を燃やす
утопить	完	←	топить	不完	同上
протопить	完	→	протапливать	不完	暖房を十分たく
растопить	完	→	растапливать	不完	暖房をたきつける
истопить	完	→	истапливать	不完	ストーブをたく

74. тороп/ить пл 不完 急がせる、せきたてる

поторопить	完	←	торопить	不完	せきたてる
поторопиться	完	←	торопиться	不完	急ぐ
заторопиться	完				

75. точ/ить 不完 研ぐ

заточить ¹	完	→	затачивать	不完	尖らせる
наточить	完	←	точить	不完	研ぐ
обточить	完	→	обтачивать	不完	表面を研磨する
подточить	完	→	подтачивать	不完	ちょっと研ぐ
сточить	完	→	стачивать	不完	研ぎ落とす
расточить ¹	完	→	растачивать	不完	削って広げる
источить ¹	完	→	истачивать	不完	研ぎ削る
отточить	完	→	оттачивать	不完	研ぎすます

「疲労させる」の意、及び以下の派生語ではB型アクセントとなる。

заточить ²	完	→	заточать	不完	幽閉する
расточить ²	完	→	расточать	不完	浪費する
источить ²	完	→	источать	不完	流れ出させる

76. трав/ить вл 不完 踏み荒す

затравить	完	→	затравливать	不完	狩り出す
натравить	完	→	натравлять	不完	けしかける
			натравливать	不完	同上
отравить	完	→	отравлять	不完	中毒させる
потравить	完	←	травить	不完	踏み荒す

- | | | | | |
|------------|-----|---------------|----|------------|
| протравить | 完 → | протравлять | 不完 | 腐食加工する |
| | | протравливать | 不完 | 同上 |
| стравить | 完 → | стравлять | 不完 | けしかけて喧嘩させる |
| | | стравливать | 不完 | 同上 |
| растравить | 完 → | растравлять | 不完 | 刺激する |
| | | растравливать | 不完 | 同上 |
77. труд/ить/ся ж 不完 働く
- | | | | | |
|-------------|-----|---------------|----|----------|
| натрудиться | 完 → | натруживаться | 不完 | 仕事で疲れる |
| потрудиться | 完 | | | しばらく努力する |
78. туж/ить 不完 嘆き悲しむ
79. туп/ить пл 不完 (刃物を) なまくらにする
- | | | | | |
|----------|-----|-----------|----|---------|
| затупить | 完 → | тупить | 不完 | なまくらにする |
| | | затуплять | 不完 | 同上 |
- 下記の2語はV型とC型のゆれを持つ。
- | | | | | |
|-----------|-----|------------|----|---------|
| притупить | 完 → | притуплять | 不完 | なまくらにする |
|-----------|-----|------------|----|---------|
80. туш/ить 不完 (火を) 消す、煮込む
- | | | | | |
|----------|-----|--------|----|---------|
| затушить | 完 ← | тушить | 不完 | 明りを消す |
| потушить | 完 ← | | | 同上 |
| стушить | 完 ← | тушить | 不完 | シチューにする |
81. уд/ить ж 不完 魚を釣る
- | | | | | |
|---------|---|--|--|--------|
| наудить | 完 | | | たくさん釣る |
|---------|---|--|--|--------|
82. -рон/ить (落とす)
- | | | | | |
|-----------|-----|--------|----|-----------|
| заронить | 完 | | | 感情を起こさせる |
| обронить | 完 | | | うっかり言う |
| проронить | 完 | | | 口に出す |
| уронить | 完 : | ронять | 不完 | 落とす、失墜させる |
83. уч/ить 不完 教える
- | | | | | |
|---------|-----|-----------|----|------|
| заучить | 完 → | заучивать | 不完 | 暗記する |
| научить | 完 ← | учить | 不完 | 教える |
| | | научать | 不完 | 同上 |

обучить	完 →	обучать	不完	仕込む
подучить	完 →	подучивать	不完	少し教え込む
переучить	完 →	переучивать	不完	再教育する
изучить	完 →	изучать	不完	研究する、学ぶ
приучить	完 →	приучать	不完	慣れさせる
разучить	完 →	разучивать	不完	練習して覚える
доучить	完 →	доучивать	不完	教え終わる
проучить	完 →	проучивать	不完	長い間学習する
отучить	完 →	отучать	不完	やめさせる

84. хвал/ить 不完 ほめる

захвалить	完 →	захваливать	不完	ほめすぎて増長させる
нахвалить	完 →	нахваливать	不完	ほめちぎる
перехвалить	完 →	перехваливать	不完	ほめすぎる
похвалить	完 ←	хвалить	不完	ほめる
расхвалить	完 →	расхваливать	不完	激賞する
восхвалить	完 →	восхвалять	不完	賛美する

85. хват/ить ч

①不完 ひつつかむ

захватить	完 →	захватывать	不完	つかみ取る
обхватить	完 →	обхватывать	不完	抱きかかえる
подхватить	完 →	подхватывать	不完	持ち上げる
перехватить	完 →	перехватывать	不完	横取りする
прихватить	完 →	прихватывать	不完	抱きとめる
охватить	完 →	охватывать	不完	囲む、把握する
прохватить	完 →	прохватывать	不完	凍み入る
схватить	完 ←	хватить ¹	不完	ひつつかむ
		→ схватывать	不完	同上
расхватить	完 →	расхватывать	不完	先を争って買う
отхватить	完 →	отхватывать	不完	もぎ取る
ухватить	完 →	ухватывать	不完	つかむ

②完 足りる

	хватить ² 完 →	хватать 不完 足りる
86. ход/ить	ж 不完 歩く	
	всходить 不完:	взойти 完 昇る、登る
	восходить 不完	同上
	входить 不完:	войти 完 入る
	выходить ¹ 不完:	выйти 完 外に出る
	доходить ¹ 不完:	дойти 完 ~まで行く
	заходить ¹ 不完:	зайти 完 立ち寄る
	исходить ¹ 不完:	изойти 完 衰弱する
	находить ¹ 不完:	найти 完 見つける
	нисходить 不完:	низойти 完 下る
	обходить ¹ 不完:	обойти 完 回る、巡る
	отходить ¹ 不完:	отойти 完 離れる
	переходить ¹ 不完:	перейти 完 渡る
	подходить 不完:	подойти 完 近寄る
	походить ¹ 不完	似ている
	превосходить 不完:	превзойти 完 優る
	приходить 不完:	прийти 完 到着する
	проходить ¹ 不完:	пройти 完 通過する
	происходить 不完:	произойти 完 起こる
	снисходить 不完:	снизойти 完 寛大に対処する
	сходить ¹ 不完:	сойти 完 降りる
	уходить ¹ 不完:	уйти 完 遠くに行く

以下のような完了体動詞も派生する。выходить は省略する。

заходить ² 完	歩き始める
исходить ² 完	由来する
обходить ² 完	歴訪する
отходить ² 完 →	отхаживать 不完 歩いて疲れさせる
походить ² 完	しばらく歩く

- проходить² 完 長い間歩く
 сходить² 完 行って帰って来る
 уходить² 完 疲れさせる
 Ср. ухаживать 不完 世話をする
87. хорон/ить 不完 葬る
 → захоранивать 不完
 захоронить 完 ← хоронить 不完 葬る
 похоронить 完 ←
88. цед/ить ж 不完 (液体を) こす
 нацедить 完 たくさんこす
 процедить 完 → процеживать 不完 こす
 сцедить 完 → сцеживать 不完 上澄をつぐ
 отцедить 完 → отцеживать 不完 こし分ける
89. цен/ить 不完 評価する
 оценить 完 → оценивать 不完 評価する
 переоценить 完 → переоценивать 不完 再評価・過大評価する
 недооценить 完 → недооценивать 不完 過小評価する
 расценить 完 → расценивать 不完 値段を決める
 обесценить 完 → обесценивать 不完 値を下げる
90. -цеп/ить пл (引っかける)
 зацепить 完 → зацеплять 不完 引っかける
 нацепить 完 → нацеплять 不完 吊す
 подцепить 完 → подцеплять 不完 下から引っかける
 прицепить 完 → прицеплять 不完 連結する
 оцепить 完 → оцеплять 不完 包囲する
 сцепить 完 → сцеплять 不完 つなぐ
 расцепить 完 → расцеплять 不完 切り放す
 отцепить 完 → отцеплять 不完 外す
91. черт/ить ч 不完 線書きする、製図する
 начертить 完 ← чертить 不完 線書きする、製図する

перечертить	完	→	перечёрчивать	不完	製図し直す
очертить	完	→	очёрчивать	不完	スケッチする
исчертить	完	→	исчёрчивать	不完	たくさん書き込みする

92. чин/ить 不完 修理する、尖らせる

зачинить	完				修理する
начинить ¹	完				たくさん繕う
очинить	完				尖らせる
починить	完				修理する

「行う」の意、及び以下の派生語ではB型アクセントが用いられる。

начинить ²	完	→	начинять	不完	詰める
подчинить	完	→	подчинять	不完	服従させる
причинить	完	→	причинять	不完	引き起こす
сочинить	完	→	сочинять	不完	創作する
учинить	完	→	учинять	不完	行う

93. шут/ить ч 不完 冗談を言う

подшутить	完	→	подшучивать	不完	からかう
пошутить	完	←	шутить	不完	冗談を言う

94. яв/ить вл 完 示す

явить	完	→	являть	不完	示す
заявить	完	→	заявлять	不完	表明する、出願する
проявить	完	→	проявлять	不完	現す、現像する
объявить	完	→	объявлять	不完	広く知らせる
изъявить	完	→	изъявлять	不完	表明する

явиться 完 (不完 являться) 「出席する、～となる」等の -ся 動詞についても同様である。

1. 2. 3. 2. 2 不定形 -ать

1. гнать (人称語幹 гон-) 1) 不完 駆り立てる

вогна́ть	完 →	вгона́ть	不完	追い込む
догна́ть	完 →	догона́ть	不完	追いつく
загна́ть	完 →	загона́ть	不完	深く追い込む
изгна́ть	完 →	изгона́ть	不完	追放する
нагна́ть	完 →	нагона́ть	不完	もよおさせる
обогна́ть	完 →	обгона́ть	不完	追い越す
отогна́ть	完 →	отгона́ть	不完	追い払う
перегна́ть	完 →	перегона́ть	不完	追い抜く

2. держ/ать 不完 持っている

задержа́ть	完 →	заде́рживать	不完	押し止める
поддержа́ть	完 →	подде́рживать	不完	支える
передержа́ть	完 →	переде́рживать	不完	長く置きすぎる
издержа́ть	完 →	изде́рживать	不完	使い果たす
придержа́ть	完 →	приде́рживать	不完	軽く抑える
одержа́ть	完 →	оде́рживать	不完	打ち勝つ
продержа́ть	完 →	проде́рживать	不完	ある時間おいておく
сдержа́ть	完 →	сде́рживать	不完	押しとどめる
удержа́ть	完 →	уде́рживать	不完	引き留める

以下の1語は接頭辞が付いても不完了体のままである。

содержа́ть 不完 扶養する、含む

3. дыш/ать 不完 呼吸する

задыша́ть	完	息をつき始める
надыша́ть	完	熱気でむっとさせる
подыша́ть	完	しばらく呼吸する

1) 人称形態の гоню 等は本来不定形の гнать とは異なる動詞 (古代ロシア語では不定形は гонити) の変化形である。

1. 2. 3. 2. 3 不定形 -ётъ

1. смотре/ётъ 不完 見る

подсмотре́ть	完 →	подсма́тривать	不完	盗み見する
пересмотре́ть	完 →	пересма́тривать	不完	再度見る
присмотре́ть	完 →	присма́тривать	不完	監視する
осмотре́ть	完 →	осма́тривать	不完	子細に見る
досмотре́ть	完 →	досма́тривать	不完	終わりまで見る
недосмотре́ть	完 →	недосма́тривать	不完	見逃す
посмотре́ть	完 ←	смотре́ть	不完	見る
		→ посма́тривать	不完	同上
рассмотре́ть	完 →	рассма́тривать	不完	よく見る
усмотре́ть	完 →	усма́тривать	不完	見守る
предусмотре́ть	完 →	предусма́тривать	不完	予見する

2. терпе/ётъ пл 不完 我慢する

претерпе́ть	完 →	претерпева́ть	不完	辛いことを経験する
перетерпе́ть	完			堪え忍ぶ
потерпе́ть	完			しばらく耐える
протерпе́ть	完			我慢し通す
стерпе́ть	完			こらえる
утерпе́ть	完			こらえる (主に否定)

1. 2. 3. 2. 4 B型とC型のゆれを持つ動詞

不定形が -ить に終わる第2変化の動詞で、元々B型アクセントを持っていたものの多くがC型アクセントに転じつつある。この傾向は広く見られ、以下に記すのはその代表的なものである。現在ではB型アクセントを用いてもC型アクセントを用いても構わない語がほとんどであるが、将来にはこれらも完全にC型化してしまうかもしれない。ここに記した動詞以外にも例えば грозить (2 ж BA おどす)、звонить (2 BA 呼ぶ) 等も人称形態で非規範的なC型アクセントを持つこともある。このC型化の過程を既に全うしてしまい、完全にB型からC型に転じた動詞は上記の1. 2. 3. 2. 1に記載してある。

1. бел/ить 不完 白くする
- | | | | | |
|----------|-----|------------|----|-------|
| обелить | 完 → | обелять | 不完 | 正当化する |
| побелить | 完 ← | белить | 不完 | 白くする |
| отбелить | 完 → | отбеливать | 不完 | 漂白する |
2. винт/ить ч 不完 ねじを回す
- | | | | | |
|------------|-----|--------------|----|----------|
| завинтить | 完 → | завинчивать | 不完 | ネジで留める |
| навинтить | 完 → | навинчивать | 不完 | ねじ込んで締める |
| ввинтить | 完 → | ввинчивать | 不完 | ねじ込む |
| подвинтить | 完 → | подвинчивать | 不完 | きつく締める |
| развинтить | 完 → | развинчивать | 不完 | ネジを緩める |
| взвинтить | 完 → | взвинчивать | 不完 | 興奮させる |
| привинтить | 完 → | привинчивать | 不完 | ネジで付ける |
| отвинтить | 完 → | отвинчивать | 不完 | ネジを巻く |
- 「винт (トランプのゲームの名) をして遊ぶ」の意、及び провинтить
「ある時間 винт をする」にはB型アクセントが保存されている。
3. город/ить ж 不完 塀で囲む
- | | | | | |
|--------------|-----|----------------|----|-----------|
| загородить | 完 → | загораживать | 不完 | 遮断する |
| нагородить | 完 → | нагораживать | 不完 | 塀をたくさん建てる |
| перегородить | 完 → | перегораживать | 不完 | 区切る |
| разгородить | 完 → | разгораживать | 不完 | 多くの部分に仕切る |
| огородить | 完 → | огораживать | 不完 | 囲いをする |
| отгородить | 完 → | отгораживать | 不完 | 仕切り分ける |
4. груз/ить ж 不完 積み込む
- | | | | | |
|-------------|-----|-------------|----|------------|
| загрузить | 完 → | загружать | 不完 | 十分に仕事を課する |
| нагрузить | 完 → | нагружать | 不完 | 厄介なことを負わせる |
| перегрузить | 完 → | перегружать | 不完 | 積みかえる |
| разгрузить | 完 → | разгружать | 不完 | 積荷を分ける |
| догрузить | 完 → | догружать | 不完 | 積み終える |
| погрузить | 完 → | погружать | 不完 | 沈める |
| сгрузить | 完 → | сгружать | 不完 | 積荷を下ろす |

- отгрузить 完 → отгружать 不完 出荷する
5. до/ить 不完 乳絞りをする
- надойть 完 → надаивать 不完 乳をたくさん絞る
- подойть 完 ← доить 不完 乳絞りをする
6. друж/ить 不完 友達である
- сдружить 完 親しくさせる
- удружить 完 親切にする
7. зубр/ить 不完 覚える

зазубрить¹ 完 → зазубривать¹ 不完 丸暗記する

上記の意味ではB型とC型のゆれが生じるが、「ぎざぎざにする」の意及びその派生語では古いB型アクセントが保持されている。

зазубрить² 完 → зазубривать² 不完 ぎざぎざにする

8. круж/ить 不完 回す
- закружить 完 回し始める
- окружить 完 → окружать 不完 囲む
- вскружить 完 傾倒させる

9. луд/ить ж 不完 すずめつきする
- полудить 完 ← лудить 不完 すずめつきする

10. мут/ить ч 不完 濁らせる

замутить 完 ← мутить 不完 上記

「ぼんやりさせる、吐き気を催させる」の意味ではB型アクセントを持つ。

помутить 完 ← мутить 不完 上記

次の語は人称形態で т/щ の子音交替を行い、B型アクセントを持つ。

возмутить 完 → возмущать 不完 怒らせる

смутить 完 → смущать 不完 困惑させる

11. облокот/ить/ся ч 不完 頬杖をつく

облокотиться 完 → облакачиваться 不完 頬杖をつく

12. повтор/ить 不完 繰り返す

規範的にはB型アクセントを持つが、C型化がすすみつつある。

повторить 完 → повторять 不完 上記

13. поглот/ить щ 不完 吸収する (不完 поглощать)

1. 2. 3. 2. 1 記載の проглотить を参照のこと。

14. по/ить 不完 飲ませる

напоить 完 ←	пойть 不完	飲ませる
	→	напаивать 不完
		はんだ付けする
подпойть 完 →	подпаивать 不完	ほろ酔いにする
опойть 完 →	опаивать 不完	飲ませすぎる
спойть 完 →	спаивать 不完	飲酒癖を付ける
вспойть 完 →	вспаивать 不完	哺乳する
отпойть 完 →	отпаивать 不完	乳で育て上げる

15. пруд/ить ж 不完 (川を) せき止める

запрудить 完 ←	прудить 不完	(川を) せき止める
	→	запруживать 不完
		満たす

16. сел/ить 不完 移住させる

заселить 完 →	заселять 不完	入居する
населить 完 →	населять 不完	入植させる
вселить 完 →	вселять 不完	定住させる
переселить 完 →	переселять 不完	転居させる
поселить 完 ←	селить 不完	移住させる
	→	поселять 不完
		感情を植え付ける
расселить 完 →	расселять 不完	方々に移住させる

17. скобл/ить 不完 削る

соскоблить 完 →	соскабливать 不完	削り取る
отскоблить 完 →	отскабливать 不完	削り取る

18. -слон/ить

заслонить 完 →	заслонять 不完	遮る
прислонить 完 →	прислонять 不完	たてかける

19. сол/ить 不完 塩味を付ける

засолить 完 →	засаливать 不完	塩づけにする
--------------	---------------	--------

насолить	完 →	насаливать	不完	たつぷり塩を入れる
подсолить	完 →	подсаливать	不完	塩を足す
пересолить	完 →	пересаливать	不完	塩を入れすぎる
посолить	完 ←	солить	不完	塩味を付ける
20. строчить	不完	細かく縫う		
застрочить	完 →	застрачивать	不完	とじ縫いする
настрочить	完 ←	строчить	不完	細かく縫う
		→ настрачивать	不完	同上
прострочить	完 →	прострачивать	不完	細かく縫う
21. сучить	不完	より合わせる		
засучить	完 →	засучивать	不完	まくり上げる
ссучить	完 ←	сучить	不完	より合わせる
		→ ссучивать	不完	同上
22. шевелить	不完	かき回す、動かす		
зашевелить	完			動かし始める
пошевелить	完			しばらく動かす
расшевелить	完 →	расшевеливать	不完	揺り動かす

2. 動詞過去形

2. 1 概説

現代ロシア語の動詞の過去形は人称変化をしない。現代ロシア語の動詞過去形に当たる形は本来パーフェクト（完了現在）と呼ばれる複合時制で、その構成は助動詞 *быть* に相当する動詞の現在形+完了分詞（1分詞）と呼ばれる分詞からできており、構成は英語やドイツ語の現在完了、フランス語の複合過去等と酷似していたが、ロシア語の歴史的発達の結果、助動詞の部分が脱落してしまい、ついに完了分詞のみで過去時制を表すようになってしまったのである。多くの古くさい変化を今日まで持ち続けていることで悪名高い現代ロシア語に於いて、動詞過去形が人称変化を持たないという非常に不可思議な現実はこのようなロシア語の辿った歴史に起因する。従って現代ロシア語に於ける動詞過去形の変化及びアクセント法は構成上同種である形容詞の短語尾、及び現代ロシア語の他の分詞（形動詞）の中で事実上唯一短語尾を有する被動形動詞過去（受身の過去分詞）短語尾に同じである。

2. 2 動詞過去形のアクセント型

上記のような歴史的経緯を踏まえれば何の不思議もないが、現代ロシア語の動詞過去形のアクセントパターンは基本的に以下の3つしかない：

A型：全ての形態が語幹にアクセントを有す

делал делала делало делали

B型：全ての形態が語尾にアクセントを有す

мог могла́ могло́ могли́¹⁾

C型：移動アクセントを有す

C1型：女性形で語尾に、その他で語幹にアクセントを持つ

взял взяла́ взяли́ взяли́

形容詞短語尾の場合と異なり、動詞過去形の移動アクセントのパターンは事実上一種類しかない。それは即ち、短語尾女性形に於いて語尾にアクセントを有し、そ

1)男性形では語尾がゼロのため語幹にあるのは仮アクセントである。

れ以外の形に於いて語幹アクセントを持つというパターンである。3種類の移動アクセントを持つ形容詞短語尾についてはこのアクセント型をC1型と呼んだが、動詞については表記簡略化のため以下では単にC型と呼んでおくことにする。その他の例外的な場合については以下に述べる。

上記3つの基本的アクセント型に加えて稀に以下のような移動アクセント型の変種が用いられることがある：

C2型：女性形と中性形で語尾に、それ以外で語幹にアクセントを持つ

дал дала́ далó дали́ 1)

C3型：女性形と複数形で語尾に、それ以外で語幹にアクセントを持つ

поплы́ поплы́а поплы́о поплы́и 2)

ただし今の所C2型アクセントの使用が正当と認められているのは *дать* *взять* についてのみであり、C3型は語謬とされているので両者はあまり重要ではない。

名詞あるいは形容詞のアクセントパターンを一語一語記憶するのは大変骨が折れることだが、動詞過去形に関してはアクセント型の記憶は非常に容易である。即ちほとんどの動詞がA型アクセントを持ち、不定形が *-ти*, *-чь* 等の奇異な形で終わっていれば、その動詞の過去形は必ずB型アクセントを持ち、後述する28個の動詞から派生したものであればC型アクセントを持つのである。ただし完了体動詞に於ける接頭辞 *вы-* は如何なる場合にもアクセントを持つ例外的接頭辞であるので以下で行う詳述の際にも除外されることになる。

1)なお *дать* *взять* はC1型(すなわちC型)アクセントを持つこともできる。

2)поплы́ть は規範的にはC型アクセントを持つ。わが国でも有名な歌 *Катюша* にC3型アクセントが現れる：

Расцветáли я́блони и гру́ши.	(´)- ´ - ´ - (´)- ´ -
Поплы́и тумáны над реко́й.	(´)- ´ - ´ - (´)- ´ -
Выходи́ла на́ берег Катю́ша	(´)- ´ - ´ - (´)- ´ -
на вы́сокий бе́рег, на круто́й.	(´)- ´ - ´ - (´)- ´ -

右に記したようにこの詩は強弱格(хорей)を持っており、原則としてアクセント音節と非アクセント音節が交互に現れるため、この詩の中では *поплы́и* が語尾にアクセントを有していることが分かる。

2. 2. 1 A型アクセント

動詞過去形の全ての形態に於いて語幹にアクセントを有するパターンをA型と称する。過去形に於いてA型アクセントを持つ動詞の過去形に於ける強勢位置は不定形に於ける強勢位置と原則として一致する¹⁾ので、教育的見地に立つと、この型に属する動詞は過去形に於いて不定形のアクセントを保持すると言い方もできる。統計的資料は残念ながら筆者の手元にはないが、ロシア語の動詞の絶対的多数が過去形に於いてA型アクセントを持つことは疑うべくもない。過去形に於いてA型アクセントを持つ動詞を列挙するよりは、以下に述べるB型及びC型アクセントを持つ動詞をリストアップして、それ以外が全てA型アクセントを持つというふうにな否定的な定義をしておくほうが遙かに経済的である。B型アクセントを持つ本源動詞は次章に記した僅か33語であって、その上不定形の形態的特徴によって整理でき、記憶は容易であろう。C型アクセントを持つ本源動詞は形態的指標を持たないので厄介だが、その数は高々28語であって、その成員の各々は非常に使用頻度の高いものばかりである。

上で語幹にアクセントを有すと定義したA型にも、より厳密には2種を区別できる。それは即ち語根に固定アクセントを有するパターンと、語根と不定形の形式形成接尾辞 *-ть*²⁾ あるいは過去形を表示する接尾辞 *-л-* とを結び付けている接尾辞に固定アクセントを有するパターンである。³⁾ 前者の例としては *дел-а-ть*, *слуш-а-ть*, *вид-е-ть* を、後者の例としては *чит-á-ть*, *пис-á-ть*, *сид-é-ть* を挙げておく。アカデミー文法や *Федянина* 等はこれら両者を区別して、別々な命名をしているが、筆者はこの分類に何の意味も見いださない。特に *Федянина* は後者の型をアクセント語尾固定型(本書でのB型)と同一視してしまっているので、問題が多い。私見では動詞過去形のアクセントの分類は本書に記すように形容詞短語尾及び被動形動詞過去短語尾と同じ基準で行うのが適当だと考えている。

1) *перéть*; *пёр пёрла пёрло пёрли* のような例外も若干ある。

2) 過去形に於いてA型アクセントを持つ動詞は *стричь*, *-стичь* を例外として不定形に於いて形式形成接尾辞 *-ть* を持つ。

3) 過去形に於いてA型アクセントを持つ動詞については、これ以外の構成部分(*вы-*を除く接頭辞など)にアクセントがあることはない。

2. 2. 2 B型アクセント

不定形が -ти, -чь, -честь に終わる動詞は過去形に於いてB型アクセントを持つ。例外となるのは後述する стричь, -стичь のみである。

2. 2. 2. 1 不定形 -ти́

以下に記す動詞は全て過去形に於いてB型アクセントを持つ。

なお、ここに記す動詞は全て語尾にアクセントを持っているが、過去男性形では語尾がゼロとなるのでやむなく語幹に仮アクセントを置くことになる。

語幹が子音に終わるものだけがここに該当するので語幹と接尾辞 л の接合部で子音連続が形成され、この子音連続を成す子音のうち一つが脱落するという現象が多発する。個々の場合の詳細については註に記した。

下記の語以外に грясти́, густы́ も不定形が -ти に終わるが、これらは過去形を持たず、かつ使用頻度も低いので除外しても差し支えないであろう。

1. блюсти́ (語幹 блюд-) 不完 守る¹⁾

過去形 блюл (<*блюдл∅) блюла́ (<*блюдла́) блюло́ блюли́²⁾

接頭辞の付いた派生語：

наблюсти́	完		観察する
	(→	наблюда́ть	不完 注視する)
соблюсти́	完 →	соболоуда́ть	不完 守る

1)現在(即ち非過去)の変化が блюду́, блюдёшь, ...命令形が блюди́ となることから語幹即ちそれらの変化形の共通部分が блюд-であることが判る。以下の動詞についても同様の基準で語幹を求め、()内に記してある。若干の動詞については過去形と人称形態の語幹を別に定める場合もあるが、これらは例外的であると言ってもよいほど少数である。なお不定形では [дт>ст] の異化が生じている。

2)過去形では л の前で д が脱落している。これを [дл>л] と記しておく。このように表面には現れずに脱落してしまう子音はイタリックで示すことにする。以下で他の例を見れば判然とするであろうが、この種の子音脱落は非常に規則的に行われる。

2. брести́ (語幹 бред-) 不完 (目的地に向かって) のろのろ歩く
 過去形 брёл (<*брёл∅) брелá (<*брелá) брелó брели́¹⁾

接頭辞の付いた派生語：V型アクセント

забрести́ 完 →	забрéдaть 不完	ぶらり立ち寄る
набрести́ 完 →	набрéдaть 不完	ばったり会う
взбрести́ 完 →	взбрéдaть 不完	やっと登る
добрести́ 完 →	добрéдaть 不完	やっとたどり着く
побрести́ 完		ぶらぶら歩き出す

3. везти́ (語幹 вез-) 不完 (乗り物に乗せて目的地に向かって) 運ぶ
 過去形 вёз (<*везл∅) везлá везлó везли́²⁾

接頭辞の付いた派生語：

завезти́ 完 →	завозíть 不完	ついでに届ける
навезти́ 完 →	навозíть 不完	運ぶ途中でぶつける
ввезти́ 完 →	ввозíть 不完	運び入れる
подвезти́ 完 →	подвозíть 不完	近くまで運ぶ
перевезти́ 完 →	перевозíть 不完	向こう側へ運ぶ
развезти́ 完 →	развозíть 不完	配達する
привезти́ 完 →	привозíть 不完	運んでくる
повезти́ 完		運び始める
провезти́ 完 →	провозíть 不完	運び通る
свезти́ 完 →	свозíть 不完	運び下ろす
отвезти́ 完 →	отвозíть 不完	運び届ける
увезти́ 完 →	увозíть 不完	運び去る

1) e と ë の交替の条件付けは厳密にはかなり難しい。しかし一般的には「軟子音に後続し硬子音に先行するアクセントを有する e は ë となる」[τ'эт>τ'ót] (但し τ は任意の子音) と言っている。この項目についてはこのルールで間に合う。

2) 過去男性形では э の前で л が脱落している。[элV̄>эV̄] (V は母音、V̄ は母音以外を表すものとする。)

4. вести́ (語幹 вед-¹⁾) 不完 (目的地に向かって) 連れて行く
 過去形 вёл (<*ведл∅) вела́ (<*ведла́) вёлó вели́²⁾

接頭辞の付いた派生語：

завести́	完 →	заводи́ть	不完	立ち寄らせる
навести́	完 →	наводи́ть	不完	～に向ける
обвести́	完 →	обводи́ть	不完	案内して一巡する
ввести́	完 →	вводи́ть	不完	導き入れる
подвести́	完 →	подводи́ть	不完	近くに連れて来る
перевести́	完 →	переводи́ть	不完	渡らせる、翻訳する
развести́	完 →	разводи́ть	不完	多方向に導く
взвести́	完 →	взводи́ть	不完	助け上げる
извести́	完 →	изводи́ть	不完	苦しめる
низвести́	完 →	низводи́ть	不完	引き下ろす
произвести́	完 →	производи́ть	不完	引き起こす
воспроизвести́	完 →	воспроизводи́ть	不完	再生産する
возвести́	完 →	возводи́ть	不完	建造する
привести́	完 →	приводи́ть	不完	連れて来る
довести́	完 →	доводи́ть	不完	～まで導く
повести́	完			連れて出かける
провести́	完 →	проводи́ть	不完	案内して通る
свести́	完 →	своди́ть	不完	助け下ろす
отвести́	完 →	отводи́ть	不完	送って行く
увести́	完 →	уводи́ть	不完	連れ去る

1) 語幹 (ここでは語根に等しい) は вед- だが、前述の блюсти́ (<*блюд-ти́)、
 брести́ (<*бред-ти́) 等と同様に不定形を構成する際に、不定形のマーカである
 -ть の前で語幹末の子音 д が с に異化している。これを [дт>ст] と略記する。

2) 語幹末の子音 д が、過去形のマーカ л の前で脱落している。

5. грести (語幹 греб-) 不完 かき寄せる、漕ぐ

過去形 грёб (<*гребл^л) гребла́ гребло́ гребли́¹⁾

接頭辞の付いた派生語:

загрести 完 →	загребать 不完	かき集める
разгрести 完 →	разгребать 不完	かき散らす
погрести 完 →	погребать 不完	埋葬する
сгрести 完 →	сгребать 不完	かき集める
отгрести 完 →	отгребать 不完	かき除ける

6. идти (人称語幹 ид- 過去語幹 шёл-)

不完 (目的地に向かって) 歩いて行く²⁾

過去形 шёл (<*шел^л) шла́ (<*шелá) шло́ шли́

接頭辞の付いた派生語³⁾:

зайти 完 →	заходить 不完	立ち寄る
найти 完 →	находить 不完	見つける
перейти 完 →	переходить 不完	渡る
прийти ⁴⁾ 完 →	приходить 不完	到着する
обойти 完 →	обходить 不完	回る、巡る

1)不定形では[бт>ст]の異化が生じている。過去形では бл に母音が後続しないとき л が脱落している。これを [бл^л>б^л] と記す。

2)なぜこの語だけ不定形に於いて [дт>ст] の変化を受けないのか筆者には判然としない。過去語幹は本来 ходить (語根 ход-) の系列であって、まん中の母音 o が e (e o を出沒母音を司る仮想の単位として用いる) に相当する前舌母音と交替した結果、その母音に先行する х が ш と交替したのである。前舌母音の前で г к х が ж ч ш となるこの現象は第1パラタリゼーションと呼ばれている。現代ロシア語のこの動詞の過去形からは過去語幹が шёл- と最後に д を含む形になっているのかが判らないが、能動形動詞過去 шёлший を参照すれば納得がいくだろう。

3)接頭辞が付くと不定形は -йти (人称語幹 -ид-, 過去語幹 -шёл-) となる。

4)人称形態の語幹は прийд- が縮約されて прид- となる。

войти	完 →	входить	不完	入る
дойти	完 →	доходить	不完	～まで行く
подойти	完 →	подходить	不完	近寄る
взойти	完 →	всходить	不完	昇る、登る
	→	восходить	不完	同上
превзойти	完 →	превосходить	不完	優る
изойти	完 →	исходить	不完	衰弱する
низойти	完 →	нисходить	不完	下る
снизойти	完 →	снисходить	不完	寛大に対処する
произойти	完 →	происходить	不完	起こる
пойти	完			出発する
пройти	完 →	проходить	不完	通過する
сойти	完 →	сходить	不完	降りる
отойти	完 →	отходить	不完	離れる
уйти	完 →	уходить	不完	遠くに行く

7. мети́ (語幹 мет-) 不完 掃く

過去形 мёл (<*метлѹ) мелá (<*метлá) мелó мели́¹⁾

接頭辞の付いた派生語：

замести	完 →	заметать	不完	掃き寄せる
намести	完 →	наметать	不完	沢山掃き集める
обмести	完 →	обметать	不完	(回りを) 払い落とす
отмести	完 →	отметать	不完	払い除ける
подмести	完 →	подметать	不完	屋内を掃き清める
размести	完 →	разметать	不完	屋外を掃き清める
смести	完 →	сметать	不完	掃き集める

1)不定形に於いて [тт>ст] の異化が、過去形に於いて [тл>л] のように т の脱落がそれぞれ生じる。

8. нести́ (語幹 нес-') 不完 (体に付けて目的地に向かって) 運ぶ
過去形 нёс (<*несл^л) несла́ несло́ несли́

接頭辞の付いた派生語：

занести́	完 →	зано́сить	不完	ついでに届ける
нанести́	完 →	нано́сить	不完	ぶつける
обнести́	完 →	обно́сить	不完	持って回る、囲む
внести́	完 →	вно́сить	不完	持ち込む
привнести́	完 →	привно́сить	不完	添加する
поднести́	完 →	подно́сить	不完	近くに持って来る
преподнести́	完 →	преподно́сить	不完	贈呈する
перенести́	完 →	перено́сить	不完	運び移す、耐える
разнести́	完 →	разно́сить	不完	配布する
произнести́	完 →	произно́сить	不完	発音する
вознести́	完 →	возно́сить	不完	出世させる
превознести́	完 →	превозно́сить	不完	ほめちぎる
принести́	完 →	прино́сить	不完	持って来る
донести́	完 →	доно́сить	不完	～まで持って行く
понести́	完			持って出発する
пронести́	完 →	проно́сить	不完	持って通る
снести́	完 →	сно́сить	不完	持って下りる
отнести́	完 →	отно́сить	不完	持って行く
унести́	完 →	уно́сить	不完	持ち去る

9. обрести́ (語幹 обрет-) 完 見出す (不完 обретáть)

過去形 обрёл (<*обретл^л) обрела́ обрело́ обрели́

接頭辞の付いた派生語：

изобрести́	完 →	изобретáть	不完	発明する
приобрести́	完 →	приобретáть	不完	手に入れる

10. пасти́ (語幹 пас-) 不完 放牧する

過去形 пас (<*пасл^л) пасла пасло пасли

接頭辞の付いた派生語：

запастí	完 →	запасáть	不完	蓄える
спасти́	完 →	спаса́ть	不完	救う

11. плести́ (語幹 плет-') 不完 編む

過去形 плёл (<*плел^л) плела (<*плела) плело плели

接頭辞の付いた派生語：

заплести́	完 →	заплета́ть	不完	編んで作る
наплести́	完 →	наплета́ть	不完	たくさん編む
вплести́	完 →	вплета́ть	不完	編み込む
переплести́	完 →	переплета́ть	不完	編み直す
приплести́	完 →	приплета́ть	不完	編んで付ける
оплести́	完 →	оплента́ть	不完	巻き付ける
сплести́	完 →	сплета́ть	不完	編み合わせる
расплести́	完 →	расплета́ть	不完	編んだ物をほどく
уплести́	完 →	уплета́ть	不完	がつがつ食べる

12. ползти́ (語幹 полз-) 不完 (目的地に向かって) 這う

過去形 полз (<*ползл^л) ползла ползло ползли

接頭辞の付いた派生語：

заползти́	完 →	заполза́ть	不完	潜り込む
наползти́	完 →	наполза́ть	不完	這って突き当たる
вползти́	完 →	вполза́ть	不完	這って入る
подползти́	完 →	подполза́ть	不完	這い寄る
переползти́	完 →	переполза́ть	不完	這って渡る
приползти́	完 →	приполза́ть	不完	這って来る
оползти́	完 →	оползта́ть	不完	這い回る、沈下する
проползти́	完 →	прополза́ть	不完	這って進む
сползти́	完 →	сполза́ть	不完	這って下りる

отползѣти 完 → отползѣть 不完 這って離れる
 уползѣти 完 → уползѣть 不完 這って去る

13. рассветѣти (語幹 рассветѣ-) 完 夜が明ける (不完 рассветѣть) ¹⁾
 過去形 рассвелó (<*рассветлó)

14. расти (人称語幹 раст-, 過去語幹 рост-) 不完 成長する ²⁾
 過去形 рос (<*ростлѣ) рослá (<*ростлá) рослó росли ³⁾

1) рас-свестѣти と分析され、*свестѣти (<*свет-ти) という動詞から作られた派生語である。残念ながらロシア語には с-вестѣти (<*с-вед-ти) と分析される動詞が別に存在しているのも本源動詞が残っていない理由の一つであろう。

2) 人称語幹が раст-, 過去語幹が рост-と母音が交替してしまっているが、後者が本来のロシア語の形であって、前者は教会スラブ語からの借用である。一般に任意の子音を t で表すと、スラブ祖語 *ort はロシア語の属す東スラブでは *rot に、南スラブでは *rat に転じる。もっとも現代ロシア標準語はアクセントの無い o を a と同様に読む方言 (アーカニエ аканье と呼ばれる) を基にしているので、ロシア人にとっては単なるスペリングの違いでしかないのだろう。

3) これらの過去形に於ける子音の脱落は全く自動的に処理される。①上記の местѣти の過去女性形等が *метлá から мелá となるのと同様に最初に л の前で т が脱落し、女性形 *ростлá から рослá, 男性形 *ростл から *росл ができる。②次に нестѣти の過去男性形が *несл から нѣс となるのと同様に с の後で次に母音を持たない л が脱落し、*росл から рос ができる。

念のためにこれを図示しておく。母音を V 母音以外を \bar{V} で表すと、①は [тл >т], ②は [Vсл \bar{V} >Vc \bar{V}] となる。

①	②							
*ростл'	>	росл'	>	рос	=	рос		
*ростлá	>	рослá			=	рослá		
(*метлá	>	мелá			=	мелá)		
		(*несл'	>	*нѣс	>	нѣс	=	нѣс)

接頭辞の付いた派生語：

зарасти́	完 →	зараста́ть	不完	生い茂る
нарасти́	完 →	нараста́ть	不完	表面に生じる
обрасти́	完 →	обраста́ть	不完	一面に生える
врасти́	完 →	враста́ть	不完	内部に向かって伸びる
подрасти́	完 →	подраста́ть	不完	少し成長する
перераст́и	完 →	перераста́ть	不完	身長が追い越す
произрасти́	完 →	произраста́ть	不完	(植物が) 生育する
возрасти́	完 →	возраста́ть	不完	成長する
прирасти́	完 →	прираста́ть	不完	成長してくっつく
дорасти́	完 →	дораста́ть	不完	～まで成長する
порасти́	完 →	пораста́ть	不完	一面に茂る
прораст́и	完 →	пророста́ть	不完	発芽する
отрасти́	完 →	отраста́ть	不完	伸びる

15. скрест́и (語幹 скреб-) 不完 ひっかく

過去形 скрёб (<*скреблѹ) скребл́а скребл́о скребл́и

接頭辞の付いた派生語：

наскрест́и	完 →	наскреба́ть	不完	かき集める
соскрест́и	完 →	соскреба́ть	不完	削り取る
отскрест́и	完 →	отскреба́ть	不完	削り取る

16. трясти́ (語幹 тряс-) 不完 揺する

過去形 тряс (<*тряслѹ) трясл́а трясл́о трясл́и

接頭辞の付いた派生語：

перетрясти́	完 →	перетряса́ть	不完	全部振り払う
потрясти́	完 →	потряса́ть	不完	感動させる
сотрясти́	完 →	сотряса́ть	不完	揺るがす
растрясти́	完 →	растряса́ть	不完	まき散らす
утрясти́	完 →	утряса́ть	不完	揺すってかさを減らす

17. цвести́ (語幹 цвет-') 不完 花咲く

過去形 цвёл (<*цветл-∅) цвелá (<*цветлá) цвелó цвели́

接頭辞の付いた派生語：

зацвести́	完 →	зацветáть	不完	咲き出す
процвести́	完 →	процветáть	不完	栄える
расцвести́	完 →	расцветáть	不完	花盛りになる
отцвести́	完 →	отцветáть	不完	咲き終わる

以上を約言するに、不定形のマーカー -ти́ を持つ動詞の語幹は д т з с б の何れかに終わり、これらは過去形に於いて必ず V 型アクセントを持つ。1. で述べたようにこれらは人称形態に於いても V 型アクセントを持つので、不定形が -ти́ に終わる動詞は、接頭辞 вы- がある場合を除いて V V 型アクセントを持つと言える。ここで出てきた子音交替及び子音の脱落のまとめをしておく。

異化 不定形に於いて：

дт > ст блюсти́ (<*блюд-ти), брести́ (<*бред-ти),
вести́ (<*вед-ти)

例外) иди́ти (<*ид-ти́)

тт > ст местí (<*мет-ти́), плестí (<*плет-ти́),
рассвестí (<*рассвет-ти́), цвестí (<*цвет-ти́)

бт > ст грести́ (<*греб-ти́), скрести́ (<*скреб-ти́)

脱落 過去形に於いて：

дл > л 例) вёл (<*вед-л-∅) велá (<*вед-л-á)

тл > л 例) цвёл (<*цвет-л-∅) цвелá (<*цвет-л-á)

зл̄ > з̄л̄ 例) вёз (<*вез-л-∅) しかし везлá (вез-л-á)

сл̄ > с̄л̄ 例) нёс (<*нес-л-∅) しかし неслá (нес-л-á)

бл̄ > б̄л̄ 例) грёб (<*греб-л-∅) しかし греблá (греб-л-á)

2. 2. 2. 2 不定形 -чь

以下の動詞は後述する *стричь*, *-стичь* を除いて全て過去形に於いてB型アクセントを持つが、過去男性形では語尾がゼロとなるのでやむなく語幹に仮アクセントを置くことになる。*-стичь* 以外は人称形態に於いてもB型アクセントを持つため、アクセント型はBB型となる。例外的に *стричь* はBA型アクセントを、*-стичь* はAA型アクセントを持つ。

語幹が子音 *г к* に終わるものだけがここに該当するので語幹と接尾辞 *л* の接合部で子音連続 *гл кл* が形成されることになるが、この子音連続は母音(V)が後続するときのみ保存され、ゼロを含む母音以外の要素(\bar{V})がこの子音連続に後続するとき、接尾辞 *л* が脱落する。この過程は以下のように図示できる：

$$(1) V_{гл}V = V_{гл}\bar{V} \quad V_{кл}V = V_{кл}\bar{V}$$

$$(2) V_{гл}\bar{V} > V_{г}\bar{V} \quad V_{кл}\bar{V} > V_{к}\bar{V}$$

例として *мочь*, *печь* の場合を記しておく：

	(1)	(2)	(3)
語幹 <i>мог-</i>	過去女性形 <i>мог-л-á</i> =		<i>могlá</i>
	過去男性形 <i>мог-л-∅</i>	>	<i>мог</i>
語幹 <i>пек-</i>	過去女性形 <i>пек-л-á</i> =		<i>пекlá</i>
	過去男性形 <i>пек-л-∅</i>	>	<i>пек</i> > <i>пёк</i> ¹⁾

不定形の形 *-чь* は前舌母音を後続する **гт* **кт* が *ч* となったことに起因する。*сечь*, *стричь*, *-стичь* を除くここに記す動詞はかつて不定形に於いてもアクセントを最終音節にアクセントを持っていた（例えば *печи́*）が、その後のロシア語の発達の結果、不定形の最終音節核 *и* が脱落し、この類の動詞不定形の最終音節アクセントは不可能となり、現在のように語幹にアクセントを移す結果となった。現在の語幹アクセントは仮アクセントと呼んでも構わない。結局不定形に於いても最終音節アクセントが保存されたのは上記2. 2. 1の *-ти́* に終わる動詞だけである。

1)なお上で(3)と記したように、語尾がゼロのために仮アクセントを受けた語幹最終音節の音節核 *e* は規則的に *ë(o)* に変わる。これは過去形に於いてB型アクセントを持つ動詞一般に通じる規則である。

1. берéчь (語幹 берег-) 不完 大事にする

過去形 берèг (<*береглØ) береглá береглó береглí

接頭辞の付いた派生語:

приберéчь	完 →	приберегáть	不完	蓄える
оберéчь	完 →	оберегáть	不完	守る
поберéчь	完			大事にする
сберéчь	完 →	сберегáть	不完	使わずにおく
уберéчь	完 →	уберегáть	不完	守るよう気をつける

2. влечь (語幹 влек-) 不完 引く、興味をそそる¹⁾

過去形 влèк (<*влеклØ) влеклá влеклó влеклí

1) влечь および次ページに記す волóчь の2語はどちらもスラブ祖語 *velk-ti に遡り、後者が本来のロシア(東スラブ)の形であって、前者は教会スラブ語(南スラブ)からの借用語に由来する。スラブ語は歴史時代に入る前に閉音節(子音に終わる音節)を排除して開音節(母音に終わる音節)にする過程を経たのだが、そのやりかたが地域によって異なった場合があり、上記2語の差異も開音節化の地域的差異に帰す。t を任意の子音、V を任意の母音、/ を音節の切れ目として次のように定式化される:

	スラブ祖語	南スラブ語	東スラブ語
1	*tor/tV	tra/tV	to/ro/tV
2	*ter/tV	tre/tV	te/re/tV
3	*tol/tV	tla/tV	to/lo/tV
4	*tel/tV	tle/tV	to/lo/tV

例を示しておく。第1例の語末の弱母音は省略する。

1	*gor/d-	gra/d- (град)	go/ro/d- (город)
2	*ver/me	vre/me (время)	ve/re/me (веремья)
3	*gol/va	gla/va (глава)	go/lo/va (голова)
4	*mel/ko	mle/ko (млеко)	mo/lo/ko (молоко)

東スラブ語では流音 r l の前後に母音を挿入して本来の1音節から2音節を得

接頭辞の付いた派生語：

завлѣчь	完 →	завлекáть	不完	誘惑する
навлѣчь	完 →	навлекáть	不完	引き起こす
развлѣчь	完 →	развлекáть	不完	楽しませる
извлѣчь	完 →	извлекáть	不完	引き出す
привлѣчь	完 →	привлекáть	不完	引き付ける
вовлѣчь	完 →	вовлекáть	不完	引き入れる
повлѣчь	完			招来する
отвлѣчь	完 →	отвлекáть	不完	そらす
увлѣчь	完 →	увлекáть	不完	夢中にさせる

3. волóчь (語幹 волок-) 不完 引きずる

過去形 волók (<*волοκ∅) волοκlá волοκló волοκlí

接頭辞の付いた派生語：

заволóчь	完 →	заволáкивать	不完	覆い隠す
обволóчь	完 →	обволáкивать	不完	包む
приволóчь	完 →	приволáкивать	不完	引きずって来る
уволóчь	完 →	уволáкивать	不完	引きずって運び去る

4. жечь (語幹 жег-) 不完 焼く

過去形 жѣг (<*жег∅) жгlá жгló жгли

接頭辞の付いた派生語：

зажѣчь	完 →	зажигáть	不完	点火する
нажѣчь	完 →	нажигáть	不完	炎症を引き起こす
обжѣчь	完 →	обжигáть	不完	火傷する

る。この現象は полногласие「母音重挿」と呼ばれ、4から влечь と волóчь の差異が説明されることになる。4に於いて母音が e から o に転じてしまうのは不可解であるが、一般には 1 が軟口蓋化(すなわち後舌化)していて、1 に同化してその前後の母音が前舌の e から後舌の o となったと考えられている。

поджёчь	完 →	поджигать	不完	下から焼く
пережёчь	完 →	пережигать	不完	焼きすぎる
разжёчь	完 →	разжигать	不完	燃え立たせる
прижёчь	完 →	прижигать	不完	軽く焼く
ожёчь	完 →	ожигать	不完	火傷する
прожёчь	完 →	прожигать	不完	焼き穴を開ける
сжёчь	完 →	сжигать	不完	焼く
отжёчь	完 →	отжигать	不完	焼きなます

5. лечь (人称語幹 ляг- 過去語幹 лег-) 完 横になる¹⁾

過去形 лёг (<*легла⁰) легла легло легли

接頭辞の付いた派生語:

залечь	完 →	залегать	不完	横になって隠れる
налечь	完 →	налегать	不完	のしかかる
облечь	完 →	облегать	不完	取り囲む
прилечь	完 →	прилегать	不完	ぴったり合う
полечь	完			多数が戦死する
пролечь	完 →	пролегать	不完	長く伸びている
слечь	完 →	пролегать	不完	寝込む
отлечь	完 →	отлегать	不完	痛みが無くなる

6. мочь (語幹 мог-) 不完 できる

過去形 мог (<*могла⁰) могла могло могли

接頭辞の付いた派生語:

занемочь	完 →	занемогать	不完	病気になる
изнемочь	完 →	изнемогать	不完	力尽きる
перемочь	完 →	перемогать	不完	感情を抑える
превозмочь	完 →	превозмогать	不完	克服する

1) 命令形は語尾ゼロで ляг となることにも注意。

помóчь 完 → помогáть 不完 助ける
 смóчь 完 ← мочь 不完 できる

7. небрэчь¹⁾ (語幹 небрег-) 不完 =preneбрегáть

過去形 небрѣг (<*небреглØ) небреглá небреглó небреглѣ

接頭辞の付いた派生語:

preneбрéчь 完 → preнебрегáть 不完 馬鹿にする

8. облечь²⁾ (語幹 облек-) 不完 着せる、包む

過去形 облѣк (<*облеклØ) облеклá облеклó облеклѣ

接頭辞の付いた派生語: なし

9. печь (語幹 пек-) 不完 (オーブンで) 焼く

過去形 пѣк (<*пеклØ) пеклá пеклó пеклѣ

接頭辞の付いた派生語:

запéчь 完 → запекáть 不完 狐色になるまで焼く
 напéчь 完 → напекáть 不完 (太陽が) 照りつける
 перепéчь 完 → перепекáть 不完 焼きすぎる
 допéчь 完 → допекáть 不完 十分に焼く
 пропéчь 完 → пропекáть 不完 よく焼く
 спéчь 完 → спекáть 不完 熱で固める
 распéчь 完 → распекáть 不完 叱りつける
 испéчь 完 ← печь 不完 焼く
 упéчь 完 → упекáть 不完 追いやる

1) небрэчь は本来 бречь という今のロシア語には無い動詞の接頭辞による派生語である。бречь と беречь の関係は上記のように град と гóрод の関係に等しい。

2) облечь は本来 об-влечь であって、上記の влечь の接頭辞の付いた派生語であるが、ここでは別に記しておく。[бв>б] は時に生じる変化である: 例) *об-власть > óбласть, *об-вита́ть > обита́ть и т.д.

10. -прячь (語幹 -пряг-) 1)

過去形 -пряг (<* -пряг∅) -прягла́ -прягло́ -прягли́

接頭辞の付いた派生語:

запрячь	完 →	запряга́ть	不完	同上
напрячь	完 →	напряга́ть	不完	緊張させる
впрячь	完 →	впряга́ть	不完	馬をつなぐ
перепрячь	完 →	перепряга́ть	不完	馬を付け替える
распрячь	完 →	распряга́ть	不完	馬具を外す
отпрячь	完 →	отпряга́ть	不完	馬を馬具から離す

11. -речь (語幹 рек-) (不完) (話す)

過去形 -рёк (<* -рек∅) -рекла́ -рекло́ -рекли́

接頭辞の付いた派生語:

наре́чь	完 →	нарека́ть	不完	名付ける
предре́чь	完 →	предрека́ть	不完	予言する
изре́чь	完 →	изрека́ть	不完	のたまう

12. сечь (語幹 сек-) 不完 切断する、切り刻む

過去形 сёк (<* сек∅) секла́ секло́ секли́ 2)

1)かつて語根の母音 я を不定形では [e]、過去男性形では [ë](o) と発音したが、これはもはや古くなり、スペリング通りの発音が一般的になっている。

2) сечь は本来過去形に於いてA型アクセントを持ち、сек сэкла сэкло сэкли と変化した。1950年前後までに出た辞書ではこの動詞の過去形はA型アクセントに属するように記述されているが、その後徐々にB型アクセントも記載されるようになり、混沌状態を経て、A型アクセントは「鞭打つ」の意味にのみ固定されるようになった。しかし最近10年間に出た辞書等の記述を見ると全ての意味に於いて過去形にB型アクセントを用いるようになってきている。それとともに過去男性形で語根の母音が e から ë に交替するのが常となった。

接頭辞の付いた派生語：

засéчь	完 →	засека́ть	不完	鞭で打ち殺す
насéчь	完 →	насека́ть	不完	刻み目をつける
подсéчь	完 →	подсека́ть	不完	元から切る
пересéчь	完 →	пересека́ть	不完	横切る
пресéчь	完 →	пресека́ть	不完	阻止する
рассéчь	完 →	рассека́ть	不完	ばっさり切る
отсéчь	完 →	отсека́ть	不完	切断する

13. стерéчь (語幹 стереѓ) 不完 見張る

過去形 стерёг (<*стерег^л) стерегла́ стерегло́ стерегли́

接頭辞の付いた派生語：

подстерéчь	完 →	подстерега́ть	不完	待ち伏せする
остерéчь	完 →	остерега́ть	不完	用心させる
предостерéчь	完 →	предостерега́ть	不完	警告する
устерéчь	完 →	устерега́ть	不完	見張る

14. течь (語幹 теќ) 不完 流れる

過去形 тёк (<*текл́) текла́ текло́ текли́

接頭辞の付いた派生語：

затéчь	完 →	затекáть	不完	流れ込む
натéчь	完 →	натекáть	不完	流れて溜る

概してA型アクセントの安定性は実に高く、元々A型アクセントを持っていた語が他のアクセント型に転じるなどとはまず考えられない。筆者が以前に調査した限りではA型からB型に転じた動詞は唯一 сечь のみである。私見だがこれは形態的によく似た動詞である печь, течь からの類推だと思う。

本書ではアップトウデイトな内容にするためこの動詞の過去形をB型アクセントに属すとしておく。ちなみに現在わが国で出ている露和辞典の中でこの語の正確なアクセントが記されているのは唯一研究社露和辞典だけである。

обт́ечь	完 →	обтека́ть	不完	回りを流れる
вт́ечь	完 →	втека́ть	不完	川が流れ込む
подт́ечь	完 →	подтека́ть	不完	下へ流れ込む
прит́ечь	完 →	притека́ть	不完	流れて来る
от́ечь	完 →	оттека́ть	不完	腫れる
прот́ечь	完 →	протекáть	不完	流れ過ぎる
ст́ечь	完 →	стекáть	不完	流れ集まる
ист́ечь	完 →	истекáть	不完	期限が満了する
ут́ечь	完 →	утекáть	不完	漏る

15. толóчь (語幹 толóк-) 不完 突き砕く

過去形 толóк (<*толóкл∅) толкля́ толкля́ толкля́ толкля́

接頭辞の付いた派生語:

натолóчь	完	たくさん突き砕く
истолóчь	完	細かく突き砕く
растолóчь	完	尽き砕く

以下の2語およびその接頭辞による派生語は不定形が -чь に終わっていても過去形では例外的にA型アクセントを持つ。人称形態では стричь はB型アクセントに、-стичь はA型アクセントに属す。-стичь は不定形で -стигнуть とゆれており、過去男性形で語幹は接尾辞 -ну- を持つ場合と持たない場合とがある。

16. стричь (語幹 стриг-) 不完 散髪する

過去形 стриг (<*стригл∅) стригля́ стригля́ стригля́ стригля́

接頭辞の付いた派生語:

настри́чь	完 →	настрига́ть	不完	たくさん刈る
подстри́чь	完 →	подстрига́ть	不完	少し刈る
остри́чь	完 ←	стричь	不完	散髪する
постри́чь	完 →	пострига́ть	不完	剃髪させる
состри́чь	完 →	сострига́ть	不完	刈り込む

расстричь 完 → расстригать 不完 破門する
 отстричь 完 → отстригать 不完 切り取る

17. -стичь = -стигнуть (人称語幹 стигн- 過去語幹 стиг(ну)-)

過去形 -стиг (<*стигл∅) -стигла -стигло -стигли
 -стигнул

接頭辞の付いた派生語:

застичь = застигнуть 完 → застигать 不完 襲う
 настичь = настигнуть 完 → настигать 不完 追いつく
 достичь = достигнуть 完 → достигать 不完 達成する
 постичь = постигнуть 完 → постигать 不完 理解する

2. 2. 2. 3 不定形 -честь

「はじめに」の例に記したように честь (<*чет-ть) の原義は читать に等しい。不定形を構成する際に語幹末の т が с に異化するのは 2. 2. 2. 1 に記したのと同様である。語幹が子音に終わり、接尾辞を持たない動詞で不定形が -ти に終わらないのはこれ 1 語のみである。

честь (語幹 чет-) 不完 読む (= читать)

過去形 чёл (<*четл∅) члá (<*четлá) члó чли

接頭辞の付いた派生語:

зачесть 完 → зачитывать 不完 算入する
 начесть 完 → начитывать 不完 欠損をこしらえる
 почесть 完 → почитать 不完 みなす
 предпочесть 完 → предпочитать 不完 より好む、prefer
 прочесть 完 = прочитать 完 → прочитывать 不完 読み通す
 счесть 完 → считать 不完 みなす
 расчесть 完 = рассчитать 完 → рассчитывать 不完 計算する、見積る

честь (со-чет-ть)、расчесть (разо-чет-ть) では語根の e が母音化すれば接頭辞末尾の o が消え、逆に e が消えれば o が出現する: сочту сочтёт счёл сочлá; разочту разочтёт расчёл разочлá и т.д.

2. 2. 3 C型アクセント

他の品詞についてのアクセント型と同様に、語幹に固定したアクセントをA型、語尾に固定したアクセントをB型と呼ぶのに対し、語形変化に従って語幹と語尾の間を移動するアクセントをC型と称する。形容詞短語尾の場合と同様にC型アクセントには以下の3つの下位区分をすることができる：

C 1型：女性形で語尾に、それ以外の形態で語幹にアクセントを持つ

C 2型：女性形と中性形で語尾に、それ以外の形態で語幹にアクセントを持つ

C 3型：女性形と複数形で語尾に、それ以外の形態で語幹にアクセントを持つ

C 3型は動詞過去形に於いては正当なアクセント型とは認められていない。唯一 *дать* と *взять* がC 1型とC 2型の両方のアクセント型を許容するが、以下に記すそれ以外の動詞は全てC 1型アクセントだけを持つ。従って動詞過去形についてC型といえば上記2語を除いてC 1型アクセントを示すことになるため、以下ではC 1型のことをC型と略称することにしたい。

過去形に於いてB型アクセントを持つ語が不定形の形によって整理でき、従って記憶するのもたやすいのに反して、C型アクセントを持つ動詞は何等形式的な指標を持たず、従って一語一語記憶する必要がある。しかし名詞や形容詞の場合と異なり、過去形に於いてC型アクセントを持つ動詞を記憶するのはそれほど困難なことではない。

現代ロシア語に於いて過去形でC型アクセントを持つのは以下に記す28の本源動詞とそれに接頭辞を付けて派生した完了体動詞のみである：*братъ*, *быть*, *вить*, *врать*, *гнать*, *гнить*, *дать*, *драть*, *ждать*, *жить*, *жрать*, *звать*, *клясть*, *лгать*, *лить*, *мереть*, *переть*, *пить*, *плыть*, *прясть*, *рвать*, *родить*, *слыть*, *спать*, *ткать*, *-чать*, *-(н)ять*。元々の本源動詞が現代ロシア語にはもはや存在していない場合もあるが、整理のために架空の本源動詞の形を見出しに立てた箇所も若干あることをことわっておく。語形成上の配慮から接頭辞によって派生した動詞から作られる対応の不完了体の形も記載しておいた。これらの2次的に派生した不完了体動詞は最も基本的なA型アクセントを持つ。上記の28個の動詞及びそこから接頭辞を付加して派生した動詞は過去形のみならず被動形動詞過去短語尾に於いてもやはり規範的にはC型アクセントを持つので、記憶しておくると便利である。

C型アクセントを持つ本源動詞に接頭辞を付加して作られる完了体動詞は時として過去形に於いて次に例を示すようなC型アクセントの変種を持つことがある：

прибыл прибыла́ прибыло прибыли
 начал начала́ начало начали

このアクセント型に於いては、女性形では語尾アクセントが実現されているものの、それ以外の形態に於いてアクセントが語根（もしくはそれに後続する接尾辞）から音節を持つ接頭辞に移ってしまう。ここではこのタイプのアクセント型をCP型と呼んでおくことにする。接頭辞はもちろん語幹に属するのでCP型はC型の亜種である。かつてはこのような派生動詞は全てCP型アクセントを持っていたと考えられるが、徐々に不定形のアクセントを保持するC型に移行している。このCP型失効の過程は以下で見るとように実に顕著である。

二つ以上の接頭辞を持つ動詞も存在するが、これらの動詞に過去形に於いてCP型アクセントが適応されると、女性形以外ではアクセントは語根に一番接近している接頭辞に置かれることになる。アクセントはこれ以上語頭に向かって後退することはない。（例：при-под-нял, рас-про-дал）

ここに記した動詞の語根あるいはそれに付随する接尾辞は過去形に於いていわばアクセントを保持する力がA型に属す動詞に比べて実に弱いと考えられる。過去女性形の語尾 -a はその他の過去形の語尾よりもアクセントを引き付ける力が強く、従って本源動詞あるいは音節を成さない接頭辞を持つ派生動詞について言えば、他の語形に於いてアクセントが語幹に留まるのに対し、女性形のみでアクセントも語尾に移動するという現象を引き起こす。このような動詞に音節を成す接頭辞が付くと、これらの接頭辞もアクセントを引き付ける力を持っているため、ある場合には語根あるいはそれに付随する接尾辞からアクセントを奪い取ってしまう。しかし相変わらず女性形の語尾が持つアクセント牽引力が優っているため、女性形のみで語尾アクセントが実現されることになる。これを母音字の右上の数字がアクセント牽引力を表し、数字が大きいほどその力が大きいとすると、次のように例示できる。

бы¹ло⁰ > было しかし бы¹ла³ > была́
 при²бы¹ло⁰ > прибыло しかし при²бы¹ла³ > прибыла́

以下に個々の語について見ていくことにする。

1. брать (人称語幹 бер- 過去語幹 бра-) ¹⁾ 不完 取る

過去形 брал брала бра́ло бра́ли

接頭辞の付いた派生語：C型アクセント ²⁾

забра́ть	完 →	забира́ть	不完	掴み取る、塞ぐ
набра́ть	完 →	набира́ть	不完	たくさん集める
перебра́ть	完 →	перебира́ть	不完	選び分ける
избра́ть	完 →	избира́ть	不完	選ぶ
переизбра́ть	完 →	переизбира́ть	不完	再選挙する
прибра́ть	完 →	прибира́ть	不完	片付ける
обобра́ть	完 →	обра́ть	不完	もぎ取る

1) 本来の過去の語根は бер- (брь-) であるが、過去形の諸形態及び不定形を作る (すなわち語幹を作る) 際に接尾辞 -a- を付けた。この e は現代語では現れない。брать に接頭辞を付ければ完了体動詞が派生するが、その新たにできた完了体動詞に対応する不完了体動詞を派生するためには語根の形を бир- に変える必要がある。結局この動詞には語根が бер- бер- бир- の3つあることになるが、これらの語根どうしの関係はまん中の母音が交替していることにある。

この関係を下図のように整理しておいた。例として出した語形は4種類の構成部分からなる。1は接頭辞、2は語根、3は接尾辞、4は語尾をそれぞれ示す。

	1	2	3	4				
бер-:	бер-	-ý	>	беру́	本源動詞	不完了体	非過去	
	со-бер-	-ý	>	соберу́	派生動詞	完了体	非過去	
бер-:	бер-	á-л-∅	>	брал	本源動詞	不完了体	過去	
	со-бер-	á-л-∅	>	собрал	派生動詞	完了体	過去	
-бир-:	со-бир-	á-j-y	>	собираю́	派生動詞	不完了体	非過去	
	со-бир-	á-л-∅	>	собира́л	派生動詞	不完了体	過去	

2) 音節を成す接頭辞を持つ派生動詞 (完了体) はかつてC P型アクセントを持っていた。例えば избра́ть побра́ть собра́ть убра́ть は19世紀の段階では過去形に於いてC P型アクセントを持っていたことを示す資料がある。しかし現在ではこれらは全てC型化してしまった。

вобрати́ть	完 →	вбира́ть	不完	吸収する
подобра́ть	完 →	подбира́ть	不完	拾い集める
разобра́ть	完 →	разбира́ть	不完	分解する
пробра́ть	完 →	пробира́ть	不完	(無人) 身に凍みる
собра́ть	完 →	собира́ть	不完	集める
отобра́ть	完 →	отбира́ть	不完	選び出す
убрати́ть	完 →	убира́ть	不完	整理する

2. быть (人称語幹 буд- 過去語幹 бы-) ¹⁾ 不完 be 動詞

過去形 был была́ было́ были́

接頭辞の付いた派生語 ²⁾ :

СР型アクセントを持つもの

убы́ть 完 → убыва́ть 不完 減る

1) быть の現在形はもちろん есть/∅ であるが、以下に示す動詞の非過去形は буд- を語幹とするので、ここでは簡略を旨としてこのような記載方法を取った。なおこの動詞には多回体 быва́ть が存在する。ついでながら быть が不完了体であり、かつ単一未来形を持つというのはロシア語の時制及び体のシステムからして全く異常である。私見では быть に2種を区別し、不完了体の быть は現在形と過去形を持ち、完了体の быть が未来形を持つとするのがいいと思う。詳細については省略する。

2) СР型とС型アクセントのゆれを持つものと пребы́ть はかつてСР型アクセントを持っていた。なお не ни も韻律的には быть の接頭辞として扱われ、не/ни был, не/ни была́, не/ни было́, не/ни были́ のようにСР型アクセントとなる。не ни を付けた動詞のСР型アクセントはかつてもっと広く見られたが、現代ロシア語ではСР型が義務的なのは唯一 быть のみとなった。дать жить спать についても не ни を伴って同様のСР型アクセントが用いられることもあるが、通常С型の使用も許されている。

C型とC P型のゆれを持つもの

прибы́ть	完 →	прибыва́ть	不完	到着する
добы́ть	完 →	добыва́ть	不完	手に入れる
побы́ть	完			しばらく滞在する
	(→	побыва́ть	不完	訪れる)
пробы́ть	完			長い間いる
отбы́ть	完 →	отбыва́ть	不完	任期を務め上げる

C型アクセントを持つもの

пребы́ть	完 →	пребыва́ть	不完	～であり続ける
сбы́ть	完 →	сбыва́ть	不完	売りさばく

A型アクセントを持つもの

забы́ть	完 →	забыва́ть	不完	忘れる
перезабы́ть	完 →	перезабыва́ть	不完	全部すっかり忘れる
позабы́ть	完 →	позабыва́ть	不完	忘れる
раздобы́ть	完 →	раздобыва́ть	不完	苦勞して入手する

3. ВИТЬ (人称語幹 *вьj-* 過去語幹 *ви-*) 不完 編む過去形 *вил* *вила́* *ви́ло* *ви́ли*接頭辞の付いた派生語：C型アクセント¹⁾

зави́ть	完 →	завива́ть	不完	パーマをかける
нави́ть	完 →	навива́ть	不完	巻き付ける
обви́ть	完 →	обвива́ть	不完	巻いてくるむ
переви́ть	完 →	перевива́ть	不完	編み直す、編み込む
взви́ть	完 →	взвива́ть	不完	ほこりをたてる
разви́ть	完 →	развива́ть	不完	編んだ物をほどく 発達させる
приви́ть	完 →	привива́ть	不完	植え付ける
сви́ть	完 →	свива́ть	不完	編んで作る

1) 音節を成す接頭辞を持つ派生動詞はかつてC P型アクセントを持っていた。

4. врать (人称語幹 вр- 過去語幹 вра-)¹) 不完 嘘をつく

過去形 врал вралá вралó врали

接頭辞の付いた派生語：C型アクセント²)

наврать	完 →	навирать	不完	間違える
переврать	完 →	перевирать	不完	誤って伝える
приврать	完 →	привирать	不完	話に尾ひれを付ける
соврать	完 ←	врать	不完	嘘をつく

5. гнать (人称語幹 гон- 過去語幹 гна-)³) 不完 駆り立てる

過去形 гнал гналá гналó гнали

接頭辞の付いた派生語：C型アクセント⁴)

загнать	完 →	загонять	不完	深く追い込む
нагнать	完 →	нагонять	不完	もよおさせる
перегнать	完 →	перегонять	不完	追い抜く
изгнать	完 →	изгонять	不完	追放する
пригнать	完 →	пригонять	不完	追って到着させる
обогнать	完 →	обгонять	不完	追い越す
вогнать	完 →	вгонять	不完	追い込む
догнать	完 →	догонять	不完	追いつく

1) врать の場合と同様に本来の語根は вр- (ввр-) であって、母音交替によって派生動詞の不完了体の語根 -вир- を派生するが、人称語幹で母音交替は行われぬ。同様の母音交替によって вор(泥棒)も派生する。面白いことに врач(医者)も врать から作られた言葉であり、その原義は Шанский によると「祈禱師」であった。

2) наврать соврать は19世紀にはC P型アクセントに属していた。

3) гоню 等は本来 гнать とは異なる動詞(古代ロシア語 гонити)の変化形であり、гнать(古代ロシア語 гънать)は全く別の変化(古代ロシア語 жену (<*gen-u) をしていた。гнать の語根 гон- とその本来の現在形の語根 жен- (<*gen-) と現代ロシア語での現在形の語根 гон- とは母音交替の関係にある。

4) нагнать прогнать は19世紀にはC P型アクセントに属していた。

подогнать	完 →	подгонять	不完	～の方へ駆り立てる
разогнать	完 →	разгонять	不完	四方に追い払う
погнать	完			駆り立て始める
прогнать	完 →	прогонять	不完	ある距離追う
согнать	完 →	сгонять	不完	追い払う
отогнать	完 →	отгонять	不完	追い払う
угнать	完 →	угонять	不完	遠くに追い払う

6. гнить (語幹 гни-) 不完 腐る

過去形 гнил гнила гнило гнили

接頭辞の付いた派生語：C型アクセント

загнуть	完 →	загнивать	不完	腐り始める
перегнуть	完 →	перегнивать	不完	すっかり腐る
подгнуть	完 →	подгнивать	不完	ちょっと腐る
погнуть	完			腐って駄目になる
прогнуть	完 →	прогнивать	不完	完全に腐る
сгнуть	完 →	сгнивать	不完	腐る

7. дать (人称語幹 дад- 過去語幹 да-)¹⁾ 完 与える

1) 本来は唯一の語幹 дад- を立てれば十分だが、過去形では既に述べた [^{*}дл >л] の変化を受けるので語幹末の д が出てこない。そのため過去語幹として語幹末の д を除いたものを設定しておいた。この動詞は人称変化をする際に語幹と語尾とを結び付ける母音 (чит-а-е-т の е、говор-и-т の и など) を用いない特殊な動詞 (athematic verb, нетематический глагол) なので、人称形態でも単数では語幹と語尾との接合点で д が脱落する (дад-м->да-м) か異化する (дад-т->даст)。2人称単数形は本来 даси (<^{*}дад-си) であるが、類推によって新たな語尾 -шь (<-ши) が採用され、やはり語幹末の д は脱落している。現代ロシア語の複数形では語幹と語尾を結び付ける母音 и が恐らく類推によって挿入され、本来の語幹末の子音 д が保存された。3人称複数形も本来は ^{*}дадят となるべきであつ

過去形のアクセント

C~C 2 дал дала́ дало́~дало́ дали́

да́ть 1) 完 → дава́ть 不完 与える

接頭辞の付いた派生語：

CR~C -дал~-дал -дала́ -дало́~-дало́ -дали́~-дали́

зада́ть 完 → задава́ть 不完 課す

обда́ть 完 → обдава́ть 不完 回りから浴びせる

подда́ть 完 → поддава́ть 不完 下から打つ

переда́ть 完 → передава́ть 不完 渡す

преда́ть 完 → предава́ть 不完 引き渡す、裏切る

разда́ть 完 → раздава́ть 不完 分配する

прида́ть 完 → придава́ть 不完 追加する

дода́ть 完 → додава́ть 不完 不足分を与える

недода́ть 完 → недодава́ть 不完 不十分に与える

пода́ть 完 → подава́ть 不完 差し出す

препода́ть 完 → преподава́ть 不完 教訓を与える

прода́ть 完 → продава́ть 不完 売る

запрода́ть 完 → запродава́ть 不完 予約販売する

перепрода́ть 完 → перепродава́ть 不完 転売する

распрода́ть 完 → распродава́ть 不完 売りつくす

отда́ть 完 → отдава́ть 不完 返す

C型安定 -дал -дала́ -дало -дали́

изда́ть 完 → издава́ть 不完 出版する

переизда́ть 完 → переиздава́ть 不完 再版する

возда́ть 完 → воздава́ть 不完 報いる

たが、やはり類推によって現在の дадут となった。

1)かつては не ни を伴うと CR型アクセント (すなわち не дал, не дала́, не дало, не дали 等) となったが、今では C型及び C 2型アクセント (すなわち не дал, не дала́, не дало ~ не далó, не дали 等) も認められている。

сда́ть	完			試験に受かる
		Ср.	сдава́ть	不完 試験を受ける
пересда́ть	完			追試に受かる
		Ср.	пересдава́ть	不完 追試を受ける

8. драть (人称語幹 дер- 過去語幹 дра-) ²⁾ 不完 剥ぐ

過去形 дра́л дра́ла дра́ло дра́ли

接頭辞の付いた派生語：С

задра́ть	完 →	задира́ть	不完	上に上げる
надра́ть	完 →	надира́ть	不完	たくさんはぎ取る
ободра́ть	完 →	обдира́ть	不完	回りをはぐ
отодра́ть	完 →	отдира́ть	不完	はぎ取る
продра́ть	完 →	продира́ть	不完	穴を開ける
разодра́ть	完 →	раздира́ть	不完	ずたずたに裂く
содра́ть	完 →	сдира́ть	不完	はぐ、はぎ取る
удра́ть	完 →	удира́ть	不完	こっそり逃げ出す

9. ждать (人称語幹 жд- 過去語幹 жда-) ³⁾ 不完

過去形 ждал ждала ждало ждали

接頭辞の付いた派生語：С

обождать	完			しばらく待つ
переждать	完 →	пережидать	不完	終わりまで待つ
подождать	完			しばらく待つ
прождать	完 →	прожидать	不完	長らく待つ

2) брать の場合と同様に過去形と不定形での語幹は дер-(дьр-) であって、人称語幹の語根 дер- 及び接頭辞を付けた派生語から作られる不完了体動詞の語根 дир- と母音交替の関係にある。

3) 本来の語根は жед-(жьд-) であり、接頭辞を用いて派生した完了体動詞からさらに作られる不完了体動詞の語根は母音交替をして -жид- となる。

10. жить (人称語幹 жив- 過去語幹 жи-) ¹⁾ 不完 住む、生きる

過去形 жил жила́ жило́ жили ²⁾

接頭辞の付いた派生語：

C型安定

изжить 完 → изжива́ть 不完 除去する

сжить 完 → сжива́ть 不完 締め出す

CP~C -жил~-жил -жила́ -жило́~-жило́ -жили~-жили

зажить 完 → зажива́ть 不完 傷が直る

нажить 完 → нажива́ть 不完 儲ける

пережить 完 → пережива́ть 不完 ~より長生きする
体験する

прижить 完 → прижива́ть 不完 私生児を生む

ожить 完 → ожива́ть 不完 生き返る

дожить 完 → дожива́ть 不完 ~まで生きる

пожить 完 少し住む

(→ пожива́ть 不完 暮らす)

прожить 完 → прожива́ть 不完 長い間生き抜く

отжить 完 → отжива́ть 不完 生き通す

11. храть (人称語幹 хр- 過去語幹 хра-) ³⁾ 不完 がつがつ食う

過去形 храл храла́ храло́ храли

接頭辞の付いた派生語：C

похрать 完 → похира́ть 不完 むさぼり読む

сохрать 完 → сохира́ть 不完 がつがつ食べる

1)本来の語幹は現在過去を問わず жив- であるが、不定形の印 -ть 及び過去形の -л- の前で語幹の最終音 в が脱落している。

2)не, ни を伴うと CP~C型アクセントとなる。

3)本来の語根は хер-(хър-) であつて、派生動詞から不完了体を作る際に母音交替して-хир- となる。

12. звать (人称語幹 зов- 過去語幹 зва-)¹) 不完 呼ぶ

過去形 звал звала звало звали

接頭辞の付いた派生語:

C型安定

завáть	完 →	звзывáть	不完	しつこく招く
назвáть	完 →	назывáть	不完	名付ける
призвáть	完 →	призывáть	不完	呼びつける
обозвáть	完 →	обзывáть	不完	あだ名で呼ぶ
отозвáть	完 →	отзывáть	不完	脇へ呼ぶ
позвáть	完			
подозвáть	完 →	подзывáть	不完	呼び寄せる
прозвáть	完 →	прозывáть	不完	あだ名を付ける
созвáть	完 →	сзывáть	不完	呼び集める

A型アクセント

воззвáть²)	完 →	взывáть	不完	呼びかける
------------	-----	---------	----	-------

13. клясть (人称語幹 клян- 過去語幹 кля-)³) 不完 呪う

1) 過去形と不定形での語根は зов- であって、人称語幹の語根 зов- 及び接頭辞を付けた派生語から作られる不完了体動詞の語根 зыв- と母音交替の関係にある。

2) 本来はC型アクセントを持っていたが、この語だけ完全にA型化してしまった。

3) 本来の語根は *кльп- であり проклинать の語根 -klin- とは母音交替の関係であるが、*кльп-ti から клясть、*кльп-р から клянну、*кльп-ль から клялとなる過程は実に複雑である。

①「母音+鼻音」は次に母音が来るときは保存されるが、次に母音以外が来ると鼻母音(前舌母音であれば e、後舌母音であれば o)となった。②これらの鼻母音はロシア語では失われて各々 я у となる。この結果不定形は кляти、人称形態は кльну、過去形に当たる形は кляль となり、③後に ь ь が失われて各々 кляти клену клял となる。過去形はこのまま保存されたがそれ以外はまたもや変化を被る。④人称形態の語根の母音が他の諸形態のそれに再統一され、現代ロシア語の人

過去形 клял клял́а кля́ло кля́ли

接頭辞の付いた派生語：С Р

прокля́сть 完 → проклина́ть 不完 呪う

14. лгать (人称語幹 лг- 過去語幹 лга-)¹) 不完 嘘をつく

過去形 лгал лгал́а лга́ло лга́ли

接頭辞の付いた派生語：С

налга́ть 完 たくさん嘘をつく
 оболга́ть 完 → облыга́ть 不完 中傷する
 солга́ть 完 嘘をつく

15. лить (人称語幹 ль- 過去語幹 ли-) 不完 注ぐ

過去形 лил ли́лa ли́ло ли́ли

接頭辞の付いた派生語：

С型安定

вли́ть 完 → влива́ть 不完 流し込む
 перели́ть 完 → перелива́ть 不完 注ぎ移す

称形態 клян́у が生まれる。⑤不定形に関しては、вед-у:вес-ти, пад-у:пас-ти 等に倣って клян-у:кляс-ти となったというのが一般的見解であって、⑥後に不定形の印 -ти がアクセントを持たないとき弱化して -ть となり、ようやく現代ロシア語の кля́сть に至る。

この関係を次のように整理しておく：

①	②	③	④	⑤	⑥	
•кльп-ль	> клѣль	> кляль	> клял			= клял
•кльп-р	> кльпр	> кльну	> клену	> клян́у		= клян́у
•кльп-ти	> клѣти	> кляти	> кляти	> клясти	> кля́сть	= кля́сть
•-klin-a-ti		> -клинати			> -клинать	= -клинать

1) 本来の語根は лог-(лъг-)であって、派生動詞から作られる不完了体の語根 лыг- や ложь (嘘) (<•логъ)と母音交替の関係にある。

изли́ть	完 →	излива́ть	不完	吐露する
прили́ть	完 →	прилива́ть	不完	流れて来る
разли́ть	完 →	разлива́ть	不完	注ぎ分ける
сли́ть	完 →	слива́ть	不完	注ぎ集める
C~CP				
зали́ть	完 →	залива́ть	不完	あふれる
нали́ть	完 →	налива́ть	不完	注ぎ入れる
обли́ть	完 →	облива́ть	不完	浴びせる
подли́ть	完 →	подлива́ть	不完	液体を加える
доли́ть	完 →	долива́ть	不完	注ぎ足す
поли́ть	完 →	полива́ть	不完	液体ををかける
проли́ть	完 →	пролива́ть	不完	間違ってこぼす
отли́ть	完 →	отлива́ть	不完	くみ出す

16. мерéть (人称語幹 *mr-* 過去語幹 *mer-*)¹⁾ 不完 死ぬ

過去形 *mёр* *мёрла* *мёрло* *мёрли* ²⁾

接頭辞の付いた派生語:

CP安定

замерéть	完 →	замира́ть	不完	立ちすくむ
обмерéть	完 →	обмира́ть	不完	ぼう然となる
померéть	完 →	помира́ть	不完	死ぬ
отмерéть	完 →	отмира́ть	不完	枯れる
умерéть	完 →	умира́ть	不完	死ぬ

例) *úмер* *умерла́* *úмерло* *úмерли*

1)不定形及び過去形の語根は本来 **mer-* であって、人称形態の本来の語根 *mer-* (*мър-*)、派生動詞から作られる不完了体の語根 *мир-* と母音交替の関係にある。不定形は **mer-ti* から母音重挿 (p. 210参照) によって作られた。

2) *Востоков* はC型アクセントを記しているが、今では完全にA型化してしまった。しかしC (P) 型アクセントは接頭辞の付いた派生動詞に保存されている。

17. перéть (人称語幹 пр- 過去語幹 пер-)¹⁾ 不完 圧する

過去形 пёр пёрла пёрло пёрли²⁾

接頭辞の付いた派生語:

СР安定

заперéть 完 → запира́ть 不完 鍵をかける

отперéть 完 → отпира́ть 不完 鍵を開ける

A

наперéть 完 → напирáть 不完 のしかかる

подперéть 完 → подпира́ть 不完 支える

сперéть 完 → спира́ть 不完 おしつける

расперéть 完 → распира́ть 不完 はじけさせる

уперéть 完 → упира́ть 不完 つっかえ棒をする

18. пить (人称語幹 пь- 過去語幹 пи-) 不完 飲む

過去形 пил пилá пило пили

接頭辞の付いた派生語:

С~СР

запíть³⁾ 完 → запивáть 不完 一緒に~を飲む、
痛飲し始める

допíть 完 → допивáть 不完 飲み干す

1) мерéть と同様に不定形及び過去形の語根は本来 *per- であって、人称形態の本来の語根 пер-(пър-)、派生動詞から作られる不完了体の語根 пир- と母音交替の関係にある。不定形は *per-ti から母音重挿 (p.210参照) によって作られた。

2) Востоков は перéть がC型アクセントを、派生語が全てСР型アクセントを持つとしているが、以下に記したようにこの語についてСР型失効及びA型化の傾向は実に顕著である。

3) この語についてはアクセント型が意味を弁別する役割を果たしており、C型アクセントを用いると「...といっしょに~を飲む」(напр. запить пилюлю водой「水といっしょに丸薬を飲む」)となり、СР型を用いると「痛飲し始める」となる。

попíть	完			少し飲む
пропíть	完 →	пропивáть	不完	酒に金を費やす
распíть	完 →	распивáть	不完	皆で飲み干す
отпíть	完 →	отпивáть	不完	一部飲む

19. плыть (人称語幹 плыв- 過去語幹 плы-)¹⁾ 不完 泳ぐ、航行する
過去形 плыл плыла плыло плыли

接頭辞の付いた派生語：С

всплýть	完 →	всплывáть	不完	浮き上がる
доплýть	完 →	доплывáть	不完	～まで泳ぐ
заплýть	完 →	заплывáть	不完	寄港する
наплýть	完 →	наплывáть	不完	航行中ぶつかる
оплýть	完 →	оплывáть	不完	回りを泳ぐ
отплýть	完 →	отплывáть	不完	出航する
переплýть	完 →	переплывáть	不完	船で渡る
подплýть	完 →	подплывáть	不完	船で近寄る
поплýть	完			泳ぎ始める
приплýть	完 →	приплывáть	不完	船で到着する
проплýть	完 →	проплывáть	不完	船で通過する
сплýть	完 →	сплывáть	不完	流れ去る
уплýть	完 →	уплывáть	不完	船で去る

20. прясть (人称語幹 пряд- 過去語幹 пря-)²⁾ 不完 紡ぐ
過去形 пряд прядла～пряла прядло прядли

両者のアクセント上の区別は Ушаков に既に見られ、その後のほとんどの文献に於いて為されているが、Агеенко, Зарва だけはこの区別をせず、「全ての意味に於いて」C型アクセントが用いられると記している。

1) жить と同様に本来の語幹 плыв- の最後の子音 в は不定形と過去形で脱落した。

2) вести 等と同様に語幹末の д は過去形で脱落し、不定形で異化する。

接頭辞の付いた派生語：C～A

спрясть 完

糸を紡ぐ

21. рвать (人称語幹 рв- 過去語幹 рва-) ¹⁾ 不完 もぎ取る

過去形 рвал рвала́ рва́ло рва́ли

接頭辞の付いた派生語：C

нарва́ть 完 →	нарыва́ть 不完	化膿する
перерва́ть 完 →	перерыва́ть 不完	引き裂く
прерва́ть 完 →	прерыва́ть 不完	中断する
оборва́ть 完 →	обрыва́ть 不完	回りからもぎ取る
надорва́ть 完 →	надрыва́ть 不完	隅を破る
подорва́ть 完 →	подрыва́ть 不完	損ねる
разорва́ть 完 →	разрыва́ть 不完	引きちぎる
взорва́ть 完 →	взрыва́ть 不完	爆破する
изорва́ть 完 →	изрыва́ть 不完	ずたずたに破る
порва́ть 完 →	порыва́ть 不完	関係を絶つ
прорва́ть 完 →	прорыва́ть 不完	穴を開ける
сорва́ть 完 →	срыва́ть 不完	はぎ取る
оторва́ть 完 →	отрыва́ть 不完	むしり取る
урва́ть 完 →	урыва́ть 不完	奪い取る

22. роди́ть (人称語幹 род- 過去語幹 роди-) 完 生む

過去形 роди́л роди́ла роди́ло роди́ли ²⁾

接頭辞の付いた派生語：A型安定

1) 本来の語根は ров-(ръв-) で、派生動詞から作られる不完了体の語根 -рыв- とは母音交替の関係にある。

2) роди́ть は完了体でも不完了体でもあるが、過去形は不完了体の時にはA型アクセント、完了体の時にはC型アクセントとなる。そのほかの形態は両体に共通である。接頭辞による派生語は全てA型アクセントになってしまう。

зародить	完	→	зарождать	不完	感情を植え付ける
переродить	完	→	перерождать	不完	一新させる
возродить	完	→	возрождать	不完	復活させる
породить	完	→	порождать	不完	引き起こす
уродить	完				作物を実らせる

23. слыть (人称語幹 слыв- 過去語幹 слы-) ¹⁾ 不完 知られる
過去形 слыл слыла слыло слыли

接頭辞の付いた派生語：C

прослыть 完 → прослывать 不完 名を上げる

24. создать (人称語幹 создад- 過去語幹 созда-) 完 作る ²⁾

過去形 создал создала создало создали (C型)

создал создала создало создали (C P型)

接頭辞の付いた派生語：C型

воссоздать 完 → воссоздавать 不完 再現する

25. спать (人称語幹 сп- 過去語幹 спа-) ³⁾ 不完 眠る

過去形 спал спала спало спали ⁴⁾

1) жить 等と同様に語幹末の в が不定形と過去形で脱落する。

2) 本来は古代ロシア語 зьдати の接頭辞による派生語であって、その動名詞 здание が現代ロシア語に残っており、人称形態はその語根 зьд-(зед-) が母音交替したзид- を語根として зижду 等々と変化した。現代ロシア語では дать の派生語のように扱われ создам, создашь... と変化する。過去形はC P型アクセントを持つのが規範的であるが、今ではC型も認められている。

3) 本来の語根は сп- (спп-) であって、母音交替により派生動詞の不完了体の語根 спп- を得る。

4) не, ни を伴うとC P型あるいはC型アクセントが用いられる。

接頭辞の付いた派生語：С

заспа́ть	完		眠って忘れる
переспа́ть	完		眠りすぎる
доспа́ть	完 →	досыпа́ть	不完 ~まで眠る
недоспа́ть	完 →	недосыпа́ть	不完 眠り足りない
поспа́ть	完		少し眠る
проспа́ть	完 →	просыпа́ть	不完 寝坊する

26. тка́ть (人称語幹 тк- 過去語幹 тка-) 不完 織る

過去形 тка́л тка́ла ~ тка́ла тка́ло тка́ли

接頭辞の付いた派生語：С～А

затка́ть	完	模様を織る
натка́ть	完	たくさん織る
вотка́ть	完	織り込む
сотка́ть	完	織る

27. -ча́ть (人称語幹 чн- 過去語幹 ча-) 1) (不完 始める)

接頭辞の付いた派生語：

С型安定 -чал -чала́ -ча́ло -ча́ли

зача́ть 完 → зачина́ть 不完 はらむ

СР型安定 -чал -чала́ -чало́ -чали

нача́ть 完 → начина́ть 不完 始める

1) 語根は *кьп- > чен-(чън-) (k(к) > č(ч) は第1パラタリゼーション) であって、p. 228 に示したように前舌母音+鼻音は母音が後続するとき保存されるが、母音以外が後続すると鼻母音 ɛ、ロシア語では я となった。現代ロシア語の正書法では -чять ではなく -чать と書かれる。接頭辞を付けて派生した完了体動詞から不完了体動詞を作る際にはこの語根が母音交替して -чин- となる。なお同じ語根から母音交替して *коп-ъсь > конец が出る。初めと終わりが同じ語根からできているとは興味深い。

28. -(н)ять (過去語幹 -(н)я-)¹) (不完 取る)

C P型安定 -нял -няла -няло -няли

доня́ть	完 →	донима́ть	不完	苦しめる
заны́ть	完 →	занима́ть	不完	占める
наня́ть	完 →	нанима́ть	不完	雇う
пона́ть	完 →	понима́ть	不完	理解する
приня́ть	完 →	принима́ть	不完	受け入れる
восприя́ть	完 →	воспринима́ть	不完	把握する
предприя́ть	完 →	предпринима́ть	不完	着手する
проня́ть	完 →	пронима́ть	不完	染み込む

1)ここに属するのは *взять* と、不定形が *-нять* に終わるものだけである。これらの人称形態についてはp.160参照。これらの形態は以下のように生成されると考えられる。本来の語根は **-ьm-* であって子音以外に後続するときその前に *-j-* を加える。**jь* は *i(и)* に転じる。

<i>*j-ьm-ti</i>	>	<i>*jɛti</i>	>	яти	>	(ять)
<i>*j-ьm-ɔ</i>	>	<i>*iɔ</i>	>	иму	>	(иму)
<i>*vьz- ьm-ti</i>	>	<i>*vьzɛti</i>	>	взяти	>	взять
<i>*vьz- ьm-ɔ</i>	>	<i>*vьзьmɔ</i>	>	взьму	>	возьму

接頭辞 *в(о)-*, *с(о)-* は元々末尾に *n* を持ち、それぞれ **vьn-*, **сьn-* であったから、*внять*, *снять* の不定形は上記の *взять* と同様に導かれる：

<i>*vьn- ьm-ti</i>	>	<i>*vьnɛti</i>	>	внять	>	внять
<i>*сьn- ьm-ti</i>	>	<i>*сьnɛti</i>	>	снять	>	снять

上記2語のアナロジーで他の接頭辞を持つ派生語も末尾に加音 (epenthesis) の *n* を挿入して不定形を構成するようになった。

<i>*za- -j-ьm-ti</i>	>	<i>*zajɛti</i>	>	заяти	>	(заять)
<i>*za-n-j-ьm-ti</i>	>	<i>*zanjɛti</i>	>	заняти	>	знять
<i>*podь- -j-ьm-ti</i>	>	<i>*podьjɛti</i>	>	подъяти	>	(подъять)
<i>*podь-n-j-ьm-ti</i>	>	<i>*podьnjɛti</i>	>	подняти	>	поднять

弱母音に終わる接頭辞を持つ派生語は人称形態でも加音を用いるようになった：

CP~C型 -нял -няла́ -няло́ -няли́
 -ня́л -ня́ла́ -ня́ло́ -ня́ли

обня́ть 完 → обнима́ть 不完 抱く
 отня́ть 完 → отнима́ть 不完 奪い取る
 переня́ть 完 → перенима́ть 不完 模倣する
 подня́ть 完 → поднима́ть 不完 持ち上げる
 приподня́ть 完 → приподнима́ть 不完 少し持ち上げる

C型安定 -ня́л -ня́ла́ -ня́ло́ -ня́ли

вня́ть 完 → внима́ть 不完 傾聴する
 разня́ть 完 → разнима́ть 不完 分ける
 сня́ть 完 → снима́ть 不完 取り外す
 засня́ть 完 → заснима́ть 不完 写真を取る
 пересня́ть 完 → переснима́ть 不完 写真を取り直す
 уня́ть 完 → унима́ть 不完 静める

C~C2 -я́л -я́ла́ -я́ло́ -я́ли
 -я́л -я́ла́ -я́ло́ -я́ли

взя́ть 完 (бра́ть 不完) 取る

*rodъ- -j-ьm-φ > *rodъimφ > подьму > подьму́

*rodъ-n-j-ьm-φ > *rodъnimφ > подниму > подниму́

その影響で снять の人称形態も上記の例に倣い、新たに接尾辞 -j- を語根の前に挿入して、взять のような出沒母音を失ってしまった。

*съп- -ьm-φ > *съпльmφ > соньму > (соньму́)

*съп-j-ьm-φ > *съпimφ > съниму > сниму́

снять と同様の変化を辿ると想像される внять は現在では人称変化を失ってしまった。古い命令法 вонми (<*воньми) に昔の人称変化が残っている。

ただし ь ь 以外の完全母音に終わる接頭辞を持つ派生語は人称形態で加音 n を用いずに今日に至っている。

*za-j-ьm-φ > *zaimφ > заиму > займу́

*pri-j-ьm-φ > *priimφ > прииму > приму́

3. その他の形態

これまでに述べた動詞の人称形態と過去形のアクセント法を基礎にして、動詞のその他の形態のアクセントを概略する。

3. 1 命令法

原則として命令法は周知のように人称形態の語幹から作られ、第1変化語尾を取る動詞には語幹末で人称形態1人称単数で生じるのと同じ子音交替が生じるが、第2変化語尾を持つ動詞では子音交替を行わない。命令法に於けるアクセントの位置は人称形態1人称単数のそれに等しい。人称形態がA型アクセントを持つ動詞は命令法で常に語幹にアクセントを持ち、B型あるいはC型アクセントを持つ動詞では原則として語尾にアクセントを持つことになる。

この原則の最も大きな例外は、1. 2. 2に記した不定形が *-авать* に終わる動詞、すなわち *-давать*, *-знавать*, *-ставать* 及びそれらの接頭辞による派生語であって、これらは命令法を構成する際に他の動詞のように人称形態の語幹を用いずに、不定形（あるいは過去形）の語幹を用いて、*-дава́й*, *-знава́й*, *-става́й* とする。命令法でのアクセントはもちろん不定形に同じである。

人称形態の語幹が *ь* に終わる動詞、すなわち *бить*(*бь-*), *вить*(*вь-*), *лить*(*ль-*), *пить*(*пь-*), *шить*(*шь-*) 及びそれらの派生語では命令法の構成に際し語根で出母音 *е* を生じ、それぞれ *бей*, *вей*, *лей*, *пей*, *шей* となる。

例外的に *лечь*(*ляг-*) の命令法は *ляг* であって、軟子音に終わらない。

3. 2 形動詞（分詞）

わが国のロシア語学では、動詞から派生した一致定語、言い替えれば形容詞という意味で形動詞と呼ばれるが、より一般的にはラテン文法からの用語である分詞という呼称の方が適当かもしれない。筆者自身の好みから言うと、動詞から作った名詞を「動名詞」と呼ぶならば、動詞から作った形容詞である形動詞あるいは分詞は「動形容詞」と呼ばれるのが筋だと思っている。

ロシア語の形動詞（分詞）には能動と被動（受動）の2種があり、それぞれ現在と過去の2つの形を持つので、結果的に以下の4つの形を持つ。

3. 2. 1 能動形動詞現在

能動形動詞現在のアクセントは原則として人称形態3人称複数のそれに等しい。この大きなルールでほとんど間に合うが、以下の例外がある。

人称形態がB型アクセントからC型アクセントに転じつつある動詞の能動形動詞現在は、B型アクセントを持つ人称形態3人称複수에等しいアクセントを持つ。言い換えれば、人称形態はC型アクセント化しつつあっても、古いB型アクセントは能動形動詞現在に保存されているとも言える。上記1. 2. 3. 2. 4に記したB型からC型に転じつつある動詞は全てこの説明に該当する。若干の例を記す。記す順序は左から順に不定形、人称形態のアクセント型、人称形態3人称複数古形態、同新形態、能動形動詞現在古形態、同新形態である。該当する形が存在しない、あるいは正当と認められていない場合には空欄とする。

городить	B~C	городят	~	горо́дят	городя́щий
кружить	B~C	кружа́т	~	кружа́т	кружа́щий
солить	B~C	соля́т	~	соля́т	соля́щий
шевелить	B~C	шеве́лят	~	шеве́лят	шеве́лящий

以下の2つの動詞はB型を保持しながらも相当にC型化が進んでおり、能動形動詞現在でも接尾辞アクセントと語根アクセントの両形が許容されるに至っている：

бели́ть	B~C	бе́ля́т	~	бе́ля́т	бе́ля́щий ~ бе́ля́щий
дру́жить	B~C	дружа́т	~	дружа́т	дружа́щий ~ дру́жащий

そして当該の動詞の人称形態が完全にC型化してしまうと、冒頭のルールに従って能動形動詞も語根にアクセントを持つようになるが、この推移を全うしていないと以下のような例外が生まれる：

бе́сить	C	бе́сят	бе́ся́щий	~	бе́ся́щий
ва́лить	C	ва́лят	валя́щий	~	валя́щий
ва́рить	C	ва́рят	варя́щий	~	варя́щий
га́сить	C	га́сят	гася́щий	~	гася́щий
да́вить	C	да́вят	давя́щий	~	давя́щий
де́лить	C	де́лят	деля́щий	~	деля́щий
дра́знить	C	дра́знят	дразня́щий	~	дразня́щий
ко́пить	C	ко́пят	копя́щий	~	копя́щий

ле́ниться	С	ле́нятся	ле́нящийся ~ ле́нящийся
судíть	С	сúдят	судя́щий ~ сúдящий
ту́жить	С	ту́жат	тужа́щий ~ ту́жащий
хва́лить	С	хва́лят	хваля́щий ~ хва́лящий

以下の動詞では能動形動詞現在に古いV型アクセントが保存されている。最も例外的と呼べるのは以下の5語である：

да́рить	С	да́рят	даря́щий
кро́шить	С	кро́шат	кроша́щий
ма́нить	С	ма́нят	маня́щий
мо́чь	С	мо́гут	могу́щий
хо́дить	С	хо́дят	ходя́щий

但し最後の2語については、これらが過去に人称形態に於いてV型アクセントを持っていたことを示す資料を発見するには至っていない。

3. 2. 2 能動形動詞過去

能動形動詞過去は過去形の語幹から作られ、そのアクセントは不定形のそれに等しい。これを一般則とするが、以下の2つの例外が存在する。

- 1) 過去形に於いてV型アクセントを持つ動詞の能動形動詞過去は語根にアクセントを持つ。例えば нести́ (語幹 нес-)、везти́ (語幹 вез-) の能動形動詞過去はそれぞれ не́с-ш-ий, ве́з-ш-ий である。これは -ший の部分にはアクセントを置くことができないため、一種の仮アクセントと言える。尚過去形と同様に能動形動詞過去でも語幹が子音に終わる動詞は語根の e を è に替えるのを常とするが、以下の5語（及びその派生語）は能動形動詞過去に於いて語根の e を保持する：

бре́сти	бред-	брёл	брела́	брéдший
вести́	вед-	вёл	вела́	ве́дший
идти́	шед-	шёл	шла́	ше́дший
обре́сти	обрет-	обрёл	обрела́	обре́дший
цвести́	цвет-	цвёл	цвела́	цве́тший

2) 過去形に於いてC P型アクセントを持つ動詞も能動形動詞過去に於いては語根にアクセントを持つ (напр. по́нял: по́нявший, на́чал: нача́вший) が、以下の5語は能動形動詞過去に於いても接頭辞アクセントを保持する:

замерéть	за́мер	замерла́	за́мерший ~ замерший
обмерéть	о́бмер	обмерла́	о́бмерший ~ обме́рший
отмерéть	о́тмер	отмерла́	о́тмерший ~ отме́рший
заперéть	за́пер	заперла́	за́перший
отперéть	о́тпер	отперла́	о́тперший

尚 умерéть, померéть にも正当な形である умéрший, помéрший 以外に、úмерший, по́мерший が存在するが、後者は語謬とみなされる。

3. 2. 3 被動形動詞現在

被動形動詞現在のアクセントは人称形態1人称単数のそれに等しい。このルールの例外は本書の記載範囲内では шип/áть 1 пл СА (шиплю́ しかし шипле́мый p.157 参照) の1語のみであるが、以下の2点に注意を要する。

被動形動詞現在は人称語幹から作られるのを原則とするが、-авáть に終わる不定形を持つ動詞 (p.149 参照) については例外的に不定形 (あるいは過去形) の語幹である -авá- に接尾辞 -ем- を加えて構成される。

被動形動詞現在の語幹を構成する接尾辞は第1変化の動詞については -ем、第2変化の動詞については -им で、結果的にその語幹はアクセントを除いて人称形態1人称複数に等しいが、以下に記す動詞は例外的に接尾辞 -ом- を用いる:

вести́	人称語幹 вед-	1	ВВ	вед-о́м-ый
влечь	人称語幹 влек-	1	ч ВВ	влек-о́м-ый
искáть	人称語幹 иск-	1	щ СА	иск-о́м-ый
нести́	人称語幹 нес-	1	ВВ	нес-о́м-ый

被動形動詞現在は希に短語尾を用いることがあるが、そのアクセント型は必ず語幹にアクセントを有するA型である。

3. 2. 4 被動形動詞過去

これら4つの形動詞(分詞)中で、使用頻度が最も高く、事実上唯一短語尾の形を持つのは被動形動詞過去のみである。

3. 2. 4. 1 被動形動詞過去長語尾

被動形動詞過去のマーカーは -н-н- あるいは -т- であるが、絶対的多数の場合に前者が用いられる反面、例外的に後者の接尾辞を用いるのは以下の動詞である：

① 不定形が -ить に終わる若干の動詞

бить: убитый, брить: обр́итый, вить: зав́итый, жить: про́житый, лить: нал́итый, шить: приши́тый

② 不定形が -нуть に終わる動詞

отве́ргнуть : отве́ргнутый, дости́гнуть (=дости́чь) : дости́гнутый, заверну́ть: завернутый и т. д.

③ 不定形が母音重挿構造 -о́лоть, -о́роть, -е́реть に終わる動詞

тере́ть: натёртый, пере́ть: за́пертый, поро́ть: пропо́ротый, коло́ть: проко́лотый

④ 不定形が -(н)ять に終わる動詞 (p.160, 235 参照)

взя́тый, наня́тый, при́нятый, припо́днятый, сня́тый, изья́тый и т. д.

⑤ 不定形が -ыть に終わる動詞

быть: избы́тый, -крыть: откры́тый, обмы́ть: обмы́тый, рыть: зары́тый

⑥ 不定形が -уть に終わる動詞

луть: наду́тый, обу́ть: обу́тый

⑦ その他 греть: согр́етый, деть: одéтый, петь: спéтый, жать: нажа́тый,

кля́сть: закла́тый, мять: размя́тый

人称形態と過去形のアクセント型を基に、以下のような構成法とアクセント法のルールを立てることができる。一般的に言うと、被動形動詞過去に於いてアクセントは可能な限り語頭に向かって遡る。

1) AA型あるいはCA型アクセントを有する動詞は被動形動詞過去に於いてアクセントを語根に移動する。

不定形と過去形（しばしば人称形態でも）で用いられた語根と語尾とをつなぐ役割をする接尾辞は以下に記す場合を除いて被動形動詞過去に於いても保たれるとみなしてよい。若干の例を記す。

забы́ть	AA	за-бы́-т-ый
прочита́ть	AA	про-чи́т-а-нн-ый
испуга́ть	AA	ис-пу́г-а-нн-ый
рассе́ять	AA	рас-се́-я-нн-ый
слома́ть	AA	с-ло́м-а-нн-ый
заказа́ть	CA	за-ка́з-а-нн-ый
написа́ть	CA	на-пи́с-а-нн-ый
осмотре́ть	CA	о-смо́тр-е-нн-ый
поддержа́ть	CA	под-де́рж-а-нн-ый
проколо́ть	CA	про-ко́л-о-т-ый
растяну́ть	CA	рас-тя́н-у-т-ый

但し、不定形が -и́ть に終わる動詞では、過去形と不定形で用いられた接尾辞 -и- を被動形動詞過去に於いては用いず、代わりに接尾辞 -е- を用いる。その際に1. 1. 2 (p. 139) に記した子音交替が生ずる。例を記す：

бро́сить	AA	бро́ш-е-нн-ый
вста́вить	AA	в-ста́вл-е-нн-ый
встре́тить	AA	встре́ч-е-нн-ый
купи́ть	CA	ку́пл-е-нн-ый
получи́ть	CA	по-лу́ч-е-нн-ый
научи́ть	CA	на-у́ч-е-нн-ый
положи́ть	CA	по-ло́ж-е-нн-ый
допусти́ть	CA	до-пу́ш-е-нн-ый

2) В А型あるいはВ В型アクセントを持つ動詞は被動形動詞過去に於いて接尾辞にアクセントを持つ。接尾辞には -e- が用いられ、アクセントを受けて -ё- となる。

проговори́ть	В А	про-говор-ё-нн-ый
подтверди́ть	В А	под-твержд-ё-нн-ый
провести́	В В	про-вед-ё-нн-ый
нанести́	В В	на-нес-ё-нн-ый
привлече́чь	В В	при-влеч-ё-нн-ый
испече́чь	В В	ис-печ-ё-нн-ый

不定形が -ить に終わる動詞の被動形動詞過去ではアクセントが1) のように語根に遡る場合と、アクセントが接尾辞 -e- に留まり -ённый となる場合とがあつて些か厄介である。当該の動詞が В А型アクセントを持っていれば、被動形動詞過去に於いて接尾辞にアクセントが留まり -ённый となる。その一方、当該の動詞が С А型アクセントを持っていれば、被動形動詞過去ではアクセントは語根に移動する。問題はこの類の動詞には В А型から С А型に転じつつある動詞が多数あることで、そのような動詞が完全に С А型化すれば被動形動詞過去も語根アクセントを持つことになるのだが、推移の中間の段階にあるときは両形が許容されるようになり、アンバランスが生じたりする。この事情は上記の能動形動詞現在の同様の場合と重なり合うので、ここでは網羅的に記載することはせず、例をあげるに留めておく。

ゆれのある場合：

вскорми́ть	В А ~ С А	вс-кормл-ё-нн-ый	~	вс-ко́рмл-е-нн-ый
загрузи́ть	В А ~ С А	за-груз-ё-нн-ый	~	за-гру́ж-е-нн-ый
задразни́ть	В А ~ С А	за-дразн-ё-нн-ый	~	за-дра́зн-е-нн-ый
закружи́ть	В А ~ С А	за-круж-ё-нн-ый	~	за-кру́ж-е-нн-ый

アンバランスな場合：

загороди́ть	В А ~ С А		за-горо́ж-е-нн-ый
отбели́ть	В А ~ С А	от-бел-ё-нн-ый	(от-бе́л-е-нн-ый)
расшевели́ть	В А ~ С А	рас-шевёл-ё-нн-ый	

3) 以下に記す動詞に音節を成す接頭辞を付けた派生動詞は、被動形動詞過去長語尾に於いて接頭辞にアクセントを移動する。これらは過去形に於いてC型アクセント(CP型を含む)を持つ動詞であって、2. 2. 3に網羅的に記してあるので、ここでは若干の例を記すに留める。過去形に於いてC型アクセントを持つ動詞で、下記以外の動詞は被動形動詞過去長語尾に於いて語根にアクセントを持つ、あるいは語根アクセントに転じつつある。

брать	избрáть: избранный, набрáть: набранный, убрáть: убранный
врать	наврáть: навранный, переврáть: перевранный, приврáть: привранный
гнать	нагнáть: нагнанный, прогнáть: прогнанный, согнáть: согнанный
дать	отдáть: отданный, передáть: переданный, продáть: проданный しかし воздáть は語根にアクセントを留める: возданный.
драть	взодрáть: взодранный, надрáть: надранный, продрáть: продранный
ждать	переждáть: пережданный, прождáть: прожданный
храть	дожрáть: дожранный, пожрáть: пожранный, сожрáть: сожранный
звать	заврáть: завранный, назврáть: назранный, созврáть: созранный
лгать	налгáть: налганный, оболгáть: оболганный, прилгáть: прилганный
переть	запереть: запертый, отпереть: отпертый
рвать	взорврáть: взорвранный, изорврáть: изорвранный, прерврáть: прервранный
спать	заспáть: заспанный, наспáть: наспанный, проспáть: проспанный
ткать	воткáть: вотканный, заткáть: затканный, наткáть: натканный
-чать	начáть: начатый しかし зачáть: зачатый
-(н)ять	заня́ть: заня́тый, подня́ть: подня́тый, приня́ть: приня́тый

2つ以上の接頭辞を持つときには、アクセントは語根に最も近い接頭辞に落ち、それ以上アクセントは語頭に向かって遡ることはない: пере-из-бранный, рас-про-данный, вос-при-ня́тый и т.д.

過去形に於いてC(P)型アクセントを持つ動詞は、音節を成す接頭辞を持つ場合に、かつて被動形動詞過去長語尾に於いて常に接頭辞にアクセントを持ったと考えられるが、今日では他の動詞からのアナロジーであろうか、語根へ

アクセントを移す場合が顕著であって、今日でも接頭辞アクセントが用いられるのは上記のものだけとなり、そのほかの動詞では語根アクセントが一般化した、あるいはその過程の途中である。次項3. 2. 4. 2を参照。

A B型アクセントを持つ動詞は本書の範囲では *лечь* とその派生語だけであり、これらは被動形動詞過去を持たず、C B型アクセントを持つ動詞は存在しない。以下は人称形態と過去形のアクセントとは無関係のアクセント後退である：

- 4) 不定形が *-ова́ть* / *-ева́ть* に終わる動詞はアクセント型にかかわらず被動形動詞過去に於いてアクセントを1音節前に移動する。

нарисова́ть	A A	нарисую́	нарисова́нный
образова́ть	A A	образую́	образова́нный
организова́ть	A A	организую́	организова́нный
поцелова́ть	A A	поцелую́	поцелова́нный
протанцева́ть	A A	протанцую́	протанцова́нный
всова́ть	B A	всу́ю	всова́нный
заклева́ть	B A	заклю́ю	заклева́нный
прожева́ть	B A	прожу́ю	прожева́нный
основа́ть	B A → A A	основу́ю	основа́нный

不定形に於いて上記接尾辞よりも前にアクセントを有する動詞は被動形動詞過去に於いても不定形のアクセントを保持する。

потре́бовать	A A	потре́бованный
сфотографи́ровать	A A	сфотографи́рованный

- 5) 以下の動詞は音節を成す接頭辞を持つとき、例外的に接頭辞にアクセントを移動する。語根にアクセント移動しようにも、語根が音節を成さないため、やむなく接頭辞にアクセントを移動させたと解釈できる場合が多い。

гнѹть В А : изó-гн-у-т-ый, при-гн-у-т-ый и т. д.
 знáть А А : при-зна-нн-ый, ѹ-зна-нн-ый и т. д.
 -йти В В : на-йд-е-нн-ый, про-йд-е-нн-ый и т. д.
 -мкнуть В А : за-мк-н-у-т-ый, со-мк-н-у-т-ый и т. д.
 поймáть А А : по-йм-а-нн-ый
 слáть В А : по-сл-а-нн-ый, при-сл-а-нн-ый и т. д.
 стлáть С А : подó-стл-а-нн-ый, разó-стл-а-нн-ый и т. д.

3. 2. 4. 2 被動形動詞過去短語尾

以下のルールがあり、以下に該当しない場合の被動形動詞過去短語尾は全て長語尾のアクセント位置を保持するA型アクセントとなる。

- 1) 被動形動詞過去長語尾が -енный に終われば、その短語尾は最終音節にアクセントを有するB型となる。

договорѐнный : договорѐн договоренá договоренó договорены́
 отсечѐнный : отсечѐн отсеченá отсеченó отсечены́
 подтверждѐнный : подтверждѐн подтвержденá подтвержденó подтверждены́
 проведенный : проведенѐн проведена́ проведена́ проведены́

- 2) 過去形でC (P) 型アクセントを持つ動詞のうち、上記の被動形動詞過去長語尾に於いて接頭辞アクセントを持つ動詞は短語尾に於いてCP型アクセントを持ち、長語尾で語根にアクセントを移してしまった動詞の短語尾はC型アクセントを持つのを原則とする。但し、被動形動詞過去短語尾に於ける移動アクセント(すなわちC型)は急速に衰退しており、移動アクセントがいまだ義務的と思われるのは воздáть と -звать だけであり、そのほかの動詞では女性形でもアクセントを語尾に移動させずにそのほかの形態と同じアクセントを適応することが非常に多い。尚、2. 2. 3に記した動詞のうち被動形動詞過去を持つのは以下の動詞だけである。

братъ	: избранный ; избран	избранá ~ избрана	избрано	избраны
быть	: добытый ; добыт	добытá ~ добыта	добыто	добыты
вить	: надвитый ; надвит	надвитá ~ надвита	надвито	надвиты
врать	: навранный ; наврн	наврана	наврнано	наврнаны
гнать	: согнанный ; согнан	согнана	согнано	согнаны
дать	: изданный ; издан	изданá ~ издана	издано	изданы
драть	: надранный ; надрн	надрана	надрнано	надрнаны
ждать	: прожданный ; прождан	прождана	прождано	прожданы
жить	: прожитый ; прожит	прожитá ~ прожита	прожито	прожиты
храть	: пожранный ; пожран	пожранá ~ пожрана	пожрано	пожраны
звать	: названный ; назван	названá	названо	названы
клясть	: заклýтый ; заклýт	заклýтá ~ заклýта	заклýто	заклýты
лгать	: оболганный ; оболган	оболгана	оболгано	оболганы
лить	: разлитый ; разлит	разлитá ~ разлита	разлито	разлиты
переть	: запертый ; заперт	запертá ~ заперта	заперто	заперты
пить	: испитый ; испит	испитá ~ испита	испито	испиты
рвать	: прёрванный ; прёрван	прёрвана	прёрвано	прёрваны
спать	: заспанный ; заспан	заспана	заспано	заспаны
ткать	: вотканный ; воткан	воткана	воткано	вотканы
-чать	: начатый ; начат	начатá ~ начата	начато	начаты
-(н)ять	: принятый ; принят	принятá ~ принята	принято	приняты

但し、被動形動詞過去短語尾に於いて *забыть*, *добыть* は常に語根に、*дать*, *сдать*, *пересд́ать* は常に語尾にアクセントを持つ。

3. 3 副動詞

-а/-я に終わる副動詞は人称語幹から作られ、人称形態1人称単数のアクセントを保持する。このルールには以下の2種類の例外が存在する。

- 1) 不定形が -авать に終わる動詞は不定形（あるいは過去形）の語幹から副動詞を構成する： давая, признавая, создавая и т. д.
- 2) その他： глядеть-глядя, сидеть-сидя, стоять-стоя, судить-судя ~ сужая, лежать-лежа

-в(ши)/-ши に終わる副動詞は、ゆれがある場合を含めて能動形動詞過去のアクセント位置を保持すると考えて良い。

3. 4 СЯ動詞

ся 動詞のアクセントは -ся を持たない動詞のアクセントに一致するのを原則とする。しかし人称形態と過去形と能動形動詞現在に於いてこの原則に反する少数の例外がある。一般的に言えることは ся 動詞は -ся のない動詞よりもB型アクセントを保持しやすい傾向があるということである。

3. 4. 1 人称形態

-ложить と садить は人称形態に於いてC型アクセントを持つが、それらから派生した ложиться 及び садиться はB型アクセントとなる。

3. 4. 2 過去形

過去形に於いてA型アクセントを持つ動詞から派生した ся 動詞はやはりA型アクセントを持つ。

過去形に於いてB型アクセントを持つ動詞に -ся を付加すると本来アクセントは下記の(1)から(2)へと変化する：

- | | | | | | |
|-----|--------|--------|--------|---------|------|
| (1) | вёл | велá | велó | вели́ | (B型) |
| (2) | велся́ | велáсь | велóсь | вели́сь | (B型) |
| (3) | вёлся | велáсь | велóсь | вели́сь | (B型) |

(1)の男性形では語幹の仮アクセントが、(2)では後接辞アクセントが実現されているが、最終音節に強勢を持つという点では両者を同一視することができる。条件付きではあるが(2)もB型アクセントを持っていると考えられる。しかし男性形に於ける後接辞アクセントは急速に廃れつつあり、男性形でも(1)に倣った(3)が支配的になっている。

C型アクセントを持つ動詞に *-ся* を付加するとアクセントは本来ならば次の(1)から(2)のように変化する：

- | | | | | | |
|-----|---------|----------|----------|----------|------|
| (1) | брал | брала́ | бра́ло | бра́ли | (C型) |
| (2) | брался́ | бралась́ | брало́сь | брали́сь | (B型) |
| (3) | бра́лся | бра́лась | бра́лось | брали́сь | (B型) |
| (4) | бра́лся | бра́лась | бра́лось | бра́лись | (C型) |

これらの再帰動詞は本来(2)のアクセント型に属すのを正則とするが、上記のB型アクセントを持つ動詞についてと同様に男性形での後接辞アクセントが古めかしくなっており、(3)のように男性形で語幹に仮アクセントを有するパターンが伸長している。しかしながらB型アクセントを持つ動詞から派生した再帰動詞では過去男性形での後接辞アクセントがほとんど過去の遺物と化している一方で、C型アクセントを持つ動詞については後接辞アクセントが用いられる動詞がまだひとにぎり残っている。すなわち *заняться*, *наняться*, *отняться*, *подняться*, *приняться*, *родиться*, *начаться* の7語である。*начаться* についてのみ(2)のアクセント型がまだ義務的であるが、それ以外の6語については(3)のアクセント型も併用されるようになっている。これら以外のC型アクセントを持つ動詞から派生した再帰動詞は完全に(3)の型へと移行してしまった。CP型アクセントを持つ動詞から作られた再帰動詞についても以上と同様であって、現在のところ再帰動詞での接頭辞アクセントの適応は正当ではない。

現在では(3)のアクセント型から、女性形以外で語幹アクセントを実現する(4)のアクセント型も伸長してきている。これは明らかに *-ся* を持たない動詞からのアナロジーによるものであろう。蛇足だが、(4)も許容されるとはいうもののやはり個人的には(3)の使用を勧めたい。

3. 4. 3 能動形動詞現在

上記3. 2. 1 (参照) に記した能動形動詞現在に於いて語幹アクセントと接尾辞アクセントとのゆれを持つ動詞から派生した *ся* 動詞は、一般的に接尾辞アクセントを保持する傾向が強い。

белить	В~С	белят	белящий	しかし	белящийся
бесить	С	бесят	бесящий	しかし	бесящийся
валить	С	валят	валящий	しかし	валящийся
варить	С	варят	варящий	しかし	варящийся
гасить	С	гасят	гасящий	しかし	гасящийся
давить	С	давят	давящий	しかし	давящийся
делить	С	делят	делящий	しかし	делящийся
дразнить	С	дразнят	дразнящий	しかし	дразнящийся
дружить	В~С	дружат	дружящий	しかし	дружящийся
копить	С	копят	копящий	しかし	копящийся
лупить	С	лупят	лупящий	しかし	лупящийся
мочить	С	мочат	мочащий	しかし	мочащийся
судить	С	судят	судящий	しかし	судящийся
тащить	С	ташат	тащащий	しかし	тащащийся
тужить	С	тужат	тужащий	しかし	тужащийся
хвалить	С	хвалят	хвалящий	しかし	хвалящийся

参考文献

ロシア語以外で書かれた文献もロシア語のアルファベット順に配列する。

- Аванесов, Р. И. 1956. *Ударение в современном русском литературном языке*. Киев: Рядяньска школа.
- . (отв. ред.) 1978. *Исследования по исторической морфологии русского языка*. М.: Наука.
- . (ред.) 1983. *Орфоэпический словарь русского языка*. М.: Русский язык.
- . & Ожегов, С. И. (ред.) 1959. *Русское литературное произношение и ударение*. Государственное издательство иностранных и национальных словарей.
- АН СССР. 1957-61. *Словарь русского языка*. т. I-IV. М.: Государственное издательство иностранных и национальных словарей.
- . 1950-65. *Словарь современного русского литературного языка*. т. I-XVII. М.-Л.
- . 1981-84. *Словарь русского языка*. т. I-IV. М.: Русский язык.
- Булаховский, Л. А. 1937a. *Исторический комментарий к литературному русскому языку*. Харьков-Киев: Рядяньска школа.
- . 1937²b. *Курс русского литературного языка*. Киев: Рядяньска школа.
- . 1954². *Русский литературный язык первой половины XIX века*. М.: Государственное учебно-педагогическое издательство Министерства просвещения РСФСР.
- Быстров, А. 1942. *Правила об ударениях в русском языке*. Харбин: Харбин書房.
- Ward, D. 1965. *The Russian Language Today*. Loondon: Hutchinson University Library.

- Виноградов, В. В. 1972². *Русский язык (грамматическое учение о слове)*. М.: Высшая школа.
- Вовк, П. С. 1979. *Обучение иностранцев русскому подвижному ударению*. Киев: Вища школа.
- Воронцова, В. Л. 1977. «Нормы ударения и стилистика». В сб.: *Языковая норма и стилистика*. ФН СССР. М.: Наука.
- Востоков, А. 1839⁴. *Русская грамматика*. СПб.: Императорская русская академия.
- Garde, P. 1968. *L'accent*. Presses universitaires de France.
- . 1974. «L'évolution de l'accent russe: quelques tendances». *Cahiers de linguistique, d'orientalisme et de slavistique*. 3-4. Aix-en-Provence.
- . 1976. *Histoire de l'accentuation slave*. Paris: Institut d'études slaves.
- Горбачевич, К. С. 1971. *Изменение нормы русского литературного языка*. Л.: Просвещение.
- . (ред.) 1973. *Трудности словоупотребления и варианты нормы русского литературного языка*. Словарь-справочник. Л.: Наука.
- . 1978. *Варианты слова и языковая норма (на материале современного русского литературного языка)*. Л.: Наука.
- . 1981². *Нормы современного русского литературного языка*. М.: Русский язык.
- . 1984. *Русский язык. Прошлое. Настоящее. Будущее*. М.: Русский язык.
- Граудина, А. К. et al. 1976. *Грамматическая правильность русской речи*. М.: Наука.
- Грот, Я. К. 1853-85. «О спряжении русского глагола и важность въ немъ ударенія». В кн.: Грот(1899). pp. 263-276.
- . 1899. *Филологическія разысканія*. СПб.
- Daum, E. & Scenk, W. 1974⁹. *Die russischen Verben*. Leipzig: VEB.
- Ефремова, Т. Ф. et al. 1986. *Словарь грамматических трудностей русского*

языка. М.: Русский язык.

Зализняк, А. А. 1964. «Условное ударение в русском словоизменении». *ВЯ* №1.

———. 1967. *Русское именное словоизменение*. М.: Наука.

———. 1977. *Грамматический словарь русского языка*. М.: Русский язык.

———. 1985. *От праславянской акцентуации к русской*. М.: Наука.

Иванов, В. В. 1983. *Историческая грамматика русского языка*. М.: Просвещение.

Иванова, Т. А. 1967. «Именительный множественного на -á (родá, тенорá, госпиталя) в современном русском языке». В кн.: Мещерский(1967).

井桁貞敏. 1961. 『標準ロシア文法』 東京:三省堂.

泉井久之助. 1978. 『印欧語に於ける数の現象』 東京:大修館.

神山孝夫. 1985a. 「被動形動詞過去短語尾に於ける移動アクセント衰退の傾向」
『言語・文化研究』第3号.

———. 1985b. 「ロシア語に於ける形容詞短語尾のアクセント変異」 *Lexicon*.
No. 14.

———. 1987. 「ロシア語に於ける動詞過去形のアクセント — その変化の方向を
探つて」 『音声・言語の研究』第3号.

Kamiyama, T. 1986. On the 'Abnormal' Forms of the Genitive Singular after
the Numerals два, три, четыре, оба in Contemporary Russian. 『竹林滋
教授還暦記念論文集』. 東京:研究社.

木村彰一. 1985. 『古代教会スラブ語入門』 東京:白水社.

Kiparsky, V. 1962. *Der Wortakzent der russischen Schriftsprache*.
Heidelberg: Winter.

高津春繁. 1939. 「印欧語母音変化の研究と laryngales の発見」 『言語研究』第
3号.

Колесов, В. В. 1967. «Развитие словесного ударения в современном русском
произношении». В кн.: Мещерский(1967).

———. 1972. *История русского ударения*. Л.: ЛГУ.

Levin, M. 1975. Stress Notation in Russian Noun. *Slavic and East European
Journal*. Vol.19. No.1.

- Матвеева, Н. А. 1967. «Ударение в глаголах в современном русском языке». В журнале: *Русский язык за рубежом*. №1.
- Мещерский, Н. А. (отв. ред.) 1967. *Развитие русского языка после Великой Октябрьской социалистической революции*. ЛГУ.
- Ожегов, С. И. 1988¹⁸. *Словарь русского языка*. М.: Советская энциклопедия.
- Потебня, А. А. 1973. *Ударение*. Подготовила к изданию В. Ю. Франчук. Киев: Наукова думка.
- Редькин, В. А. 1971. *Акцентология современного русского литературного языка*. М.: Просвещение.
- Розенталь, Д. Э. (ред.) 1984⁵. *Словарь ударений для работников радио и телевидения*. М.: Русский язык.
- . & Теленкова, М. А. 1971. «Об ударениях в кратких формах прилагательных и причастий». В журнале: *Русский язык в школе*. №3.
- . & Теленкова, М. А. 1976. *Словарь трудностей русского языка*. М.: Русский язык.
- 佐々木秀夫. 1985. 『ロシヤ古文典《音韻考》』 東京: ナウカ.
- 城田 俊. 1978. 『ロシア語の名詞変化—綴字と音声—』 『外国語・外国文学研究』 第24号 (別冊). 北海道大学文学部.
- Steele, R. 1975. On Presenting Russian Stress. *Slavic and East European Journal*. Vol.19. No.1.
- Стричек, А. 1966. *Руководство по русскому ударению*. Paris: Librairie des Cinq Continents.
- 東郷正延、染谷茂、磯谷孝、石山正三 (編). 1988. 『研究社露和辞典』 東京: 研究社.
- Ушаков, Д. Н. 1935-40. *Толковый словарь русского языка*. т. I-IV. М.: Советская энциклопедия.
- Фасмер, М. 1986². *Этимологический словарь русского языка*. т. I-IV. М.: Прогресс.
- Федянина, Н. А. 1982². *Ударение в современном русском языке*. М.: Русский язык.

- Forsyth, J. 1963. *A Practical Guide to Russian Stress*. Edinburgh and London: Oliver & Boyd.
- Halle, M. 1975. On Russian Acctntuation. *Slavic and East European Journal*. Vol.19. No.1.
- 服部四郎. 1981. 「ロシア語のアクセントの無標性と有標性について」 『言語の科学』第8号. 東京言語研究所.
- 服部文昭. 1989. 「-a/-ja で終わる女性名詞に於ける変位型アクセントについて」 『ロシア語研究』第2号. 木二会.
- Шанский, Н. М. et al. 1975³. *Краткий этимологический словарь русского языка*. М.: Просвещение.
- . 1963-. *Этимологический словарь русского языка*. М.: МГУ.
- Шахматов, А. А. 1957. *Историческая морфология русского языка*. М.: Государственное учебно-педагогическое издательство Министерства просвещения РСФСР.
- Шведова, Н. Ю. (гл. ред.) 1980. *Русская грамматика*. т. 1. М.: Наука.
- Шульга, М. В. 1978. «Парадигма типа медь в древнерусской письменности». В кн.: Аванесов(1978).
- 矢野通生. 1978. 「ロシア語の派生動詞のアクセント」 『名古屋大学文学部研究論集』第73号.
- 八杉貞利、木村彰一. 1953. 『ロシア文法』 東京: 岩波書店.

索 引

使用上の注意

索引は品詞別に作成した。第1部は名詞、第2部は形容詞、第3部は動詞の索引となっている。

名詞、形容詞については本文掲載の語全てを収めたが、動詞については原則として本源動詞のみをここに掲載した。接頭辞を付けて派生する動詞、及び後者に接尾辞を付けてさらに派生する動詞については本文の記事を参照のこと。本文に載せた全ての動詞をここに掲載する紙面の余裕がなかったためである。

記載順序は以下の通りである。左側に当該の語の代表の形、すなわち名詞単数主格（単数主格がないあるいは希用の場合には複数主格）、形容詞長語尾男性単数主格（長語尾がない場合には短語尾男性単数）、動詞不定形を記す。次に変化形についての諸注意（注意すべきことがない場合には空欄）、さらにその後アクセント型、本文掲載のページの順に掲載してある。変化形についての注意はおのおのの部の冒頭に記す。

第1部 名詞

単数主格（複数形のみ名詞については複数主格）、性、アクセント型、記載ページの順に記す。複数形のみ名詞については性の代わりに「複」と記す。若干の固有名詞には性の表示の前に「固」と記した。スペースの関係で変化形についての情報は出母音のみに留めた。下線を付した母音 \underline{o} \underline{e} を削除すれば直ちに斜格の語幹が得られる場合には変化形についての記載を省略し、綴りに変化がある場合のみについて単数生格の形あるいはその一部を記した。詳しくは本文の該当の箇所を参照のこと。

【A】

а́дрес	男 AV	32
аз	男 BV	15
альт	男 BV	15
а́нналы	複 $\emptyset A$	78
арба́	女 VA	49

【B】

бага́ж	男 BV	23
багáр	男 BV	19
бадьа́	女 BV	47
баз	男 AV	28
бал	男 AV	28
балы́к	男 BV	19
ба́ндаж	男 BV	23
ба́рак	男 AA	24
барсу́к	男 BV	19
бас	男 AV	28
башма́к	男 BV	23

ба́шня	女 AA	45
бега́	複 $\emptyset B$	81
бегу́н	男 BV	27
беда́	女 VA	49
бедня́к	男 BV	23
бедро́	中 VA	71
белóк	男 BV	26
бельмо́	中 VA	70
бе́рег	男 AV	32
библиотéкарь	男 AA	24
бинт	男 BV	15
бирю́к	男 BV	19
блесна́	女 VA	51
близне́ц	男 BV	25
блин	男 BV	15
блоха́	女 VA~BC 49,	53
блю́дце	中 AA	67
боб	男 BV	15
боб(á)р	男 BV	19
бог	男 AC	36
богаты́рь	男 BV	23
бога́ч	男 BV	24
бое́ц -ица́	男 BV	25
бой	男 AV	28
бок	男 AV	31
болт	男 BV	15
болту́н	男 BV	27
большеви́к	男 BV	26
большинство́	中 BV	69
бо́мба	女 AA	45
бор	男 AV	28
борéц	男 BV	25
борода́	女 CC	56
борозда́	女 BC~CC 53,	56
борона́	女 CC	56
борт	男 AV	31
борщ	男 BV	15

бочар	男 BB	24	веси	複 ØB	81
бочка	女 AA	45	ветвь	女 AC	61
бревно	中 BA	71	ветер	男 AC~AA	37
брѣмя	中 AB	75	ветла	女 BA	51
бровь	女 AC	61	ветчина	女 BA	52
брюки	複 ØA	79	вечер	男 AB	33
бубенџ	男 BB	25	вещь	女 AC	61
бубны	複 ØC	82	вилы	複 ØA	79
буди	複 ØA	79	вина	女 BA	49
буер	男 AB	33	вино	中 BA	70
буй	男 AB	28	винт	男 BB	15
буква	女 AA	45	висок	男 BB	26
букварь	男 BB	24	вихор	男 BB	20
бульвар	男 AA	24	власть	女 AC	61
бурав	男 BB	20	вода	女 CA	57
бурдюк	男 BB	20	вождь	男 BB	15
бусы	複 ØA	79	вожжа	女 BC	53
буфер	男 AB	33	воз	男 AB	28
бык	男 BB	15	война	女 BA	49
быстрина	女 BA	52	войско	中 AB	73
			вол	男 BB	15
【B】			волк	男 AC	36
вал	男 AB	28	волна	女 BA~BC	49
вдова	女 BA	49	волна	女 BC~BA	53
вдовџ	男 BB	25	волокну	中 BA	72
ведомость	女 AC	61	волос	男 AC	37, 82
ведро	中 BA	71	волость	女 AC	61
вѣер	男 AB	33	волчок	男 BB	26
век	男 AB	31	волшебство	中 BB	69
вѣксель	男 AB~AA	33	вор	男 AC	36
веретено	中 BA	72	воробџй -бья	男 BB	23
верста	女 BA	49	ворота	複 ØA	79
верх	男 AB	28, 31	воротник	男 BB	26
весельчак	男 BB	24	ворох	男 AB~AA	33
весло	中 BA	71	ворчун	男 BB	27
весна	女 BA	51	вошь	女 CC	65
весть	女 AC	61	враг	男 BB	15

врач	男 BB	15
время	中 AB	75
врун	男 BB	27
всходы	複 ØA	78
выборы	複 ØA	78
вмя	中 AB	75
выпускник	男 BB	26
высота	女 BB→BA	47, 52
вышина	女 BA	52
вьюн	男 BB	27
【Г】		
гараж	男 BB	23
гвоздь	男 BC	40
герб	男 BB	15
глава	女 BA	49
глаз	男 AB	31
глазък (目)	男 BA	27, 39
глазък (覗き穴)	男 BB	27, 39
глотък	男 BB	26
глубина	女 BB→BA	47, 52
глушь	女 CC	65
гнездо	中 BA	70
говорун	男 BB	27
год	男 AB~AC	31, 36
гол	男 AB	28
голова (指導者)	女 BC	53, 56
голова (頭)	女 CC	53, 56
голос	男 AB	33
голубец	男 BB	25, 81
голубь	男 AC	37
гончар	男 BB	20, 24
гора	女 CC	54
горб	男 BB	15
город	男 AB	33
городки	複 ØB	81
горсть	女 AC	61

горшък	男 BB	26
госпиталь	男 AC~AA	38
господин	男 AB	35
госпожа	女 BB	47
гость	男 AC	36
грабёж	男 BB	25
грабли	複 ØA	79
градусник	男 AA	26
графá	女 BB~BA	47
грач	男 BB	15
грех	男 BB	15
гриб	男 BB	15
гроб	男 AB	29
гроза	女 BA	49
гроздь	女 AC~AA	61
гром	男 AC	36
грош	男 BB	15
грудь	女 AC→CC	61, 65
груздь	男 BC	40
грузовик	男 BB	26
грунт	男 AB	29
грядá	女 BC~BA	53
грязи	複 ØA	79
губá	女 BC	53
гуляш	男 AA~BB	24
гумно	中 BA	71
гусь	男 AC~BC	36
【Д】		
дар	男 AB	29
дверь	女 AC	62
двор	男 BB	15
дворец	男 BB	25
дебáты	複 ØA	78
дебри	複 ØA	79
девчáта	複 ØA	79
декабрь	男 BB	20

дело	中 АВ	73	дрофа	女 ВА	49
день	男 ВВ	15	друг	男 АВ	32
деньги	複 ØС	82	дуб	男 АВ	29
деревня	女 АС	58	дуга	女 ВА	49
дерево	中 АА	68	ду́пло	中 ВА	71
дере́вце	中 АВ	69, 74	духи́	複 ØВ	81
дерево́	中 ВВ	69, 74	душа́	女 СА	57
десна́	女 ВА	51	дым	男 АВ	29
де́ти	男 ØС	41, 78	дыра́	女 ВА	49
детя́шки	複 ØА	79			
джу́нгли	複 ØА	79	[Е]		
ди́ре́ктор	男 АВ	35	едо́к	男 ВВ	26
длина́	女 ВА	49	ездо́к	男 ВВ	26
длинно́та	女 ВА	52	ерети́к	男 ВВ	25
дневни́к	男 ВВ	26	ёж	男 ВВ	16
дно	中 ВА	71	ёрш	男 ВВ	16
дождеви́к	男 ВВ	26			
дождь	男 ВВ	16	[Ж]		
до́ктор	男 АВ	33	ха́бра	女 АА	45
дол	男 АС~АА	36	железа́	女 ВС	53
долг	男 АВ	29	желто́к	男 ВВ	26
долгото́	女 ВА	52	же́мчуг	男 АВ	33
до́лжность	女 АС	62	жена́	女 ВА	49
долото́	中 ВА	72	жени́х	男 ВВ	20
до́ля	女 АС	58	жердь	女 АС	62
дом	男 АВ	31	жеребе́ц	男 ВВ	25
Дон	固 男 АØ	88	жерло́	中 ВА	70
доска́	女 СС~ВА	55	же́лоб	男 АВ	33
доспе́хи	複 ØА	78	же́лудь	男 АС	37
доха́	女 ВА	49	же́рнов	男 АВ	33
дочь	女 АС	63	живо́т	男 ВВ	20
драчу́н	男 ВВ	27	жиле́ц -льца́	男 ВВ	25
дробь	女 АС	62	жир	男 АВ	29
дрова́	複 ØВ	81	жму́рки	複 ØА	79
дровни	複 ØА	79	жнец	男 ВВ	25
дрожжи	複 ØС	82	жнивье́	中 ВА	71
дрозд	男 ВВ	16	жрец	男 ВВ	16

жук	男 BB	16
журавль	男 BB	20

【3】

зад	男 AB	29
заморозки	複 ØA	78
забчик	男 AA	26
заря	女 BA	51
заря	女 CA	51
звезда	女 BA	49
звенó	中 BA	71
зверь	男 AC	36
звонóк	男 BB	26
земля	女 CA	57
земляк	男 BB	23
зёркало	中 AB	73
зерно	中 BA	71
зима	女 CA	57
змея	女 BA	49
знамя	中 AA	68
знаток	男 BB	26
зоб	男 AB	29
зола	女 BA	49
зонт	男 BB	16
зуб (物の齒)	男 AA	36
зуб (動物の齒)	男 AC	36
зубóк(齒)	男 BA	27, 39
зубóк(機械の齒)	男 BB	27, 39
зыбь	女 AC	62
зять	男 AB	32

【И】

игла	女 BA	51
игра	女 BA	49
игрок	男 BB	26
изба	女 BA~CA	49, 57
икра	女 BA	49

икра	女 BØ	49
Ильич	男 BB	26
имя	中 AB	75
инвентарь	男 BB	24
индюк	男 BB	20
инспектор	男 AB~AA	35
инструктор	男 AB~AA	35

【К】

кабан	男 BB	20
каблук	男 BB	20
кадры	複 ØA	78
кадык	男 BB	20
казак	男 AA~BB	24
калач	男 BB	24
календарь	男 BB	24
калмык	男 BB	20
камень	男 AC	37
камышек	男 AA	27
камыш	男 BB	20
кандалы	複 ØB	81
каникулы	複 ØA	80
канун	男 AA	27
капля	女 AA	45
карагач	男 AA	24
карась	男 BB	20
картуз	男 BB	20
катер	男 AB	33
качели	複 ØA	79
квас	男 AB	29
квасцы	複 ØB	81
кий	男 BB	16
кипяток	男 BB	26
кирка	女 BA	51
кирпич	男 BB	20, 26
кисель	男 BB	20
кислота	女 BA	52

КИТ	男 BB	16	КОЛЬЦО	中 BA	71
китаец -йца	男 AA	25	КОМАР	男 BB	20
китель	男 AB~AA	33	КОН	男 AB	29
кишка	女 BB	47	КОНДУКТОР	男 AB	35
клевер	男 AB	33	КОНЕЦ	男 BB	25
клеймо	中 BA	70	КОНСЕРВЫ	複 ØA	78
клеть	女 AC	62	КОНЬ	男 BC	41
клещ	男 BB	16	КОНЬЯК	男 BB	23
клещи	複 ØB	81	КОПЕЙКА	女 AA	45
клёши	複 ØC	82	КОПИ	複 ØA	79
Клин	固 男 AØ	88	КОПНА	女 BC~BA	54
клок	男 BA~BB	16, 39	КОПЫЛ	男 BA~BB	20, 39
клоп	男 BB	16	КОПЬЁ	中 BA	72
КЛОУН	男 AA	27	КОРАБЛЬ	男 BB	20
клуб	男 AA	29	КОРЕЕЦ -йца	男 AA	25
клуб	男 AB	29	КОРЕНЬ	男 AC	38
КЛЫК	男 BB	16	КОРЕНЬЯ	複 ØA	78
ключ	男 BB	16	КОРМ	男 AB	31
КНУТ	男 BB	16	КОРОБ	男 AB	33
КНЯЗЬ	男 AB	32	КОРОЛЬ	男 BB	20
КОВЁР	男 BB	20	КОРПУС	男 AA	33
КОВЫЛЬ	男 BB	20	КОРПУС	男 AB	33
КОГОТЬ	男 AC	38	КОРРЕКТОР	男 AB~AA	35
КОЖУХ	男 BB	20	КОРШУН	男 AA	27
КОЗА	女 BA	49	КОСА	女 BA~CA	49, 57
КОЗЁЛ	男 BB	20	КОСТЁР	男 BB	20
КОЗЛЫ	複 ØA	80	КОСТЫЛЬ	男 BB	20
КОЗЫРЬ	男 AC	37	КОСТЬ	女 AC	62
КОЛ (杭)	男 BA	39	КОТ	男 BB	16
КОЛ (不可)	男 BB	16, 39	КОТЁЛ	男 BB	20
КОЛБАСА	女 BA	49	КОЧАН	男 BB	20
КОЛГОТКИ	複 ØA	80	КОЧЕРГА	女 BB	47
КОЛДОВСТВО	中 BB	69	КОШКА	女 AA	45
КОЛДУН	男 BB	27	КРАЕШЕК	男 AA	27
КОЛИКИ	複 ØA	80	КРАЙ	男 AB	31
КОЛОКОЛ	男 AB	35	КРАСОТА	女 BA	52
КОЛПАК	男 BB	23	КРЕВЕТКА	女 AA	45

крейсер	男 АВ~АА	33
кремѣнь	男 ВВ	21
кремль	男 ВВ	16
крѣндель	男 АС~АВ~АА	33, 37
крѣпость	女 АС	62
крѣсло	中 АА	67
крест	男 ВВ	16
кривотолки	複 ØА	78
крикун	男 ВВ	27
кровь	女 АС	62
крот	男 ВВ	16
круг	男 АВ	29
кружево	中 АВ	73
кружок	男 ВВ	26
крупá	女 ВА	49
крыло	中 ВА	71
крыльцо	中 ВС	76
Крым	固 男 АØ	88
крюк (鉤)	男 ВА	16, 39
крюк (掛け釘)	男 ВВ	16, 39
куб	男 АВ	29
кúдри	複 ØС	82
кузнѣц	男 ВВ	25
кúзов	男 АВ~АА	33
кúкла	女 АА	45
кулáк	男 ВВ	23
кум	男 АВ	32
купѣц	男 ВВ	25
кúпол	男 АВ	33
курáнты	複 ØА	78
курдюк	男 ВВ	21
кусóк	男 ВВ	26
куст	男 ВВ	17
кúчер	男 АВ	33

【Л】

лáгерь	男 АВ	33
лад	男 АВ	29
лáпоть	男 АС	38
лгун	男 ВВ	27
лѣбедь	男 АС	37
лев льва	男 ВВ	17
лѣкарь	男 АС	37
лѣмех	男 АВ	21
лемех	男 ВВ	21
лепестóк	男 ВВ	26
лес	男 АВ	31
лесá	女 ВА~АА	50
лесá	複 ØВ	81
лесник	男 ВВ	26
летун	男 ВВ	27
лещ	男 ВВ	17
лѣд льда	男 ВВ	17
лѣн льна	男 ВВ	17
лжец	男 ВВ	25
линь	男 ВВ	17
лисá	女 ВА	50
лист	男 ВА	39
лист	男 ВВ	17, 39
лицó	中 ВА	70
лишáй	男 ВВ	21
лòб	男 ВВ	17
ловкáч	男 ВВ	24
лòжка	女 АА	44
лòжь	女 СС	65
лозá	女 ВА	50
лòкоть	男 АС	38
лом	男 АВ~АС	31, 37
лòмоть	男 АС	21
ломóть	男 ВВ	21
лòпасть	女 АС~АА	62
лопух	男 ВВ	21

лоску́т	男 BB~BA	21, 39
лось	男 AC~AA	37
лохмотья́	複 ØA	78
лоша́дь	女 AC	62
луг	男 AB	31
лука́	女 BA~BC	50
луна́	女 BA	50
лунь	男 BB	17
луч	男 BB	17
льсте́ц	男 BB	25
любо́вь	女 CC	65
люди́	男 ØC	41
лю́стра	女 AA	45

【M】

маля́р	男 BB	21, 24
манья́к	男 AA	24
ма́сло	中 AB	74
ма́стер	男 AB	33
мастерство́	中 BB	69
масть	女 AC	62
матери́к	男 BB	25
ма́ть	女 AC	63
межа́	女 BC	53
ме́лочь	女 AC	62
меньшеви́к	男 BB	26
меньшинство́	中 BA	72
мерзлота́	女 BA	52
мертве́ц	男 BB	25
ме́сто	中 AB	73
метла́	女 BA	51
мех (毛皮)	男 AB	31
мех (ふいご)	男 AB	32
меч	男 BB	17
ме́д	男 AB	29
минда́ль	男 BB	21
мир (平和)	男 AA	29

мир (世界)	男 AB	29
мира́ж	男 BB~AA	23
мира́ды	複 ØA	80
мозг	男 AB	29
мо́лодец	男 AA	25
молоде́ц	男 BB	25
монасты́рь	男 BB	23
монта́ж	男 BB	23
мо́ре	中 AB	73
морж	男 BB	17
моря́к	男 BB	24
москвич	男 BB	26
мост	男 BB~AB	17, 29
мостки́	複 ØB	81
моты́ль	男 BB	21
мох ~ мох	男 BB~AA	14, 17
мо́ши	複 ØC	82
мудре́ц	男 BB	25
муж	男 AB	32
мундштúк	男 BB	21
мураве́й -вья́	男 BB	23
мы́ло	中 AB	73
мышь	女 AC	62
мясник	男 BB	26
мяте́ж	男 BB	21
мяч	男 BB	17

【H】

не́бо	中 AB	74
не́вод	男 AB	33
не́дра	複 ØA	80
нелады́	複 ØB	81
низ	男 AB	29
новичо́к	男 BB	26
но́вость	女 AC	62
нога́	女 CC	55
ноготки́	複 ØB	81

но́готь	男 AC	38
нож	男 BB	17
но́жницы	複 ØA	80
но́жны	複 ØA	80
ножны́	複 ØB	81
ноздря́	女 BC	53
ноль	男 BB	17
но́мер	男 AB	33
нора́	女 BA~CA	50
но́рма	女 AA	45
нос	男 AB	29
носи́лки	複 ØA	80
носо́к	男 BB	26
ночь	女 AC	62
ноя́брь	男 BB	21
нужда́	女 BA	50
нуль	男 BB	17

【O】

о́блако	中 AB	73
о́бласть	女 AC	62
обо́и	複 ØA	78
о́браз (姿)	男 AA	33
о́браз (アイコン)	男 AB	33
о́бруч	男 AC	37
о́бух	男 AA	21
обу́х	男 BB	21
обшля́г	男 BB	21
о́бъёдки	複 ØA	78
овёс	男 BB	21
о́вод	男 AB~AA	33
о́вощ	男 AC	37, 82
овца́	女 BA	51
огóнь	男 BB	21
огуре́ц	男 BB	25
о́зеро	中 AA	68
озорни́к	男 BB	26

окно́	中 BA	72
о́ко	中 AC	76
о́корок	男 AB	35
о́круг	男 AB	33
октя́брь	男 BB	21
о́кунь	男 AC	37
ольха́	女 BA	50
о́муль	男 AC	37
о́мут	男 AB~AA	33
опи́лки	複 ØA	80
орда́	女 BA	50
о́рден (僧団等)	男 AA	34
о́рден (勲章)	男 AB	34
о́рдер	男 AB	34
оре́шек	男 AA	27
оре́л	男 BB	21
оса́	女 BA	50
осёл	男 BB	21
осётр	男 BB	21
оста́нки	複 ØA	78
о́стров	男 AB	34
ось	女 AC~CC	62, 65
оте́ц	男 BB	25
о́тпуск	男 AB	34
оча́г	男 BB	21
очи́стки	複 ØA	78
очки́	複 ØB	81
очко́	中 BB	69

【П】

паде́ж	男 BB	21
паё́к -йка́	男 BB	26
паз	男 AB	29
пай	男 AB	29
па́льма	女 AA	45
пан	男 AB	29
пар	男 AB	29

паралич	男 BB	26	плéмя	中 AB	75
пáрень	男 AC	37	племяш	男 BB	24
пáрус	男 AB	34	плетéнь	男 BB	22
пáспорт	男 AB	34	плеть	女 AC	62
пастернак	男 AA	24	плечó	中 BC	76
пасти́ла	女 BA	50	плита́	女 BA	50
пасту́х	男 BB	21	плод	男 BB	17
патру́ль	男 BB	21	плоскогúбуы	複 ØA	78
пау́к	男 BB	21	плóскость(平凡)	女 AA	62
пачкúн	男 BB	27	плóскость(平面)	女 AC	62
певéц	男 BB	25	плот	男 BB	17
певу́н	男 BB	27	плóщадь	女 AC	62
пéкарь	男 AB~AA 24,	34	плуг	男 AB	29
переговóры	複 ØA	78	плут	男 BB	17
пéрепел	男 AB	35	плющ	男 BB	17
перёд	男 AB	34	побóи	複 ØA	78
пересúды	複 ØA	78	пóвeсть	女 AC	62
перíла	複 ØA	80	пóвор	男 AB	34
перó	中 BA	70	пóгреб	男 AB	34
перчáтка	女 AA	45	под	男 AB	29
песóк	男 BB	26	пóдать	女 AC~AA	62
пету́х	男 BB	21	подмóстки	複 ØA	78
печь	女 AC~CC	62	подлéц	男 BB	25
пéс	男 BB	17	пóезд	男 AB	34
пиджáк	男 BB	24	пожítки	複 ØA	78
пíки	複 ØA	80	пóиски	複 ØA	78
пи́ла	女 BA	50	пол (床)	男 AB	29, 37
пир	男 AB	29	пол (sex)	男 AC	29, 37
пи́рог	男 BB	21	полá	女 BA	50
письменá	複 ØB	81	пóле	中 AB	73
письмó	中 BA	71	полк	男 BB	17
питьё	中 BB	69	полосá	女 BC~CC 53,	56
плáмя	中 AB	75	пóлость	女 AC	62
платёж	男 BB	25	полотéнце	中 AA	68
платóк	男 BB	26	полотнó	中 BA	72
платфóрма	女 AA	45	поля́к	男 AA	24
плащ	男 BB	17	пóмочи	複 ØC	82

поп	男	BB	17	пустота́	女	BA	52
пора́	女	CC	55	пусты́рь	男	BB	22
по́рох	男	AB	34	пу́ть	男	BB	18
порошо́к	男	BB	26	пу́шка	女	AA	45
порт	男	AC~AB	37	пчела́	女	BA	50
посо́л	男	BB	22	пя́дь	女	AC~AA	62
пост	男	BB	17	пя́льцы	複	∅A	80
пот	男	AB	29	пята́	女	BC	54
по́хороны	複	∅C	82	пята́к	男	BB	24
по́чва	女	AA	45	пятно́	中	BA	71
по́яс	男	AB	34				
пра́во	中	AB	73	[P]			
прё́ния	複	∅A	80	раб	男	BB	18
престу́пник	男	AA	26	раз	男	AB	30
приз	男	AB	30	разво́ды	複	∅A	79
приста́нь	女	AC~AA	62	ребро́	中	BA	71
про́вод	男	AB	34	ребя́та	複	∅A	80
прово́дник	男	BB	26	ребя́тишки	複	∅A	80
про́воды	複	∅A	79	реве́нь	男	BB	22
продаве́ц	男	BB	25	реда́ктор	男	AB~AA	35
проже́ктор	男	AB~AA	35	река́	女	BA~CA	50, 57
про́иски	複	∅A	79	реме́нь	男	BB	22
про́пасть	女	AC	62	ремесло́	中	BA	72
про́пуск(通過等)	男	AA	34	репе́й репя́	男	BB	22
про́пуск(通行証)	男	AB	34	речь	女	AC	62
просто́нья	女	BC	54	решето́	中	BA	72
профе́ссор	男	AB	35	ров	男	BB	18
пру́д	男	BB	17	рог	男	AB	31
пру́т (鞭)	男	BA	39	род (一族)	男	AB	30
пру́т (軸)	男	BB	39	род (gender)	男	AC	30
прыгу́н	男	BB	27	родни́к	男	BB	26
прыщ	男	BB	18	ро́ды	複	∅A	79
псалом	男	BB	22	рождество́	中	BB	69
пуд	男	AB	30	рожо́к (ホルン)	男	BB	27, 39
пу́дель	男	AB~AA	34	рожо́к (つの)	男	BA	27, 39
пузы́рь	男	BB	22	рожь	女	CC	65
пук	男	AB	30	рой	男	AB	30

роль	女 AC	63	сельдь	女 AC	63
рѡт	男 BB	18	семина́р	男 AA	24
рубѣж	男 BB	22	семья́	女 BA	52
рубль	男 BB	18	се́мя	中 AB	75
ружьѐ	中 BA	71	се́ни	複 ØC	82
рука́	女 CC	55	сентябрь	男 BB	22
рука́в	男 BB	22	се́рдце	中 AB	74
руль	男 BB	18	серп	男 BB	18
румяна	複 ØA	80	серьга́	女 BC~BA	54
руно́	中 BA	70	сестра́	女 BA	52
ручѐй ручья́	男 BB	22	сеть	女 AC	63
рыба́к	男 BB	24	сибиря́к	男 BB	24
ры́царь	男 AA	24	сила́ч	男 BB	24
рыча́г	男 BB	22	синя́к	男 BB	24
рюкза́к	男 BB	24	сирота́	女 BA	52
рюмка	女 AA	45	ска́зка	女 AA	45
ряд	男 AB	30	скала́	女 BA	50
			скамья́	女 BB~BA	47
			ска́терть	女 AC	63
			скачо́к	男 BB	26
			сквозня́к	男 BB	24
			скирда́	女 BC	54
			скоба́	女 BC~BA	54
			сковорода́	女 BC	54
			скорбь	女 AC	63
			скорлупа́	女 BA	50
			скоростни́к	男 BB	26
			ско́рость	女 AC	63
			скот	男 BB	18
			скула́	女 BA	50
			ску́тер	男 AB	34
			сласть	女 AC	63
			след	男 AB	30
			слеза́	女 BC	54
			слепе́нь	男 BB	22
			слеса́рь	男 AB~AA	34
			сли́вки	複 ØA	80
[C]					
сад	男 AB	30			
саже́нь	女 AA	63			
са́жень	女 AC	63			
самѐц	男 BB	25			
са́ни	複 ØC	82			
са́нки	複 ØA	80			
сапо́г	男 BB	22			
сапожо́к	男 BA	39			
сатана́	男 BB	47			
сверло́	中 BA	70			
свеча́	女 BC	54			
свѣкла	女 AA	45			
свинья́	女 BA	52			
седина́	女 BA	52			
седло́	中 BA	71			
секретарь	男 BB	24			
се́ктор	男 AB~AA	34			
село́	中 BA	70			

струя́	女 BA	51	тѣло	中 AB	73
ступѣнь (階段)	女 AA	63	тѣмя	中 AB	75
ступѣнь (段階)	女 AC	63	тѣнор	男 AB	34
стыд	男 BB	18	тѣнь	女 AC	63
суд	男 BB	18	тѣтерев	男 AB	35
судно (おまる)	中 AA	68, 74	тиски́	複 ØB	81
судно (船)	中 AB	68, 74	ткач	男 BB	18
судьба́	女 BB→BA	47, 52	ток(流れ)	男 AA	31, 37
судья́	女 BA	52	ток(鳥の発情場所)	男 AB	31, 37
сук	男 BB~BA	18, 39	ток(脱穀場)	男 AB~AC	31, 37
сукно́	中 BA	72	то́карь	男 AB~AA	24, 34
сумерки	複 ØA	80	то́лки	複 ØA	79
сундук	男 BB	22	толпа́	女 BA	51
суп	男 AB	30	том	男 AB	31
сургу́н	男 BB	22	тон (音調)	男 AA~AC	31, 37
су́тки	複 ØA	80	тон (色調)	男 AB	37
суха́рь	男 BB	22	то́поль	男 AB	34
счёт	男 AB	31	топо́р	男 BB	22
счёты	複 ØA	79	торга́ш	男 BB	24
сын	男 AB	32	торжество́	中 BB	69
сыр	男 AB	30	то́рмоз (障害)	男 AA	34
сюрту́к	男 BB	22	то́рмоз (ブレーキ)	男 AB	34
			то́чка	女 AA	45
[Т]			тошнота́	女 BA	52
таба́к	男 BB	24	трава́	女 BA	51
табѣль	男 AB~AA	34	тра́ктор	男 AB~AA	34
табу́н	男 BB	27	треть	女 AC	63
тавро́	中 BC	76	тре́фы	複 ØA	80
таз	男 AB	30	трибу́н	男 AA	27
тайник	男 BB	26	тропа́	女 BA~BC	51
тайфу́н	男 AA	27	трость	女 AC	63
тамада́	女 BB	47	труба́	女 BA	51
та́нец	男 AA	25	труд	男 BB	18
тарѣлка	女 AA	45	трусы́	複 ØB	81
творѣц	男 BB	25	туз	男 BB	18
тво́рог	男 AA	22	ту́нец	男 BB	25
твори́г	男 BB	22	ту́пик	男 BB	25

ты́ква	女 AA	45
тыл	男 AB	30
тык	男 BB	18
тырма́	女 BA	52

【У】

у́гол	男 BB	19
уголо́к	男 BB	26
у́голь (石炭)	男 BC~BA~AA	38, 41
у́голь (木炭)	男 AC~AA	38, 41
у́горь	男 BB	19
удале́ц -лыца́	男 BB	25
уж	男 BB	18
узда́	女 BA	51
у́зел	男 BB	19
ум	男 BB	18
ус	男 AB	30
уса́ч	男 BB	24
уста́	複 ØB	81
уто́г	男 BB	22
уха́	女 BB	47
у́хо	中 AC	76
уче́ник	男 BB	26
учи́тель	男 AB	35
ушко́ (耳)	中 BA	69
ушко́ (同上)	中 AA	69
ушко́ (めど)	中 BB	69

【Ф】

февра́ль	男 BB	22
фе́льдшер	男 AB	34
финансы́	複 ØA	79
фити́ль	男 BB	22
фли́гель	男 AB	34
флот	男 AC~AB	37
флю́гер	男 AB~AA	34

фо́нарь	男 BB	24
фо́рт	男 AB	30
фо́нт	男 AB	31

【Х】

хвасту́н	男 BB	27
хвост	男 BB	18
хитре́ц	男 BB	25
хлеб (パン)	男 AA	31
хлеб (穀物)	男 AB	31
хлев	男 AB	31
хло́поты	複 ØA	80
хло́пья	複 ØA	79
ход	男 AB~AC	30, 37
холм	男 BB	19
хо́лод	男 AB	35
холостя́к	男 BB	24
холст	男 BB	19
хор	男 AB	30
хорёк -рька́	男 BB	26
хо́ры	複 ØA	79
хохо́л	男 BB	22
хохоту́н	男 BB	27
храбре́ц	男 BB	25
хруста́ль	男 BB	22
ху́тор	男 AB	35

【Ц】

цвет	男 AB	32
цветни́к	男 BB	26
цвето́к	男 BB	26
це́на	女 CA	57
цепь	女 AC	63
це́рковь	女 AC	64
цех (ギルド)	男 AA	32
цех (作業場)	男 AB~AA	32

【Ч】

чай	男 AB	30
чан	男 AB	30
час	男 AB	30
частота́	女 BA	52
часть	女 AC	63
часы́	複 ØB	81
чело́	中 BA	70
че́рви	複 ØC	82
червь	男 BC	41
червя́к	男 BB	24
че́реп	男 AB	35
черни́ла	複 ØA	80
черте́ж	男 BB	25
чесно́к	男 BB	26
четве́рг	男 BB	22
че́тверть	女 AC	63
чехо́л	男 BB	22
че́рт	男 AC	37
чиж	男 BB	19
чин	男 AB	30
число́	中 BA	72
чтец	男 BB	25
чуб	男 AB	30
чубу́к	男 BB	23
чува́ш	男 AA~BB	24
чугу́н	男 BB	27
чу́дак	男 BB	24
чу́до	中 AB	74
чуло́к	男 BB	26

【Ш】

шаг	男 AB	30
шала́ш	男 BB	24
шалу́н	男 BB	27
шаp	男 AB	30
шатёр	男 BB	23

ша́фер	男 AB	35
ша́хматы	複 ØA	80
ша́шки	複 ØA	80
шашлы́к	男 BB	23
шерсть	女 AC	63
шест	男 BB	19
ше́лк	男 AB	32
широ́та	女 BA	52
шкала́	女 BA	51
шкаф	男 AB	30
шмель	男 BB	19
шнур	男 BB	19
шну́рoк	男 BB	26
шриф́т	男 AB	30
штаб	男 AB~AA	31
шта́бель	男 AB~AA	35
штаны́	複 ØB	81
ште́мпель	男 AB	35
ште́псель	男 AB	35
шти́фт	男 BB	19
штри́х	男 BB	19
шты́к	男 BB	19
шут	男 BB	19
шутни́к	男 BB	26

【Щ】

щего́л	男 BB	23
щека́	女 BC~CC	54, 56
щель	女 AC	63
щено́к	男 BB	26
щено́к	男 BA	40
щепá	女 BC	54
щёлочь	女 AC	63
щи́	複 ØB	81
шипцы́	複 ØB	81
шит	男 BB	19

【Э】

этаж	男 BB	23
------	------	----

【Я】

ядро	中 BA	72
язык	男 BB	23
язычок	男 BB	26
яйцо	中 BA	71
якорь	男 AB	35
январь	男 BB	23
январь	男 BB	24
японец	男 AA	25
ярлык	男 BB	23
яро	中 BA	71
ястреб	男 AB	35
ячмень	男 BB	23

第2部 形容詞

原則として長語尾男性単数主格の形のみを示すが、長語尾の形がない場合には短語尾男性単数を見出しとする。

変化形についての情報は原則として短語尾男性単数に現れる出沒母音のみとする。但し短語尾でアクセントの位置が変化するものについては、スペースの許す限り記載した。その他の諸注意については本文の該当の箇所をを参照のこと。

【A】

альный AC1~AA 119

【Б】

бедный беден AC1~AC3 122
 белый АВ~AC1 117
 благой ВС1 127
 бледный бледен AC1~AC3 122
 близкий близок AC1~AC3 122
 бодрый AC1~AC3 122
 бойкий боек AC1~AC3 122
 больной болен ВВ 127
 босой ВС1 127
 буйный буйен AC1~AA 119
 бурный бурен AC1~AA 119
 бурый AC1~AA 119
 быстрый AC1~AC3~AA 125

【B】

важный важен AC1~AC3 122
 валкий валок AC1~AA 119
 велик ØВ 128
 великий AC1~AA 119

верный верен AC1~AC3 122
 веселый весел AC1~AC3 122
 ветхий AC1~AA 119
 верткий верток AC1~AA 119
 взрослый -с(е)л AC1~AA 119
 видный 1 виден AC1~AA 119
 видный 2 виден AC1~AC3 122
 вкусный вкусен AC1~AC3 122
 влажный влажен AC1~AC3~AA 126
 властный властен AC1~AA 119
 волен ØВ 128
 вольный волен AC1~AC3 122
 вредный вреден AC1~AC3 122
 высокий АВ~AC1 117
 вязкий вязок AC1~AA 119

【Г】

гадкий гадок AC1~AA 119
 гибкий гибок AC1~AC3~AA 126
 гладкий гладок AC1~AA 119
 глубокий АВ~AC1 117
 глупый AC1~AC3 122
 глухой ВС1~BC3 127
 гневный гневен AC1~AA 119
 гнилой ВС1~BC3 127
 гнусный гнусен AC1~AC3~AA 126
 годный годен AC1~AC3~AA 126
 голодный голоден AC1~AC3 122
 голый AC1~AC3 122
 гордый AC1~AC3 122
 горький горек AC1~AC3 122
 горячий АВ 116
 грешен ØВ 128
 грешный грешен AC1~AC3 122
 грозный грозен AC1~AC3~AA 126
 громкий громок AC1~AA 119
 грубый AC1~AC3 122

гру́зный	гру́зен	AC1~AC3	122
гру́стный	гру́стен	AC1~AC3	122
грязный	грязен	AC1~AC3	123
гу́лкий	гу́лок	AC1~AA	119
густо́й		BC1~BC3	128

【Д】

далёкий		AB~AC1	117
де́рзкий	де́рзок	AC1~AC3	123
дешёвый	дешев	AC	118
ди́вный	ди́вен	AC1~AA	119
ди́кий		AC1~AC3	123
дли́нный	дли́нен	AB	117
дли́нный	дли́нен	AC1~AC3	123
до́брый		AC1~AC3	123
до́лгий	до́лог	AC1~AC3	123
дорого́й	дорог	BC1	127
до́хлый		AC1~AA	119
дро́бный	дро́бен	AC1~AA	119
дру́жный	дру́жен	AC1~AC3	123
дря́блый		AC1~AA	119
дря́нной	дря́нен	BC1~BC3	128
дурно́й	дуре́н	BC1~BC3	128
ду́шный	ду́шен	AC1~AC3	123
до́жий		AC1~AC3	123

【Е】

е́дкий	е́док	AC1~AC3~AA	126
--------	-------	------------	-----

【Ж】

жа́дный	жа́ден	AC1~AC3	123
жа́лкий	жа́лок	AC1~AC3~AA	126
жа́ркий	жа́рок	AC1~AC3	123
жесто́кий		AC1~AA	119
жа́лтый		AC1~AC3	123
жа́сткий	жа́сток	AC1~AC3~AA	126
живо́й		BC1	127

жи́дкий	жи́док	AC1~AC3~AA	126
жи́рный	жи́рен	AC1~AC3	123
жу́ткий	жу́ток	AC1~AA	119

【З】

звóнный	звóнок	AC1~AC3~AA	126
звúчный	звúчен	AC1~AC3~AA	126
здо́ровый	1	AA	116
здо́ровый	2	AB	116
зеле́ный	зеле́н	AC1~AC3	123
зло́й	зо́л	BB	127
зна́тный	зна́тен	AC1~AC3~AA	126
зо́ркий	зо́рок	AC1~AA	119
зре́лый		AC1~AA	119
зы́бкий	зы́бок	AC1~AA	119

【К】

ки́слый	ки́сел	AC1~AC3	123
кле́йкий	кле́ек	AC1~AA	119
ко́вкий	ко́вок	AC1~AA	120
ко́лкий	ко́лок	AC1~AA	120
коро́ткий	1 ко́роток	AB	117
коро́ткий	2 ко́роток	AC1~AC3	123
косо́й		BC1~BC3	128
красный	красен	AC1~AC3	123
краткий	краток	AC1~AA	120
кре́пкий	кре́пок	AC1~AC3	123
криво́й		BC1~BC3	128
кро́ткий	кро́ток	AC1~AA	120
кру́глый		AC1~AC3	123
кру́пный	кру́пен	AC1~AC3	123
круто́й		BC1~BC3	128

【Л】

ла́дный	ла́ден	AC1~AA	120
ле́гкий	ле́жок	AB~AC2	117
ли́пкий	ли́пок	AC1~AA	120

лихой		BC1~BC3	128
ловкий	ловок	AC1~AC3	123
ломкий	ломок	AC1~AA	120
лысый		AC	118
людный	люден	AC1~AA	120
лютый		AC	118

【M】

мал		ØB	128
маркий	марок	AC1~AA	120
мелкий	мелок	AC1~AC3	123
мерзкий	мерзок	AC1~AA	120
меткий	меток	AC1~AC3~AA	126
мертвый 1		AB	117
мертвый 2		AC1~AC3	123
милый		AC1~AC3	123
мирный	мирен	AC1~AA	120
младой		BC1	127
модный	моден	AC1~AA	120
мокрый		AC1~AC3	123
молодой	молод	BC1~BC3	128
мошный	мошен	AC1~AC3	123
мрачный	мрачен	AC1~AC3	123
мудрый		AC1~AC3	123
мутный	мутен	AC1~AC3	123
мылкий	мылок	AC1~AA	120
мягкий	мяжок	AC1~AC3	123

【H】

наглый		AC1~AA	120
нагой		BC1	127
нежный	нежен	AC1~AC3	124
немой		BC1	127
нервный	нервен	AC1~AA	120
низкий	низок	AC1~AC3	124
нищий		AC	118
новый		AC1~AC3	124

носский	носок	AC1~AA	120
нудный	нуден	AC1~AC3	124
нужный	нужен	AC1~AC3	124

【O】

общий 1		AB	117
общий 2		AC	118
острый 1	остер	AB	116
острый 2	ост(э)р	AC	116

【П】

пестрый		AC1~AC3	124
плавкий	плавок	AC1~AA	120
плавный	плавен	AC1~AA	120
плоский	плосок	AC1~AA	120
плотный	плотен	AC1~AC3	124
плохой		BC1~BC3	128
подлый		AC	118
полный 1	полон	AB	117
полный 2	полон	AC1~AC3	124
постный	постен	AC	118
потный	потен	AC1~AA	120
пошлый		AC1~AA	120
правый		AC1~AC3	124
пресный	пресен	AC1~AC3~AA	126
простой		BC1~BC3	128
прочный	прочен	AC1~AC3	124
прыткий	прыток	AC1~AC3~AA	126
прямой		BC1~BC3	128
пустой		BC1~BC3	128
пухлый		AC1~AA	120
пылкий	пылок	AC1~AA	120
пыльный	пылен	AC1~AA	120
пышный	пышен	AC1~AC3	124
пьяный		AC1~AC3	124

【P】

равный	равен	AB	116
развит		BC1	127
развитой		BC1	127
редкий	редок	AC1~AC3~AA	126
резвый		AC1~AC3	124
резкий	резок	AC1~AC3	124
робкий	робок	AC1~AC3	124
ровный	ровен	AC1~AC3	124
рыжий		AC1~AA	120
рыхлый		AC1~AA	120
рябой		BC1~BC3	128

【C】

свежий		AB~AC2	117
светлый	светел	AB	117
святой		BC1	127
сдобный	сдобен	AC1~AA	120
седой		BC1~BC3	128
серый		AC	118
сивый		AC1~AA	120
сизый		AC1~AA	120
сильный	силён	AC1~AC3	124
синий		AC	118
сиплый		AC1~AA	120
скверный	скверен	AC1~AC3	124
складный	складен	AC1~AA	121
склонный	склонен	AC1~AC3~AA	126
скользящий	-зок	AC1~AA	121
скорый		AC	118
скромный	скромен	AC1~AC3	124
скудный	скуден	AC1~AC3	124
скупой		BC1~BC3	128
скучный	скучен	AC1~AC3	124
слабый		AC1~AC3	124
славный	славен	AC1~AA	121
сладкий	сладок	AC1~AA	121

слепой		BC1~BC3	128
сложный	сложен	AC1~AC3	124
слышный	слышен	AC1~AC3	124
смелый		AC1~AC3	124
смешной		BB	127
смешон		BB	127
смирный	смирен	AC1~AC3	124
смуглый		AC1~AC3	124
смутный	смутен	AC1~AA	121
солёный	солон	AC1~AC3	124
сочный	сочен	AC1~AC3	124
спелый		AC1~AC3	125
спорый		AC	118
старый		AC1~AC3	125
статный	статен	AC1~AA	121
стойкий	стоёк	AC1~AA	121
странный	странен	AC1~AA	121
страстный	-тен	AC1~AA	121
страшный	страшен	AC1~AC3	125
строгий		AC1~AC3	125
стройный	строен	AC1~AC3	125
стыдный	стыден	AC	118
сухой		BC1~BC3	128
сходный 1	сходен	AC1~AA	121
сходный 2	сходен	AA	121
сырой		BC1	127
сытный	сытен	AC	118
сытый		AC	118

【T】

твёрдый		AC1~AC3	125
терпкий	терпок	AC1~AA	121
тесный 1	тесен	AB	117
тесный 2	тесен	AC1~AC3	125
тёмный	темен	AB	117
тёплый	тепел	AB	117
тихий		AC1~AC3	125

толстый		АС1~АС3	125
томный	томен	АС1~АА	121
тонкий	тонок	АС1~АС3	125
топкий	топок	АС1~АА	121
точный	точен	АС1~АС3	125
тошный	тошен	АС	118
тоший		АС	118
трезвый		АС1~АС3~АА	126
трудный	труден	АС1~АС3	125
тряский	трясок	АС1~АА	121
тугой		ВС1~ВС3	128
тупой		ВС1~ВС3	128
тусклый		АС1~АС3~АА	126
тухлый		АС	118
тучный	тучен	АС1~АС3	125
тяжёлый		АВ	116
тяжкий	тяжек	АС1~АС3	125

[У]

удалой		ВС1~ВС3	128
удалый		АС1~АС3	125
узкий	1 узок	АВ	117
узкий	2 узок	АС1~АС3	125
умный	умен	АВ~АС1	117

[Х]

хваткий	хваторк	АС1~АА	121
хворый		АС1~АА	121
хилый		АС1~АА	121
хитрый	хитер	АВ~АС1	117
хлесткий	хлесток	АС1~АА	121
хмельной	хмелен	ВВ	127
хмурый		АС1~АА	121
ходкий	ходок	АС1~АА	121
холодный	холоден	АС1~АС3	125
холостой	холост	ВС1	127
хороший		АВ	116

храбрый		АС1~АС3~АА	126
хриплый		АС1~АА	121
хромой		ВС1	127
хрупкий	хрупок	АС1~АА	121
худой		ВС1~ВС3	128

[Ц]

целый		АС	118
цельный	целен	АС1~АА	121
ценный	ценен	АС1~АА	121
цепкий	цепок	АС1~АА	121

[Ч]

частый		АС1~АА	121
честный	честен	АС1~АС3	125
чёрный	черен	АВ	117
чёрствый		АС1~АС3	125
чёткий	чоторк	АС1~АА	121
чинный	чинен	АС1~АА	121
чистый		АС1~АС3	125
чудной	чуден	ВВ	127
чуждый		АС1~АС3	125
чуткий	чоторк	АС1~АС3~АА	126

[Ш]

шаткий	шаторк	АС1~АА	121
шибкий	шибок	АС	118
широкий	1	АВ	116
широкий	2	АВ~АС1	117
шумный	шумен	АС1~АС3	125
шустрый	шустер	АС1~АС3	125

[Щ]

щёдрый		АС1~АС3	125
щуплый		АС1~АА	121

【Ю】

юный		AC1~AA	122
юркий	юрқк	AC1~AA	122

【Я】

яркий	ярқк	AC1~AC3~AA	126
ясный	ясен	AC1~AC3	125

第3部 動詞

本文に記載した動詞は基本的な本源動詞の他にそれに接頭辞が付いて派生する完了体動詞とそこから接尾辞を変えることによって2次的に派生する不完了体動詞とがあり、合計すると相当な数に上るが、スペース削減のため原則として本源動詞のみを記載する方針を取った。しかし加える接頭辞によって活用及びアクセント法を変えてしまう -(н)ять などはやむなく全ての接頭派生語を記した。接頭辞が付くと形やアクセント型が変わってしまう動詞については見出し語を2つ載せた。

記載するのは動詞の不定形、人称形態の語幹、人称変化語尾のタイプ、人称形態で生じる子音交替、アクセント型、本文掲載ページである。人称形態の語幹が不定形の一部である場合には不定形の中にスラッシュを挿入し、その左が人称語幹を表すことにした。過去語幹は原則として不定形から *ть* を取り去った部分に等しいので記載を省略したが、必要と思われる箇所には人称語幹の次に過去語幹も併記したことがある。過去形の語幹末での子音の脱落や形動詞、副動詞、命令法など変化形についての詳しい情報は削除せざるを得なかったので該当の箇所を参照されたい。

【Б】

бел/ить	2	CA~BA	192
беречь берег-	1	BB	210
бес/ить	2 ш	CA	163
блевать блю-	1	BA	149
блест/еть	2 ш	BA	150
блист/ать	1 ш	CA	150
блиста/ть	1	AA	150
блуд/ить	2 ж	CA	163
блюсти блюд-	1	BB	199
бор/оть	1	CA	159
бормот/ать	1 ч	CA	150
братъ бер-	1	BC	220
брести бред-	1	BB	200
брод/ить	2 ж	CA	163
буд/ить	2 ж	CA	163
быть буд-	1	AC	221

【В】

вал/ить	2	CA	163
вар/ить	2	CA	164
вез/ти	1	BB	200
вести вед-	1	BB	201
взять возъм-	1	BC~BC2	162, 237
винт/ить	2 ч	CA~BA	192
вить въ-	1	BC	222
влечь влек-	1	BB	210
внять	1	∅C	237
внять	1	∅C	161
вод/ить	2 ж	CA	164
воз/ить	2 ж	CA	165
волоч/ить	2	CA	166
волочь волок-	1 ч	BB	166, 211

ворот/ить	2 ч	СА	166
воспринять			
восприм-	1	ССР	161, 236
вр/ать	1	ВС	223
вяз/ать	1 ж	СА	150

【Г】

гас/ить	2 ш	СА	166
глот/ать	1 ж	СА	151
гнать гон-	2	СС	190, 223
гни/ть	1	ВС	224
гогот/ать	1 ч	СА	151
город/ить	2 ж	СА~ВА	192
грести греб-	1	ВВ	202
грохот/ать	1 ч	СА	151
груз/ить	2 ж	СА~ВА	192
губ/ить	2 бл	СА	166

【Д】

-да/вать	1	ВА	149
дав/ить	2 вл	СА	167
дар/ить	2	СА	167
дать дад-		ВС~ВС2	145, 224
-дать -дад-		ВС(Р)	224
дел/ить	2	СА	167
держ/ать	2	СА	190
до/ить	2	СА~ВА	193
донять дойм-	1	ВСП	161, 236
дразн/ить	2	СА	168
драть дер-	1	ВС	226
дрем/ать	1 мл	СА	151
друж/ить	2	СА~ВА	193
душ/ить	2	СА	168
дыш/ать	2	СА	190

【Е】

есть ед-		ВА	145
----------	--	----	-----

【Ж】

жд/ать	1	ВС	226
жевать жу-	1	ВА	149
жен/ить	2	СА	168
жечь жег-	1	ВВ	211
живописа́ть			
живопису́-	1	АА	154
жить жив-	1	ВС	227
жр/ать	1	ВС	227

【З】

занять займ-	1	ВСП	161, 236
заснять засним-	1	СС	160, 237
зачать зачн-	1	ВС	235
звать зов-	1	ВС	228
-зна/вать	1	ВА	149
зубр/ить	2	СА~ВА	193

【И】

ид/ти́	過 шед-	1	ВВ	202
изъя́ть	изым-	1	СА	161
иск/а́ть		1 ш	СА	151

【Й】

-йти	人 -йд-	1	ВВ	202
	過 -шед-			

【К】

каз/а́ть	1 ж	СА	151
кат/и́ть	2 ч	СА	168
квохт/а́ть	1 ч	СА	152
клева́ть	1	ВА	149
клевет/а́ть	1 ш	СА	152
клеп/а́ть	1 пл	СА	152
клепа́/ть	1	АА	152
клокот/а́ть	1 ч	СА	152
клон/и́ть	2	СА	169
клохт/а́ть	1 ч	СА	152
клясть	1	ВС	228
кля́н-			
кова́ть	1	ВА	149
ку-			
кол/о́ть	1	СА	159
колот/и́ть	2 ч	СА	169
коп/и́ть	2 пл	СА	169
корм/и́ть	2 мл	СА	169
кос/и́ть	2 ш	СА	170
крест/и́ть	2 ш	СА	170
крош/и́ть	2	СА	170
круж/и́ть	2	СА~ВА	193
крут/и́ть	2 ч	СА	170
куп/и́ть	2 пл	СА	171
кур/и́ть	2	СА	171
-кус/и́ть	2 ш	СА	171
кут/и́ть	2 ч	СА	172

【Л】

лг/а́ть	1	ВС	229
лен/и́ть/ся	2	СА	172
леп/и́ть	2 пл	СА	172
лепет/а́ть	1 ч	СА	152
леч/и́ть	2	СА	172
лечь	1	АВ	212
人 ляг-			
過 лег-			
лиз/а́ть	1 ж	СА	152

лить	ль-	1	ВС	229
лов/и́ть		2	ВЛ СА	173
-лож/и́ть		2	СА	173
ложи́ться		2	ВА	173
лом/и́ть		2	МЛ СА	174
лопот/а́ть		1	ч СА	152
луд/и́ть		2	ж СА~ВА	193
луп/и́ть		2	пл СА	174
-луч/и́ть		2	ВА	177
люб/и́ть		2	БЛ СА	174

【М】

ман/и́ть		2	СА	175
мах/а́ть		1	ш СА	152
маха́/ть		1	АА	152
-мен/и́ть		2	СА	175
мере́ть	人 мр-	1	ВА	230
過 мер-				
-мере́ть	人-мр-	1	ВС	230
過-мер-				
мес/и́ть		2	ш СА	175
месті́	мет-	1	ВВ	203
мет/а́ть		1	ч СА	153
мета́/ть		1	АА	153
ми́н/уть		1	АА	158
мин/у́ть		1	СА	158
мол/и́ть		2	СА	176
мол/о́ть		1	СА	159
молот/и́ть		2	ч СА	176
моч/и́ть		2	СА	176
мочь	мог-	1	ж СВ	162, 212
мут/и́ть		2	ч СА~ВА	193

【Н】

нанять	найм-	1	ВСП	161, 236
начать	начн-	1	ВСП	235
небречь	небрег-	1	ВВ	213
нес/ти		1	ВВ	204
низ/ать		1 ж	СА	153
нос/ить		2 ш	СА	176
- (н) ять	- (н) им-	1	СС(Р)	160
	-йм-/-ьм-	1	ВС(Р)	236

【О】

облечь	облек-	1	ВВ	213
облокот/ить/ся		2 ч	СА~ВА	193
обман/уть		1	СА	158
обнять	обним-	1	СС~ССР	160, 237
оборот/ить		2 ч	СА	177
обосновать				
	обосну-	1	ВА→АА	149
обрести	обрет-	1	ВВ	204
обяз/ать		1 ж	СА	153
отнять	отним-	1	СС~ССР	160, 237
очут/ить/ся		2 ч	СА	177

【П】

пас/ти		1	ВВ	204
пах/ать		1 ш	СА	153
перенять	перейм-	1	ВС~ВСП	161, 237
переснять				
	пересним-	1	СС	160, 237
переть	人 пр-	1	ВА	231
	過 пер-			
-переть	人-пр-	1	ВС	231
	過-пер-			
печь	пек-	1	ВВ	213

пил/ить		2	СА	177
пис/ать		1 ш	СА	153
пить	пь-	1	ВС	231
плат/ить		2 ч	СА	177
плевать	плю-	1	ВА	149
плеск/ать		1 ш	СА	154
плеска/ть		1	АА	154
плести	плет-	1	ВВ	205
плыть	плыв-	1	ВС	232
пляс/ать		1 ш	СА	154
по/ить		2	СА~ВА	194
побуд/ить		2	ВА	163
повтор/ить		2	СА~ВА	193
поглот/ить		2 ш	СА~ВА	194
поднять	подним-	1	СС~ССР	160, 237
пол/оть		1	СА	159
полз/ти		1	ВВ	205
полоск/ать		1	АА	154
полоск/ать		1 ш	СА	154
получ/ить		2	СА	177
помян/уть		1	СА	158
понять	пойм-	1	ВСП	162, 236
пор/оть		1	СА	160
поруч/ить		2	СА	178
предпринять				
	предприм-	1	ССР	161, 236
принять	прим-	1	ССР	161, 236
приподнять		1	ССР~СС	160, 237
	приподним-			
пробуд/ить		2 ж	ВА~СА	163
проглот/ить		2 ч	СА	178
пронять	пройм-	1	ВСП	162, 236
прос/ить		2 ш	СА	178
пруд/ить		2 ж	СА~ВА	194
прясть	пряд-	1	ВС	232
-прячь	-пряг-	1	ВВ	214

пуст/ить 2 ш СА 178

【Р】

разнять различ- 1 СС 160, 237

рассвети́

рассвет- 1 ВВ 206

расти́ 人 раст- 1 ВВ 206

過 成長-

рв/ать 1 ВС 233

-речь -рек- 1 ВВ 214

род/ить 2 ж ВС 233

-рон/ить 2 СА 185

ропт/ать 1 ш СА 154

руб/ить 2 бл СА 179

-руч/ить 2 ВА 178

ряд/ить 2 ж СА 179

【С】

сад/ить 2 ж СА 180

сад/ить/ся 2 ж ВА 180

свет/ить 2 ч СА 180

свист/ать 1 ш СА 155

свист/еть 2 ш ВА 155

сел/ить 2 СА~ВА 194

серд/ить 2 ж СА 180

сечь сек- 1 ВВ 214

скак/ать 1 ч СА 155

скобл/ить 2 СА~ВА 194

-скоч/ить 2 СА 180

скрежет/ать 1 ш СА 155

скрести́ скреб- 1 ВВ 207

-слон/ить 2 СА~ВА 194

служ/ить 2 СА 181

слыть слыв- 1 ВС 234

смотреть 2 СА 191

сновать сну- 1 ВА 149

снять сним- 1 СС 160, 237

совать су- 1 ВА 149

создать создад- 1 ВС 234

сол/ить 2 СА~ВА 194

сп/ать 2 пл ВС 234

ссуд/ить 2 ж СА 181

-ста/вать 1 ВА 149

-станов/ить 2 вл СА 181

стел/ить 1 СА 155

стеречь стерег- 1 ж ВВ 215

-стигн/уть(=стичь)1 АА 217

-стичь(=-стигнуть)1 АА 217

-стрел/ить 2 СА 181

стлать стел- 1 СА 155

сторон/ить/ся 2 СА 181

стрекот/ать 1 ч СА 156

стричь стриг- 1 ж ВА 216

строч/ить 2 СА~ВА 195

студ/ить 2 ж СА 181

ступ/ить 2 пл СА 182

суд/ить 2 ж СА 182

суч/ить 2 СА~ВА 195

суш/ить 2 СА 182

【Т】

таш/ить 2 СА 183

твор/ить 2 ВА 183

-творить 2 СА 183

терп/еть 2 пл СА 191

тес/ать 1 ш СА 156

течь тек- 1 ч ВВ 215

тк/ать 1 ВС 235

толочь толоч- 1 ч ВВ 216

тон/уть 1 СА 158

топ/ить 2 пл СА 183

топт/ать	1 ч	СА	156
тороп/ить	2 пл	СА	184
точ/ить	2	СА	184
трав/ить	2 вл	СА	184
треп/ать	1 пл	СА	156
трепет/ать	1 щ	СА	156
труд/ить/ся	2 ж	СА	185
тряс/ти	1	ВВ	207
туж/ить	2	СА	185
туп/ить	2 пл	СА	185
туш/ить	2	СА	185
тян/уть	1	СА	158

【У】

уд/ить	2 ж	СА	185
унять	1	ВС 162,	237
уч/ить	2	СА	185

【Х】

хвал/ить	2	СА	186
хват/ить	2 ч	СА	186
хлест/ать	1 щ	СА	156
хлопот/ать	1 ч	СА	156
хлыст/ать	1 щ	СА	156
ход/ить	2 ж	СА	187
хорон/ить	2	СА	188
хот/еть	1/2 ч	С/ВА	145
хочот/ать	1 ч	СА	157

【Ц】

цвести	1	ВВ	208
цед/ить	2 ж	СА	188
цен/ить	2	СА	188
-цеп/ить	2 пл	СА	188

【Ч】

-чать	-чн-	1	ВС(Р)	235
черт/ить	2 ч	СА	188	
чес/ать	1 ш	СА	157	
честь	чет-	1	ВВ	217
чин/ить	2	СА	189	

【Ш】

шевел/ить	2	СА~ВА	195
шепт/ать	1 ч	СА	157
шут/ить	2 ч	СА	189

【Щ】

шебет/ать	1 ч	СА	157
шекот/ать	1 ч	СА	157
шеп/ать	1 пл	СА	157
шепá/ть	1	АА	157
шип/ать	1 пл	СА	157
шипá/ть	1	АА	157

【Ы】

-ыск/ать	1 щ	СА	151
----------	-----	----	-----

【Я】

яв/ить	2 вл	СА	189
--------	------	----	-----

執筆者紹介

神山孝夫 (かみやまたかお)

1958年東京生まれ。1983年東京外国語大学大学院外国語学研究科スラブ系言語専攻修士課程修了。1988年より大阪外国語大学講師。専門はロシア語学を中心とするスラブ語学。

主な業績：「-ся動詞の他動詞性について」（『ロシア語ロシア文学研究』第16号、1984、日本ロシア文学会）、”On the ‘Abnormal’ Forms of the Genitive Singular after the Numerals два, три, четыре, оба in Contemporary Russian.”（『竹林 滋教授還暦記念論文集』、1986、研究社.）、「セルボ・クロアチア語のアクセント——セルボ・クロアチア語名詞生成音韻論序説」（『大阪外国語大学学報』第76号、1988）など。

大阪外国語大学学術研究双書 2 ロシア語アクセント研究

1990年3月31日発行

著者 かみ やま たか お
神山孝夫

発行者 〒562 箕面市粟生間谷東8丁目1番1号

大阪外国語大学学術出版委員会

印刷所 〒531 大阪市北区中津6丁目13番20号

(株)アイジイ

ISBN4-900588-02-4

無断転載を禁ずる。

